

聖徒の道

1
1997

第一六六回半期総大会報告

末日聖徒
イエス・キリスト
教会





「神殿における少年イエス」 デル・パーソン画

「3日の後に、イエスが宮の中で教師たちのまんにすわって、
彼らの話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。
聞く人々はみな、イエスの賢さやその答に驚嘆していた。」（ルカ2：46-47）

末日聖徒イエス・キリスト教会 第166回半期総大会報告

1996年10月5, 6日,
ユタ州ソルトレーク・シティー,
テンプルスクウェアのタバナクルにおいて開かれた
半期総大会の説教とその模様

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、10月に開かれた1996年半期総大会日曜日午前の部会で次のように語った。「わたしは行く先々でメディアの代表者たちのインタビューを受けます。彼らは必ず、教会で女性が置かれている位置について質問します。彼らは、わたしたちが女性を蔑視していると言わんばかりに、批判的な態度を見せます。

その度にわたしが答えているのは、世の中にこの教会ほど女性に対して、成長の機会、良い交流の場、すばらしい善をなす機会、指導的な立場や責任ある立場に就く機会を多く与えている組織はほかにないということです。……どこに住んでいるかにかかわらず、姉妹の皆さんは真の意味で国の基を築いているのです。なぜなら、皆さんは強く安らかで、安全な家庭を築いているからです。そのような家庭こそ、どの国においても、真の力となるのです。

しかし、不幸にも、暴力的な男性と結婚してしまった人も少なからずいると思います。そのような男性の中には、日中は人々の前でにこやかな顔をして



テンプルスクウェア南門にある標識。「訪問者歓迎」とある。

いながら、夜になって家に帰ると、自制心を忘れ、ささいなことに腹を立て、怒りを爆発させる人がいます。

このような悪と野蛮な振る舞いをしている男性は、神の神権にふさわしくありません。そのようなことをしている男性は、主の家に入る特権にふさわしくありません。わたしは、自分の妻や子供たちから愛される資格のない男性がいることを残念に思います。自分の父親を恐れる子供、また自分の夫を恐れる女性がいます。わたしの声を聞いている人の中に、このような男性がいますとすれば、わたしは主の僕として、その人を叱責し、悔い改めるよう求め

ます。」

また、前日の土曜日午前の部会では、こう述べた。「恵まれた時代に生活するのは祝福です。恐ろしい迫害は過去のことです。わたしたちは、今日世界中の人々から尊敬の目で見られています。常にそれにふさわしくなければなりません。そうしなければ、世の信頼は失われていくでしょう。」

10月5, 6日の2日間にわたった総大会の各部会は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、トーマス・S・モンソン第一副管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長の司会により行われた。

土曜日午後の部会では、七十人定員会の10人の中央幹部が、それぞれの召しから名誉をもって解任された。一人が名誉幹部の称号を受け、9人が5年以上に及ぶ奉仕の期間を満了して七十人第二定員会から解任された。また、中央若い男性会長会の二人の異動が支持された（本誌p. 21参照）。

総大会の中継を受信できない教会ユニットには、大会の模様を収録したビデオが送付された。——編集部□

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語。季刊——チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、アイスランド語、ロシア語。

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オックス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホルランド、ヘンリー・B・アイリング
編集長：ジャック・H・ゴースリン
顧問：スベンサー・J・コンディー、L・ライオネル・ケンドリック

教科課程管理部責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイトン

企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー

グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイ
ボーク

国際機関誌スタッフ

編集主幹：マービン・K・ガードナー

編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン

編集副主幹：デビッド・ミッチェル、ディエーン・ウォーカー

編集補佐：ジェニファー・グリーン・ウッド

工程管理：メアリーアン・マーティンデール

出版補佐：ベス・デリー

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスディレクター：M・M・カフサキ

アートディレクター：スコット・バン・カンペン

デザイナー：シェリー・クック

制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ

制作：レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、マシュー・H・マックスウェル

予約購読スタッフ

ディレクター：ケイ・W・ブリッグス

配送部長：クリス・クリステンセン

マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

聖徒の道1997年1月号第41巻第1号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

株式会社 リック

印刷所 年間予約/海外予約2,400円(送料共)

半年予約1,200円(送料共)

普通号/大会号200円

Copyright©1996 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1995年9月 翻訳承認—1995年9月 原題—International Magazines January, 1997. Japanese. 97981 300

●定期購読は、「『聖徒の道』予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●『聖徒の道』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター☎03-5668-3391

The Seito No Michi (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. U.S.A. and Canadian subscription price is \$9.00 per year. SIXTY days' notice required for change of address. INCLUDE ADDRESS LABEL FROM A RECENT ISSUE, CHANGES CANNOT BE MADE UNLESS BOTH OLD ADDRESS AND NEW ONE ARE INCLUDED. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P. O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA. SUBSCRIPTION HELP LINE: 1-800-453-3860, U.S. EXT. 2947; CANADA EXT. 2031. CREDIT CARD ORDERS (VISA, MASTERCARD, AMERICAN EXPRESS) MAY BE TAKEN BY PHONE. PERIODICALS POSTAGE PAID AT SALT LAKE CITY, UTAH.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O.Box 26368, Salt Lake City, Utah 84126-0368, U.S.A.

索引

●以下のテーマによる説教が、それぞれ右側のページに掲載されています。このリストは話者が採り上げたテーマを、すべて網羅するものではありません。

あ 愛 35, 70, 100, 105

贖い 11, 39, 62, 72, 80, 92, 103

アロン神権 42, 45, 48

イエス・キリスト 9, 11, 17, 29, 32, 39, 45, 62, 70, 80, 90, 94, 100, 103, 105, 109

一致 4, 5

祈り 66, 90, 94

戒め 66, 80

癒し 39

教え 11

親の務め 22, 25, 35, 57, 76, 72, 84

か 改宗 80, 90

開拓者 4, 25, 97

回復 5, 70, 80

神 9, 22, 100, 105

家族関係 5, 35, 57, 72

家庭 57, 84

感謝 35, 105

希望 72, 103, 105

逆境 29, 62, 94, 97

虐待 57, 76

教会 9, 52, 57, 97, 109

キリストの光 66

悔い改め 62, 66, 80, 94

クリステンセン、ジョー・J 45

啓示 9, 11, 57

結婚 29, 84

現世 39

謙遜 90

幸福 84

子供 92

さ 最初の示現 9, 70

死 103

慈愛 105

使徒 5

指導 76

什分の— 52, 57

女性 62, 76, 84, 100, 105, 109

ジョセフ・スミス 9, 52

従順 94

神権 48

信仰 9, 25, 80, 100

真理 48, 52

救いの計画 76, 84

青少年 45, 97

性のルール 84

聖約 35, 72, 97, 105

聖霊 5, 9, 11, 35, 66, 80, 87, 92

聖餐 66

選択の自由 22, 57 103

創造 39, 76

た 断食献金 貧しい人を助けるための惜し
みない提供 37, ジョセフ・スミスによって始められた、貧しい人の為に集める習慣, 53, 必要
なときに主を呼び求めることは納
めるときにできる, 54

断食 35, 52

知恵の言葉 42, 57

父親の務め 義をもって家庭を管理し、
守る 73

伝道活動 17, 35, 48, 57

独身成人 76

な 望み 22, 25

は 母親 72, 76

バプテスマ 11, 35, 39, 66, 80, 87

評議会 109

扶助協会 57, 87, 100, 105, 109

平和 62, 94

ホームティーチング 52, 76

ま メディア 57

模範 35, 84,

モルモン書 92

や 誘惑 45

赦し 94

預言者・9, 15, 17, 25, 57

●今大会の話者(アイウエオ順)の説教が右側のページに掲載されています。

アイリング、ヘンリー・B 35

エッジリー、リチャード・C 70

オックス、ダリン・H 66

岡崎、チエコ・N 103

カー、ウィリアム・ロルフ 92

クック、クエンティン・L 32

クライド、アイリーン・H 100

クリステンセン、ジョー・J 45

ジャック、イレイン・L 87, 105

スコット、リチャード・G 84

マックスウェル、ニール・A 22

ヘイト、デビット・B 15

バックナー、ボイド・K 5

バラード、M・ラッセル 25

ピアス、バージニア・H 11

ビーナス、フランシスコ・J 90

ヒンクレー、ゴードン・B 4, 57, 76, 97

ファウスト、ジェームズ・E 48, 62, 109

ヘイルズ、ロバート・D 72

ヘーフェン、ブルース・C 29

ペリー、L・トム 42

ポーター、L・アルディン 9

ホルランド、ジェフリー・R 94

モンソン、トーマス・S 17, 21, 52

ネルソン、ラッセル・M 39

ワースリン、ジョセフ・B 80

目 次

末日聖徒イエス・キリスト教会第166回半期総大会報告…… 1

1996年10月5日(土)午前の部会

御霊の力によって聞く ゴードン・B・ヒンクレー…………… 4

十二使徒 ボイド・K・パッカー…………… 5

預言の霊 L・アルディン・ポーター…………… 9

教室——着実に絶えず成長する力を与える場所

バージニア・H・ピアス…………… 11

預言者に与えられる靈感 デビッド・B・ヘイト…………… 15

ベテスダの池のキリスト トーマス・S・モンソン…………… 17

1996年10月5日(土)午後の部会

教会役員の支持 トーマス・S・モンソン…………… 21

わたしたちの「心の望みに応じて」

ニール・A・マックスウェル…………… 22

信仰こめて、一歩ずつ M・ラッセル・バラード…………… 25

聖約による結婚 ブルース・C・ヘーフェン…………… 29

喜びなさい クエンティン・L・クック…………… 32

神の証人 ヘンリー・B・アイリング…………… 35

贖い ラッセル・M・ネルソン…………… 39

1996年10月5日(土)神権部会

「走っても疲れることがなく」 L・トム・ペリー…………… 42

救い主はあなたを頼りにしています

ジョー・J・クリステンセン…………… 45

正直——道徳の羅針盤 ジェームズ・E・ファウスト…………… 48

「模範となりなさい」 トーマス・S・モンソン…………… 52

「それは、片すみで行われたのではない」

ゴードン・B・ヒンクレー…………… 57

1996年10月6日(日)午前の部会

「女よ、なぜ泣いているのか」

ジェームズ・E・ファウスト…………… 62

「いつも御子の御霊を受ける」 ダリン・H・オックス…………… 66

「心を込めていちばん大切なものを送ります」

リチャード・C・エッジリー…………… 70

永遠の家族 ロバート・D・ヘイルズ…………… 72

教会の女性 ゴードン・B・ヒンクレー…………… 76

1996年10月6日(日)午後の部会

信仰にも行いにもクリスチャンである

ジョセフ・B・ワースリン…………… 80

偉大な幸福の計画を実践する

リチャード・G・スコット…………… 84

「栄光にあずかる者」 イレイン・L・ジャック…………… 87

主の御声に耳を傾ける フランシスコ・J・ビーナス…………… 90

「幼い子供たちを見なさい」

ウィリアム・ロルフ・カー…………… 92

「王国にかかわる平和をもたらす事柄」

ジェフリー・R・ホランド…………… 94

援助の手を差し伸べる ゴードン・B・ヒンクレー…………… 97

1996年9月28日(土)中央扶助協会集会

信仰に堅くつく アイリーン・H・クライド…………… 100

希望を得て奮い立つ チエコ・N・岡崎…………… 103

慈愛によって強められる イレイン・L・ジャック…………… 105

扶助協会の大きな鍵の言葉

ジェームズ・E・ファウスト…………… 109

指導者の言葉…………… 114

チャーチニュース…………… 116

ローカルニュース…………… 119

御霊の力によって聞く

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

わたしたちは皆、このキリストの大義を信じる者としてともに集っています。一人一人が主の僕であって、……王国を建設しています。



わたしたちはソルトレーク・シティーのテンプルスクウェアのこの歴史的なタバナクルに集まっています。また大勢の人々がアメリカ全土と世界中の数千の集会所で、また家族で、わたしたちに加わっています。通信手段のおかげで、わたしたちは皆さんに語りかけることができ、多くの場合、皆さんはわたしたちの声や映像を見聞きできます。そのことに心から感謝しています。わたしたちは皆さんの温かい心や兄弟愛、信仰、支持の祈りを感じています。すべての人に感謝します。

前回の大会の後、イギリスから1通の手紙を受けました。彼はこう言っています。

先週の週末に、わたしたちは40回目の結婚記念日を祝ったすぐ後、子供や孫たちと一緒に、わたしたちの家で総大会の放送を見て、素晴らしい時を過ごしました。

家族として立って腕を直角に挙げ、生ける預言者と副管長を、十二使徒定員会とともに、自分の家庭で支持できるのは、素晴らしい祝福でした。

結果を報告しますが、1人の棄権も反対もなく全員一致で支持しました。

我が家の3人の息子は、名誉ある伝道に召され立派に務めを果たしました。帰還してから高貴で素晴らしい女性と神殿で結婚し、全部で10人の子供に恵まれています。大人は全員が指導者として仕え、妻もわたしも、教会で奉仕の業に携われることを喜んでいます。……家族みんなに与えられた主の祝福は何と素晴らしいものでしょうか。

わたしたち家族は、大管長の靈感された指示と霊を鼓舞する話に感謝しています。ためらわずに話しますが、わたしたちは主の僕たちのもとに座ったとき、涙が自然にあふれてきました。家庭に大管長をお迎えする喜びを心から感じたので、放送が終わったときの空虚な気持ちは、愛する人に別れを告げたときのようなのです。わたしたちは全員でひざまずいて祈り、御霊による温かい気持ちに包まれました。」

大会の始めに皆さんにお話するのは恐れ入る責任です。皆さんは教会の会員として、励ましや靈感、指示、霊的な高揚を求めて集まりました。わたしたちは皆、このキリストの大義を信じる者としてともに集っています。一人一人が主の僕であって、イエスが王の王、主の主として来られる時を見越して、王国を建設しています。皆さんは、この世の問題や失敗について助けを得るために、また勝利を取める力を受け

るために集まりました。また、自らの意志ではなく、主によってこの偉大な業の教師として召された人々から、主の御言葉を聞くためにやって来ました。

皆さんは、問題を解決し、信仰を増し加える助けとなることを開けるように祈ってきました。わたしたちも祈りました。靈感と導きを求めて祈りました。主から受けている天いなる信頼と皆さんの信頼を裏切らないように、わたしたちは絶えず心の中で祈っているのです。わたしたちは、聞く人々の信仰と証を築き、祈りの答えとなる言葉を語れるように導きを求めて祈ってきました。

わたしたちは次の主の御言葉を聞いて安心します。「〔御霊によって〕説く者と〔御霊によって〕受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶのである。」(教義と聖約 50:22)

今から150年前、わたしたちの民はノーブーを出発し、アイオワの平原を横切って進みました。わたしは断言しますが、わたしたちはだれ一人、彼らの払った犠牲の大きさを理解することはできません。彼らは居心地のよい家を捨て、グレート・ソルトレーク盆地に至るまで続く荒れ野の旅の苦難に雄々しく立ち向かったのです。その苦難は計り知れないものです。わたしたちが携わっているこの業のために何百人もの人が亡くなったのです。

わたしたちは今年の夏、パルマイラやノーブー、アイオワ州カウンスルブラフスを訪れました。この地は、彼らが愛し尊敬した忠実な友人にちなんでケインズビルと呼ばれています。そして彼らがミズーリ川に到着したときの広大なキャンプ地に立ちました。わたしはこれまでに何度も、ミズーリからこの谷までの開拓者の足跡をたどりました。わたしたちにとって、それは常に神聖な経験です。わたしたちの受け継ぎに心から感謝しています。わたしたちは来年、先祖の開拓者がこの谷に到着したことを祝う150年祭を迎えるとき、その受け継ぎを思い起こすでしょう。

恵まれた時代に生活するのは祝福です。恐ろしい迫害は過去のことです。わたしたちは、今日世界中の人々から尊敬の目で見られています。常にそれにふさわしくなければなりません。そうしなければ、世の信頼は失われていくでしょう。この大会でその原則を思い起こすことでしょう。

今日と明日の2日間に話をする人々に御霊の力によって耳を傾けるようにお勧めします。そうするなら、皆さんは高められて、正しいことを行うという決意を強め、自分の問題や必要の解決法を見だし、大会で聞いたことを主に感謝するようになるとお約束します。

わたしたちは、全世界に広がる大家族になりました。話す言葉は違いますし、生活環境も様々です。しかし、共通の証が脈打っているのです。わたしたちは知っています。神は生きておられ、この神聖な業を導いておられます。イエスはわたしたちの贖い主であり、主の御名を頂くこの教会の頭です。ジョセフ・スミスは、この時満ちる神権時代の長となる預言者です。神権が彼のうえに回復され、それは途切れることなく今日のわたしたちに伝えられています。『モルモン書』は、主イエス・キリストの存在と神聖を真に証するものです。この偉大にして聖なる集会にともに参加するとき、わたしたちのこれらの証は強められ、信仰が深まることでしょう。

イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。



ソルトレーク神殿の尖塔を飾る天使モロナイ像。

十二使徒

十二使徒定員会会長代理

ボイド・K・パッカー

わたしたちがささげなければならない最も貴重なものは、主についての証、イエス・キリストについてのわたしたちの証です。



して、これらの職は、「神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達」するまで続くであろう、と語りました。³

しかしやがて、当時の使徒たちは去り、鍵も取り去られてしまいました。パウロはその状態について、人は「様々な教の風に吹きまわされ⁴」と預言しています。

それが現実となりました。信仰の一致どころか、分裂と不一致が生じました。

若きジョセフ・スミスがどの教会が正しいか、どこに加わるべきかを知るために祈り求めたのは、そのような中でのことでした。

この神権時代の幕開けとなったのは、ジョセフへの御父と御子の示現でした。そして、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられた⁵原始教会の組織そのままの、イエス・キリストの完全な福音が回復されました。

中には、教会の組織の詳細が、建物の設計図や明細図のように初めからまともて与えられていたと考える人がいます。でも、そうではありませんでした。当時の教会の幹部の兄弟たちに準備ができて、しかも彼らが祈り求めてからでなければ与えられなかったのです。

神から人に与えられる最高の権能であるメルキゼデク神権は、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの手によって授けられました。主は言われました。「〔ペテロ、ヤコブ、ヨハネによって、〕わたし〔は〕あなたがたを聖任し、あなたがたを使徒およびわたしの名の特別な証人として確認し、またあなたがたの務

主の教会を設立されたときのイエスの様子がこう記されています。「イエスは祈るために山へ行き、夜を徹して神に祈られた。

夜が明けると、弟子たちを呼び寄せ、その中から12人を選び出し、これに使徒という名をお与えになった。』¹彼らは召されたとき、ごく普通の生活をしている人々でした。

最初に召されたのはペテロでした。主は彼に言われました。「わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつながれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう。』²この同じ神聖な権能がすべての使徒の聖任に受け継がれています。

パウロは使徒と預言者が召されたのは、「聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせる」ためであると説いています。そ

めの鍵と、わたしが彼らに明らかにした事柄と同じ事柄の鍵を持つことをあなたがたに確認した……。

……終わりの時代のために、……わたしの王国の鍵と福音の神権時代とをわたし〔は彼らに〕ゆだねた〔……。〕」⁶

1933年には大管長会が組織されました。そして2年後の1835年2月には、十二使徒定員会が組織されています。これはそうあるべきでした。大管長会がまず先に来て初めに権能を確立するのです。しかも、これは規範に忠実に、ごく普通の人生を歩んでいた人々から召しが行われました。

こうして大管長会と十二使徒定員会が組織され、七十人と管理監督会の職が啓示されると、事物の正しい秩序が行き渡るようになります。しかし、すべてが同じではありません。

たぶん、次のJ・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長の言葉が、最も分かりやすいのではないのでしょうか。「中央幹部の中には特別な召しを受けている人々〔使徒〕がいます。彼らは特別な賜物^{たまもの}を持っており、預言者、聖

見者、啓示者として支持されています。そのため、人々を教えるに当たっては、特別な霊の賜物を受けることができます。彼らは神の御旨と御心^{みこころ}を、大管長の持つ統括的な力と権能の下で神の民に宣言する権利と力と権能を有しています。ほかの中央幹部にはこの特別な霊の賜物がありません。……〔この制限は〕教会のほかのすべての役員や会員に適用されます。だれも預言者、聖見者、啓示者としての霊の賜物を受けていないからです。』⁷

クラーク副管長はさらにこう述べています。「〔使徒と大管長会の中で〕管理大祭司である大管長だけが教会に対する預言者、聖見者、啓示者として支持されており、教会全体のために啓示を受ける権能を有するのは大管長だけです。新たな啓示であろうと、過去の啓示の変更であろうと、特定の聖文に対する教会全体を拘束する公式な見解の表明であろうと、現行の教義の変更であろうと、すべて同じです。』⁸

現在わたしたちが理解している秩序がしっかりと根を下ろすまでには、長

い年月に及ぶ主へのお伺いとそれに対する主の答えがありました。完成に向けての一つ一つの動きは、すべて必要を満たす形で、祈りへの答えとして与えられたのです。そして、その方式は今日も続いています。

「十二使徒会は巡回管理高等評議会であり、天の規定にかなって教会の大管長の指示の下に主の名において職務を行い、……教会を築き上げ、すべての国々において教会の諸事をすべて整える。』⁹

大管長会が赴くことのできない所へは、「すべての場所で……王国の門の錠を開ける」¹⁰ために十二使徒が派遣されます。彼らは全世界に赴く使命を持っています。使徒（Apostle）とは「遣わされた者」¹¹という意味だからです。

主は言われました。「それゆえ、……どこでもあなたがたがわたしの名を宣言する所で、人々がわたしの言葉を受け入れるように、効果的な門があなたがたのために開かれるであろう。』¹²主はこう約束しておられます。「あなたは謙遜^{けんそん}でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。』¹³

十二使徒は「全世界におけるキリストの名の特別な証人となる」¹⁴ように召された人々です。一人一人がイエスがキリストであるとの確かな証^{あかし}を携えています。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長はこう教えました。「すべての教会員は、イエスが神の御子であるとの聖霊による証を消えることのない絵として心に刻みつけ、決して忘れないようにしなければなりません。』¹⁵

わたしたちはニーファイから「天使は聖霊の力で語る」¹⁶ことを教えられました。またモルモンはこう語っています。「天使の務めは、人を招いて悔い改めさせることと、御父が人の子らに立てられた聖約の業を果たして実行することと、……人の子らの中に道を備えることである。」モルモンはまた、天使は「主の選ばれた器にキリストの御言葉^{みことば}を告げ知らせることによって彼



らがキリストについて証を述べるようにして」その働きを全うすると述べています。

「このようにして、主なる神は道を備えて、残りの方々もキリストを信じる信仰を持ち、聖霊がその力によって彼らの心の中に宿られるようにされるのである。このような方法で、御父は人の子らに立てられた聖約を果たされる。」¹⁷

「教会を見守るように……神が選んで聖任する人々には」¹⁸識別の力が与えられます。識別とは見分けることです。

ハロルド・B・リー大管長は、十二使徒定員会のチャールズ・A・カリス長老との会話についてわたしに教えてくれました。カリス長老は、識別の賜物は持っている大変な負担になる、と言ったそうです。これから何が起こるかはっきり分かっているにもかかわらず、教会員がなかなか勧告にこたえてくれず、中には使徒や預言者の証を拒む人さえいるのを見ると、深い悲しみに襲われるとのことでした。

しかしながら、「この教会を導く責任」は、「あなたがたがあなたがたを継ぐ者を指名するまで」¹⁹わたしたちの下にとどまらなければなりません。

また主は、「わたしの名を知っていると公言しながらわたしを知らず、わたしの家の中でわたしを冒瀆」²⁰する少数の教会員について警告されました。

主はこう命じておられます。「あなたの声は戒めに背く者にとって叱責となる。あなたの叱責で、中傷する者の舌にそのよこしまな行為をやめさせなさい。」²¹

教会の中のある少数の人々は、公に、あるいは恐らくそれよりはるかにたちの悪いのは、匿名という闇に紛れて、ワードやステーキや中央の教会指導者を非難し、イザヤが言ったように「言葉によって人を罪に定め」²²ます。主はそのような人々のことをこう述べておられます。「わたしの油注がれた者に向かってかかとを上げる者は皆のろわれる、と主は言う。……わたしの目にかなうことと、わたしから命じられたことを行ったのに、彼らは罪を犯し

たと叫ぶ者は皆のろわれる、と主は言う。

しかし、戒めに背いたと叫ぶ者は、彼ら自身が罪の僕であり、不従順の子らであるからそう叫ぶのである。……

……彼らはわたしの幼い者たちをつまづかせたので、わたしの家の儀式から絶たれるであろう。

彼らのかごは満ちることなく、彼らの家と倉は朽ち果て、彼ら自身は彼らにへつらった者たちに見下されるであろう。

彼らも、彼らの後の子孫も代々、神権を受ける権利を持たないであろう。」²³

福音を守り指導者を支持することに最善を尽くす人々には、この恐るべき罰が下ることはありません。また、過去に無関心さらには反抗という罪さえ犯した人々でも、悔い改めてその罪を告白し、それを捨てれば、罰が下ることはありません。²⁴

最近ヒンクレイ大管長は中央幹部の兄弟たちに、わたしたちは皆ごく在りきたりの生活の中から召された者たちではあるが、わたしたちには神聖な使命が託されていると言いました。そこで慰めとなるのが、古代の十二使徒への主の言葉です。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。」²⁵

一人一人では限界を感じますが、一致したところには力が生まれます。教会歴史の中で、今ほど大管長会と十二使徒会の中に一致の見られる時はありません。

わたしたちは毎週神殿で集会を開きます。ひざまずいて祈ることにより会を初め、祈りによって会を閉じます。すべての祈りは、わたしたちを召された御方、わたしたちが僕として、また証人としてお仕えする御方への服従と従順の精神でささげられます。

主はこう要求しておられます。「これらのいずれの定員会が下す決議も皆、その定員会の全会一致の声によってなされなければならない。……それらのいずれかの決議は、完全な義により、さとへりくだった心、柔和と寛容により、また信仰、徳、知識、節制、忍耐、信心、兄弟愛、および慈愛により下さ

れなければならない。」²⁶わたしたちが熱心に求めているのは、このことなのです。

わたしたちは「創造の初めからいずれの時であっても神権時代を受けたすべての者ととともに」²⁷神権の力を受けていることを知っています。わたしたちはわたしたちのこの神聖な職の前任者のことを心に思い、しばしば彼らの臨在を感じるがあります。

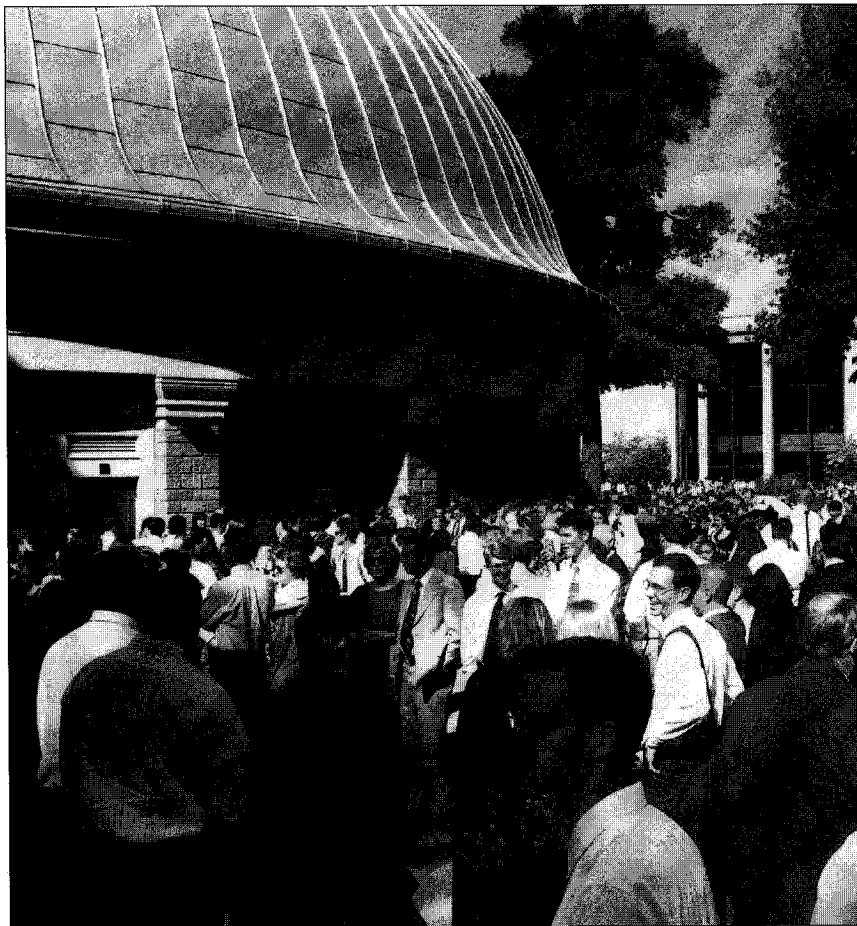
この神聖な召しにある人々への主の次の言葉には圧倒される思いです。「何であろうと聖霊に感じて語ること、聖文となり、主の心となり、主の思いとなり、主の言葉となり、主の声となり、救いを得させる神の力となる。」²⁸

教会が非常に困難に見舞われた時代、主は聖文の中で最も厳しいとわたしには思われる警告の言葉を下されました。それはノーブー神殿の建設に関することです。聖徒たちは経験から、神殿の建設を続行すれば迫害がひどくなることを知っていたので、引き延ばしていました。主は期限を延ばしたうえでこう言われました。「もしあなたがたが定められた期間の終わりにこれらのことを行わなければ、あなたがたの死者とともに、あなたがたは教会として拒まれるであろう、と主なるあなたがたの神は言う。」²⁹

この啓示で見逃しがちなのは、驚くべき約束です。「わたしの民が、わたしの声と、わたしの民を導くためにわたしが任命した僕たちの声に聞き従うならば、見よ、まことに、わたしは言うが、彼らはその場所から移されることはない。」³⁰

この約束を忘れないようにしましょう。この約束にしっかりとつかまっていましょう。この約束は、幸福な家庭を実現するために必要な標準に対してますます無関心になり、あるいは敵愾心さえ抱く社会の中で、家族を一つにまとめようと心を砕いている人々にとって、大いなる慰めとなることでしょう。

この約束は、主が群衆に言われたことの繰り返しです。「わたしがあなたがたの中から選んで、あなたがたを教



え導き、またあなたがたの僕となるようにしたこの12人の言葉に注意を払うならば、あなたがたは幸いである。』³¹

わたしもこの約束を繰り返したいと思います。主が立てられたこれらの人々の声に聞き従う人々は、「その場所から移されることはない」³²のです。

しかし、この約束には警告が続きます。「しかし、もし彼らがわたしの声にも、わたしが任命したこれらの者の声にも聞き従おうとしなければ、彼らは……祝福されないであろう。」³³

わたしたちがささげなければならぬ最も貴重なものは、主についての証、イエス・キリストについてのわたしたちの証です。

わたしとともに聖任にあずかっている14人の兄弟たちは、真実の使徒であると申し上げます。これを宣言するに当たり、わたしは主が教えられたこと以上のことを、また、誠心誠意求める人々ならだれにでも示される御霊の証以上のことを申し上げるつもりはあり

ません。

これらの人々は主の真の弟子です。彼らの勧告に聞き従ってください。七十人も同じです。特別な証人として使徒から託された責任を担う人々です。そして、管理監督会も同じです。ふさわしい神の人です。さらに、指導者として召され、何にも増して貴重な知識を得た世界中の兄弟姉妹も同じです。

御霊がわたしたちに話してもよいと言われることには制限があります。³⁴ですから、わたしはこの話をわたし自身の証で、わたしの特別な証で結びたいと思います。イエスはキリストであり、預言者である大管長を通じてこの「全地の面に唯一まことの生ける教会」³⁵を管理しておられます。イエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。

注

1. ルカ6：12-13
2. マタイ16：19

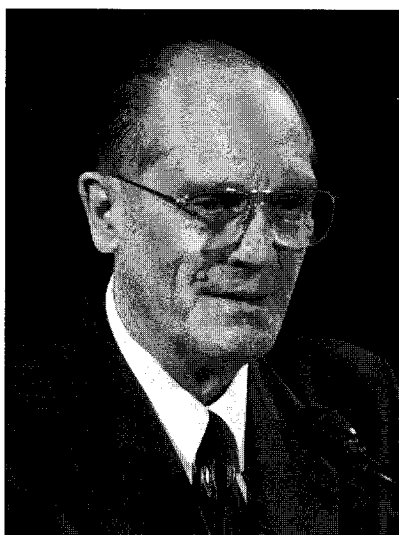
3. エペソ4：12-13
4. エペソ4：14
5. 信仰箇条1：6；エペソ2：20参照
6. 教義と聖約27：12-13
7. J・ルーベン・クラーク・ジュニア
“When Are the Writings or Sermons of Church Leaders Entitled to the Claim of Being Scripture?” *Church News*「教会指導者の著作や説教が聖文としての資格を得るとき」『チャーチニュース』1954年7月31日付け、pp.9-10
8. 『チャーチニュース』1954年7月31日付け、p.10
9. 教義と聖約107：33
10. 教義と聖約112：17。教義と聖約107：35；124：128も参照
11. 「使徒」『聖句ガイド』
12. 教義と聖約112：19
13. 教義と聖約112：10
14. 教義と聖約107：23
15. ジョセフ・フィールディング・スミス「十二使徒」セミナリー・インスティテュート職員への未刊の説教、1958年6月18日、p.6
16. 2ニーファイ32：3
17. モロナイ7：31-32
18. 教義と聖約46：27
19. 十二使徒の宣言の草稿、1844年3月の十二使徒会での報告、ブリガム・ヤングに関する資料、教会文書資料館
20. 教義と聖約112：26
21. 教義と聖約112：9
22. イザヤ29：212ニーファイ27：32も参照
23. 教義と聖約121：16-17、19-21
24. 教義と聖約58：43参照
25. ヨハネ15：16
26. 教義と聖約107：27、30
27. 教義と聖約112：31
28. 教義と聖約68：4
29. 教義と聖約124：32
30. 教義と聖約124：45
31. 3ニーファイ12：1
32. 教義と聖約124：45
33. 教義と聖約124：46
34. アルマ12：9参照
35. 教義と聖約1：30

預言の霊

七十人会長会

L・アルディン・ポーター

証は、ほとんどの場合、神が人に真理を明らかにされる手段です。新しいことでも、不思議なことでもなく、人類とともに古くからあるものです。



今から176年前、この末日に福音を回復するための礎となる出来事が起こりました。それは、わたしの考えでは神の御子が復活した体をもって墓から出て来られて以来、最も重大な出来事です。すなわち、天からの最初の示現が預言者ジョセフ・スミスにもたらされたのです。彼の記録を読んでもみましょう。

「それは1820年の早春、美しい晴れた日の朝のことであった。わたしがこのようなことを行おうとしたのは、生涯で初めてであった。わたしは不安のまっただ中にあっても、声に出して祈ろうとしたことはまだ一度もなかったからである。

わたしは前もって決めておいた場所に人目を避けて行き、辺りを見回し、自分一人であることを確かめると、ひざまずいて、心の願いを神に告げ始め

た。」

それからジョセフは、少しの間経験した、激しい霊的な苦しみについて記しています。その経験を通じて彼は、悪魔の力が実在し強力であることを確信しました。それからこう続けています。

「わたしは自分の真上に、太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を見た。そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしに降り注いだ。

それが現れるやいなや、わたしはわが身を縛った敵から救い出されたのに気づいた。そして、その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。』

この一つの出来事が、世界の行く末を変えました。天父と御子が若き預言者に御姿を現されることにより、時満ちる神権時代の扉が開かれたのです。それは天父の子供たちへの神の愛の表れであり、この世を永遠に変えるものでした。

では、ジョセフ・スミスが天父と御子に実際にお会いして言葉を交わしたことを確かに知るにはどうすればよいのでしょうか。神が預言者を通して今も世の人々に語られるという教会の大胆な宣言が正しいことを知るには、どうしたらよいのでしょうか。神はその方

法を備えてくださいました。

最初の示現の天からの栄光について、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように述べています。「この示現に反論して多くのことが書かれてきました。これからもたくさん書かれることでしょう。心の狭い人には分かりません。しかし、この示現が与えられて以来、数え切れないほどの人々が経験したき御霊の証は、それが真実であり、ジョセフ・スミスが述べているように実際に起きたこと、またそれがバルマイラに日が昇るように確かなこと、さらにはそれが不可欠な土台となる隅石であり、それなくしては教会全体が組み合わされないことを証してくれます。』²

わたしも繰り返しますが、聖なる御霊が証するように、最初の示現は真実です。ほとんどの場合、その証は、神が人に真理を明らかにされる手段です。新しいことでも、不思議なことでもなく、人類とともに古くからあるものです。聖文には神が人と交わられた例がたくさんあります。啓示によって、アダムやエノク、ノア、アブラハム、モーセ、またこれまでの時代の忠実な聖徒たちは皆、神聖な事柄について知識を得ました。

古代のニーファイは、自分の民にこの原則を教えました。こう言っています。

「さて、わたしニーファイは、民の中で教えられたことをすべて書き記すことはできない。また書くときには話すときほどの力もない。人が聖霊の力によって語るときには、聖霊の力がそれを人の子らの心に伝えるからである。

しかし見よ、聖なる御霊に対して心をかたくなにする人が大勢いる。彼らには聖なる御霊は宿ることがおできにならない。そのために、これらの人々は、書き記されている多くのことを捨てて、これらを価値のないものと見なす。』³

高慢な人やかたくなな人、怠惰な人、疑いを持つ人には、聖なる御霊は働きません。しかし、真理や主イエス・キリストへの信仰を心から願う人は、霊



初等協会の子供たちに手を振るゴードン・B・ヒンクレー大管長。土曜午後の部会で彼らは歌を發表した。

的な事柄について教えを受ける備えができるのです。

主イエス・キリストは、聖なる御霊を通して、啓示により、地上の業を導かれます。この啓示の霊の力は、地の四隅に福音のメッセージを携えて行く5万2,000人以上の宣教師の軍勢を動かし、動機づけています。彼らが伝道の業で成功するとき、それは、聖霊の力を伴う証を述べ、その確認を受けるからなのです。

主は御自分の使者を、弱い者、無学な者、見下されている者と言われました。しかし、彼らの働きを通して、「御霊の力によってもろもろの国民を打つ」と約束しておられます。⁴

ヒンクレー大管長は、昨年の秋にイギリス諸島から戻ったとき、BBCラジオから受けたインタビューについて話しました。レポーターがヒンクレー大管長に尋ねました。「まだひよっここの若者たちの話に人々が耳を傾けると思いますか。」ヒンクレー大管長は、「ひよっこ」という言葉には、未熟、経験が乏しい、洗練されていない、という意味がある、と説明しなければなりません。それから大管長はレポーターに指摘しました。「人々は宣教師たちを受け入れて、彼らの話に耳を傾けています。彼らは健全です。

明るく、機敏で、……清潔な感じがします……。」⁵

去年の10月の総大会の神権部会で、ヒンクレー大管長は宣教師についてこう話しました。「『彼らは奇跡なのです。』……彼らは、自分自身の確信に基づいて、心からの言葉を語ります。一人一人が……主イエス・キリストの使いです。彼らの力は、この世につける事柄を学んだところから来るものではありません。彼らの力は、信仰、祈り、謙遜さから来るものです。」⁶

イエスはすべての国民に福音を宣べ伝えるよう命じられましたが、それは神の僕が全地でへりくだって証するときに行われます。そして主はその犠牲にこたえて、啓示により彼らの言葉を証されるのです。

何年前かに、わたしはリグランド・リチャーズ長老の後輩同僚としてステーク大会に出席する割り当てを受けました。リチャーズ長老はこの御霊の導きの下で、ステーク会長会を再組織しました。車で帰る途中、彼は押し黙っていました。しばらく沈黙が続いてから、わたしは「何かお話ししたいことがありますか」と尋ねました。長老は静かに答えました。「預言と啓示の霊を否定する教会員が、あまりに多くいます。」それだけでした。それ以上何

も言いませんでした。わたしはその日の新しいステーク会長の召しについて考えたとき、この教会は預言と啓示の霊なしには一日たりとも機能しないことを改めて感じました。

しかしわたしたちは、人々の信仰が弱まり、神聖な事柄への疑いが強まる時代に生きています。それは、復活された救い主がこのアメリカ大陸を訪れる直前の時代を思い起こさせます。霊的にとても暗い時代なのです。

モルモンは、ニーファイ人の社会を悩ます問題の根源について次のように記しています。「彼らは非常に富んでいたために心が高慢になり、また飢えている者に食物を与えず、着る物のない者に着る物を与えず、謙遜な同胞の頬を打つなどして貧しい者を虐げ、神聖なものをあざけり、預言と啓示の霊を否定し……〔た。〕」⁷

さらにモルモンはこう続けています。「また、彼らの罪惡のために、教会は衰え始めていた。そして彼らは、預言の霊と啓示の霊を信じなくなり、神の裁きは彼らの目前に迫っていた。」⁸

わたしたちが雄々しく宣言するように、啓示の霊は主の生ける預言者、聖見者、啓示者のうえにとどまっています。

スペンサー・W・キンボール大管長は、まさにこの壇上から次のように証しました。「わたしは深くへりくだり、しかし心に力強い燃える証の力をもって、回復の預言者からこの現在の預言者まで、天との交流の糸は絶えず、権能は続き、光は鋭く鮮やかに輝き続けていると申し上げる。主の御声は間断なく奏でる調べ、とどろく力である。」⁹

任命を受けたこの教会の僕が、聖霊の導きの下に、主イエス・キリストの使者として語るとき、その言葉は啓示に対して心を開く人々に、御霊の力によって伝わるのです。

天からの力によってその証が人々に伝わる時、人々はすぐに個人の犠牲が常にそうした証の一部であると悟ります。神聖なものへの御霊の証はいつも何らかの犠牲を要求します。やがて人は、犠牲の必要性を理解するようになり、そのことで喜びに満たされるの

です。

人生で得られる最も大切な知識は、聖なる御霊を通して、啓示によりもたらされます。だからといって、多くの分野の研究を通してもたらされる知識を軽んじるつもりは少しもありません。しかしその個々のものは、また全体は、御霊を通して与えられる、神聖な事柄に対する個人の証を受けること以上に重要なものではないのです。御霊の証は光と確信、平安をもたらしてくれます。

わたしは声を上げて繰り返しますが、ジョセフ・スミスは御父と御子にまみえました。この確かな知識は世の人からもたらされたものではありません。この確信は、約束されたように聖なる御霊を通してもたらされたのです。

地上における神の王国を絶えず前進させるのは、ジョセフ・スミスが父なる神と御子イエス・キリストにまみえたことを聖霊によって確信した献身的な宣教師と会員です。また、教会の指導者が預言と啓示の霊によってわたしたちを導いているという、忠実な個々の会員の心にある証の力です。決してこの貴重な賜物を失ってはなりません。この偉大な祝福を保つために、わたしたちは求められる信仰と従順という代価を支払わなければならないのです。

イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. ジョセフ・スミス—歴史1:14-17
2. 「信仰の礎」「聖徒の道」1985年1月号, p.54
3. 2ニーファイ33:1-2
4. 教義と聖約35:13
5. 「伝道と神殿、そして管理の職」『聖徒の道』1996年1月号, p.58
6. 「伝道と神殿、そして管理の職」『聖徒の道』1996年1月号, p.58
7. ヒラマン4:12
8. ヒラマン4:23
9. 「啓示——主が預言者に伝える御言葉」『聖徒の道』1977年10月号, p.513

教室——着実に絶えず成長する力を与える場所

中央若い女性第一副会長
バージニア・H・ピアス

教師の目標は、……御霊を招き、生徒が自分自身で真理を発見し、それを応用しようという意欲がわいてくるような教授技術を用いることです。



るように心から願いました。

今朝わたしは、そのときの願いを思い起こしながら、昨年バプテスマを受けた37万5,469人の会員¹について考えています。また、それ以前にバプテスマを受けた、残りの教会員約900万人について考えています。それぞれの状況は異なっていますが、わたしたちは皆、王国の教義を教えられ、御霊を感じ、教義がいかにわたしたちの生活に当てはまるかを理解し、このような真理を常に実践するように努めようという意思を表し、バプテスマの儀式を受けたのです。

わたしたちのすべてが「教会にとどまり、ずっとその原則を実践〔する〕」²わけではないという可能性、しかもかなり高い可能性について考えることは、あまりにつらいことです。多くの会員は教会を去り、この幸せな交わりに再び戻ることがありません。中には、一次的に教会を去り、地上の神の王国に加われることにいっそう感謝の念を深めて戻って来る人もいます。わたしたちは皆、知らず知らず、あるいは自分の意志で教会を離れていく危険性に日々直面しているのです。

教会にとどまるために役立つ事柄はたくさんあります。今朝わたしは、その中の一つだけをお話したいと思います。教会の教室は、福音の中で着実に絶えず成長する力を与えてくれる場所ではないでしょうか。

日曜学校、神権会、扶助協会、若い

数か月前、わたしの夫は親しい友人にバプテスマを施しました。バプテスマ会に出席しながら、彼女が何年もこの大切な儀式を受ける準備をしてきたことを思い巡らしていました。原則が注意深く教えられ、日々実践されるのを観察し、静かに受け入れました。生活の中に神の御手があることを認め、困難でしたが正しい選択をしたとき、御霊によって温かい確認を受けたのです。このように過去を思い出しながら、現在の出来事に喜び、将来について思いをはせずにはいられませんでした。この善良な女性が、生涯にわたって末日聖徒イエス・キリスト教会に活発に集い、これからも福音を学び、実践し、その祝福に十分あずか

女性、初等協会、セミナリー、インスティテュートのクラスは、献堂された建物、木の下、あるいは家の中で行われます。しかし、どのクラスも生涯にわたる福音学習の計画の一部です。これらのクラスがわたしたちの生活に強い影響力を及ぼすことを、大いに期待してよいのです。教会のクラスは、わたしたちをバプテスマの水へ導いたのとまさに同じ事柄を何度も経験する場所です。つまり、教義を学び、その真理に対するを得、いかに教義を現実の日常生活に応用できるかを理解し、それに従って行動を変えるチャレンジを受け入れる場所です。

教会のすべてのクラスの基本的なカリキュラムは聖文です。³ 聖文には神の王国の不変の教義が書かれています。こうした真理がわたしたちを教会へ導いてくれたのです。それらを続けて学ばなければ、教会にとどまることはできないかもしれません。「あなたがたは互いに王国の教義を教え合わなければならない。……あらゆる点で備えられるためである。」⁴

十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長代理は、こう述べています。「まことの教義を理解すれば、人の態度や行動は変わります。」⁵ では、毎週どの教義を教えたらよいかは、どのようにしたら分かるのでしょうか。それはレッスンの目的に書かれています。しかし、わたしたちの態度や行動を変えるように教義を理解するには、どうしたらよいのでしょうか。

ほんとうに理解するためには、教義がどのように応用されるのかを理解しなくてはなりません。レッスンのテキストには、話や例、活動、ゲームなど、生徒が実生活の中で教義を理解するうえで役立つものが載っています。

教会のクラスは現在160か国で設けられていますが、人々の日常生活はそれぞれ異なるために、テキストの話や例は時として生徒を混乱させることがあります。教師は、よく祈って変更を加えることができますが、選んだ学習活動が教義を正しく反映するように常に注意しなくてはなりません。

教師の目標は、ただ真理に関する講

義をすることではなく、それ以上のものです。御霊を招き、生徒が自分自身で真理を発見し、それを応用しようという意欲がわいてくるような教授技術を用いることです。生まれながらにして教える才能を備えているように見える人もいますが、教える技術は努力により身に付けられるものです。自分の技術を高めるには、どこへ行ったらよいでしょうか。ほかの人が教えるのを見て、学ぶこともできるでしょう。上手な教師のところへ行ったら、自分のレッスンを参観し、改善点を提案してもらったらどうでしょう。初等協会では、初等協会の会長会に、日曜学校で教える場合には、日曜学校の会長会に助けてもらうことができます。ワードの教師養成コーディネーターに定期的に、また特定の援助を頼めば、多くの参考資料を紹介してもらえます。この教会では、独りで悩む必要はありません。どこにでも助けがあります。よく祈り、勇気をもって新しい技術を学び、練習することができます。

わたしはある若い兄弟との会話を忘れることができません。彼は完全に教会から遠ざかり、その後活発な会員に戻った経験を話してくれましたが、それには二つの教室の話が出てきました。彼はこう語りました。「15歳のころ、僕は教会についていろいろ疑問を持つようになりました。そのような疑問について教会で話す機会があるかと思っていましたが、実際にはありませんでした。神権会では、だいたいいつもみんなは前の晩の試合のことを話していました。日曜学校もそんな感じでした。最後の5分間にちょっとレッスンしただけで、教師が質問をしましたが、それはテキストから正しい答えを見つける時間というようなものでした。」

その後、いろいろなことが起きました。土曜の晩遅くまで起きていて、日曜の集会時間が早朝に変わり、間もなくその若い男性は集会に来なくなってしまいました。数年後、彼は教会に戻りました。このときは、日曜学校のクラスについて話す彼の顔は輝いていま

した。

「教師は平凡な感じの男性でしたが、教えることにとても熱心でした。1分たりとも無駄にしませんでした。大切な質問をしました。生徒は皆、聖文を持っていて、言われた聖句を調べていました。自分の考えを発表し、お互いの意見に耳を傾けました。学校での問題を採り上げ、レッスンで教えられている事柄をどのように当てはめたらよいか話し合いました。クラスの生徒は皆異なっていましたが、共通に持っている驚くべきことが一つありました。皆、福音を学ぶことに興味を持っていたのです。5分もすると、これは自分にとって良い所だと分かりました。」

この経験は何と異なっていることでしょうか。毎週日曜日、何十万ものクラスでレッスンが教えられています。各教師は、「学習は生徒が行うべきものである。したがって、実践の義務は生徒にある。教師が脚光を浴び、舞台の中心に立ち、すべてのせりふを語るか、全部の活動を独り占めしてしまえば、これはまず間違いなく、生徒の学習を阻害しているので【す】」。⁷

熟練した教師は「今日のレッスンで、わたしは何をしようか」ではなく、「今日のレッスンで、生徒は何をするだろうか」、「今日は何を教えようか」ではなく、「生徒が知らなければならぬことを、彼らが気づけるように、どう助けられるだろうか」と考えます。⁸ また、生徒がクラスを出るとき、教師のすばらしさについて話してほしいと思うのではなく、福音のすばらしさについて話してほしいと思うのです。

学習は信頼と安心感に満ちた雰囲気の中で最もよく行われます。つまり、各人の質問や発言が尊重されます。わたしたちは安心して、みんなと一緒に勉強していると感じる時、福音を理解するうえで役立つ質問をします。また、ほかの人に役立つような洞察や信仰を分かち合うことができます。⁹ 教えられたレッスンを応用しようとして間違いをしても、恥ずかしがる必要はありません。それとは逆に、自己防衛をしたり、背伸びをしなくてはならないように感じる時は、わたしたちの

エネルギーは非生産的な方向に使われ、自分自身とほかの人の学習はかなり抑えられてしまいます。信頼と安心感の雰囲気を保つことは、教師と生徒がともに負うべき責任です。

中央若い女性会長のジャネット・ベッカム姉妹が、クラスを教えることについて簡潔に話すのを聞いたことがあります。彼女はこうに述べました。

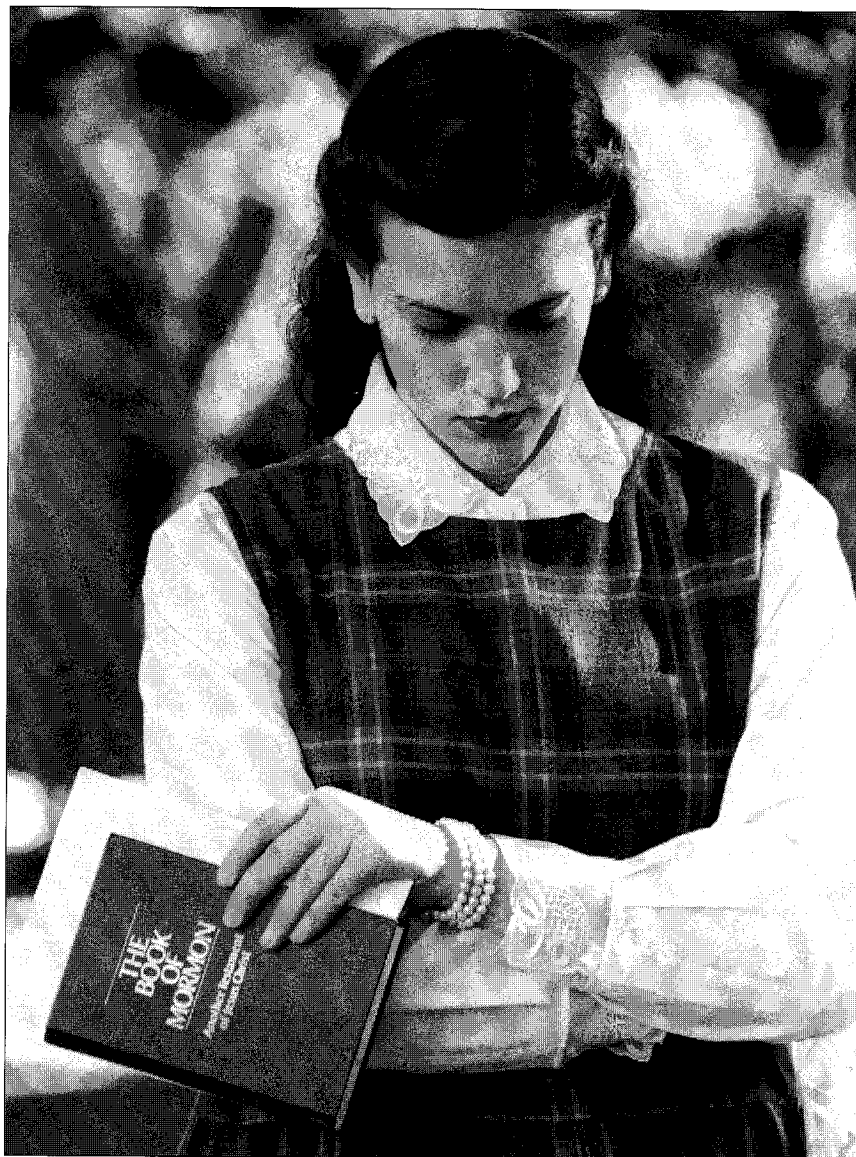
「レッスンの導入と基礎的な方向づけは、教師の責任です。レッスンの真ん中は生徒が中心となって参加し、理解と応用へ進みます。それから、教師は時計を見なくてはなりません。最後の数分は教師の時間だからです。生徒がメッセージをよく理解して教室を出るように、教師には自分の教えた教義を分かりやすくまとめる責任があります。それから、レッスンで採り上げられた原則について、個人的な証を述べます。」¹⁰

では最後に、12歳と13歳の若い女性のあるクラスをのぞいてみましょう。生徒が教義を見いだす声に耳を傾けてください。生徒が教義を現実の生活に結びつけることができるように教師が与える経験に注目してください。クラスにとどまる御霊を感じてください。

教師は半円形に座った5人の少女たちにイスを近づけて言いました。「外に訪問者が待っています。ジョナス姉妹です。生まれたばかりの赤ちゃんを見せてくれるんです。そして、母親になったばかりの気持ちやどんなものか話してくれます。皆さんは赤ちゃんを見ながら、お母さんの様子にも注意して見てください。どんなふうに赤ちゃんに接するか、何をするか、何を言うか、よく見ておいてください。彼女が出て行った後で、みんなで話し合いたいと思います。」

ジョナス姉妹が入って来て、7、8分赤ちゃんについて話し、質問に答えます。生徒たちはお礼を述べ、ジョナス姉妹は教室を出ます。

赤ちゃんを見てうれしそうな様子の少女たちに、教師は声をかけます。「赤ちゃん、かわいかったわね。でも、お母さんについて何か気づいたことがありますか。」



ちょっと静かになり、一人が答えました。「幸せそうでした。」もう一人が言いました。「赤ちゃんを抱いている間、ずっと身体を前後に揺すっていたわ。」さらに2、3人が答え、次に、ケティーがゆっくりと言いました。「お母さんは、とっても静かに話していたわ。」

「そのことについて、もう少し詳しく話してみてくれない？」教師は優しく少女を促しました。

「ええ、彼女の声を聞いて、わたしのお母さんの声を思い出しました。去年、いちばん下の妹が生まれたとき、お母さんが病院から電話をしてくれました。」

教師は、ほかの少女たちに向かって

尋ねました。「皆さんはどう思いますか。ほかにだれか、ジョナス姉妹の声に気づきましたか。」

少女たちは深く考え始めました。そして、「敬虔」や「天国」、「愛」のような言葉を語りました。

教師は言いました。「みんなの言うことが分かるように思います。このような言葉を思いついたのは、天父から与えられた大きな賜物^{たまもの}に気づいたからだと思います。天父はわたしたちをとても愛し、信頼しておられるので、天父の持つておられる創造の力をわたしたちにも与えてくださったのです。このような信頼に対してわたしたちは心から感謝し、敬虔な気持ちになります。母親となることは神聖な役目です。」

教師は、このように分かりやすく教義を説明し、証を述べた後、少女たちが自分の母親の持っている、母性の神聖さを示すような特性について考える活動に移ります。「皆さん、今週は、良い母親となるための準備として、忍耐、親切、前向きな態度、などの徳の中から一つ選んで、実行してみてくださいませんか。」

少女たちはそれぞれが選んだ目標について話し、教師は自分の証を述べ、閉会の祈りがささげられました。

レッスンは淡々と進められました。取りたてて驚くような話はありません。学者のように物知りの人もいません。でも、レッスンに参加しようという気持ちのある人たちばかりです。教師は特別な才能を持っているわけでもありません。ただ祈りの気持ちで準備し、生徒が真の教義を理解し、応用するうえで役立つように工夫していました。

先週、わたしはバプテスマを受けたばかりの友人に電話し、どんな様子か尋ねました。彼女は元気そうに答えました。「夫とわたしは15-16歳コースを教えるように召されて、とてもたく

さんのことを学んでいるわ。」わたしはうれしくなり、自分の考えが正しいことを再確認しました。つまり、彼女にとっても、またわたしたち一人一人にとっても、教室ほど素晴らしい場所はほかにないということです。

ヒンクレー大管長は次のように述べて、わたしたちを励ましています。「わたしたちは皆一緒に、偉大な業に携わっています。どの教師も、今日よりもっと良い教師になることができます。」¹⁾ わたしはこの言葉に次のように付け加えたいと思います。どの生徒も、今日よりもっと良い生徒になることができます。また、どのクラスももっと良いクラスになります。

これからも、わたしたちが教室での有意義な学習を通して、互いに助け合い、強め合うことができますように祈っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. 『聖徒の道』1996年7月号, p.26
2. 「教会にとどまり、ずっとその原則を実践してください。そうすれば、皆さんの人生はさらに幸福なものとなり、

皆さんは偉大なことを成し遂げられるでしょう。そして、主が皆さんの享受しているこのすばらしい驚嘆すべき機会を与えるためにしてくださったすべてのことに対し、ひざまずいて感謝の祈りをささげたいと思うようになるでしょう。このことをわたしは皆さんにはっきりとお約束します。」(ゴードン・B・ヒンクレー, *Church News* 『チャーチニュース』1996年8月3日付け, p.2に引用)

3. 『教科課程に関する神権指導者と補助組織指導者への指示』p.1
4. 教義と聖約88:77, 80
5. 「まことの教えを理解すれば、人の態度や行動は変わります。福音の教義を研究することには、人の行動を研究することよりも、ずっと速やかに行動を改善する力があります。」(『幼き子ら』『聖徒の道』1987年1月号, p.18-19)
6. 『教師—その大いなる召し』、『教師養成に関する神権指導者と補助組織指導者への指示』、『互いに教えよ』(フィルムストリップ参照)
7. 『福音を教える—教会教育部教師ならびに指導者用手引き』p.14
8. 『福音を教える』p.13
9. ローマ1:11-12参照
10. 未刊
11. 「私たちは皆一緒に、偉大な業に携わっています。どの教師も、今日よりもっと良い教師になることができます。どの役員も、今日よりもう少し良い役員になることができます。どの父親も、母親も、今日よりもう少し良い父親に、母親になることができます。どの夫や妻、子供も、今日よりもう少し良い夫や妻、子供になることができます。わたしたちは、不死不滅と永遠の命へと至る道を歩んでいます。今日はその一部なのです。それを決して忘れないようにしましょう。」(ゴードン・B・ヒンクレー『チャーチニュース』1995年11月4日付け, p.2に引用)

そのほかの参照聖句—1テサロニケ5:11; 『モルモン書』ヤコブ1:19; アルマ1:26; 29:8; 教義と聖約42:12; 43:8; 50:22; 88:122



預言者に与えられる靈感

十二使徒定員会会員

デビッド・B・ヘイト

わたしは自分たちが携わっているこの業が、……救い主であられる主イエス・キリストがこの地上で説かれたそのままの福音であることを知っています。



わたしはこの場において、この素晴らしい大会に出席でき光栄に思っています。大管長会がわたしがこの場に復帰することを認めてくださり、うれしく思っています。人は年を重ねるにつれ、いろいろと不自由なことが出てきます。わたしも自分の限界を理解しています。時には、それらの弱さに幾らかでも立ち向かっていける場合もあります。もしわたしたちのビジョンが少し弱くなり始めたとしても、ほかのことをしたり、小さな弱さを克服するために努力したり、ほかの点を強めたりすることによって、それを埋め合わせることができるのです。しかし、そのすべてのことをさて置いても、わたしは福音に対する愛と、福音が真実であるという知識を大切に思う自分に気持ちを持ち、皆さんに知っていただきたいと願っています。

わたしたちはこの部会の途中で、W・W・フェルプス作詞の「いざ救いの日を楽しまん」(『賛美歌』5番)というすばらしい歌を歌いました。この歌詞は、フェルプス兄弟が小さな新聞の編集発行をしていたミズーリ州インディペンデンスで起きたある出来事の後に作られたものです。フェルプス兄弟は印刷所を持っていました。ところが、この教会に敵対感情を持っていた人々は、その印刷所を打ち壊そうと決めました。そして暴徒たちが押し入り、建物に火をつけ、印刷機を破壊してしまいました。暴徒たちは200軒ほどの聖徒の家を焼き討ちにし、この教会に従う人々を威嚇しました。そのような絶望的な状況の中で、ウィリアム・W・フェルプスが書いた「いざ救いの日を楽しまん もはや迷うことはなし」という歌詞は、人々に希望と励ましを与えました。これらのことが自分たちの生活の中に起きるという希望をもって、わたしたちは前進を続けます。なぜなら、わたしたちがしようとしていることは真実だからです。

皆さん一人一人に次のことを知っていただきたいと思います。わたしは自分たちが携わっているこの業が、御自身に従う使徒や弟子たちを召して、彼らに教える働きを続けておられたときに、救い主であられる主イエス・キリストがこの地上で説かれたそのままの福音であることを知っています。わたしはよく、ヨハネとアンデレという二人の青年が、バプテスマのヨハネによって救い主を紹介され、救い主に従って、その日一日主のそば近くにいたと

いうヨハネの記録について考えることがあります。(ヨハネ1:39参照)。彼らは主のそば近くにいました。主と握手をしたこともあったでしょう。また主の声の抑揚にも気がついたことでしょう。御自身が何者であるかを証する主の御声を聞き、御父の御心を果たするために地上においてになったことを証するのも聞いたでしょう。彼らはそのような神聖な場に居合わせたことでしょう。それらの体験をしたアンデレに求められたのは、それをだれかに伝えることでした。それで彼は兄弟のシモンを見つけ、イエスのもとへ連れて行きました。アンデレは自分が知ったこと、感じていたこと、見たことをほかの人に伝えなければならないという思いを持っていたために、兄弟を救い主のみもとへ連れて行ったときに、そのことを兄に伝えました。そして救い主の神聖さと影響力は、それまで普通の人だったシモンを、傑出した使徒に変えました(ヨハネ1:35-42参照)。

わたしは預言者ジョセフ・スミスの時代以来のすべての預言者から深い感銘を受けてきました。ジョセフ・スミスについては、今朝のアルディン・ポーター兄弟の話の中でも詳細に説明されていましたが、彼は啓示を通して父なる神と御子のメッセージと訪れを受けました。この業を始めるために、あのような訪れがあったのです。それはジョセフ・スミスに未来への展望を与えるとともに、回復をもたらすために彼がなすすべてのことに耐え得る決意と力をも授けました。この偉大な業を起こすために、預言者ジョセフ・スミスに天の使いが遣わされ、啓示が与えられました。わたしたちはこの偉大な業を全世界に宣言しています。そしてわたしはそれが真実であることを知っています。わたしは、預言者ジョセフ・スミスの時代以来のすべての預言者が、神に召された方々であることを知っています。

いつものことながら、これらのすばらしい方々の生涯についての話をするのは心躍る経験です。わたしは今朝のこの話の中でデビット・O・マッケイ大管長について触れたいと思います。

マッケイ大管長は、直接的な教えと感化によって、わたしの人生に大きな影響を与えた最初の預言者でした。

わたしはマッケイ大管長が聖会において教会の大管長、預言者として支持を受けるほんの少し前に、カリフォルニア州でステーキ会長の任に召されました。わたしはその大会に出席するために、妻のルビーとともに自動車でソルトレークへ来ました。そして当時の教会員に対してマッケイ大管長が与えた靈感、指導力、教えを強く心に感じました。後にわたしは、完成したばかりの教会の建物の献堂にカリフォルニアへ来てくれるよう、マッケイ大管長を招きました。今とは違い、当時は用地の購入費と建築費の半分以上を自分たちで調達することになっていました。しかし、わたしたちは教会の土地や建物について、自分たちがその所有者なのだという意識を強く持っていました。驚いたことに、マッケイ大管長は招きに応じて来てくれました。わたしたちは列車で彼に会い、我が家に歓迎しました。わたしはそのときの体験を通して、わたしたちがこの地上で果たすべき使命の大きさと重要性について新たなビジョンを得ました。

さらに後になって、わたしはスペンサー・W・キンボール大管長からも大きな影響を受けました。時間が限られているために、ごく少数の大管長についてしかお話をすることができません。キンボール大管長は、ほんとうによくわたしたちを教えてくださいました。キンボール大管長は素晴らしい方法をもって聖文から教え、また、わたしたちの思いと心を高める方法で様々な原則、方針、教義について教えてくださいました。キンボール大管長はあるとき、軍隊に入った一人の青年についての話をしたことがあります。その若い兵士は、故郷の両親に送った手紙の中で、射撃場で小銃と手榴弾の扱い方について学んでいることを次のように書きました。「手榴弾の扱い方を学ぶときには、訓練用の模擬弾を投げます。模擬弾では10メートル投げられましたが、今日日本物を渡されてやってみると、24メートル投げられました。」キンボール大管

長は、わたしたちが果たすべきことをよく理解できる方法で教え、感動を与えてくれました。

皆さんも覚えておられると思います。6か月前、日曜日の総大会の後で、わたしたちは家に帰ってから、あるテレビ番組を見ました。わたしたちはゴードン・B・ヒンクレー大管長のことを案じていました。(わたしは彼が教会の大管長、指導者になるずっと以前から、彼を見る特権と光栄に浴してきました。彼は教会に関する事柄を行うときは細心の注意を払う人です。それは彼が3人の大管長の副管長として仕えていたときもずっと通していたやり方です。)ヒンクレー大管長が全国ネットで放送されるテレビ番組に出演することになっていました。わたしたちは一体どのような内容になるのかと考えていました。わたしたちはそのことの重要性和、それがわたしたちにとってどのような意味を持つものになるかは理解していました。与えられた情報によると、約3,500万の人がその番組を見するということが、わたしたちはその番組に備えて、預言者であり指導者である大管長が行ったこと、祈りと瞑想の時間を取り、思惟考察したことを知っていました。皆さんは、あのときの、期待感と果たしてどうなるかという思いを覚えておられると思います。わたしもいまだに忘れることができません。

あの番組が終わった後、わたしの心臓は高鳴っていました。破裂してしまうのではないかと思ったほどです。わたしは自分たちの預言者であり、指導者である方が、鋭い切り口のインタビューで定評のある人物の質問に対して示した応対を見て、喜びと主への感謝の思いで胸がいっぱいになっていたのです。自分たちの預言者であり指導者である方が祝福された偉大な人物であることを目の当たりにして、わたしたちはほんとうに嬉しく思いました。皆さんも同じだったと思うのですが、わたしはテレビで大管長の顔を見ながら、神の預言者の風貌、優しく善良で堂々とした人物であること、また偽りがなく聡明な人物であることを、実に多く

の人々が同じ画面を通して見ているのだということに気がつきました。皆さんも、多くの視聴者の前に現れている。わたしたちの預言者であり指導者である方の素晴らしい人格、人間性をよく理解できたことでしょう。インタビューアがヒンクレー大管長に「あの森の中で、神があの少年に現れたと、ほんとうに信じているのですか」と質問しました。そこでわたしたちの預言者は即座に答えました。「もちろん信じています。素晴らしいことだと思いませんか。」

あれ以来、大管長のこの言葉はいまだに強烈な印象をもって、わたしの耳に残っています。「もちろん信じています。素晴らしいことだと思いませんか」。大管長は固い確信と素晴らしい人柄を示しながらこの言葉を語り、全世界の人々にそれを宣言したのです。あのとき以来、合衆国内のあのテレビ番組が放送された地域では伝道活動が活気づき、会員の活動も活発になっているということを、ヒンクレー大管長に知っていただきたいと思います。より多くの人々がこの教会に関心を持つようになってきています。それは彼らが、多くの人々の前に姿を現して、「もちろん信じています。素晴らしいことだと思いませんか」と宣言した生ける預言者を見たからです。わたしたちは、全世界の宣教師が、世のすべての人々に希望と救いと永遠の命をもたらすこのメッセージをそのように宣言したいという、同じ思い、同じ理解、そして同じ決意を持つように願い、祈っています。

わたしは日々、健康を与えられていることを主に感謝しています。そして、この業を広めるために、地上で許された時間を最も有効に使うという決意ができることに感謝しています。わたしの愛と証、そしてこの業が真実であるという知識と深い確信を、皆さんにお伝えしたいと思います。イエス・キリストの御名によってお話しします。アーメン。

*

ベテスダの池のキリスト

第一副管長

トーマス・S・モンソン

わたしたち各々が答えるべき質問も同じです。「わたしはイエスをどうしたらよいか。」主御自身が答えを下さっています。「わたしに従い〔なさい。〕」



世界で最も有名な美術館の一つは、イギリス、ロンドンのトラファルガー広場に隣接した国立美術館です。そこには貴重な作品が数多く展示されています。

数週間前、わたしは妻のフランシスと一緒にその美術館を訪れ、靈感を受けた天才画家の作品に目を奪われ、心を打たれました。ある部屋には、壁いっぱいの大きさの絵が掛けてありました。それは、有名なバルトロメ・エスタバン・ムリーリョが1670年代に描いた傑作で、題名は「ベテスダの池で足なえを癒されるスキリスト」でした。数世紀を経ても、その美しさや魅力、人に与える感動は少しも薄れていません。

わたしはその絵から目をそらすことも、思いをそらすこともできませんでした。足の不自由な男性が粗末な床に

横たわり、両腕を伸ばして世の救い主に訴えかけている様子を見たときに、あることを思い起こしました。ヨハネによる福音書の言葉と 생각이心に浮かんできたのです。今朝は皆さんとともにその言葉を分かち合いたいと思います。

「エルサレムにある羊の門のそばに、ヘブル語でベテスダと呼ばれる池があった。そこには5つの廊があった。

その廊の中には、病人、盲人、足なえ、やせ衰えた者などが、大ぜいからだを横たえていた。〔彼らは水の動くのを待っていたのである。〕

それは、時々、主の御使がこの池に降りてきて水を動かすことがあるが、水が動いた時まっ先にはいる者は、どんな病気にかかっている、いやされたからである。

さて、そこに38年のあいだ、病気に悩んでいる人があった。

イエスはその人が横になっていたのを見、また長い間わずらっていたのを知って、その人に『なおりたいのか』と言われた。

この病人はイエスに答えた、『主よ、水が動く時に、わたしを池の中に入れてくれる人がいません。わたしがはいりかけると、ほかの人が先に降りて行くのです。』

イエスは彼に言われた、『起きて、あなたの床を取りあげ、そして歩きなさい。』するとこの人はすぐにいやされ、床をとりあげて歩いて行った。』

わたしは長い時間、この聖句についてしみじみ考えてから、瞑想の場とも言えるその部屋を後にしました。しか

し、その作品はわたしの心に消すことのできない感動を与えたのです。

わたしは救い主の言葉の威厳や、主の優しさ、また主の行為により病気の男にもたらされた計り知れない喜びについて考えました。

主イエスよ、わが胸
喜びに満つ
み前に出づれば
さらにうれし。

主の尊き御名
いとやさしく
何よりもし
救い主よ²

イエスの血を流してその命を奪おうとしている人々に対して、総督ピラトが次のように質問したのを覚えているでしょうか。『それではキリストといわれるイエスは、どうしたらよいか。』彼らはいっせいに『十字架につけよ』と言〔いました。〕³そして主ははりつけにされました。

わたしたち各々が答えるべき質問も同じです。「わたしはイエスをどうしたらよいか。」主御自身が答えを下さっています。「わたしに従い、わたしが行うのを見たそのことを、あなたがたも行いなさい。」⁴

主の地上での使命は、その降誕と同様、聖なる預言者によって予見されていました。何世代もの間、旧世界と新世界の啓発された人々は全能の神によって靈感された義人の預言が成就するのを待ち望んでいました。

やがて、「夜、野宿しながら羊の群れの番をしていた」羊飼いたちに「主の御使が現れ」こう言いました。「きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。」⁵馬屋で生まれ、かいばおけに寝かされた主は、死すべき人として地上で生活し、神の王国を築くために天から来られたのです。主の輝かしい福音は、世の人の考えを新たにしました。主は病人を祝福して、足や目や耳の不自由な人々を癒し、死者をよみがえらせてくださいま

した。また、わたしたちの受ける最もすばらしい賜物である贖いとそれに付随するすべてのものを備えられました。そして、わたしたちが永遠に生きられるように、進んで命をささげられたのです。

時々、次のように質問されます。「もしイエスが今日、あなたの前に御姿を現されたら、何を尋ねたいですか。」

わたしの答えはいつもこうです。「何も尋ねずに、耳を傾けます。」

いつの時代にあっても、イエスからのメッセージは同じです。主は美しいガリラヤの湖畔で、ペテロに言われました。「わたしについてきなさい。」⁶ また、昔のピリポに告げられました。「わたしに従ってきなさい。」⁷ 取税所に座っていたレビ人を招かれました。「わたしに従ってきなさい。」⁸ そしてわたしたちも聞く耳を持つならば、同じ言葉で招かれるでしょう。「わたしに従ってきなさい」と。

「イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛され」ました。⁹ わたしたちはどうでしょう。主は「よい働きをしながら……巡回され……た」とあります。¹⁰ わたしたちはどうでしょうか。

主の弟子たちは、主の模範に注目しました。主の目的は、「仕えられる」ことでなく、「仕える」こと、¹¹ 受けることでなく、与えること、自分の命を救うことでなく、人のために捨てることでした。次のような言葉があります。「自分の指針となり行く末を左右する星を見つけるとしたら、移り変わる空のような環境の中でなく、自らの心の奥底に、主の示された模範の中にそれを求めなければならない。」

少しの間、神殿の美しい門でペテロが経験したことを振り返りましょう。ペテロは、生まれながら足の不自由な男性の窮状に深く同情しました。この人は、毎日神殿の門の所まで抱えられて来て、宮もうでに来る人々に施しを請うていたのです。彼は近づいて来たペテロとヨハネに施しを求めました。毎日彼の前を通り過ぎる人々と同じように見えたのでしょうか。わたしはベテ

ロの簡潔な指示が好きです。「わたしたちを見なさい。」¹² その男は二人に注目しました。そこでペテロが言いました。

『「金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい。」

こう言って彼の右手を取って起こしてやると……

〔彼は〕立ち、歩き出し……彼らと共に宮にはいって行きました。¹³

主に近づいた人がすべて、神聖な指示に従ったわけではありません。

「イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄り、みまえにひざまずいて尋ねた、『よき師よ、永遠の生命を受けるために、何をしたらよいでしょうか。』

イエスは言われた、……

『いましめはあなたの知っているとおりである。「殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな、欺き取るな。父と母とを敬え。』」

すると、彼は言った、『先生、それらの事はみな、小さい時から守っております。』

イエスは彼に目をとめ、いつくしんで言われた、『あなたに足りないものが一つある。帰って、持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施きなさい。そうすれば、天に宝を持つようになる。そして、わたしに従ってきなさい。』

すると、彼はこの言葉を聞いて、顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。¹⁴

わたしは以前に、ユタ州北部に住むランディー・スボルディング兄弟から感動的な手紙を受け取りました。その手紙には、家族構成に続いて、父親が病気にかかり、次第に健康と体力を失い、足の不自由な中年の男性になってしまったことが書いてありました。父親の体力は衰え、ついに働くことも、歩くこともできず、車いすに頼る手の施しようのない状態になりました。

ランディーは、親戚やワードの会員がいかに農場の作業を手伝い、家族を

助けてくれたかを記しています。父親はもはや話すこともできず、母親がいつも世話をしています。しかし、だれ一人「なぜわたしたちに」という言葉を言ったり書いたりしませんでした。

ランディー・スボルディング兄弟の言葉をそのまま読むことにしましょう。「ある朝、その日の予定について考えながら、大急ぎで外に出ようとしたとき、父が部屋の隅に座って聖文を読んでいるのに気づきました。立ち止まって声をかけようと近づくと、父の困難な状態が分かりました。父は右手で頭を何とか支えてわたしを見、そしてまた、『モルモン書』を読み始めました。父は最も苦しいときにも、愛の神について、人を癒す奇跡の神について、そして命の神、永遠の命の神について学ぶ信仰を持っていたのです。今も変わらず主を信頼しているのです。ああ、時をさかのぼって、父をベテスダの池に連れて行き、救い主に隣れみを願って、父も床を取り上げて歩けるようになったらと、どんなに願ったことでしょうか。」

手紙の最後にはこうあります。「その日ベッドに入って、だれよりもすばらしい父と母を下さったことを天父に感謝しました。」

足の不自由な男性を癒したのは、ベテスダの池の水ではありませんでした。忘れてはなりません。むしろ、主の御手が触れることにより、祝福がもたらされたのです。美しい詩篇にこうあります。「主よ、あなたは柔和な者の願いを聞き、その心を強くし、耳を傾け」られます。¹⁵

主は皆さんや家族の祈りを聞き、祝福して下さいます。天使のような妻や母親が、自分を忘れて永遠の伴侶や隣人のために援助の手と思いやりの心をもって、惜しみなく犠牲を払い、自分の力と才能を尽くして速やかに人を助けるとき、それは主が約束された祝福の表れです。ベテスダが招き、主が聞かれたのです。「まことに、まことに、わたしはあなたに言う。あなたがわたしに望むことが、あなたにそのとおりになるであらう。」¹⁶

ハロルド・B・リー長老は、次のよ



総大会部会の開会前に話し合う大管長会。左からトーマス・S・モンソン第一副管長、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長。

うな言葉で慰めを与えています。「この世で……祝福にあずかれなかった〔人々〕が、……心の中で、『もし行えたなら、行ったのに』、あるいは『もし持っていればあげられるのに、持っていないからできない』と言うなら、主はあなたが行ったかのように祝福してくださるでしょう。来るべき世では、心から願いながらも自分の過失によらずに受けられなかった義の祝福が償われるでしょう。』¹⁷

どこにでも、痛みに苦しむ人や、病気の衰弱に耐えている人、不況の嵐と戦っている人がいます。わたしたちはそのような人を心にかけて、彼らのために祈ります。そして援助の手を差し伸べます。

わたしは次の詩に込められた意味が好きです。題は「祈ったとおりに生きる」です。

一日の終わりにひさまずき、祈る、
「主よ、すべての人を祝福したまえ、
悲しむ人の苦痛を和らげ
病の人を癒したまえ」と。

そして迎える新しい日、
不注意にも自分のことだけ行って
一日中を気楽に過ごし、
人の涙に気づかない。

道で出会った兄弟の
重荷を助けることもなく、
隣の家を病人を
見舞いに行こうとさえしない。

その日も終わってまた祈る。
「主よ、すべての人を祝福したまえ」
しかし、そのときこの耳に、
ささやく声ははっきりと聞こえてきた、

「待ちなさい、わが息子よ、
おまえは今日、だれを祝福したのか？
神の至上の祝福はいつも、
主に仕える者の手からもたらされる。」

わたしは顔を隠して泣いた、
「お赦しください、怠惰なわたしを、
どうかもう一日与えてください、
祈ったとおりに生きられる日を。」

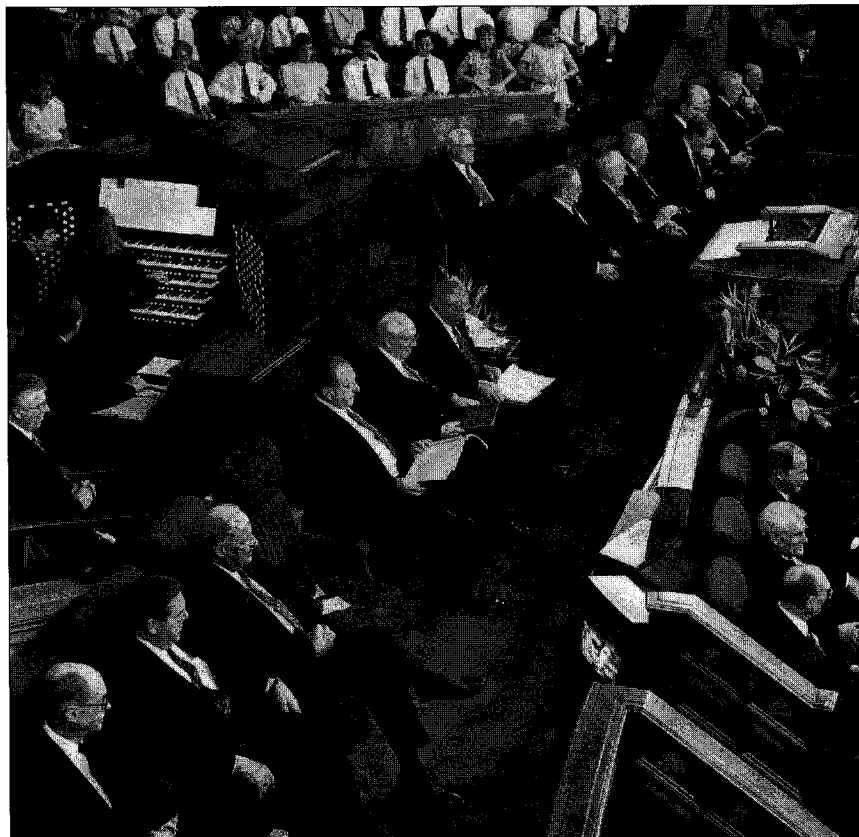
この詩の「顔を隠して泣いた」という一節を読んだとき、わたし自身の忘れられないすばらしい経験が心に浮かんできたので、それをお話したいと思います。

何年も前、わたしが監督をしていたときのことです。ワードの会員のメアリー・ワトソンが州立病院に入院したという知らせを受けました。早速見舞いに行くと、たくさんベッドのある大部屋だったので、彼女を探すのに苦労しました。ようやく彼女を見つけてベッドに近づき、言いました。「こんにちは、メアリー。」

彼女が答えてくれました。「こんにちは、監督さん。」

わたしはそのとき、メアリー・ワトソンの隣のベッドの患者が、シーツの下に顔を隠したのに気づきました。

わたしはメアリー・ワトソンに祝福を与え、握手して、「さようなら」と別れを告げました。しかし、どういうわけかその場を離れることができません。まるで見えない手が肩に置かれて



総大会に臨む大管長会と十二使徒定員会。左手前から十二使徒定員会会員のヘンリー・B・アイリング、ジェフリー・R・ホランド、ロバート・D・ヘイルズの各長老。次いで大管長会のトーマス・S・モンソン第一副管長、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長。ボイド・K・バックー十二使徒定員会会長代理、ならびに十二使徒定員会会員のL・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オックス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリンの各長老。

いるかのように。そして、心の中に次のような声が聞こえました。「あなたが来たとき、隣のベッドで顔を隠した小柄な女性のところへ行きなさい。」わたしはそうしました。導きを受けたら引き伸ばしてはならないことを経験から学んでいたからです。

わたしは隣のベッドに近づき、優しく肩をたたいてから、顔を覆ったシーツをゆっくり下げていきました。何といたうことでしょう。彼女もワードの会員だったのです。彼女が入院しているなんて知りませんでした。名前をキャスリーン・マッキーといいます。彼女はわたしの目を見ると、涙ながらに言いました。「ああ、監督さんがドアから入って来たとき、わたしの祈りにこたえて、祝福しに来てくれたと思ったんです。ここにいてのを知っていてくれたのがうれしくて。でも、ほかの人のところへ行ったので、がっかりしました。わたしに会いに来たんじゃなか

ったのだ、と。」

わたしはキャスリーン・マッキーに言いました。「わたしが知らなかったことは、問題ではありません。大切なのは、天父が御存じだったこと、あなたが神権の祝福を静かに祈り求めたことです。わたしをあなたのところに導いたのは天父なのです。」

祝福が与えられ、祈りはこたえられました。わたしは彼女の額にキスをし、御霊の導きに感謝しつつ病院を出しました。この世でキャスリーン・マッキーに会ったのは、それが最後でした。しかし続きがありました。

彼女が亡くなったとき、病院の人が訪ねて来ました。「モンソン監督、キャスリーン・マッキーが今晚亡くなりました。彼女は万一のときに、あなたに知らせよう手配していました。そして、彼女の地下のアパートの鍵をあなたに残しました。」

キャスリーン・マッキーには身寄り

がありませんでした。わたしは愛する妻と一緒に彼女の憎ましいアパートへ行きました。鍵を開けて中に入り、電気のスイッチを入れました。清潔な二間のアパートでした。小さなテーブルの上に薬の瓶と、その下にキャスリーンの手書きのメモが置いてありました。こう記されていました。「監督さん、什分の一がこの封筒の中にあります。薬の瓶の中のコインはわたしの断食献金です。これで主に認めていただけます。」こうして彼女への領収書が発行されました。

あの夜のすばらしい気持ちを忘れることはできません。神への感謝の涙がわたしの心をぬらしたのです。

昨年、癌で美しい娘を亡くした両親から、数週間前にバースデーカードを受け取りました。そこには深遠なメッセージが記されていました。

思いが尋ねた。「知識より大切なものは何?」

心が答えた。「真心から世話して見守ること。」

この言葉は、ベテスダでの祝福を表しています。これが神聖な真理であることをイエス・キリストの御名により証します。アーメン。

注

1. ヨハネ5:2-9
2. 「主イエスよ、わが胸」『賛美歌』80番
3. マタイ27:22
4. 2ニーファイ31:12
5. ルカ2:8, 11
6. マタイ4:19
7. ヨハネ1:43
8. ルカ5:27
9. ルカ2:52
10. 使徒10:38
11. マタイ20:28
12. 使徒3:4
13. 使徒3:6-8
14. マルコ10:17-22
15. 詩篇10:17
16. 教義と聖約6:8
17. ハロルド・B・リー, *Ye Are The Light of The World*『あなたがたは、世の光りである』p.292, 下線付加

教会役員の支持

第一副管長

トーマス・S・モンソン



愛する兄弟姉妹の皆さん、ヒンクレー大管長からの要請により、わたし、モンソン兄弟がこれから中央幹部ならびに教会の中央補助組織会長会の方々の名前を提議しますので、皆さんに賛意の表明をしていただきたいと思います。

預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてゴードン・ピトナー・ヒンクレーを支持して下さるよう、また、大管長会第一副管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第二副管長としてジェームズ・エスドラス・ファウストを支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方はその意を表してください。

十二使徒定員会会長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、十二使徒定員会会長代理としてボイド・ケネス・バックナーを、また十二使徒定員会会員としてボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘ

イト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリングを支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方。

大管長会の副管長、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方。

カーロス・E・エイシー長老を、感謝の挙手をもって七十人第一定員会の名誉会員として任命し、七十人会長会会員から解任するよう提議いたします。この感謝を表明して下さる方はその意を表してください。

わたしたちは、アール・C・ティンギー長老を七十人会長会会員として支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方。

心からの感謝を込めて、中央幹部として働いてくださったW・マック・ロ

ーレンス、ルロン・G・クレープン、ジョセフ・C・ミューレン、グラハム・W・ドクシー、ホルヘ・A・ロハス、フリオ・E・ダビラ、^{ハンセン}韓仁相、ステイーブン・D・ナドール、サム・K・島袋の各長老を、七十人第二定員会会員から榮譽の解任をするよう提議いたします。この感謝を表明して下さる方は挙手をもってその意を表してください。

これまで若い男性中央第一副会長として働いてくださったステイーブン・D・ナドール長老、第二副会長として働いてくださったボーン・J・フェザーストーン長老を感謝の挙手をもって解任したいと思います。同意して下さる方はその意を表してください。

わたしたちは、中央若い男性会長としてジャック・H・ゴーズリンド長老、第一副会長としてボーン・J・フェザーストーン長老、第二副会長としてF・デビッド・スタンレー長老を支持するよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方は同様にその意を表してください。

わたしたちは、そのほかの中央幹部、中央補助組織会長会を現状のまま支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方。

ヒンクレー大管長、提議は全員一致で賛意の表明が得られたようです。兄弟姉妹の皆さんが変わらぬ愛と祈りを込めて支持して下さることに感謝いたします。



テンプルスクウェアへの訪問者。土曜午後の部会で、世界中の聖徒とともに、中央幹部に支持を表明。

わたしたちの 「心の望みに応じて」

十二使徒定員会会員

ニール・A・マックスウェル

聖文の中の「二度と悪を行いたいと思わなかった」人々は、まさに彼ら自身が、神を知るために進んで「自分の罪をすべて捨て」、悪い望みをなくそうと決意をしたのです（アルマ19：33；22：18）。



兄 弟姉妹の皆さん、聖文にはダイヤモンドのような教義がたくさんあります。御霊の光がその数々の面に当たると、それらは日の栄えの知恵を放って輝き、わたしたちの行くべき道を照らしてくれます。

この幸福な状態の例は、「望み」に関する教義上の教えで、それは選択の自由や個性と直接深くかかわっています。望みは、それを抱くときでも、また実現するときでも、選択の自由の行使に多大な影響を与えます。ですから望みは、真の決定要因になるのです。ほんとうは自分の望みがもたらす結果を求めている、哀れな世間知らずの人々にもそれは当てはまります。

「望み」は切望や懇願を意味します。

義にかなう望みは単なる好みや一時的な感情以上のものです。もちろん遺伝子や環境、境遇などはきわめて重要で、わたしたちを形成する要因になっています。しかし、わたしたちの内には、自分から放棄しないかぎり自分でコントロールできる部分があります。そこにあるのが、個性と個人の責任の本質です。

したがって、わたしたちが望み続ける事柄は、やがては実現し、永遠にわたってわたしたちが受け継ぐものとなるでしょう。「主なるわたしは、すべての人をその行いに応じて、またその心の望みに応じて裁くからである。」（教義と聖約137：9。エレミヤ17：10も参照）アルマはこう言いました。「わたしは……神が彼らの望むままにされることを知っているからである。まことに……神は彼らの意のままに……されるということをわたしは知っている。」（アルマ29：4）この公平な結果に到達できるように、神の憐れみの天蓋は広いのです。こうあります。「これから後、この福音を知らずに死ぬ者で、真心からそれを受け入れたであろう者も皆、その王国を受け継ぐ者となる。

主なるわたしは、すべての人をその行いに応じて、またその心の望みに応じて裁くからである。」（教義と聖約137：8-9）

このように神は、人の望みや業績だけでなく、様々な状況がもたらす困難

さも、憐れみをもって考慮されます。最後の裁きで不平がないのも驚くに当たりません。星の栄えの王国の栄光でさえ「人知ではとうてい計り知れない」からです（教義と聖約76：89）。神は喜んでわたしたちを祝福してください。わたしたちが「望んだことを喜びとしている」（教義と聖約7：8）ときは、特にそうです。

しかし、喜びと栄光をもたらす神の憐れみの計画とは対照的に、サタンは、「すべての人が自分のように惨めになることを求めて」います（2ニーファイ2：27）。

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちはたいてい自分の悪い望みの犠牲になります。そのうえわたしたちは、多くの人が自分の責任を負おうとしない時代に生きています。だからこそ、望みに関する教義を明確に誤りなく理解することが大切です。不当な言い訳という汚水があらちこちらに流れ出ているからです。この泥流は、社会を「不幸と無窮の苦悩の淵」（ヒラマン5：12）へ押し流します。そして、この流れに拍車をかけるのが、「わたしのせいではない」という利己的な考えです。これは柔和な、謝罪の気持ちを込めた「わたしのせいです」という言葉に取って代わってしまっています。わたしたちは、「すみません。自分自身を赦せればいいのですが」という口先だけの言葉より、赦しを求める心からの嘆願に耳を傾けるのです。

中には、良心をわきへ追いやり、その声を聞こうとさえしない人がいます。しかし、その行為自体が選択の結果です。わたしたちがそれを望んだからです。キリストの光は、暗闇の中でたとえ弱々しくても、消えてはいないのです。その光に注意を払わない人は、自分の望みからそうしている人です。

好むと好まざるとにかかわらず、わたしたちに現実求められるのは、自分の望みに対して責任を自覚することです。兄弟姉妹の皆さん、皆さんがほんとうに望むのは、わたしたちのための神の計画ですか。それともサタンの計画でしょうか。

霊的に重要な出来事が起こるとき、

そこには例外なく義にかなう望みがあります。モルモン^{モルモン}の泉でバプテスマを待つ人々には、柔和な望みがありました。バプテスマの聖約について聞いたとき、彼らは叫んで言いました。「それこそわたしたちが心から望んでいることです。」(モーサヤ18：11) ニーフアイ人の群衆は、復活されたイエスの訪れに歓喜し、謙遜にひざまずいて熱烈に祈りました。でも、そのときの様子はこうでした。「彼らは言葉数を多くしたのではない。祈るべき事柄が彼らに示され、また彼らには、願い事がいっぱいあったからである。」(3ニーフアイ19：24)

望みが行いの結果を左右することも驚くに当たりません。「召された者は多いが、選ばれた者は少ない」理由もそこにあります(教義と聖約95：5。マタイ22：14参照)。

行うのはわたしたちです。神は助けはくださいますが、強制はなさいません。

義にかなう望みは、厳しいものでなければなりません。プリガム・ヤング大管長はこう言いました。「日の栄えの王国に席を得たいと望む男女は、毎日がそれを得るための闘いであることを覚るであろう。」(Journal of Discourses『説教集』11：14) したがって真のクリスチャンの兵士は、週末だけの戦士であってはならないのです。

熱烈な望みがないと、わたしたちはなまぬるく気が抜けた状態になります(黙示3：15参照)。ウィリアム・R・メイは、そのような怠惰な症状をこう説明しています。「この国の人々は、単なる悲しみや憂うつを通り越し、感情の起伏を自ら捨ててしまった。感情の根源である望みが死んでいるのである。……人間であるためには望みが要る。善人は神と神に関することを望む。罪人は神の代わりに物を望むが、望みを持っているかぎり、まだ人間である。しかし、怠惰な人は死んでいる。不毛の砂漠で……望み自体が干上がっている。」(A Catalogue of Sins『Christian Century』「罪のカatalog」『クリスチャン・センチュリー』への引用、1996年



十二使徒定員会会員リチャード・G・スコット長老(左)と言葉を交わす七十人のジェームズ・E・バラモア長老とグラハム・W・ドクシー長老。ドクシー長老を含む9人の長老が、5年間またはそれ以上の期間の任務を終え、七十人第二定員会から名誉をもって解任された。

4月24日付け、p.457)

この悲しむべき状態もまた、「罰の定めを受ける者の悲しみ」(モルモン2：13)の一つなのです。

しかし、たとえわずかな望みでも、変化を起こすのに十分なこともあります。放蕩息子^{ほうとうしこ}は、絶望に沈みながらも望みを持ち、「本心に立ちかえって」言いました。「立って、父のところへ帰[ろう。]」(ルカ15：17-18)

今話しているのは、単に自分には責任がないと感じる誘惑を避けることだけではありません。それ以上の問題です。兄弟姉妹、忘れないでください。様々な誘惑の力や大きさを決めるのは、わたしたち自身の望みなのです。誘惑へのサーモスタット(自動温度調節器)は、自分がセットしているのです。

望みをはぐくみ養うには、福音の真理を理解することが必要であることは明らかですが、それだけではありません。プリガム・ヤング大管長はこう認めています。「真理を理解している人の中で、その真理によって自分を制していない人が多いのは明らかである。したがって、真理がいかに正しく、美しくとも、あなたがたは自分の感情を神の律法に合うものに形造っていかねばならない。」(『説教集』7：55)

ヤング大管長はこう尋ねました。「正しい真理であれば、人々はそれに愛着を感じていなくても従うでしょうか。いいえ従いません。」(同上、7：55) このように、福音の真理や教義を知ることはきわめて大切ですが、わたしたちはそれらを愛するようにならなければなりません。愛するようになれば、わたしたちはそれによって導かれ、自分の望みと行いは、さらに聖いものとなるでしょう。

義にかなう望みや、奉仕や、礼拝の一つ一つは、どんなに小さくとも、霊的な成長を促しています。ニュートンの第二法則のように、作用した力の方向に加速度が生じるように、善い行いはたとえ小さくとも、広がっていくのです。

幸いなことに愛にあふれた主は、わたしたちが「たとえ信じようとする望みを持つだけでも」、「その望みを育てて」いくなら(アルマ32：27)、助けてくださいます。ですから、ジョセフ・F・スミス大管長はこう宣言したのです。「望みを育てることは、人生の幸福に欠かせない大切な要素である。」(Gospel Doctrine『福音の教義』5：297) それはまた、プリガム・ヤング大管長が言うように、「神聖な望みが目に見える行いを生み出す」(『説教

集』6:170)まで、わたしたちを聖めへと導きます。望みは、養い育てることによってのみ、敵ではなく味方になるのです。

現在わたしたちが抱いている望みの幾つかは、小さくしていった、ゆくゆくは消し去ってしまう必要があります。例えば、「罪びとをうらやんではない」という勧告は、悲しいほど心の不安定な人に向けられています(箴言23:17)。ここでもまた、昼に夜が続くように、わたしたちは望みの結果について自分に正直でなければなりません。同様に、人生のいわゆる不運に直面したとき、「生まれながらの人」は自己憐憫に浸りたいと願いますが、この望みも捨てるべきです。

しかし、悪い望みを捨てることは、一部にすぎません。例えば、より良い伴侶や、父親、母親になりたいという望みが今弱ければ、強くする必要があります。ちょうど、アブラハムが満たされない思いを経験して、さらに大いなる知識と幸福を望んだのと同じです(アブラハム1:2参照)。

憐れみと忍耐をお持ちの主は、いつでも助けをする用意ができておられます。主は「わたしは終日、腕を伸べている」(2ニーファイ28:32)と言われました。もし主の御手をつかめなければ、それはわたしたちの責任です。同じように、わたしたち自身が手を差し伸べて人間関係の改善を望むときも、

忍耐が求められるのが普通です。時には、はりねずみをなでるような状況もあるでしょう。たとえそうでも皆さんが受ける苦痛は、友情の手を差し伸べようとしたことあかしの証でもあるのです。

行うのはわたしたちです。そこには人生最大の変わることのないチャレンジがあります。聖文の中の「二度と悪を行いたいと思わなかった」人々は、まさに彼ら自身が、神を知るために進んで「自分の罪をすべて捨て」、悪い望みをなくそうと決意をしたのです(アルマ19:33; 22:18)。

両親が子供の望みを育てるのを助けるという大切な役割を負っていることは疑いのないところです。自らの言葉と模範で教えるときは特にそれが言えます。しかし、人には自分の望みを実現する責任があります。ですから、すばらしい両親であり、忠実にすべてのことを子供たちに教えたアダムとエバにさえ背く子供がいても、驚くには当たりません。リーハイとサライアも同じように努力し、「優しい親の情を込めて」(1ニーファイ8:37)教えました。しかし、レーマンとレムエルは「主の計らいを理解しなかった」(モーサヤ10:14)とあります。そうした反抗の責任がだれにあるのかについて、ジョセフ・スミスはこう説明しています。「真理の原則を持たない人は、真理の言葉を聞いてもそれを理解しない。悪魔が彼らの心から真理の言葉を

取り去るのは、そこに義に対する望みがないからである。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith『預言者ジョセフ・スミスの教え』p.96)

それでも、忠実で立派な両親は、言葉と模範によってできる限りのことをします。そのうえ義にかかった両親は、今理解している以上のことを教えています。いつの日か、学んだことを実践した子供たちが両親から受けた影響に感謝することがあるからです。

わたしたちは心からの望みをもって、次のように嘆願します。

さらに聖く
なお努めん
苦しみ耐え罪に泣かん
信仰深め、なお祈らん
主の悲しみ
知りて泣き
へりくだりて
なおたたえん
(「さらに聖くなお努めん」『賛美歌』74番)

兄弟姉妹の皆さん、愛ある神はわたしたちとともに働かれます。しかしわたしたちは、決意を促すのに必要な望みを自ら持たなければなりません。

それには時間が必要です。預言者ジョセフは言いました。「人間が完成の域に近づけば近づくほど、その見識は明解になり、喜びは大きくなって、ついには人生の悪を克服し、罪を犯そうとする望みを捨てるようになる。そして昔の人と同じようにその信仰は造り主の栄光と力により包まれて造り主とともに住む状態にまで高められる。しかし、この状態は人が一朝一夕で達することのできるようなものではない。」(『預言者ジョセフ・スミスの教え』p.51)

永遠の御業は一時ではなく、時間をかけて行われます。望みを働かせるなら、時間はわたしたちのものです。

神の助けがあって皆さんが望みを育てることができますよう、イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。



信仰こめて、一歩ずつ

十二使徒定員会会員

M・ラッセル・バラード

〔開拓者の先祖たち〕から受け継いだ信仰という遺産が失われることのないようにしなければなりません。開拓者たちの勇敢な生涯が、わたしたちの心に感動を与えるようにしようではありませんか。



わたしたちは、今年1996年という年に、ユタ州100年祭を祝ってきました。この機会を通して、ユタ州民は、この100年間に成し遂げられた数々の重要な事柄を振り返ってきました。1997年に、当教会は、開拓者たちがソルトレークの盆地に到来してから150年という記念すべき年を祝います。世界中の教会員が、この150周年という記念すべき年に、ノーブーからソルトレーク盆地へやって来た開拓者の旅に深く思いをはせる機会を持つことでしょう。この150年祭のテーマは「信仰こめて、一歩ずつ」です。

この夏8月に、わたしは、ワイオミング州からユタ州へと続くモルモン街道に沿って、モルモンの開拓者たちの足跡をたどってみました。わたしは、わたしたちのひたむきな先祖が、なぜあれほどのひどい苦しみを味わいなが

らも、あのように大変な障害に果敢に立ち向かっていったのか、驚異に思っていました。彼らが犠牲を払い、耐え抜いた一つの理由は、わたしたちのために信仰という遺産を残し、それによって、わたしたちが全世界に教会を築く業を推し進めるという大切な責任を感じられるようにするためだったのではないのでしょうか。わたしたちは、今日においても、昔の開拓者と同じように、一歩一歩、献身的精神をもって前進する必要があります。

ジョセフ・F・スミス大管長は、9歳のとき、ユタに向かってモルモン街道を歩いた人ですが、1904年4月の総大会において次のように話しています。「わたしは、全能の神の承認と祝福と恵みがあって、主の民が、教会設立から今日に至るまで、導かれてきたことを、固く信じている。……また、主はわたしたちを救い、わたしたちの歩みとこの山並みの頂へと至る旅路を導いてくださったと固く信じている。」¹ 昔の開拓者たちは、神の預言者に従い、この選ばれた盆地に来るために、持っていたものすべて、多くの場合命さえも、犠牲にしました。

来年度の記念行事では、ユタの開拓者たちのほかに、世界中の開拓者たちをたたえていきます。わたしは、教会150年祭委員会の委員長として、あなたがたステーキやワードの指導者の方々が、次回の評議会において、この記念祭のことを議題として採り上げてくださるようお願いいたします。1995年1月に送られた指示や、またそれ以降に送られた情報をよく検討してくださ

い。各評議会において、来年度、会員たちが霊的に充実した経験ができるように、適切かつ重要な活動を選んでいただきたいと思います。

ほとんどのユタの開拓者にとって、グレート・ソルトレーク盆地のやまよもぎやせごゆり、塩が堆積した平原などは、初めて目にするものでした。大変な苦勞をして、およそ2,000キロに及ぶ平原や砂漠、山岳地帯を横断し、到着したときにははだしだった人々もいます。1869年にユタ準州に鉄道が引かれるまで、約7万人の開拓者、9,600台の荷車、650台の手押し車が、現在のアイオワ州にあったウィンタークォーターズやネブラスカ州からソルトレーク盆地へやって来ました。² ミシシッピ川からグレート・ソルトレークまで歩いた開拓者たちは、その距離を旅するために、それぞれ、何百万歩という歩みを重ねたことになります。その旅は、良い条件の下でも、3か月余り、かかりました。1日24キロも進めば、よい方だったようです。開拓者たちが、信仰を込めて進んだ歩みは、合わせて何千億歩にもなったのです。

旅の間には、開拓者と荷車を引く雄牛の間に親しい情がはぐくまれることもありました。ジョセフ・F・スミスは書いています。「わたしたちの車を引いた先頭の2頭の雄牛の名前は、トムとジョーといった。この2頭はわたしたちが子牛のときから育てたもので、両方とも白かった。トムは肉が引き締まり、元気で、若く、人間よりも賢いところがあった。砂道や険しい道を長い間、ろくに水を飲めずに車を引く牛たちは、暑さと疲れで弱り果てることが何度もあった。そんなとき、わたしはトムの首に手を置き、悲しみの涙を流すだけだった。わたしにできることはそれしかなかった。トムはわたしの大好きな、最高かつ従順で役立つ僕であり、友であった。」³

イリノイのノーブーからの開拓者たちの出立は、1846年2月4日に始まりしました。それより4年前の1842年8月、預言者ジョセフ・スミスは、西部に向かう旅について予知していたことを、会員たちに話したことがあります。「わ

たしは預言した。聖徒らは引き続き多くの苦難に遭い、ロッキー山脈に追われるであろう。多くの者は背教し、ほかの者は迫害者たちによって殺され、あるいは寒暑にさらされ、病気にかった結果命を失うであろう。しかし、あなたがたの中には生き永らえ、生きて開拓地を開き都市を建設する助けとなり、聖徒らがロッキー山脈のただ中において強大な民となるのを目にする者がいるであろう。」⁴

ブリガム・ヤングはある示現を受けました。その示現の中で、彼はジョセフ・スミスから一つの山と、その頂にある旗を示されました。そしてジョセフは「その旗が立つ、ふもとの地に築きなさい。そうすれば、栄え、平安を得るであろう」⁵と言いました。1847年の7月、聖徒たちがソルトレーク盆地に到達したとき、ブリガム・ヤングは、この山の頂こそジョセフが示した場所であると悟り、開拓者たちが山並みの頂の地に目的地、シオンを見いだしたことを確認しました。

今日、このドーム型の山は、エンサインピークとして知られています。わたしたちが今座っているこの場所の北にあり、盆地を見下ろすようにそびえ立っています。

ノーブーを出発してから、平原や川や山脈を越えて、ソルトレーク盆地に至るまでの移動は、大規模なものでした。聖徒たちはアイオワにマウントピスガという集落を築きましたが、その近くにいたウィルフォード・ウッドラフは次のように述べています。「わたしが馬車を止めると、すばらしい光景が見えた。……そこに立っていると東西南北が見渡せ、聖徒たちが、丘や谷間から、雄牛の群れや、荷車、家畜の群れとともに、大きな流れのように入り込んで来るのが見えた。それは、一つの国が動いているようであった。」⁶

開拓者たちがアイオワ州を横断していたときの大きな悩みは、食べ物や家畜、まきや火、絶え間なく降る雪や雨、そしてぬかるみでした。「車軸が折れたり、雄牛がいなくなったりすると、大変なことになりました。」⁷雨にぬれ、凍えた人々、そして体の弱い人や栄養

失調の人が大勢病魔に襲われました。

ノーブーからウィンタークォーターズまでの265マイル(約424キロ)の道を進むには、131日を要しました。それに比べ、ウィンタークォーターズからソルトレークまでの道程は、その4倍、約1,032マイル(約1,651キロ)ほどありますが、その距離を進むのにはわずか111日しかかかりませんでした。⁸

開拓者の中でも、その勇敢さで最も名をはせたのは、手押し車で旅した聖徒たちの一行でした。1856年から1860年にかけて、およそ3,000人の開拓者たちが手押し車で西へ進みました。⁹1856年、ジェームズ・G・ウィリーとエドワード・マーティンを指導者として、1,075人の開拓者から成る、手押し車の二つの隊が、その年遅く、予定よりも遅れて出発し、現在のワイオミングにおいて例年よりも早い冬の嵐に見舞われました。¹⁰当時6歳だった、ピーター・ハワード・マクブライドは、マーティン隊の一員でした。彼の父は、何台かの手押し車が、凍えるほどに冷たい川を渡るのを助けた後で、その晩、雪と厳しい寒さの中に死んでいきました。ピーターの母親は病気であり、幼い子供たちの世話に当たったのは姉のジュネッタでした。彼女の靴は擦り切れて、足は傷つき、彼女が歩いた雪の道は血で赤く染まりました。スイートウォーター川の岸では、夜中に、風でテントが倒されてしまいました。テントの上には雪が重くのしかかり、人々はピーターを除き、皆、急いでテントを出ました。ピーターはそのときのことをこう話しています。「朝になると、だれかが『テントの中で何人死んだらうか』と言うのが聞こえた。姉は『きっと弟は凍え死んでしまったわ』と言った。それで、人々はテントを動かし、大急ぎでそれを雪の上に移した。わたしの髪はテントに凍りついていて。わたしは体を起こすと、ほんとうに元気な状態でテントをはい出し、皆を驚かせた。」¹¹

ウィリー手車隊の一員であったエンズ・ニールソンの生涯の中に、犠牲と信仰と愛の非常に感動的な話を見いだすことができます。エンズは、デンマ

ークで農夫としてわりあい裕福な暮らしをしていた人で、家族をシオンへと導くようにという戒めに従いました。アイオワからの手紙の中で、彼は手押し車と、一人当たり約7キロの所持品を買うため以外のお金はすべて、教会にささげたと書いています。またエンズは、「従順は犠牲に勝る」とも書いています。彼自身の責任の下にあったのは、妻エルシー、6歳の息子ニルス、それにユタに連れて行くと約束してあった9歳の女の子ボディル・モーテンセンでした。例年よりも早く来たワイオミングの猛吹雪の中で、気温は摂氏0度を切りました。彼らは、それより数日前に、最後の小麦粉を食べ尽くしてしまったものの、不屈の勇氣と信仰に促され、どうにかして険しいロッキー山脈の分水嶺に到達していました。悲惨にも、ロッククリークでは、ウィリー隊の13人が亡くなり、浅く、雪に覆われた墓に埋められました。その中には、エンズの息子ニルスと、年若いボディル・モーテンセンもいました。

ヒンクレー大管長は、モルモン街道のこの部分を、「悲劇の旅路、信仰と献身の旅路、奉獻の旅路、命をも奉獻する旅路」¹²と表現しています。

エンズが、ロッキー山脈の分水嶺から18キロのロッククリークにたどり着いたときは、両足が凍え切った状態でした。彼はもう一歩も前に進むことができず、妻のエルシーにこう頼みました。「ばくのことは道端の雪の中に置いて行ってくれ。君は先に行って、隊の人たちに追いつき、命が助かるようにしなさい。」エルシーは、不屈の開拓者の勇氣をもって答えました。「車に乗って。あなたを残して行くわけにはいかないわ。わたしが車を引いて行きます」¹³と。これこそ、モルモン街道を進んだ多くの開拓者の女性たちの力と信仰です。

わたしの曾祖母マーガレット・マクニールの家族がスコットランドからシオンにやって来たときに、道すがら彼らに必要な滋養を与えてくれたのは牛でした。曾祖母はまだ12歳でしたが、毎朝、早起きをして、家族のために朝食の準備をし、乳搾りをしました。そ

れが彼女の責任だったのです。そして、牛を隊の一行よりも早く進ませて、草の茂った所で、えさを食べさせました。彼女は次のように書いています。

「牛は、牛乳というおもな食料源を供給してくれました。……わたしたちはそれがなかったら、餓死していたことでしょう。……」

ある晩、牛がキャンプからいなくなっていました。わたしは牛を捜しに行かされました。わたしは自分がどこを歩いているのかあまり気をつけず、またはだしてした。突然、自分が何か柔らかいものの上を歩いているのに気づきました。一体何かと下を見てみると、恐ろしいことに、そこは大小様々な蛇の巣でした。それを見て、わたしは気が遠くなり、身動きできなくなっていました。わたしに考えられるのは、祈ることだけでした。わたしは、何とかして、そこから飛びのきました。主はわたしを祝福し、見守ってくださいました。

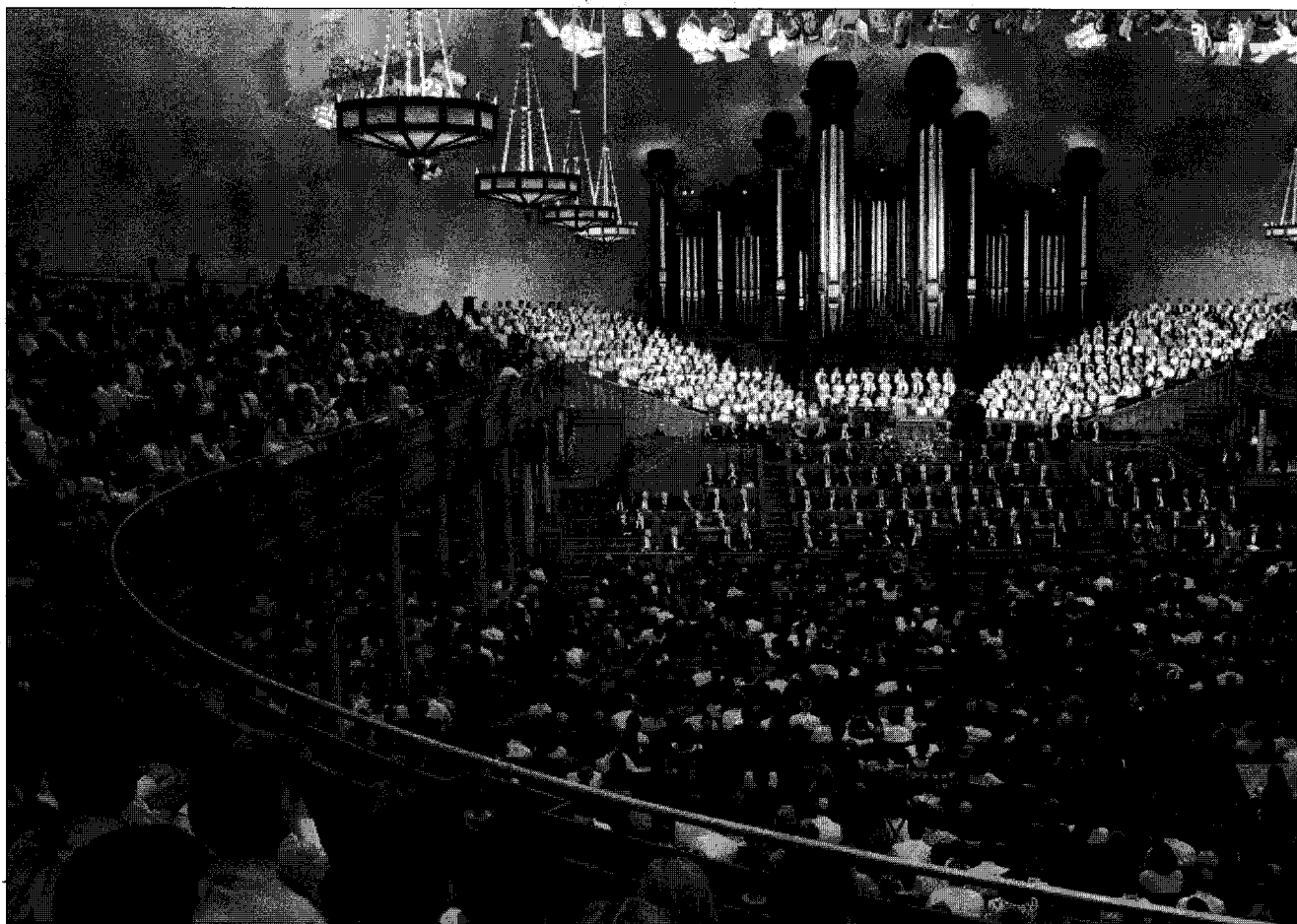
わたしたちは、〔1859年〕10月4日、困難と飢えの連続の旅路の挙げ句、…ユタ州のオグデンに到着しました。わたしは、大平原をすべて歩いて横断したのです。〕¹⁴

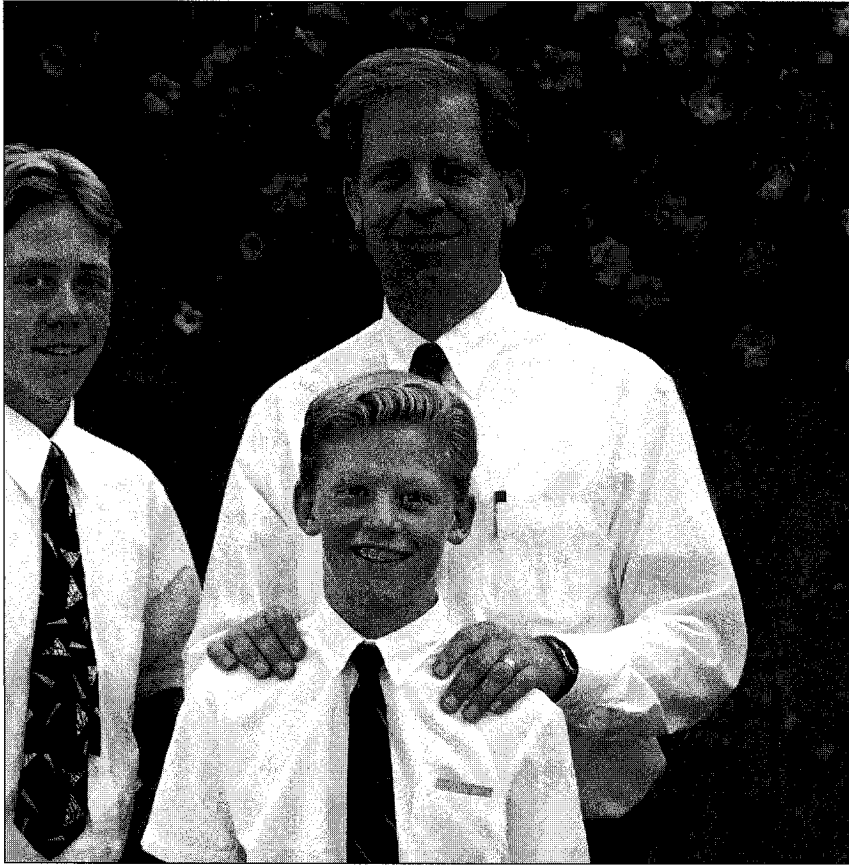
ジョセフ・F・スミス大管長は、自らこの西部への旅路を進み、この盆地における最初の70年間の労苦を味わった人ですが、彼は、主の守りの御手が末日聖徒のうえに置かれたことを総括して、次のように有益な話をしています。

「最初のころは、東部からの友人たちはこの地に来ると、よくわたしたちを激しく非難したものでした。彼らは『神の災いがあなたがたに降りかかったのですよ。あなたがたは、イリノイやミズーリという肥沃な土地から、砂漠、それも塩だらけの土地に追われて来たのです』と言った。わたしは答えました。『そうです。世界中の人を救うことができるほど、ここには塩がいっぱいあります。神に感謝しています。

いつか、その利用法が見つかるかもしれません。』¹⁵家畜にやるえさが足りないときもありました。牛肉は脂肪分がなく、あまりにも脂肪がないために石けんを作ることさえできませんでした。『ちょうどそのころ、主は、一握りのアルファルファの種をこの盆地に送ってくださいました。クリストファー・レイトンがそれをまき、水をやり、いつしかそれは立派に生長しました。ささやかな始まりでしたが、現在ユタ州は、干し草の生産ではイリノイ州やミズーリ州より豊かな収穫が得られるようになっています。』¹⁶

まことに主はわたしたちに、信仰を持って、理解の光の及ぶ限りの所まで歩み、さらには自分の理解を超えたそれ以上の領域にまで進むように求めておられます。信仰が試された後に、主は、再び、わたしたちの前方に光を当ててくださいます。そして、わたしたちの、信仰を込めて、一歩ずつ歩む旅路は続いていきます。この旅路に加





わる人々は、世界中で膨大な数にふくらんでいます。中央幹部として20年務めてきた間に、わたしは、教会が世界中に広がるのを目にしてきました。各国の開拓者たちの働きがもたらした結果には、ただ驚くばかりです。彼らはそれぞれの地において、信仰と犠牲により、教会の基を築いたのです。わたしはヒーバー・J・グラント大管長の感じていたことを紹介したいと思います。グラント大管長はこう言いました。「〔開拓者〕のことを思うとき、わたしは彼らをたたえ、彼らに感謝する気持ちでいっぱいになり、あのすばらしい人々の子孫の一人として、彼らと同じように、忠実かつ誠実で、信仰深くなるように助けてくださいと、主に祈らずにはいられなくなります。』¹⁷

兄弟姉妹の皆さん、それぞれの国の愛すべき開拓者たちの足跡を歩むことによって、来年度の霊的旅路への備えを今始めようではありませんか。彼らから受け継いだ信仰という遺産が失われることのないようにしなければなりません。開拓者たちの勇敢な生涯が、

わたしたちの心、特に若い人々の心に感動を与え、真実の火と、主とその教会への揺るぎない愛が、昔の開拓者たちの胸の中に燃えたように、自分たちの胸の中にも明るい炎を上げて輝くようにしようではありませんか。開拓者たちは数々のことを成し遂げましたが、それは、わたしと同じように、彼らも天父とその愛する御子イエス・キリストが預言者ジョセフ・スミスを通して福音を回復されたこと、またこの教会が全地に満ちるまで転がり進んでいくことを知っていたからです。これらのことをイエス・キリストの御名によって証^{あかし}します。アーメン。

注

1. *Conference Report* 『大会報告』 1904年4月号, p.1
2. スタンリー・B・キンボール, *Historic Resource Study: Mormon Pioneer National Historic Trail* 『歴史文献研究——モルモン開拓者国史的街道』 pp.40, 49, 62-63参照

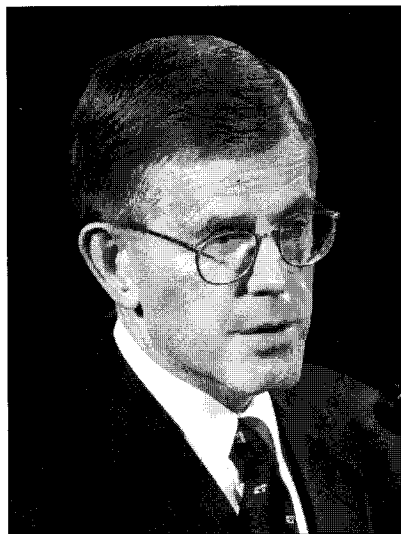
3. スーザン・アリントン・マドセン, *I Walked to Zion* 『徒歩でたどったシオンへの道』 p.37で引用された自筆文書
4. *Teachings of the Prophet Joseph Smith* 『預言者ジョセフ・スミスの教え』 ジョセフ・フィールディング・スミス編, p.255
5. ジョージ・A・スミス, *Journal of Discourses* 『説教集』 13:85参照
6. *Wilford Woodruff's Journal* 『ウィルフォード・ウッドラフの日記』 スコット・G・ケニー編, 3:55, つづりと句読法のみ現代語的に変更
7. リード・C・ダラム・ジュニア "The Iowa Experience: A Blessing in Disguise" *Brigham Young University Studies* 「アイオワでの経験——隠れた祝福」 『ブリガム・ヤング大学研究文献集』 21:463, 21:474も参照。
8. 『モルモン開拓者国史的街道』 p.35
9. 『モルモン開拓者国史的街道』 p.66
10. *Heart Throbs of the West* 『脈打つ西部』 ケイト・B・カーター編, 6:360-361
11. ビーター・ハワード・マクブライド, マドセン『徒歩でたどったシオンへの道』 pp.41, 43, 45-46に引用
12. 1992年8月15日にワイオミング州リバートン近郊での説教, *Wyoming Trails Resource Handbook* 『ワイオミング史跡資料手引き』 p.27に引用
13. エンズ・ニールソンの日記を参照。『ワイオミング史跡資料手引き』 p.29に引用
14. マーガレット・マクニール・バラードの自叙伝, マドセン『徒歩でたどったシオンへの道』 p.126で引用
15. *Faith Promoting Stories* 『信仰を鼓舞する話』 プレストン・ニブレー編, p.81
16. ジョセフ・F・スミス "Pioneer Reminiscences" *Utah Genealogical and Historical Magazine* 『開拓者回想録』 『ユタ系図歴史機関誌』 8:159
17. 『大会報告』 1919年10月, p.7

聖約による結婚

七十人

ブルース・C・ヘーフェン

問題が起きると、合意だけの結婚による当事者たちは、離れ去ることで幸福を求めます。……しかし聖約による結婚に問題が起きた場合、夫と妻は協力して問題を解決します。



3年前の夏、わたしは花嫁、花婿になったばかりのトレーシーとトムが聖なる神殿から出て来るのを見ました。親族や友人が集まって写真を撮るときも、二人はほほえみながら手をつないでいました。二人を祝福する招待客とあいさつを交わす彼らの顔には、幸福と未来への希望が読み取れました。招待客たちは気兼ねなく新しい家族の誕生を祝いました。その晩、わたしは考えました。「どんな結婚にも訪れる『反対のもの』に彼らが出遭うのは、どれくらいしてからだろうか」と。そのときになって初めて彼らは、自分たちの結婚が単なる合意によるものか、聖約に基づくものかを知るはずでした。

別の花嫁は、式の当日に、うれしさのあまりため息交じりにこう言いました。「ああ、やっと悩みから解放され

た。」「そうよ」と母親が答えました。「でも、新しい悩みが待ってるわ。」問題が起きると、合意だけの結婚による当事者たちは、離れ去ることで幸福を求めます。彼らは利益を求めて結婚したのであって、その報いがある間だけ、彼らは婚姻関係を続けます。しかし聖約による結婚に問題が起きた場合、夫と妻は協力して問題を解決します。彼らが結婚したのは与え、成長するためであって、二人は聖約によって互いに、社会に、さらに神に、結ばれています。合意のうえの伴侶は結婚生活を守るためにわずかな努力しかしませんが、聖約によって結ばれた伴侶は全身全霊を尽くして結婚生活を守ります。¹

結婚は本来は聖約によるものであり、勝手に解消できる個人的な合意ではありません。イエスは「雇人」という言葉を用いて、合意によるだけの態度について説明していらっしゃいます。雇人は報酬のある場合に限って、世話をするために条件付きの約束を果たします。雇人は「おおかみが来るのを見ると、羊をすてて逃げ去」ります。「彼は……羊のことを心にかけていないから」です。これとは対照的に救い主はこう言われました。「わたしはよい羊飼である。……よい羊飼は羊のために命を捨てる。」² 現在では多くの人が雇人の結婚をします。おおかみが来ると、彼らは逃げ去ります。このような考えは間違っています。それによって地球はのろわれ、親の心を子供たちから離れさせ、お互いからも離れさせます。³

結婚生活に入る前に、トムとトレ

シーは聖約とおおかみについて、永遠の見方を学びました。二人はアダムとエバの物語から、人生の目的、従順と贖罪によって神の御前に戻ることを学びました。キリストの生涯は贖罪を果たすための物語です。アダムとエバの生涯は、贖罪を受けるための物語であり、贖罪によって彼らは神との別離とあらゆる「反対のもの」を克服する力を得、ついには主と、またお互いと、永遠に「一つ」になります。

墮落がなければ、アダムとエバは反対のものを決して知ることはなかったであろう、とリーハイは説いています。「アダムとエバは子供を持たなかったであろう。また、不幸を知らないの喜びもなく、……罪のない状態にとどまっていたであろう。」⁴ 鋭い親であれば、子供がいなければ不幸も知らないという点に、うなずかれるでしょう。しかし園にとどまっていたは、二人は決して喜びを知ることはできませんでした。そこで主は彼らに、苦しみ、汗して、いばらの中で生活し、子供をもうけるよう教えられました。それでも地がのろわれたのは彼らのため⁵でした。苦しみに満ちた彼らの道は、同時に、贖われ、理解の目が開かれるという喜びへと通じていました。⁶ おおかみが来ても、聖約によって結婚した夫と妻は、お互いに支え、励まさなければならぬ理由がここに 있습니다。トムとトレーシーが、これらのすべてを理解していたら、エデンの園に似た神殿の庭を、アダムとエバのようにもっとゆっくりと、互いの腕を組んで歩み、荒涼とした寂しい世界に出て行ったでしょう。

しかも結婚や子供の教育は、非常に価値ある様々な宗教体験を、生活の中に与えてくれます。聖約による結婚は大きな信仰を必要とします。どんな危険が自分たちを待ち受けていても聖約を守らなければなりません。無条件で自己を捨て、神に従い、互いに犠牲を払わなければなりません。そうして初めて、二人はアルマが言った「計り知れない喜び」⁷を知るのです。

もちろん結婚する機会のない人々もいます。避けられない離婚もあります。

しかし主は、地上で祝福を受けられなかった忠実な人々に、最終的には償ってくださいます。

どんな結婚も繰り返し3種類のおおかみに襲われます。最初のおおかみは自然に生じる危機です。デビッドとフランは、何年も最初の子供を与えてくださるように神に願った後、心臓に深刻な欠陥を持つ子供を授かりました。3週間、様々な手を施しましたが、この新生児は息を引き取りました。昔のアダムとエバのように、二人は悲しみを分け合い、悲嘆に暮れながらも主を信頼しました。⁸

2番目に、自分自身の不完全さというおおかみが二人を試します。ある女性が涙ながらに話してくれたところによれば、彼女のご主人は絶えず彼女を批判し、結婚生活をだめにしたばかりか、彼女の自尊心さえすっかり奪ったと言います。最初は食事と家の掃除のことで愚痴を言い、次いで彼女の時間の使い方、話し方、考え方、議論の仕方に至るまで不平を言いました。ついに彼女は自信を失い、日常生活にも支障を来すようになりました。わたしは彼女が哀れになり、ご主人にも同じ気持ちを抱きました。

ここで、結婚したばかりのときはほとんど自信が持てなかったある若い女性と比べましょう。彼女のご主人は彼女の良い点をたくさん見だし、そのため彼女は次第に自分が善い人間であると思うようになりました。大切な意見を言うようになりました。彼女を信頼するご主人の気持ちが、彼女の自尊心を強めたのです。

3番目のおおかみは、現代の雇い人の態度が生んだ過度の個人主義です。7歳になる一人の少女が泣きながら学校から帰って来ました。「わたしお母さんの子じゃないの？ 今日、先生がね、人はだれのものでもないって、子供は親のものではないし、お父さんもお母さんのものじゃないんですって。わたしはお母さんのものでしょ。」彼女の母親は彼女をしっかりと抱き締め、こうささやきました「もちろん、あなたはお母さんのものだし、お母さんはあなたのものよ。」確かに配偶者

は相手の個性を尊重する必要がありますし、家族は奴隷でも、命のない品物でもありません。しかし教師が、今日の多くの人々と同じように恐れたのは、親子関係や結婚関係は人を結びつける貴重なきずなではなく、むしろまったくの束縛であるという点です。現代は帰属意識が稀薄な時代です。

敵は個人の自治に対するこの過度の強調を長期間にわたって培い、今では、熱心にそれを利用しています。自分を必要とし、支えてくれる人を求めるのは、神が与えてくださった人の本性です。ところが敵は、不信と疑いをもって、わたしたちの間を引き裂こうとしています。また、場所を確保し、群れを去り、独りになることの必要性をおおげさに言い広めています。敵を信じている人々もいます。それでいて自分の孤独感に悩んでいるのです。しかも、立派な例外はあるにしても、アメリカで増えつつあるひとり親の家庭に育った子供は、両親がそろった家庭の子供たちより大きな危機に瀕しています。⁹さらに、離婚率や婚外子の出生率は、今日非常に高く、「結婚生活の崩壊」がうかがえます。¹⁰

現代では大勢の人が結婚の意味自体に迷っています。同性同士の結婚を許すべきでしょうか。離婚手続きをもっと難しくすべきでしょうか。ある人々は、こうした問題は社会的に対処すべきではない、なぜなら結婚は個人的な契約だからであると言います。しかし現代の預言者が最近宣言したように、「結婚は神によって定められたもの」¹¹です。民事結婚でさえ、歴史的には、男性、女性、国家の3者間の契約ととらえられています。社会は、あらゆる人々が実り豊かな結婚生活を送り子孫を授かることに、大きな関心を抱いています。結婚の社会的性格は、結婚をほかのいかなる関係とも違うものにしています。ウェンデル・ベリーは述べています。「結婚式に来客があるのは、〔恋人同士が〕互いに対してだけでなく、社会に対しても誓いを立てるからである。」それは相手にだけでなく、一般の福利に対しても自分をささげるからで、「これは契約によってはなし

得ないことである。』¹²

犠牲という祭壇の前で交わした聖約を守るとき、わたしたちはそこに隠れた力を見いだします。かつてわたしは、妻のマリーに腹立ちまぎれにこう言ったことがあります。「主はアダムとエバを十分に成熟させてこの地上に置かれたんだ。どうしてそばかすだらけで髪がもじゃもじゃの、うちの息子にもそうされなかったんだらう。」妻はこう言いました。「それは子育てを通じて、親のわたしたちをもっといいクリスチャンにするためよ。」

ある晩、マリーはお菓子で先住アメリカ民族の村を作る息子の宿題の手伝いを何時間もして、ぐったり疲れてしまいました。雇い人では耐えられない試練でした。最初、息子は母親に手伝われるのを嫌がっていましたが、ベッドに入るころには、自分で作ったという作品を誇らしげにテーブルの上に置いていました。それから寝室に向かいましたが、戻って来て部屋を通り抜け、欠けた歯を見せてにこにこしながら9歳の息子は母親に抱きつきました。すっかり感心したわたしは、後で妻にこう尋ねました。「よくやったね。」「ええ、とにかく放ってはおけない、助けなきゃ、って覚悟を決めたのよ。」そしてこう言い添えました。「自分でもここまでやれるとは思わなかった。」彼女は自分の中に深い愛情の泉を見つけました。聖約によるきずなが、彼女の子羊のために、時間ごとに自分の命を投げ出す力を与えてくれたからです。

さて、トムとトレーシーですが、彼らも今年、自分のたちの泉を見いだしました。2番目の子供が早産になりそうだったのです。雇い人のように簡単な選択をして中絶し、それまでどおりの生活に甘んじることもできました。しかし、二人は犠牲を払って聖約を守ることに努めました。¹³活発で活力のあるトレーシーは5週間、自宅で横になったままほとんど身動きをせず、さらに5週間を病院で過ごしました。トムは仕事と睡眠時以外は、文字どおり片時もそばを離れませんでした。二人の祈りが通じて子供が誕生しました



が、子供にはさらに11週間の入院が必要でした。今、彼女は元気で両親と一緒に暮らしています。

トレーシーがある晩、病院で忍耐強く主を待ち望んでいたとき、彼女が自分の子供のために進んでささげようとしている犠牲は、あの良い羊飼いが自分のために払ってくださった犠牲と多少なりとも似ているのではないかと、気づきました。彼女はこう言っています。「確かに簡単な犠牲ではありませんでしたが、でもなぜか、むしろ特権のような気がしたのです。」シオンのほかの多くの親たちがそうであるように、二人は自分を子供にささげること、自らの心を神にささげました。その過程で彼らが知ったことは、自分たちの結婚が聖約による結婚であり、それによってお互いと主に結びつけられている、ということでした。

どうか聖約としての結婚、すなわち

新しくかつ永遠の結婚聖約という概念を、わたしたちが取り戻せますように。¹⁴そしておおかみが来たときに、雇い人ではなく羊飼いとなって、毎日、聖約によって結ばれた子羊のために進んで命を投げ出せますように。そのとき、わたしたちも、アダムとエバのように、喜びを得るでしょう。¹⁵イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. ブルース・C・ヘーフェン、マリー・K・ヘーフェン、*The Belonging Heart*『帰属意識』pp.255-265；ピットリム・ソロキン、*Society, Culture, and Personality*, 2nd ed『社会、文化、個性』pp.99-107参照
2. ヨハネ10：12-15
3. 教義と聖約2章参照
4. 2ニーファイ2：23

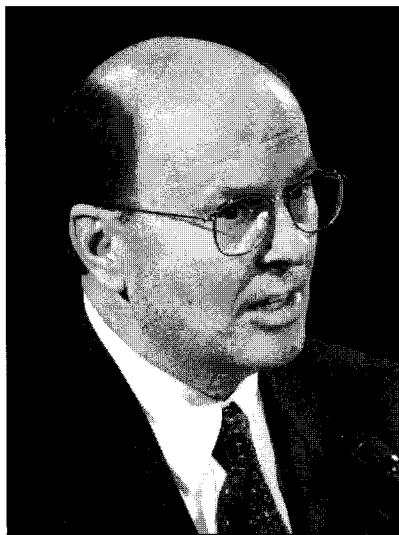
5. モーセ4：23参照
6. モーセ5：11参照
7. アルマ28：8
8. モーセ5：27参照
9. バーバラ・デフォー・ホワイトヘッド "Dan Quayle was right" *Atlantic Monthly* 「ダン・クエールは正しかった」『月刊アトランティック』1993年4月号、p.47参照
10. マギー・ギャラガー、*The Abolition of Marriage*『結婚制度の退廃』p.4
11. 大管長会および十二使徒評議会、「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1996年6月号、pp.10-11
12. ウェンデル・ベリー、*Sex, Economy, Freedom and Community*『性、経済、自由、社会』pp.125, 137-139、下線付加
13. 教義と聖約97：8参照
14. 教義と聖約131：2参照
15. 2ニーファイ2：25参照

喜びなさい

七十人

クエンティン・L・クック

喜びは、わたしたちが神の御霊を受けて生活しているときに来るものです（アルマ22：15参照）。わたしたちは、神の御霊を受けているとき、救い主がわたしたちのためになされた業に対して喜びを感じることをすることができるのです。



親 愛なる兄弟姉妹の皆さん、わたしにとって、これがこの新しい召しを頂いてから、皆さんにお話しする初めての機会です。どんな方法をもって、この責任感また、自分の経験不足に対する思いを、表すことはできません。ただ、皆さんに知っていただきたいのは、主に仕えるこの特権に深く感謝しているということです。

わたしの大好きな賛美歌は、「胸を張り 声あげ 喜びうたわん 高らかに 喜びを またうたわん」と力強く歌っています（「喜べ、主を」『賛美歌』32番）。この賛美歌の歌詞は、パウロのピリピ人への手紙から来ています。「あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。」（ピリピ4：4）辞書はこの「喜ぶ」（rejoice）という言葉で「うれし

く感じること、または非常な歓喜」と定義しています（Merriam-Webster's Collegiate Dictionary, 10th ed.『メリアム・ウェブスター・カリジエト英英辞典』第10版，“rejoice”の項参照）。

わたしたちに喜びをもたらすような気持ちの源は、救いの計画を理解することにあります。ヨハネによる福音書の中に、救い主が世の罪を御自身に負われ、今まさにこの世での生涯を閉じようとしておられたときのことが記されています。来るべきことに使徒たちを備えさせていたとき、主はこのように言われました。「しばらくすれば、あなたがたはもうわたしを見なくなる。しかし、またしばらくすれば、わたしに会えるであろう。」（ヨハネ16：16）しかし使徒たちは復活がどのようなものかを深く理解するまでには至っていませんでした。そこで救い主は、御自身がやがて彼らのもとを去って行くことになるが、また戻って来るであろうということを優しく説明し、御自身が去ったときに彼らを感じる悲しみについて話されました。「しかし、わたしは再びあなたがたと会うであろう。そして、あなたがたの心は喜びに満たされるであろう。その喜びをあなたがたから取り去る者はいない。」（ヨハネ16：22）

救い主の死が、悲しみをもたらしたと同じように、死、病、貧困、けがといったような人生の浮き沈みもまたしばしばわたしたちに不幸をもたらします。愛する人との別れは、どのような場合でも悲しみや嘆きを運んできま

す。確かに生きていくのは易しいことではありませんが、多くの人が経験する試練を、たとえどのような方法であっても軽くしてしまうのは適当なことではありません。

救い主によって成就した復活と贖い、また愛する人々とともに永遠の命にあずかれるという約束はとても意義深いことです。それにもかかわらず喜びを感じられないというのは、救い主の贈り物に対する理解が欠けていることを表しているのではないのでしょうか。

喜びは、わたしたちが神の御霊を受けて生活しているときにもたらされるものです（アルマ22：15参照）。わたしたちは、神の御霊を受けているとき、救い主がわたしたちのためになされた業に対して喜びを感じることをすることができるのです。

このような喜びを得るために、わたしたちは、何をすることが必要なのでしょうか。救いのための儀式を受けることや、生ける預言者に従うことに加えて、祈り、聖文学習、義にかなった生活、人々への奉仕といった霊的な基本原則に添った生き方をする必要があります。罪を犯したときに、悔い改めが必要とされていることは、よく理解されています。そこで、救い主の贈り物に対し喜びを感じ、さらに大いなる喜びを感じ取るために避けなければならないその他の3つのことを挙げてみましょう。（1）自分の義務を果たす妨げとなるものを避ける。（2）小さな欠点に心をとらわれないようにする。（3）他人との不必要な比較を避ける。

わたしたちは、自分の心を物質的なものに引きつけ、キリストを中心とした物の考え方から遠ざけようとする事柄の存在に気づかないでいることがよくあります。それは星の栄え的な障害物によって、日の栄えというゴールから注意をそらしていることになるのです。わたしの家族はこのような星の栄え的な障害物を「土曜の朝の漫画」と呼んでいます。それについて説明したいと思います。

子供たちがまだ小さかったとき、わたしと妻のマリーは、わたしが子供のころに父から教わったある方法に倣っ

て子育てをしようと決めました。父は、わたしたち子供一人一人のために別々の時間を取り、生活の様々な面で目標設定ができるように助けてくれました。そのうえで、教会や学校をはじめ、そのほかの活動が目標の達成にどのような助けになるかを教えてくれました。父には以下の3つのルールがありました。

1. 価値ある目標を立てること。
2. いつでも目標は変えてよいこと。
3. どのような目標を選択するにせよ、それに向かって熱心に努力すること。

父のこの教えから学ぶことの多かったわたしとしては、自分の子育てもそれと同じ方針でいきたいという望みがありました。わたしは、息子のラリーが5歳のときに、大きくなったら何になりたいか尋ねました。息子はジョーおじさんのような医者になりたいと答えました。ラリーはかつて大手術を経験していましたから、医者、特にジョーおじさんには特別な敬意を払っていました。わたしはラリーに、彼が行う価値ある事柄のすべてが医者になる備えをする助けとなることを続けて話しました。

数か月後、またラリーに何になりたいかと尋ねました。すると今度は、飛行機の操縦士になりたいと答えました。目標を変えたことはかまいませんでした。そこで、その目標を達成するうえで、様々な活動が助けになることを話しました。ふと思いついて、「ラリーはこの前は医者になりたいって言ったよね。どういう理由で変わったの」と尋ねました。するとこんな答えが返ってきました。「ぼく、医者はいいなって今でも思っているよ。でもジョーおじさんが土曜の朝も働いているのに気づいたんだ。ぼく、土曜の朝のテレビ漫画を見逃すわけにはいかないもん。」

それ以来、我が家では価値ある目標への障害物を、「土曜の朝の漫画」と呼んでいるのです。

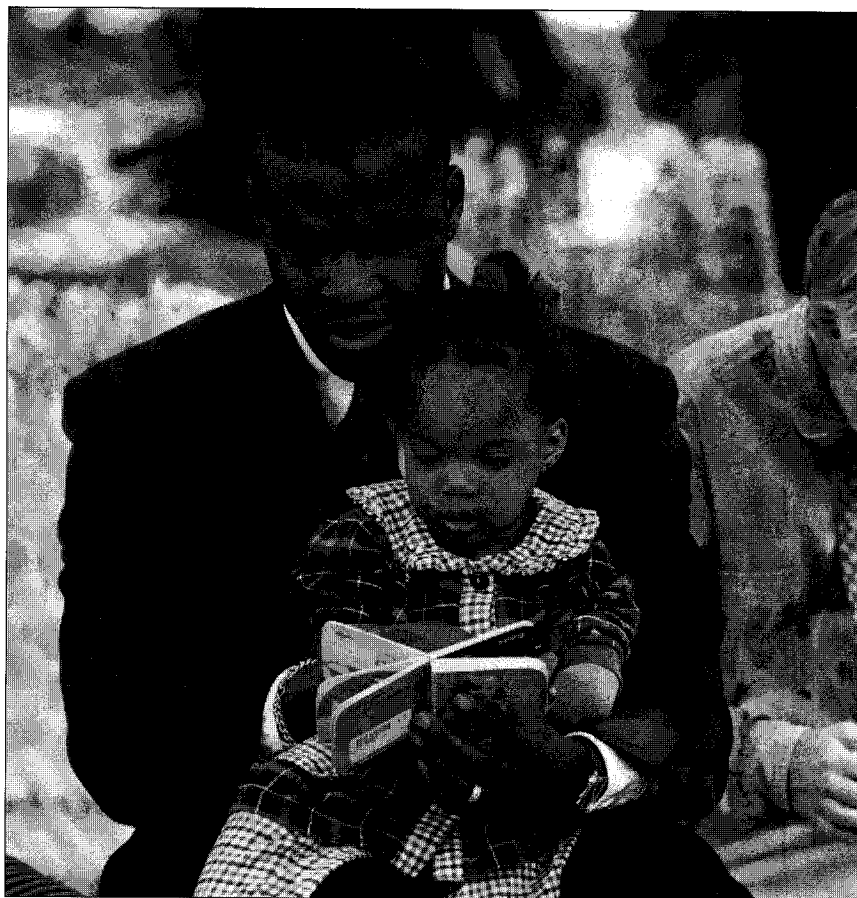
わたしたち自身が望んでいる喜びから、わたしたちを引き離そうとする「土曜の朝の漫画」にはどのようなも

のがあるでしょうか。神殿結婚を望んでいながら、神殿推薦状を受けるにふさわしくない人だけと交際している人がいます。ある人は、良きホームティーチャー、訪問教師でありたいと望みながら、テレビ、通信販売のカatalog、そのほか世俗的なものに次から次へと時間を費やし、割り当てられた兄弟姉妹に仕える時間を見つけれないでいます。また、家族が家族の祈りを望んでいるにもかかわらず、ささいなことを持ち出して、ともにひざまずき祈る機会の妨げとなっている人もいます。もしわたしたちがなすべきことをしない理由を挙げていくなら、「土曜の朝の漫画」のリストはきりがなく続いていくことに気づくことでしょう。

どの栄えの王国も受け継ごうとしない人たちについて、主はこうおっしゃっています。「ある人に贈り物が与えられても、彼がそれを受け取らなければ、それは彼にとって何の益があるだろうか。見よ、彼は与えられるものを喜ばず、その贈り物の贈り主をも喜ば

ない。」(教義と聖約88:33) 全人類にとって最も尊い贈り物は、イエス・キリストの贖罪です。この贈り物に喜びを感じたいのであれば、思いの焦点を救い主あるいは日の栄えという目標から引き離してしまう「土曜の朝の漫画」を避ける必要があります。

喜びを見いだせないでいる2番目のグループは、小さな欠点に心をとらわれて、自ら幸せを遠ざけてしまう人々です。ある人々は、自分の不完全さを必要以上に過大視し、自ら自分の生活を暗くしてしまっています。第三者が見れば、喜びを感じて当然というような状態にあってもそうなのです。彼らは喜びを感じないのです。彼らはまるで美しい庭園に招かれたカップルのようなものです。彼らは美しいもので目を楽しませることはせず、しおれた花、雑草、見るには美しいほんの小さな部分にしか目を向けようとしません。その二人にとって庭園は期待外れのものでしかありません。同じように彼らは自身自身に対し、また他人に





対し、極端に批判的になっているのです。小さな欠点を過大視するのが彼らの癖となり、豊かな祝福を軽視し、喜びを感じられなくなっているのです。

ルカによる福音書の中で、客の接待をせず救い主の御言葉に聞き入っている妹のマリヤについてマルタが不平をこぼしたとき、救い主は彼女を穏やかに諭して、こう言われました。「マルタよ、マルタよ、あなたは多くのことに……思いわずらっている。」（ルカ10：41）このとき、救い主はマリヤがほんとうに大切なことに思いを集中していることを示されたのです。

喜びを砕く3番目の障害物は、自分の才能や祝福を他人のそれと比較することです。才能の伸びの度合いは、個人の成長の度合いを判断する最高の尺度です。近年になって「自分なりのベスト」という考え方が広く受け入れられるようになってきました。これは非常に有益な考え方です。わたしたちは人を評価するときに、とかく他人の最善と自分の最悪を比較する傾向があります。タラントのたとえの中で、主は5タラントを受けた僕と2タラントを受けた僕が、さらにタラントを増やした

ことを褒め、このように言われました。「主人と一緒に喜んでくれ。」主に非難されたのは、自分に与えられたタラントを地中に隠しておいた僕でした（マタイ25：14-30参照）。自分と人の祝福を比較すれば、喜びから遠ざかる結果になるのは、まず間違いないでしょう。わたしたちは感謝する心と嫉妬心を同時に持ち合わせることはできません。主の御霊を受け、また喜びや幸せを味わいたいと心から望むならば、わたしたちはまず、自分自身が受けている祝福を喜び、感謝すべきです。また特に、神殿で得られる数々の祝福に喜びを感じなければなりません。

1836年4月3日、預言者ジョセフ・ミスとオリバー・カウドリは、カートランド神殿で神聖な祈りをささげました。厳粛で静かな祈りの後、主は彼らに御姿を現され、カートランド神殿を主の宮として受け入れられました。

救い主と救いに不可欠な鍵を回復した古代の預言者たちの現れについてのこの驚くべき記述は、教義と聖約第110章を、主がわたしたちに与えられたあらゆる啓示の中でも、最も神聖で重要な記録の一つとしています。

この章の中で最も美しく、まただれもが一度は聞いてみたいと望む言葉が5節と6節にあります。

「見よ、あなたがたの罪は赦されており、あなたがたはわたしの前に清い。それゆえ、頭を上げて喜びなさい。

あなたがたの兄弟たちの心を喜ばせ、わたしのすべての民の心を喜ばせなさい。彼らは力を尽くしてわたしの名のためにこの家を建てた人々である。」

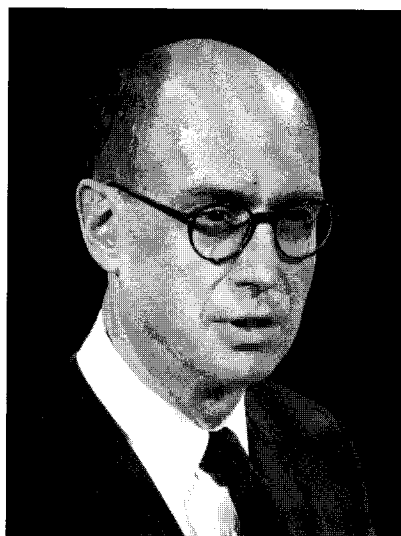
兄弟姉妹の皆さん、人生における「土曜の朝の漫画」を避けようではありませんか。特にわたしたちを神殿から引き離すものを避けましょう。救い主の贖罪を通してわたしたちに与えられている約束を喜びましょう。また「これは主が設けられた日であって、われらはこの日に喜び楽しむであろう」（詩篇118：24）という詩篇の作者の勧告に従い、キリストに倣った生活をする人に与えられている約束を喜びましょう。わたしたち一人一人がこれらのことを行ないますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

神の証人

十二使徒定員会会員

ヘンリー・B・アイリング

わたしたちは聖約に基づく義務として出会う人々や家族に対して福音を紹介しなければなりません。わたしたちが聖約を守るために誠心誠意で努力するとき、神は聖約を果たす力を必ず強めてくださいます。



末日聖徒は聖約の民です。バプテスマを受けた日から、人生における幾つかの霊的な通過点を通る度に、わたしたちは神に約束し、神もわたしたちと約束されます。神は正しい権能を持つ僕たちを通して与えられた約束を必ず守ってください。しかし、神と約束を交わしてそれを守るかどうかはわたしたちの人生における試しであり、重大な意味を持っています。

わたしは旅行中に隣に座った人と偶然に会話を始めたときに、聖約を守る力について思いを新たにすることがありました。わたしはその人と面識はありませんでしたが、彼は雑踏の中でわたしを見ていたようでした。なぜなら、わたしが自己紹介した後、彼が最初に口にした言葉は、「あなたをずっと拝見しておりました」だったからです。彼が自分の仕事について紹介すると、

わたしも同じようにしました。彼はわたしの家族について尋ねた後、自分の家族について話してくれました。彼の奥さんは教会員でしたが、彼は教会員ではありませんでした。

こうしてだいたい打ち解けてくると、次のようなことを言いました。「あなたの教会には改めなければならないことがありますよ。どういう状態になったらやめるべきかを教会の人々におっしゃってください。」そして次のように説明しました。彼は結婚して25年になります。奥さんは子供のころから教会員でした。長い結婚生活を通じて奥さんが教会の建物に足を踏み入れたのはたった1度きりでした。それは奉獻前の神殿のオープンハウスでしたが、奥さんの母親が計画したために仕方なくというような具合でした。

そして、教会はなぜ変わらなければいけないかを話してくれました。奥さんが一度も教会に関心を示さなかったこの25年間の結婚生活を通じて、訪問教師とホームティーチャーは欠かさずやって来たと言うのです。ある日の晩に、彼が犬を連れて散歩していると、偶然に犬を連れてやはり散歩していたホームティーチャーに出会い、熱っぽく話しかけられたそうです。

彼は少し怒りを表しながら、長期の出張から帰宅した晩のことを話し始めました。ガレージに車を入れてふと気がつくと、ホームティーチャーがほほえみながら立っていました。彼はそのときのことを次のような表現で話してくれました。「彼らはそのような所でクッキーの皿をわたしの目の前に差し

出したのです。」

わたしは彼の気持ちも分かるような気がします。そのように熱心なホームティーチャーや訪問教師にやめさせることがどれほど難しいかを、できるかぎり分かっていただけるように説明しました。ほとんど実りがなくても長年にわたって彼らが訪問し続け、愛を示し続けたのは、彼らがそのように神と聖約を交わしたためであることをお話しました。『モルモン書』でアルマが述べたバプテスマの聖約について説明しました。聖句を引用することはしませんでした。皆さんは、アルマが教えた人々にバプテスマを受けたいかどうかを尋ねたときの質問を覚えていることでしょう。

「そして、アルマは言った。『見よ、ここにモルモンの泉がある。(この泉はこのように呼ばれていた。)あなたがたは神の羊の群れに入って、神の民と呼ばれたいと願っており、重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み、

また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望み、また神に贖われ、第一の復活にあずかる人々とともに数えられて永遠の命を得られるように、いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、死に至るまでも神の証人になることを望んでいる。』」(モーサヤ18:8-9)

これらのホームティーチャーと訪問教師は、証人となる聖約と、愛を示す聖約を切り離して考えるべきではないこと、これらは相互に強め合う原則であることを理解していました。この男性が経験したことをわたしはこれ以外の方法で説明することができません。わたしの新しい友人は、訪問者たちが彼と彼の奥さんに対して純粋な関心を持っていたことを理解しました。彼らが抱いた関心は信仰から生まれたものでした。そのために彼らは何度でも訪問しなければならないと考えたことを彼は理解できたようでした。彼らは破ることのできない聖約のために訪問していることを彼は理解したようでした。少なくともわたしにはそう思えま

した。彼らはこれからも訪問を重ね、関心を寄せ、回復された福音について証^{あかし}する機会を忍耐して待つことでしょう。彼らがなぜそうするのかを、彼は理解してくれたと思います。この男性に別れを告げてからわたしも何かを学んだことに気づきました。単に教会のプログラムだからという理由でホームティーチングや家庭訪問の責任を果たすのはやめにしよう、と思いました。彼らは正しい目的をもって正しいことをしていました。ホームティーチングや家庭訪問は重荷ではなく、喜びを得るための機会です。すべての会員はバプテスマを受けたときに神の証人となることを聖約しました。すべての会員は救い主が行われたように、愛の働きを実行すると聖約しました。したがって、証を述べ、人々に関心を払う召しを受けるとき、それは決して特別な奉仕を求められているものではありません。むしろ、愛にあふれる天父と御子イエス・キリストが計画された祝福です。正式に召されないこともあります。が、天父と御子はこれらの召しを、ほかの場合と同様、すべて同じ目的の下にお与えになったのです。一つ一つが、聖約の民に与えられる祝福を受けるにふさわしいことを証明するチャンスとなり、責任を持って果たすと約束したことを実行する機会となるのです。またバプテスマの水とともに受け入れた、ほかの人々に対する神聖な責任を果たす機会となります。けれども、召しの本来の姿を理解していないためにこの責任が果たされていない場合が往々にして見られます。

人々を愛し、証人となるこの聖約は世界中の様々な環境に置かれている会員たちの行動を変える力を持っています。その最も大切な場所が家庭です。現代の預言者は日曜日の集會を統合することによって、家族が一緒に過ごす時間を持てるようにしてくれました。また、預言者は靈感によってわたしたちが月曜日の晩を空けて家庭の夕べを開くように指示してくれました。これらの機会にはそれをどのように使うかという選択の余地があります。多くの家庭では、慰めの要る者に慰めを与え、

神の証人になるという聖約を果たすことを選んでいきます。

日曜日の集會の統合と家庭の夕べの創設によって、家族は一緒になってキリストのような奉仕を行い、聖文と福音の原則を研究する機会が与えられました。スペンサー・W・キンボール大管長はこの力がいかに大きいかを次のように述べています。「すべての父親と母親が少なくとも週に1回は子供たちを集めて、福音を説き、燃えるような証を述べるとしたら、この世界はどれほどすばらしいものになるでしょう。もう不道德な行いが蔓延^{まんえん}すること、不信心が見られることも、非行が増大することもなくなるでしょう。」(Teachings of Spencer W. Kimball『スペンサー・W・キンボールの教え』エドワード・L・キンボール編、p.345)

日曜日と家庭の夕べのこうした時間は、純粋な関心を家族として一つにまとめ、福音を教え、証を述べる機会となります。世界の至る所で、聖約を愛し理解した家族がそれを実行しています。慰めを与え、キリストのような奉仕の業をするために両親が子供たちと連れだって歩いている姿を我が家の窓からよく見かけます。わたしは行って見たわけではありませんが、きっと彼らはそうしたひとときに感じた心のぬくもりを家へ持ち帰って、シオンの賛美歌を歌い、訪問した相手やほかの人々のために祈りをささげ、聖文を読み、短いレッスンを行い、回復された福音に対する証を述べていることでしょう。

家族の時間の使い方について警告を発すると同時に一つの約束をしたいと思っています。まだ教会員でない方々にとっては、このような愛と信仰のひとつを設けなくとも、それは単にそのような機会を逃しているにすぎません。しかし、聖約を交わしている人々にとってはそれだけにとどまらないのです。家庭ほど愛を示し証人となる聖約を守りやすい場所はありません。わたしたちが管理を任されている人々すなわち家族にとって家庭ほど大切な場所はありません。わたしは教会員の皆さ

んに警告します。これらの機会を無視することは神聖な聖約を自らの意志で破ることになるのです。

わたしは聖約に忠実であって、家族のために愛を示し、証を述べる機会を設けている人々に約束することができます。神は必ず約束を守られるからです。彼らは感動という収穫を刈り取り、悔い改めに導くイエス・キリストを信じる信仰を持ち、聖約を守る意欲と力が強められるという報いを得るでしょう。

親切な思いが証を述べる行動に結びついたときには人生を変えるほどの大きな力が発揮されます。わたしが旅の途中で経験したように、教会員は毎日、何千という人々から見られています。人々はわたしたちの生活に好奇の目を向けています。わたしたちは証人となるという聖約を交わしていますので、福音によってどのように幸せになったかを人々に話そうとすることでしょう。話を聞いた彼らが何を考えるかは、わたしたちが彼らに対して抱いている関心をどれほど感じるかによって大きく違ってきます。

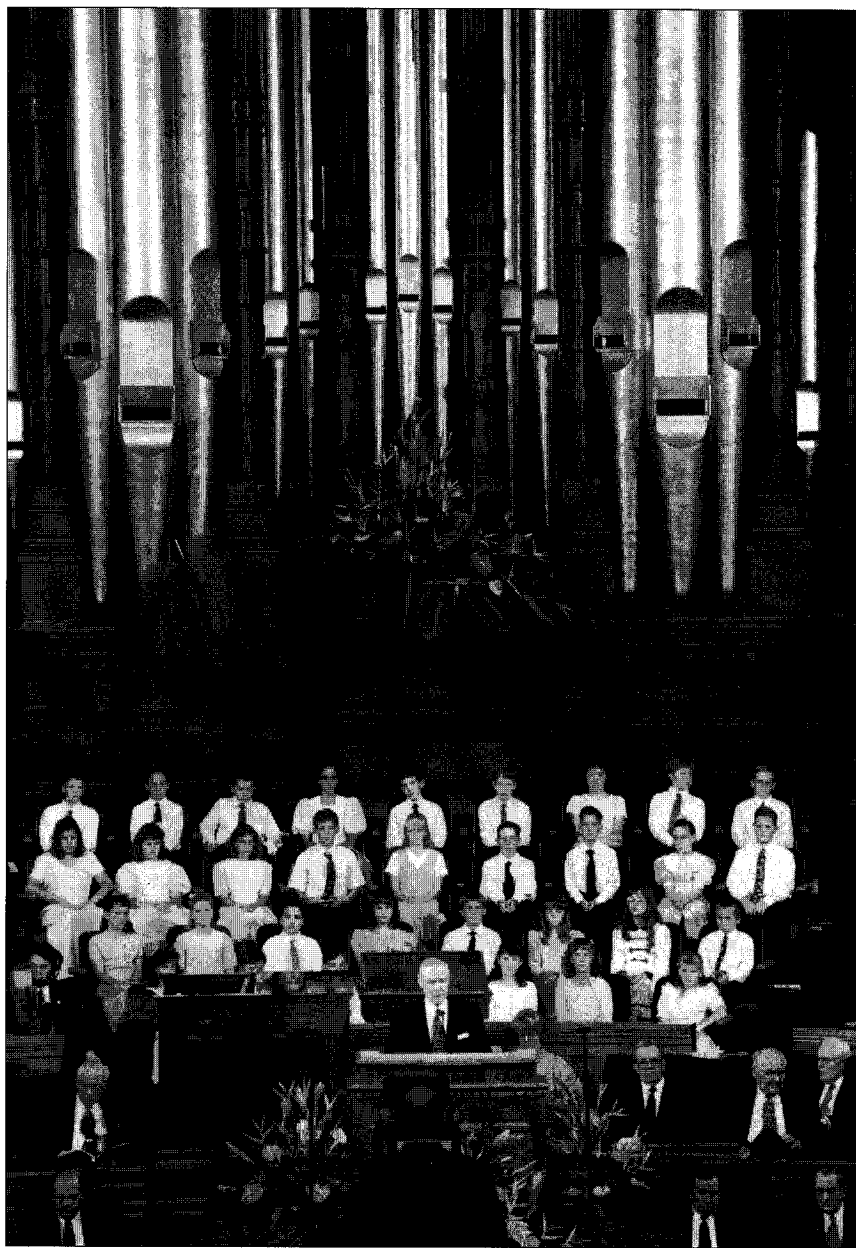
アンモンに会ったラモーナイ王がそうでした。『モルモン書』にその次第が記されています。アンモンは衛兵に捕まって、王のもとへ連れて行かれました。王はアンモンを殺すこともできました。しかし、明らかに数分もしないうちにラモーナイ王はアンモンが王に関心を持ち、王に仕えたいと願っていることを知りました。アンモンは高い地位を与えようと言われたときにこう答えました。「そうではなく、王の僕になりたいのです。」(アルマ17:25)王は数日のうちにアンモンが王のために命を投げ出す覚悟を持っていることを知りました。その後に神の証人となる機会がアンモンに訪れたのです。

わたしたちが会おう人々は、「悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰める」聖約を長年実行してきたわたしたちから、あふれ出る愛を感じることでしょう。ラモーナイ王の場合のように数時間や数日ではないかもしれませんが、彼らはわたしたちの真意を試

してから愛を感じてくれます。そして彼らが誠心誠意の関心であることに気づいたとき、聖なる御霊^{みたま}が彼らの心の琴線に触れやすくなるため、わたしたちはアンモンのように教え、証^{あかし}することができます。

再び、警告と約束を申し上げます。その警告とは、愛することや証を述べることをしていないと悲しみがもたらされるということです。福音を伝えようとする相手の人に対しわたしたちが心からの関心を抱いたり示したりできなければ、相手の人は当然のようにわたしたちの言葉を信じてくれません。しかし、福音が自分の生活にどのような意義をもたらしているか、また、彼らの生活にどのような意義をもたらすかを、拒絶されるのではないかという恐れのせいで伝えられなかったとしたら、いつかわたしたちは彼らの味わう悲しみをともに味わうこととなります。この世においてか次の世において、彼らはわたしたちが福音というかけがえのない贈り物を分かち合わなかったことを知るのです。彼らは福音を受け入れなければ永遠の命にあずかれないことを知ります。わたしたちが分かち合うという約束の下に福音を受けたことも彼らは知るのです。

福音を分かち合っている方々に二つのことを約束します。第1は、福音を拒絶した人もいつかはわたしたちに感謝するということです。わたしはこれまで何度か、遠くに住む友人たちを宣教師に紹介し、訪問してくれるように頼みました。宣教師はその度に訪問してくれましたが、断られました。しかし、しばらくして友人の一人から次のような文面の手紙が届きました。「あなたにとってとても大切なことを分かち合おうとしてくれて、ほんとうに光栄です。」わたしたちが手を差し伸べた人々はもしこの世でなければ、次の世で真理を知り、自分にどれほど大きな関心が示されたかを悟り、同じような感謝の手紙をくれることでしょう。第2の約束は、あなたが人々に福音を紹介する度に、福音はあなたの心の奥底にしみ込んでいくということです。それは泉となって、わたしたちが福音



土曜午後の部会で司会を務めるジェームズ・E・ファウスト第二副管長。後方は、聖歌隊で歌う初等協会の子供たちと、タバナクルの巨大パイプオルガン。ファウスト長老の前方はテレビカメラの撮影者。

を紹介するときに、あふれ出て永遠の命へと流れ込むのです。

愛と証が完全に近い形で一体となる機会があります。教会のすべてのワードと支部では毎月1回断食証会が開かれます。わたしたちは2食を断ってこの集会に出席します。2食分に相当するお金を、可能であれば増額して、惜しみない断食献金として納めます。監督と支部長は靈感に基づいて、貧しい人々や乏しい人々のためにこの献金を使います。わたしたちはこのように断食献金を納めることによって、約束し

たように、慰めの要る者を慰めています。

断食によってわたしたちは謙遜^{けんそん}で柔和になり、聖霊がとどまりやすくなります。断食によって、人々に関心を示すという聖約を守れるとともに、証を述べるという聖約を果たす準備ができます。

断食証会のために細心の注意を払って準備している人は、証会で証をすべきだと感じたときにそれをどのように述べるべきかを改めて教わる必要はありません。彼らが証をするときは、説

教をしたり、勧告を与えたり、旅行談をしたり、聴衆を喜ばすために話したりはしないでしょ。感謝すべき人々にはすでに個人的にそれを表しているの、聴衆の前で改めて持ち出すことはしないでしょ。聴衆を魅了するような言葉を使う必要も、長話をする必要もありません。

感じていることを率直に述べること、これが証です。貧しい人々への祝福を願い、御霊の導きを求めて断食する会員は神の愛と永遠の真理に対して感謝の気持ちを抱くことでしょう。子供でもこのようなことは感じます。わたしたちが子供の証に時々感動するのはこのためです。また、断食と祈りによって自らを備えるとき、子供のような気持ちを感じるのもこのためです。

教会員は聖約に基づく義務として断食証会のために準備しなければなりません。わたしたちは聖約に基づく義務として出会う人々や家族に対して福音を紹介しなければなりません。わたしたちが聖約を守るために誠心誠意で努力するとき、神は聖約を果たす力を必ず強めてくださいます。愛を示し、証人となるという約束を果たすのが難しいと感じたときにはこのことを思い出

してください。

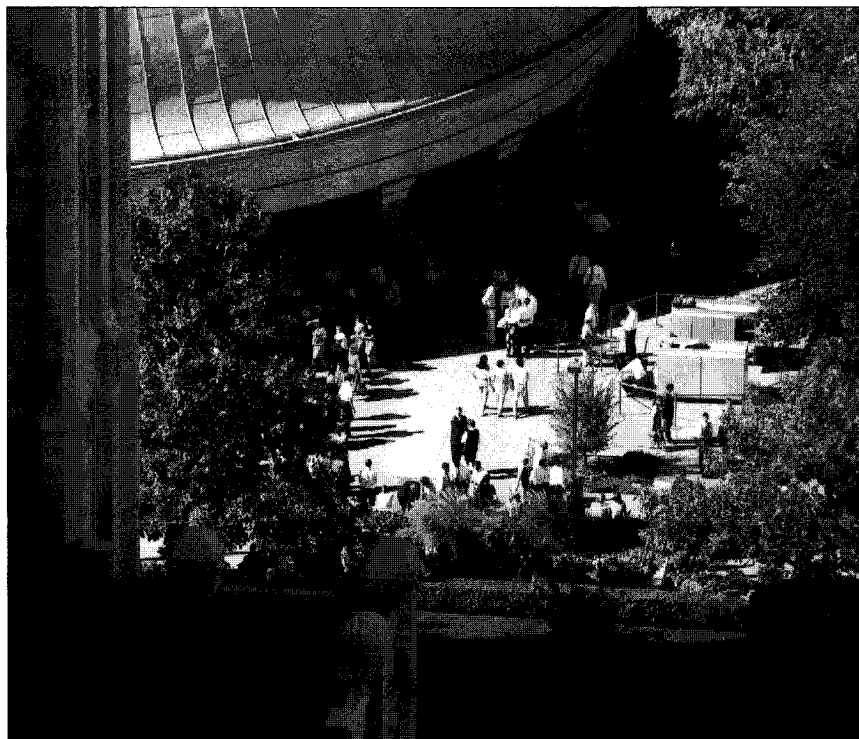
聖約を守ることによってもたらされる報いは、聖霊を受けることであり、愛の力が増すことです。なぜこのようなことが起こるかと言えば、イエス・キリストの贖いの力がわたしたちの本質を変えるからです。聖約を受け入れ、戒めを守る人々にいっそう大きい霊的な力が与えられる奇跡をわたしたちは目にしています。例えば、伝道に出ている子供たちから手紙を受け取って何度も読み返し、彼らが短期間のうちにまったく変わり、すばらしい人になるという奇跡に家族は驚き、涙するということが全世界で起こっています。

勇壮果敢な若者でさえもしりごみする最も過酷な環境で宣教師の召しを果たしている熟年の夫婦にも同じ奇跡が起きています。ご主人からの報告書を読んで、わたしは以前の彼を知っていましたので、こんなに変わったのかと思ったことがありました。霊的成長という奇跡は若者だけでなく、聖約を守るすべての信仰篤い人々に約束されています。その夫婦は人々を愛し、証するために出て行きました。そして21歳の帰還宣教師と同様に、別人のようになって帰って来たのです。

聖約を交わしたわたしたちはそれぞれに独特のチャレンジに遭遇します。しかし、わたしたちは共通する確信を持っています。天父はわたしたちとわたしたちが置かれている環境を御存じであり、将来どのようなことに直面するかも御存じです。天父の愛する御子であり、わたしたちの救い主であるイエス・キリストはわたしたちの罪と、わたしたちがこれから出会うすべての人々の罪のために苦しみを受け、代価を払ってくださいました。主はすべての人の気持ち、苦しみ、試練、必要としていることを完全に理解しておられます。このため、わたしたちが信仰を持って前進するならば、現在ほどほど難しく見えても、聖約を守るための道が備えられることでしょう。

わたしは生きているかぎりいつでも、どのような所においても神の証人となる義務を皆さんと一緒に果たしていきたいと思います。また、すべての聖約を守る力を神がお与えになるという信頼を皆さんとともに分かち合いたいと思います。

わたしは、イエスがキリストであり、よみがえられた主であり、御父の仲保者であることを使徒ペテロ、ヤコブ、ヨハネと同じように確かに知っていることを感謝しています。天父は聖なる森において少年ジョセフ・スミスに復活された主を紹介するに当たって、愛する御子の直接の証人になられました。『モルモン書』は預言者ジョセフ・スミスが神の力によって翻訳した神の御言葉です。メルキデゼク神権の鍵は救い主御自身から受けた人々によって回復されました。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこれらすべての鍵の行使を指示する権能を与えられた地上で唯一の人です。この教会はイエス・キリストの真の教会であり、儀式と聖約を持つ教会であり、それらの儀式と聖約を受け入れ、尊ぶならば、この世においては平和を、来るべき世においては永遠の命を受けることが約束されています。わたしはこのことを厳粛に証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

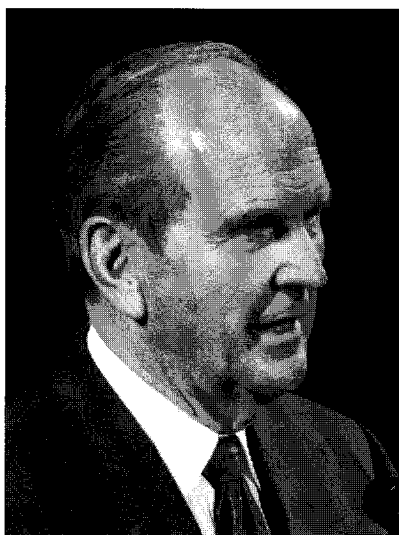


あがな 贖

い

十二使徒定員会会員
ラッセル・M・ネルソン

創造と堕落と贖いの目的は、すべて末日聖徒イエス・キリスト教会の
神殿で行われる神聖な業に集約されています。



わたしはへりくだって、『モルモン書』の預言者ヤコブの問いかけを引用します。「キリストの贖罪について語るのに……何の差し支えがあるだろうか。」「これは信仰箇条第3節を含むテーマです。「わたしたちは、キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じる。」

しかし、キリストの贖罪を理解する前に、わたしたちは、アダムの堕落についてまず理解する必要があります。そして、アダムの堕落を理解するには、まず創造について知らなければなりません。救いの計画のこれら重要な要素は、互に関連しています。²

創造

創造は、エデンの園におけるアダムとエバで頂点に達します。二人は、骨

肉の体を持って、神の形に創造されました。³ 神にかたどって朽ちない体に造られたので、成長も死もありませんでした。⁴ 「子供を持たなかった」⁵ し、人生の試練を経験することはありませんでした。（子供と人生の試練を一緒に述べたことをお許しください。）アダムとエバの創造は、「不死不滅のもの」でしたから、子供を持って前世にいる神の霊の息子と娘にこの世の肉体を与える、という戒めを守るには、重大な変化が必要でした。⁶

墮落

それでは墮落について考えてみましょう。聖文はこう教えています。「アダムが墮落したのは人が存在するためであり、人が存在するのは喜びを得るためである。」「アダムとエバの墮落は、「死すべき状態の創造」を構成するもので、血液の循環やそのほかの変異を含め、二人の体の必要な変化をもたらしました。⁸ 今や二人は、子供を持てるようになりました。また二人とその子孫は、けがや病氣、死を受けるようになりました。愛にあふれる創造主は、治療力、つまり癒しの力を授け、それによって生命と貴重な肉体の機能を保てるようにされました。例えば、骨は折れても、再び元に戻り、肉体の傷は自然に癒されていきます。そして驚くべきことに、血液が流れ出ると、そこで活性化された成分によって傷口がふさがれるのです。⁹

癒しの力の不思議さについて考えてください。もし皆さんが自己修理のできる物を作れたら、永続する命を作っ

たと言えるでしょう。例えば、折れた脚を自分で直せるいすを作れたら、そのいすの寿命はなくなります。多くの人は骨折を経験した足で歩いていますが、それは癒しという驚くべき賜物のおかげなのです。

創造主はこの信じられない力をわたしたちに授けてくださいましたが、主はわたしたちの肉体に、それとは反対の賜物も授けられました。それは、年老いるという祝福であり、わたしたちに、自分はいつの日かこの世を離れるように定められた死すべき存在であることを思い起こさせてくれます。¹⁰ 肉体は毎日変わっていきます。年を取るにつれて、厚い胸は薄くなり、細いウエストは太くなります。しわが増え、髪は白くなり、抜け落ちて、自分が神の死すべき子供であって、創造主が約束されたように、地上で永遠に生きることはできないと悟るのです。もし墮落が起こっていなければ、医者や美容師、葬儀屋は、皆失業することでしょう。

死すべき状態のアダムとエバは、「主なる彼らの神を礼拝し、主へのささげ物として群れの初子をささげるように」命じられました。¹¹ さらにこう告げられました。「肉の命は血にある……血は命であるゆえに、あがなうことができるからである。」「¹² 試しの世や生殖の力、年老いること、これらは皆、肉体の死が不可欠となる、神の「偉大な幸福の計画」を構成するものです。¹³

しかし、この世の生活がいかに輝かしいものであっても、神の計画の究極の目的では決してありません。この地球における命と死は、一つの終わりを意味するにすぎません。わたしたちの目的が終わるものではありません。

贖い

さて、贖いについて考えましょう。パウロはこう言いました。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。」「¹⁴ イエス・キリストの贖いは、「不死不滅の創造」です。主は、以前に侵された律法の要

求に自ら進んでこたえられました。¹⁵そして主の血が流されることにより¹⁶、主とわたしたちの肉体は完全なものになれるのです。その体は、アダムとエバが朽ちない状態のときと同じように、再び血液なしで機能するでしょう。パウロは教えています。「肉と血とは神の国を継ぐことができないし、……この死ぬものは必ず死なないものを着ることになる。」¹⁷

贖罪の意味

以上の背景を心に留めて、贖いという言葉の深い意味について考えましょう。英語の贖い“atonement”は、(at-one-ment, すなわち)人がほかの人と一つになることを指しています。ほかの言語では¹⁸、英語の“expiation”(償い)や、“reconciliation”(和解)に相当する言葉が用いられています。英語の“expiation”には、「何かのために罰や苦しみを受ける」という意味があります。「和解」を意味する“reconciliation”は、ラテン語の「再び」を表す“re”と「ともに」を表す“con”，それに「座る」を意味する“sella”から成り、文字どおりの意味は、「再びともに座る」です。

『旧約聖書』の時代のセム語の「贖い」という言葉を研究すると深い意味が明らかになります。ヘブライ語で、贖罪を表す基本語は“kaphar”という動詞で、意味は「覆う」または「赦す」です。¹⁹ アラム語やアラビア語の“kafat”も近い関係にあり、「親しく抱く」を意味します。間違いなくこれは、エジプト人の儀式の抱擁と関係があります。この「抱く」については、『モルモン書』の中にも出てきます。ある人が言いました。「主はわたしを……贖ってくださった。わたしは主の栄光を見た。そして、主の愛の御腕に永遠に抱かれています。」²⁰ また別の人は「イエスの腕の中にしっかり抱き締められる」²¹という輝かしい望みを記しています。

わたしはそのすべての意味について深く考えると、喜びに涙します。贖罪を受けるとは、贖われて、神にしか

りと抱かれ、主の赦しを受けるだけでなく、心も思いも神と一つになることなのです。何という特権でしょう。また、死という門を通してすでに愛する人を家族のきずなから失った人にとって、何という慰めでしょうか。

聖文は、「贖い」という言葉についてさらに教えています。『旧約聖書』には「贖い」に関する聖句が多くあって、動物の犠牲を求めています。しかし、動物だけを指すではありません。特別な意味が込められているのです。

- 傷のない、群れの初子を選ぶ²²
- 血を流すことにより動物の命を犠牲にする²³
- 殺した動物の骨を折らない²⁴
- 1匹の動物がほかの身代わりとして犠牲になる²⁵

キリストの贖いは、『旧約聖書』のこれらの象徴を成就しています。キリストは傷のない神の最初の小羊でした。主の犠牲は血を流すことによって行われました。主の体の骨は1本も折られませんでした。主とともにはりつけにされた二人の罪人の足が折られたことは注目に値します。²⁶ そして、主の犠牲はほかの人々のための身代わりの犠牲でした。欽定訳の『新約聖書』には、贖いを表す“atone”や“atonement”が1度しか出てきません²⁷、『モルモン書』には35回出てきます。²⁸ 『モルモン書』は、「イエス・キリストについてのもう一つの証」として、主の贖いに特に光を当てているのです。『教義と聖約』や『高価な真珠』も同じです。末日の啓示は、『聖書』への理解を大いに深めてくれます。

無限の贖い

『旧約聖書』という準備の時代には、贖いの行為は有限でした。すなわち制限がありました。それはキリスト・イエスの究極の贖いを象徴的に表すものでした。主の贖いは無限で、終わりがありません。²⁹ 贖いは全人類が永久の死から救われることにおいても無限です。主の計り知れない苦難に関しても無限です。贖いは時においても無限であり、動物の犠牲という以前の象徴は

終わりを告げました。贖いは範囲においても無限で、ただ1度だけ行われました。³⁰ 贖いの効力は無数の人々だけでなく、主によって造られた無数の世界にも及んでいます。³¹ 人間のいかなる尺度も理解も超えた無限の贖いなのです。

イエスがそのような無限の贖いのできる唯一の御方であったのは、死すべき母と不死不滅の御父との間にお生まれになったからです。この特異な生得権のゆえに、イエスは無限の御方なのです。

贖いの苦難

贖いの苦難はエルサレムの町が中心になります。そこで、歴史上最も偉大な愛の行為が行われました。³² 2階の広間を出たイエスと友人たちは、町の東側の深い谷を横切り、オリブ山に向かうならかな坂にあるオリブの園に行きました。そこはヘブライ語で「ゲツセマネ」と呼ばれる園で、「オリブ搾り」を意味し、オリブをつぶして油や食糧にする場所でした。主はそのゲツセマネで、「すべての人が悔い改めて自分のもとに来ることができるように……すべての人の苦しみを引き受け」られたのです。³³ 主は全人類の罪の重荷を自ら負われ、その苦しみのためにあらゆる毛穴から血を流されました。³⁴ その後、主はたたかれ、鞭打たれました。いばらの冠を頭にかぶせられて、さらに苦難が加えられました。³⁵ あざけられ、からかわれました。御自分の民の手からあらゆる侮辱を受けられました。主は言われました。「わたしは自分の民のところに來たのに、民はわたしを受け入れなかった。」³⁶ 温かい歓迎ではなく、残酷な拒絶を受けられたのです。それからカルバリの丘まで自分の十字架を運ぶように命じられ、そこで十字架に釘ではりつけにされ、激しい苦痛を受けられました。

やがて主は、「わたしは、かわく」³⁷と言われました。医者にとって、これは大変意味のある言葉です。医師なら知っていますが患者が出血多量でショック症状を起こすと、まだ意識があれ

ば必ず乾き切った唇で水を求めるのです。御父と御子は、何を経験するか前もって知っておられましたが、現実には言語に絶する苦しみもたらされました。『「イエス」は言われた。『アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯^{さかずき}をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください。』』³⁸そして、御父の御心に従われました。³⁹ 3日後、預言されたとおりに、主は墓からよみがえられました。復活の「初穂」になられたのです。主は贖い^{あがな}を成し遂げ、すべての従順な人々が不死不滅と永遠の命を受けられるようにされました。墮落によってそれた道が、贖いによって正されたのです。

「不死不滅」という救い主の賜物^{たまもの}は、生を受けたすべての人にもたらされます。しかし、「永遠の命」の賜物は、悔い改めて、定められた儀式と聖約に従う人だけに与えられます。福音に必須の数々の儀式は贖いを象徴しています。水に沈めるバプテスマは、贖い主の死と埋葬と復活を象徴しています。聖餐^{せいさん}を取ることににより、バプテスマの聖約を新たにし、救い主の引き裂かれた体とわたしたちのために流された血を思い起こします。神殿の儀式は、主との和解を象徴し、家族を永遠に結び固めます。神殿で交わした聖約に忠実であれば神の最大の賜物^{たまもの}であり、「この世に存在する目的」である永遠の命にふさわしくなれるのです。⁴¹

贖いは創造の目的が 達成されるのを可能にする

創造は墮落を必要とし、墮落は贖いが必要としました。贖いによって、創造の目的が達成されるようになったのです。贖いによって可能になった永遠の命は、創造の最高の目的です。否定形を用いて言われているように、もし家族が聖なる神殿で結び固められなければ、全地はことごとく荒廃することでしょう。⁴²

・ 創造と墮落と贖いの目的はすべて末日聖徒イエス・キリスト教会の神殿で

行われる神聖な業に集約されています。地球が造られ、教会が回復されたのは、妻を夫に、子供を両親に、そして家族を先祖に世々限りなく結び固めるためです。これはわたしたちが携わっている偉大な末日の業です。宣教師を派遣し、神殿を築く理由は、贖いの完全な祝福を神の忠実な子供たちにもたらすためです。わたしたちが主からの召しにこたえるのはそのためです。主が自ら進んでなされた贖いの業について深く考えると、自分が犠牲を払っているという思いは、主に仕える特権に深く感謝する気持ちによって、完全に薄れてしまいます。「全世界におけるキリストの名の特別な証人」⁴³の一人として、わたしは、わたしは^{あかし}イエスが生ける神の御子であられると証します。イエスはキリストであり、わたしたちの救い主、贖い主です。これは主の教会であり、神の子供たちを祝福し、主の再臨に世の人々を備えるために回復されました。これらのことを、イエス、キリストの聖なる御名^{みな}により証します。アーメン。

注

1. 「モルモン書」ヤコブ4：12
2. これらの要素の関係については、アル

マ18：34-39；モルモン9：12；教義と聖約20：17-24など、幾つかの聖句に関連して記されている。

3. 二人は、現在のような死に支配される状態ではなく、「不死不滅」の状態に、つまり「死すべき体でない状態」に創造された。
4. アルマ12：21-23参照
5. 2ニーファイ2：23
6. 創世1：28；モーセ2：28参照
7. 2ニーファイ2：25
8. わたしたちは、神がアダムとエバの背きを赦^{ゆる}されたことを心に留めるべきである（モーセ6：53参照）。
9. 血小板やトロンピンなど
10. エライザ・R・スノー「高きに栄えて」『賛美歌』180番参照
11. モーセ5：5
12. レビ17：11
13. アルマ42：8
14. 1コリント15：22。モーサヤ16：7-8も参照
15. 2ニーファイ2：7参照。「見よ、罪のために」『賛美歌』108番も参照
16. ルカ13：32参照
17. 1コリント15：50-53
18. スペイン語、ポルトガル語、フランス語、イタリア語、ドイツ語など。
19. もし人が（福音の原則と儀式に忠実で



あることを通して) 贖^{あがな}いの祝福を受けるにふさわしくあるなら、イエスは御父に対するわたしたちの過去の背きを「覆って」くださる、ということの意味していると考えられる。

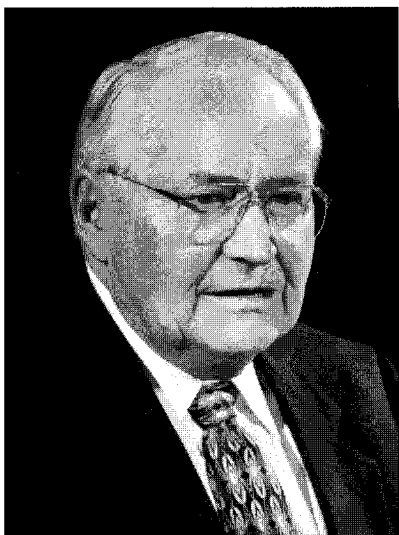
20. 2ニーファイ1：15
21. モルモン5：11。そのほかの例がアルマ5：33；34：16にも記されている。
22. レビ5：18；27：26参照
23. レビ9：18参照
24. 出エジプト12：46；民数9：12参照
25. レビ16：10参照
26. ヨハネ19：31－33参照
27. ローマ5：11参照
28. “atonement”「贖い」は24回，“atone, atoning, atoned, atoneth”「贖う、贖われた」は11回で、合計35回。
29. 2ニーファイ9：7；25：16；アルマ34：10, 12, 14参照
30. ヘブル10：10参照
31. 教義と聖約76：24；モーセ1：33参照
32. ヨハネ3：16参照
33. 教義と聖約18：11
34. ルカ22：44；教義と聖約19：18参照
35. マタイ27：29；マルコ15：17；ヨハネ19：2, 5参照
36. 3ニーファイ9：16。教義と聖約6：21；10：57；11：29；39：3；45：8；133：66も参照
37. ヨハネ19：28
38. マルコ14：36。「アバ (Abba)」はすばらしい言葉である。“Ab”は「父」を意味し，“Abba”は、この“Ab”に敬愛の情を込めた変化形である。
39. 何世紀も後、主は預言者ジョセフ・スミスにこのときの経験を思い起こして語っておられる。その記録は、教義と聖約第19章に収められている。
40. 教義と聖約14：7参照
41. ブルース・R・マッコンキー, *The Promised Messiah*『約束されたメシヤ』p. 568
42. 教義と聖約2：3；138：48参照
43. 教義と聖約107：23

「走っても 疲れることがなく」

十二使徒定員会会員

Ｌ・トム・ペリー

同年代の人々に義にかなった生き方の模範を示すよう、皆さんにチャレンジします。



教 会初期の歴史には、1833年の冬に、主が「必要なすべてのことを教えるために」預言者の塾を設けるよう命じられたと記されています（教義と聖約88：127）。塾はニューエル・K・ホイットニーの店の2階で開かれました。兄弟たちは預言者ジョセフ・スミスの指導を受けるために塾に集いました。その中には、たばこを常用する人たちがいました。預言者は煙の充滿するこの世的な環境の中で霊的な事柄を教えるのを困難に感じました。ジョセフ・スミスは、この件について悩んだ末、このような物理的な環境がはたして兄弟たちにとってふさわしいことかどうか主に尋ねました。この祈りの答えとして、「知恵の言葉」で知られる啓示が与えられました。

知恵の言葉には非常に肯定的な要素

があります。知恵の言葉は穀物、特に麦を取り、果物と野菜を取るよう奨励し、肉類は控えめに取るように勧めています。また、アルコール、たばこ、お茶、コーヒーの摂取を厳格に禁じていることでも有名です。これに加えて教会の指導者はマリファナ、コカイン、そのほかの麻薬と処方薬の乱用を避けるように勧めています。

教義と聖約第89章の啓示の中で与えられている特別な約束として、次のような言葉が記されています。

「これらの言葉を守って行うことを覚え、数々の戒めに従順に歩むすべての聖徒たちは、そのへそに健康を受け、その骨に髓を受けるであろう。

また、知恵と、知識の大いなる宝、すなわち隠された宝さえ見いだすであろう。

また、走っても疲れることがなく、歩いても弱ることはない。

また、主なるわたしは彼らに一つの約束を与える。すなわち、滅ぼす天使はイスラエルの子らを過ぎ越したように彼らを過ぎ越して、彼らを殺すことはない。」（教義と聖約89：18-21）

わたしは、知恵の言葉をわたしたち子供に教えてくれた義にかなった両親に感謝してやみません。両親だけではなく、初等協会、日曜学校、そして神権会の教師たちにも、丁寧に教えてもらいました。

わたしは、初等協会の教師が『インブルブメント・エラ（Improvement Era）』から、ある一つの物語を読んでくれたことを思い出します。教会の歴

史部に頼んでこの話を探してもらったところ、お聞かせする価値があると思いました。これは、1928年10月号の『インブルーメント・エラ』に掲載されたもので、クリード・ヘイモンドというペンシルベニア大学に募集に出席して合格した若いモルモンについての話です。彼はそのスピードで有名な陸上選手でした。その行いと業績から、陸上部のキャプテンに選ばれました。

毎年定例の全米アマチュアスポーツ連盟大学対抗競技会が、1919年5月の末に、ハーバードスタジアムで開かれました。ケンブリッジには、総勢1,700人に上る大学最強の選手たちが集まりました。ペンシルベニア大学は17人の予選通過者を出しましたが、その年最大のライバルであったコーネル大学の予選通過者は、わずかに10人でした。ペンシルベニア大学が優勝の王冠に輝く可能性が濃厚でした。勝ち点は、1位から5位までが対象で、1位に5点、2位に4点、3位に3点、4位に2点、5位に1点がそれぞれ与えられます。当然、予選通過者の最も多いチームの優勝する可能性が高いわけです。

ペンシルベニア大学のコーチは、決勝前夜上機嫌でした。コーチは寝る前に選手全員の部屋を訪れることにしました。そしてクリードの部屋に来るとこう言ったのです。「クリード、明日全力が出せたら、優勝は軽くおれたちのものだ。」

そこでコーチはためらいながら言いました。「クリード、今晚全員にワインを少し飲ませようと思っているんだが、おまえにもほんの少しだけ飲んでもらいたいんだ。」

「嫌です、コーチ。」

「だけど、クリード、酔っ払わせようというわけではないんだ。おまえたちモルモンの信条は知っているよ。薬として、全力を集中するために飲めと言っているだけなんだ。」

「ぼくには効きませんよ。コーチ、飲むわけにはいきません。」

コーチは答えました。「クリード、おまえはキャプテンで、最大のポイントゲッターだということを忘れるな。1万4,000人の学生がおまえに優勝の期

待をかけているんだ。おまえが失敗したら、チームは負けだ。おまえに何がよいかはコーチのわたしがいちばんよく知っている。」

クリードは、筋肉や神経を極限にまで鍛え切った選手には、少量のワインが効果的だとほかのコーチたちも感じていることを知っていました。同時に、コーチの頼みが子供のときから教えられたことすべてに反することも知っていました。彼はコーチの目を見据え、「絶対に飲みません」と言い切りました。

コーチはこう答えました。「クリード、おまえはおかしなやつだ。訓練台でお茶も飲まないし。頑固なやつだ。まあ、好きなようにするがいい。」

コーチは非常に不安な思いでキャプテンの部屋を去りました。もし、明日の成績が悪かったら、コーチに何と言ったらよいでしょう。ライバルたちは世界最強の選手ばかりです。実力を最大限発揮できなければ負けてしまいます。彼の頑固さのためにチームが負けるかもしれません。チームメートは皆コーチに従っています。コーチを信頼していたからです。彼に断る権利なんてあるのでしょうか。理由はただ一つでした。生涯にわたって知恵の言葉に従うよう教えられていたからです。

彼にとっては人生の危機でした。その人格のあらん限りの霊の力を注いで、彼はひざまずき、信じて守ってきたこの啓示がはたして神からのものかどうか証を下さるよう、主に熱心に祈り求めました。そして床に就き、ぐっすり眠ったのです。

翌朝コーチが部屋に来て、「気分はどうだい、クリード」と尋ねました。

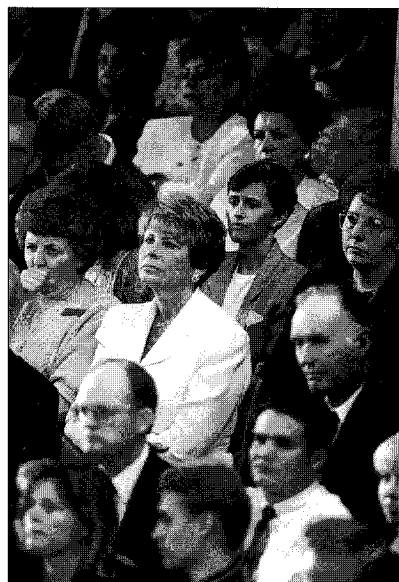
「元気ですよ」と彼は明るく答えました。

「ほかの連中は皆具合が悪いんだ。どうしたのか皆目、見当がつかない」とコーチは言いました。

「夕べみんなにやった薬のせいかもしれませんよ、コーチ。」

「そうかもしれない」とコーチは答えました。

2時になりました。2万人の観客は大会の始まるのを待ちかねていまし



た。競技が進行するにつれて、あのすばらしいペンシルベニア大学チームに異変が起こったことが明らかになりました。どの競技でも、ペンシルベニア大学チームは期待外れの成績に終わっていたのです。中には気分がすぐれずに棄権する選手さえいました。

クリードは100メートルと200メートルを走ることになっていました。チームは彼の勝利に最後の期待をかけていました。ともに走るのは、全米大学最強の選手です。100メートル走のスタートラインに着き、ピストルが鳴り響くと同時に、全員が空を切り、土をけって走りだしたかに見えました。ただ一人、クリード・ヘイモンドは別でした。クリードと同じコース、すなわち第2コースを予選で走った選手のつま先を入れる穴がクリードの掘った穴のすぐ後ろ2、3センチの所にあったのです。今日使われているようなスタート台は、当時まだ使われていませんでした。クリードが全力でけり出したとき、二つの穴の間の土が崩れ落ち、彼はスタートラインの手前でひざをついてしまったのです。

彼は立ち上がってスタートの失敗を取り戻そうとしました。60メートル地点では最後尾でした。それからまるで飛ぶように、5位、4位、3位、そして2位の選手を抜きました。ゴール直前、彼は最後の力を振り絞り、まるでやてのように最後の選手を抜き去り、勝



利を勝ち取ったのです。

手違いのため、220メートル走の準決勝は大会終了直前になって行われました。その日丸1日つきに見放されたチームを象徴するかのように、クリード・ヘイモンドは220メートル予選の最終組で走ることになりました。これに勝ってわずか5分後に、クリードはその日最後の競技となる220メートル走決勝のゴールに立つよう呼び出されました。前の組で走った選手の一人が駆け寄って来て言いました。「スターターに休ませてくれるように要求するんだ。規則ではその権利がある。君の前の組で走ったばかりだって、まだ息を切らしているんだから。」

クリードはハアハアと息を切らせながら、スターターにもう少し休ませてくれるように頼みました。役員は10分くれると言ったのですが、観衆が決勝を早く始めると騒ぎだしたので、不本意ながら、役員は選手をスタートラインに着かせました。通常ならば、クリードにとってこのレースは恐れるほどのものではありませんでした。この距離では、世界で彼にかなう者は恐らくいないだろうと思われましたが、その午後だけですでに3つのレースを、しかもそのうち一つは全速力の100メートル走を走っていたのです。

スターターは息を弾ませている選手たちをスターターに着かせ、ピストルを上げ、煙とともにレースが始まりま

した。今度はクリードが文字どおり弾丸のようにスタートラインから飛び出しました。たちまちクリードは先頭に立ち、残りの選手をみるみるうちに引き離し、土煙を上げて全行程を全力疾走し、すばらしいスピードで2位に8メートルの差をつけてテープを切り、220メートルでその日二つ目の勝利を飾ったのです。

ベンシルベニア大学チームは敗北を喫したものの、キャプテンはそのすばらしいレースでファンを驚嘆させたのでした。

その不思議な日の終わりに、クリード・ヘイモンドが床に就くと、ふと前夜知恵の言葉の神性さについて祈ったことが頭に浮かびました。その日立て続けに起こった奇妙な出来事が次々と思い出されました。チームメイトがぶどう酒を飲み失敗したこと、そして彼は飲まずに自分でも驚くほどの勝利に導かれたことです。すると、クリードは心の中に静かで素朴な御霊の証、すなわち知恵の言葉が確かに神からのものであるという証を感じる事ができたのです（ジョセフ・J・キャンノン「スピードとスピリット」より要約『インブループメント・エラ』1928年10月号, pp.1001-1007）。

わたしは、今日ノーと言う勇氣を持つだけで十分なのだろうか、それとも、現代社会をむしろ悪習慣を克服するように人を助ける責任もあるのだろうか

か、と考えさせられます。わたしの生涯に1度だけ、友達が有害なものに手を出さぬようにもっと努力していたらと悔やまれることがあります。スカウトの活動でイエローストーン公園に行った時のことです。ある晩遅く、わたしたちは間欠泉が吹くのを見に行きました。テントに戻る途中、友達が暗くて人目につかない所に立ち止まると、缶ビールを取り出したのです。「いいものがあるよ」と彼は言い、一緒に飲もうとわたしを誘ったのです。もちろん、家庭や補助組織や神権会のすばらしい指導者たちに十分に教えを受けていたわたしには、そのような申し出はまったく誘惑ではありませんでした。彼は一人で1缶を飲み干しましたが、わたしは飲まないように説得しようとも、止めようとしなかったのです。この経験によってわたしたちの友情にひびが入りました。どうしても分かりません。もしかしたらビールを飲むのを積極的に止めようとしなかった自分に罪悪感を抱いていたからかもしれせん。彼の方もわたしが言いつけて自分の両親に知られるのを恐れたかもしれません。この失われた友情をずっと残念に思っています。

今日、飲酒と麻薬は全国的な悪夢となりつつあり、ほとんどの犯罪、事故、失業、家庭の崩壊の原因となっています。すばらしいアロン神権者の皆さんは大人になるにつれ、この恐るべき病の付けを負わざるを得なくなります。もちろんこの破壊的勢力を抑しとどめることが必要なのです。同年代の人々に義にかなった生き方の模範を示すよう、皆さんにチャレンジします。主がその約束を成就し、ほかの人々とは異なる健康と知識と知恵を与えてくださることを知っています。皆さんの義にかなった模範によってほんとうに数多くの人々が祝福されることでしょう。

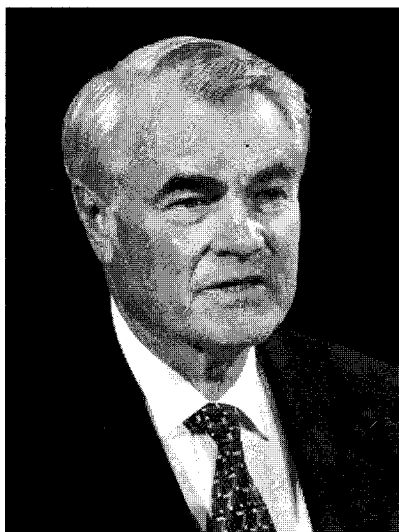
皆さんが期待されている生活を送り、わたしたちに与えられている大切な福音の原則に添って勇氣をもって生きる模範となれるように、神の祝福をお願いし、へりくだりわたしたちの主、救い主イエス・キリストの御名によりお祈りいたします。アーメン。

救い主はあなたを 頼りにしています

七十人会長会

ジョー・J・クリステンセン

自分から目を転じて、皆さんの持つ人を助ける力について考えてください。



数年前の総大会の後でしたが、4つになる孫のアンドリューが母親にこんな質問をしました。「イエス様はぼくを頼りにしてるかな。」母親はこう返事しました。「もちろんですよ。イエス様はアンドリューを頼りにしていらっしゃるわ。ママとパパの言うことをよく聞いて、正しい行いをし、特に弟のベニーに優しくするように望んでいらっしゃるのよ。」この4歳の子供はしばらく考え込んで、こう答えました。「ぼくを当てにしないように、イエス様に言っといて。」

孫がアロン神権を受けるころには、イエスが彼を頼りにしておられることを知るようになるでしょう。

今晚、主がアロン神権者を頼りにしておられる、3つの大切な点について考えてみましょう。

第1に救い主が皆さんを頼りにしておられる点は、皆さんを必要としている人々のために守り手となることです。

この近辺のある高校で、フランクという一人の知的障害を負った生徒が「評判のグループ」に自分も加わりたいと願っていました。彼らの後をついて回り、外からのぞいているばかりで、一緒にはしてもらえませんでした。

ある日食堂で、人気のある男女のグループが、フランクにテーブルの上に乗って、踊るようにそそのかしました。みんなを喜ばせられると思って、フランクはそうしました。おどおどしながら、体をくねらせ、回りました。周りの人間ははやし立て、手をたたき、笑いました。彼らが笑うのを、フランクは自分と一緒に笑っているだけだと思いました。

少し離れた所で、デーブは友達と一緒に食事をしながら一部始終を見ていました。彼は勇敢に立ち上がって、はじめの現場に行き、食いしばっていた口を開いてこう言いました。「もうたくさんだ。」デーブはフランクをテーブルから下ろし、「フランク、こっちで一緒に食事をしよう。」

救い主は皆さんを頼りにし、皆さんを必要とする人のために守り手となるように望んでいらっしゃいます。そのような人は至る所にいます。学校、近所、家族の中にいます。

20年たったある高校の同窓会で、一人の卒業生が、びっくりするような会話をかつての級友と交わしました。次

のようなものです。「この同窓会に来たのは、久しぶりにあなたと会って、お礼が言いたかったからなの。高校時代はつらいことが多かったわ。知らなかったかもしれないけど、あなただけが高校時代のわたしの友達だったのよ。セミナーの先生から割り当てを受けて、わたしに親切にしてくれているんじゃないかしら、って思っていたの。やっぱりそうだった？」

「まさか。そんな割り当て、受けるわけないわ。」

「気づかなかったでしょうけど、毎日わたしはあなたを捜していたの。言葉をかけてくれると知っていたからよ。自信を与えてくれたのよね。今は結婚して子供がたくさんいるけれど、こうなるまでに、あなたがいなかったらどうなっていたかと何度も考えたわ。それを伝えたくて。」

毎朝目を覚まして学校に行くのを怖がったり、教会の活動に行くことにさえそう感じたりする人々がいます。どんな扱いを受けるか心配するからです。皆さんには、彼らの生活を良い方に変える力があります。皆さんは神の神権者です。主は皆さんを頼りにして、彼らを啓発し、力づけるように望んでいらっしゃるんです。自分から目を転じて、皆さんの持つ人を助ける力について考えてください。家族の中にさえ助けられる人がいるかもしれません。

14歳のある姉妹がすっかりドレスアップして若い女性の活動に出かけようとなりました。当時彼女はまだまだ自分にあまり自信が持てない状態でした。恥ずかしさを抑えながらこっそりと入り口の方に忍び足で行き、兄のラッセルを訪ねて来た、居間にいる若い男性たちのだれにも気づかれなければいいと思っていました。ところが彼女は生活が変わるほどの力を与えられたのです。お兄さんが会話を中断して、友達全員の前で、こう言ったからです。「エミリー、今晩は何てかわいいんだ。」これは小さなことでしょいか。いいえ。「兄からの励ましと支えがなかったら思春期を乗り越えることができなかった」と述懐する若い女性は、何人もいます。

先月ソルトレーク・シティーで、同じアロン神権者のザッカリー・スナールが無残な死を遂げました。家族や友人が彼にささげたすばらしい弔辞の中に、自分がどんなに母親を愛しているか言わない日はなかった、というのがありました。家庭で示した、彼の明るく愛に満ちた性格は、かけがえのない思い出となって残っています。皆さんの母親は皆さんの守りを必要としています。アロン神権者たる者が、失礼で侮辱した言葉を母親に言って、罪を犯してはなりません。

聖文はこう教えています。人をののしり、思いやりのない、不親切な態度をとるときはいつも、「悪魔は笑い、悪魔の使いは喜んでいゝ。」(3ニーファイ9:2) また「天は退き去り、主の御霊は深く悲しむ。そして、主の御霊が退き去ると、その人の神権、すなわち権能は終わりである。」(教義と聖約121:37)

小さな親切くらい大した問題ではないと思うかもしれませんが、しかし、アルマはこう言っています。「小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられるのである。」(アルマ37:6) またこうもあります。「善を行うことに疲れ果ててはならない。あなたがたは一つの大きな業の基を据えつつあるからである。[皆さん自身が進行中の大きな業なのです。]そして、小さなことから大いなることが生じるのである。」(教義と聖約64:33)

次に救い主が皆さんを頼りにしておられる点は、メディアの中にはらんしている不道徳を避けることです。

サタンはメディアの中の悪によって、一部の末日聖徒の生活を脅かしています。大半の皆さんは性的に深刻な罪を犯してはいないと思いますが、しかしそうなるもおかしくない状況に自分を置いている人は多くいるでしょう。ある監督の報告によれば、彼のワードに集う若い神権者の霊的な水準は下降していると言います。個人面接によって知ったところによれば、多くの若者が準成人向きの映画を見ているそうです。どこへ見に行っているのか尋ねると、こう答えるそうです。「どこ

へも行きません。家で見ます。有線放送があって、親のいないときに、何でも見られるんです。」

父親の皆さん、家庭の中、特に子供部屋で見られる無防備な有線放送やテレビ番組を再検討する必要があります。

冒瀆、ヌード、性的行為、暴力などが人に悪い影響を与えないと考えるのは、おかしいことです。泥の中に転がって汚れない人がいるのでしょうか。

一部の若い末日聖徒が親たちと同様に準成人映画やそのたぐいの不適切なビデオをよく見ていることが、大きな不安材料になっています。ここにも「悪魔が笑い、悪魔の使いが喜んでいゝ」理由があります。

ほんの2、3か月前、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は主の預言者として、青少年と成人に向け、次のような明確な、誤解しようのない勧告を与えてくれました。

「……清くあってください。これを強調しすぎることはありません。清くあってください。これはきわめて大切に、皆さんの年代では絶えずこの誘惑に囲まれています。テレビでその誘惑があります。書籍や雑誌、ビデオにもあります。それらを借りないでください。手にしてはなりません。とにかく手にしないでください。見てはなりません。人から誘惑されて、一晚中卑しいなものを見るようにそそのかされても、こう言ってください。『そんなことはしたくありません。』どうかそのようなものから遠ざかってください……。」(コロラド州デンバー、青少年大会、1996年4月14日)

主と生ける預言者たちは皆さんを頼りにして、メディアの中にはらんしている不道徳を避けるように望んでいます。生ける預言者の勧告を無視したり、挑戦的な態度をとる人がいるなら、そのような人は危うい土台の上に立っています。

忘れないでください。ヨセフはポテバルの妻から不道徳な誘惑を受けたとき、「外にのがれ出」ました(創世39:12)。

誘惑はわたしたちの周囲にありま

す。現代ではインターネットの出現によって、誘惑がさらに増えました。メディアの世界に多くの建設的な面もありますが、否定的な面も多くあります。否定的な面に触れるのを許しておけば、悪魔とその使いが喜んでいゝ理由を、もっと多く与えてしまいます。

最後に、救い主が皆さんを頼りにしておられる点は、神殿に参入するふさわしさを身に付け、名誉ある伝道に出ることです。

わたしのある知人は、ここからあまり離れていない場所で育ちました。14歳になるころには身長が180センチを越えていましたが、体つきはまだしっかりしていませんでした。彼はこう語りました。「高校1年生になってセミナーのクラスに出席していたある日の午後、ほんとうに御霊を感じました。福音は文字どおり真実であると分かったのです。その日に、わたしはどのようにしても主に仕えたいと思いました。」

卒業前になると身長180センチは優に越え、体格も引き締まってきました。多くの大学が彼にバスケットボールによる奨学金の話を持ちかけました。最初の1年間は大学でプレーし、それからコーチに伝道に出るため2年間の休暇が欲しいと言いました。コーチはこう言いました。「今やめるなら、一つだけはっきりしていることがある。二度とチームのユニフォームは着られないということだ。」多くの人はバスケットボールを続けることが彼の使命だと思いました。家族の中にさえ、親も含めて、彼が伝道に出るのを止めようとする人がいました。しかし彼は固く決意していました。進んで主にすべてをささげようとしていました。奨学金も、ファンの喝さいも、プレーの興奮もそうです。主が自分に何をするように期待していच्छるのか、彼は知っていました。彼は召しを受け、名誉ある伝道を果たしました。

2年後に彼が帰還すると、身長はさらに伸び、体重も15キロ増えていました。コーチは前言を撤回しました。彼は再びユニフォームをまとい、最上学年になったときには地域大会で優勝し



たばかりか、全国大会の最終戦まで残りました。

主が使徒たちに与えられた戒めは「全世界に出て行って……福音を宣べ伝えよ」というものでした（マルコ 16：15）。

現代の預言者たちは、身体的、精神的に問題のない青少年はすべて、名誉ある伝道に出る備えをするよう教えてきました。「スケジュールに問題がなければ、気が向いたら、あるいは学業や進路・恋愛の妨げにならなければ、伝道に出なさい」とは、主は言われま

せんでした。福音を宣べ伝えるのは戒めであって、単なる提案ではありません。祝福であり、特権であって、犠牲ではありません。忘れないでください。たとえ伝道に出ないように大きな誘惑を受けている人々が皆さんの中にいたとしても、主とその預言者は皆さんを信頼しています。

わたしはこれまでにないほど、イエスがキリストであられることを知っています。これは主の教会であり、生ける預言者によって導かれています。主とその預言者たちは、次の点で皆さん

を信頼しています。

1. 皆さんを必要としている人のために守り手となること。
2. メディアの中にはんらんする不道徳を避けること。
3. 神殿に参入するふさわしさを身に付け、伝道に出ること。

皆さんの働きによってこの世がさらに良い場所となるように祈っています。それがわたしたちの仕事にほかならないのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。

正直———道德の羅針盤

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

正直とはうそをつかない以上のことです。それは真理を告げ、真理を語り、真理に生き、真理を愛することです。



愛する兄弟の皆さん、このすばらしい神権部会に多くの国々にいる多くの兄弟たちとともに集えるのは、まさに特権です。わたしたちは皆、愛する預言者であり、指導者であるゴードン・B・シンクレイ大管長が出席していることに感謝しています。シンクレイ大管長が、大管長に召されて以来、たくさんの国々で大勢の聖徒たちと会って祝福を授けてこられたことをだれもが喜んでます。大管長の靈感を受けた指導に感謝しています。わたしは、シンクレイ大管長やモンソン副管長、十二使徒定員会の会員、そのほかの中央幹部とともに働けることに、感謝の言葉もありません。これらの方々一人一人に心から尊敬と感謝の気持ちを抱いています。

兄弟の皆さん、わたしたちは皆、現在の社会、道德のハルマゲドンのような状態の社会について心配していま

す。わたしは、神の神権者のうえに及ぶその影響について心配しています。世の中には、善と悪を知らないような人や、それを気に留めないような人が大勢います。信仰箇条の第13節はだれもが知っていますが、強調するために言ってみたいと思います。「わたしたちは、正直、真実、純潔、慈善、徳高くあるべきこと、またすべての人に善を行うべきことを信じる。実に、わたしたちはパウロの勧告に従うと言ってもよい。わたしたちはすべてのことを信じ、すべてのことを望む。わたしたちはすでに多くのことを堪え忍んでおり、またすべてのことを堪え忍べるようにと望んでいる。どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば、わたしたちはこれらのことを尋ね求めるものである。」

わたしたちは皆、正直であることの意味を知る必要があります。正直とはうそをつかない以上のことです。それは真理を告げ、真理を語り、真理に生き、真理を愛することです。スイス人開拓者の息子、ジョンは、9歳のときに手車隊に加わり、正直の模範を示しました。彼の父親は、手車にバッファローの肉を積んで、日曜日の夕食のために取っておくように言いました。ジョンはこう話しています。「とても空腹で、手車を押すときに漂ってくる肉のすてきな香りに耐え切れなかった。わたしは小さなポケットナイフを持っていた。父親に見つかったら激しく鞭打たれることは分かっていたが、毎日少しずつ肉を切り取った。そしてわたしは肉が白くなって、まったく味がな

くなるまでそれをかんでいた。父は肉を取りに来たとき、少しずつ切り取っていたかどうか、わたしに尋ねた。わたしは答えた。『はい、おなかがぺこぺこで、我慢できなかったんです。』父はわたしをしかることも、鞭で打つこともせずに、横を向いて、目から涙をぬぐった。』

正直について率直に話したいと思います。正直は生活の中でわたしたちを導く道德の羅針盤です。若人の皆さんは、今後も急速に発展していく技術を学ぶという、大きなプレッシャーを受けています。しかし、この世の学問で抜きん出るといふ大きな圧力は、時として、もっと大切な正直や高潔さにおいても妥協するよう人々を誘惑します。

カンニングは自分を欺くことです。学校は学ぶためにあります。人の努力や学問の成果を楽しんで手に入れるのは、自分を欺くことです。

ある友人が次の話をしてくれました。彼女のご主人は医学部に通っていました。「医学部に入るための競争は熾烈で、良い成績を修めたいという願望は、新入生にとって大きなプレッシャーでした。わたしの夫は、一生懸命に勉強して、最初の試験に臨みました。その学校では無監督の試験制度が採られていました。教授は試験用紙を配ると出て行きました。間もなく、何人かの生徒が、机の下やポケットから小さなカンニングペーパーを取り出しました。そのような生徒たちと競うことの難しさを考えて、夫の胸は高鳴り始めました。そのとき、教室の後ろで背の高いひょろっとした生徒が立ち上がって言いました。『わたしは、故郷の町を出て、妻と幼い3人の子供をアパートの2階に置いて、医学校に入るために懸命に働いてきた。わたしは、最初にカンニングする者を突き出すつもりだ。本気でそうするからね。』皆信じました。多くの生徒がおどおどし、カンニングペーパーは出てきたときと同じ速さですぐに姿を消しました。彼はクラスに標準を定めました。結局そのクラスからは、学校創設以来最も多い卒業生が出たのです。』

生徒たちをいさめたひょろっとした若い医学生はJ・バラード・ウォッシュバーンで、やがて人々から尊敬される医者になり、後年、彼の傑出した働きに対して、ユタ州医師協会から特別功労賞が贈られました。彼は教会の中央幹部としても仕え、現在はネバダ州のラスベガス神殿で神殿長を務めています。

実際には、わたしたちは自分自身と競っているだけです。人からチャレンジや動機づけは受けられますが、わたしたちは自らの心の奥深くを探って、神から与えられた英知と能力を呼び起こさなければなりません。他人の努力に頼っているうちは、それができないのです。

正直は原則であり、この原則をどう適用するか決めるために選択の自由が与えられています。わたしたちには選ぶ自由がありますが、わたしたちはそれぞれの選びに対して責任を負うことになります。人はだませても、だますことのできない御方がおられます。『モルモン書』にはこうあります。「門を守る者はイスラエルの聖者である。聖者はここには^{しもべ}を使われない。またその門を通る以外に、ほかの道はない。そしてその御方を欺くことはできない。その御方の御名は、主なる神だからである。」³

わたしは戦争中の1942年に、合衆国陸軍の飛行部隊に入隊しました。ある寒い夜、イリノイ州シュノートフィールド基地で、わたしは一晚中、警備に就きました。自分の担当地域を見て回り、惨めな長い夜を過ごしなが^{めいそう}ら瞑想し、考えました。朝までに、固く決意したことが幾つかありました。わたしは婚約をしていましたが、自分の収入だけでは妻を養えないことを知っていました。その日か翌日に、わたしは士官学校の申請書を提出しました。それからすぐに、審査委員会に呼び出されました。資格はほとんどなかったのですが、2年間短大に行き、南アメリカで教会の宣教師を務めていました。

審査委員会で尋ねられた質問は、思いもかけない方向へ行きました。ほとんどすべてが、わたしの信仰に深くか

かわっていました。「たばこを吸いますか。」「酒は飲みますか。」「たばこや酒を口にする人をどう思いますか。」こうした質問に答えるのは、何の問題もありませんでした。

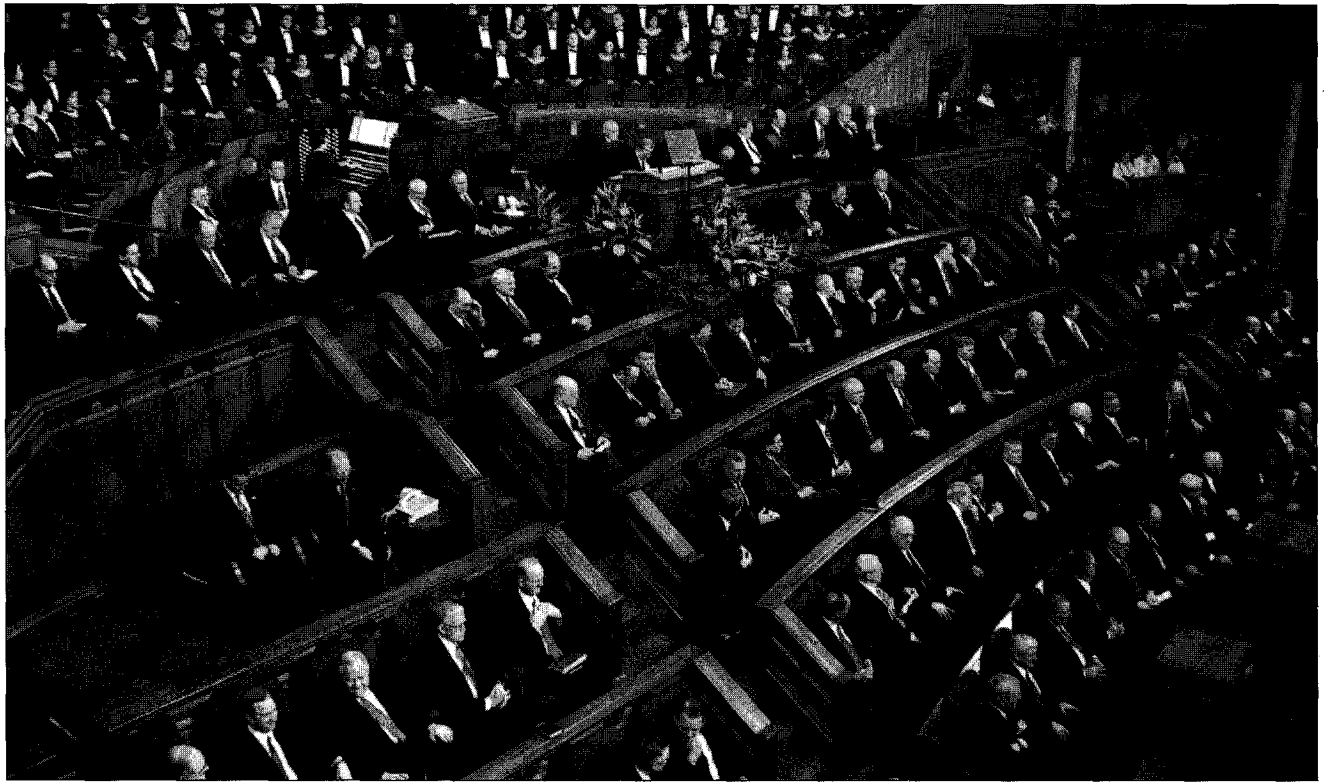
「祈りはささげていますか」「士官は祈るべきだと思いますか。」これらの質問をした士官は、百戦練磨の強者たちでした。頻繁に祈ってきた人には見えませんでした。わたしは考えました。もし信じているとおりに答えたら、気を悪くするかもしれない。わたしの心からの願いは、士官になって夜警や台所番、トイレ掃除から解放されることであり、そして何より愛する姉妹と

結婚できるようになることでした。

結局、ごまかすのはやめにしました。わたしは自分が祈ってきたことを話し、「士官は真に偉大な将軍たちがしたように、神の導きを求めるべきだと思います」と答えました。また、士官は部下を適切な行動に導けるように備えるべきであり、状況に応じて必要なら祈るべきだ、とも答えました。

さらに、次のような興味深い質問がなされました。「戦争中は、道徳への標準を緩めるべきだと思いますか。戦争により生じるストレスは、普通の状態で家庭にいるときにはしないことをしても、それを正当化できると思いますか。」





タバナクルの壇上。最上段、大管長会ならびに十二使徒定員会（モルモンユースコーラスの前方）。次の段が七十人会長会。それ以外の段には七十人、管理監督会、および補助組織の中央会長会（ここには写っていない）が席を占める。

ませんか。」

ここは恐らく寛大に考えて、ポイントを稼ぐチャンスだと思いました。この質問をした人々は、わたしが教えられてきた標準に従って生活してはいませんでした。一瞬考えたのは、自分の信じていることは話すが、人には押しつけたくはないと言うことでした。しかしそのとき、わたしが伝道中に純潔の律法を教えたたくさんの人々の顔が、さっと浮かんできました。最後にわたしは簡潔にこう答えました。「道徳に二つの標準はないと信じています。」

わたしは委員会を後にしたとき、これらの頑強な士官たちはわたしの答えが気に入らなかっただろうし、低い点数を付けただろうと思いました。しかし、数日後に結果がはり出されたとき、驚いたことに、わたしは合格していました。それも士官学校へ入る最初のグループでした。やがてそこを卒業したわたしは、少尉になり、愛する妻と結婚し、二人は「末長く幸せに暮らしました。」

これはわたしの人生の重大な転機の

一つでした。人生におけるすべての経験がわたしの望むようになったわけはありませんが、それらは、いつもわたしの信仰を強めてくれました。

あらゆる種類の盗みが世界中に蔓延しています。多くの人の考え方は、「捕らずに何ができるだろう」とか「捕らなければやってもいい」といった具合です。盗みには様々な形があります。万引き、車やステレオ、CDプレーヤー、ビデオゲーム、そのほか人の所有物を取ることで、仕事をさぼって雇い主から時間を盗んだり、雇用先の金銭や商品を盗むこと、税金を横領して政府から盗むこと、収入を偽って申告すること、返すつもりがないのに借りることなどです。盗みによって価値あるものを得た人はいません。シェークスピアは『オセロ』の中で、イアゴーを通じて偉大な真理を説いています。

「財布なら盗まれてもいい、大金であつてもたいしたことはない、自分のものがそいつのものになるだけの話です。どうせ金は天下の回りものですから。」

ところが名誉となると、盗んだやつにはなんの得にもならないのに、盗まれた方は大損です。」⁴

何か盗むことは、神権者にふさわしくありません。

道徳上の不正直は、神の神権の行使に相反するものです。事実、神権は、義の原則によってのみ行使できます。「いかなる程度の不義」であろうとも、不義によって行使すれば、神権の力は退き去ります。⁵ 両方を同時に持つことはできません。不正直になるなら、その人は自分自身を欺いているだけなのです。

真実を語るのにも、様々な段階があります。ささいなうそをつく人は、もっと重大なうそをつきやすくなります。人を欺くより、沈黙を保つ方がよいのです。真実をどの程度伝えるかは、わたしたちの良心にかかっています。『ダラス・モーニング・ニュース (Dallas Morning News)』紙のデビッド・カストブンスは1940年代にノートルダム大学でフットボールのセンターを務めたフランク・シマンスキーの話をしています。インディアナ州サウ

ス・ベレドの裁判所が、民事訴訟裁判の証人として彼を召喚した時のことです。

「あなたは、ノートルダム大学フットボールチームの選手ですか」と裁判長が尋ねました。

「はい、裁判長。」

「ポジションは？」

「センターです、裁判長。」

「どのようなセンターですか。」

シマンスキーはもじもじしながらも、はっきりと言いました。「わたしはノートルダム大のこれまでで最高のセンターです。」

傍聴席にいたコーチのフランク・リーは驚きました。シマンスキーはいつも控えめで謙虚だったからです。そこで審理が終わったとき、彼のそばに行き、なぜあのように言ったのか尋ねました。シマンスキーは顔を赤らめて言いました。

「言いたくなかったですよ、コーチ。でも、真実のみを話すと言誓しましたからね。」

今年の夏、ジョージア州のアトランタでオリンピックが開かれました。多くの選手が競技に勝つために練習を積んできました。わずか100分の1秒代の差が金、銀、銅のメダルを分け、コマーシャルに出て富を築く可能性をも分けました。

ある選手たちは、違反と知りながら、一時的に運動能力を高めるために禁じられた薬物を用いました。スポーツであれ、人生のゲームであれ、誤った方法に頼らず、自分自身の力で正直に達成する必要があるのです。

ある優れた運動選手の話をしてしましよう。立派な人格を備えた少年です。オリンピックに出たことはありませんが、自分と神に対して正直だったので、どのオリンピック選手にも劣らない榮譽を受けました。

これは、中学校の指導員が語ったものです。「今日はロープ登りのテストの日だった。立った位置から4.5メートルの高さまで登ることになっていた。[わたしの仕事は]、少年たちができるかぎり短時間でこの高さを登れるように教え、訓練することだった。

学校の最高記録は2.1秒で、3年間破られていなかった。今日それが破られた。……

中学3年生で14歳半の……少年、ボビー・ボラショーは、3年間この記録を破るのを夢見て、練習を重ねてきた。

3回の試みのうち最初は、2.1秒でロープを登った。タイ記録だった。2回目は、2秒フラットで時計が止まった。新記録だ。ボビーがロープを下りて来て、クラス全員が記録を確かめるために彼を取り囲んだとき、わたしはボビーに一つ聞かなければならないと思った。4.5メートルの高さにある板にタッチしたかどうかというかすかな疑問が心をよぎったのである。タッチしていないとしても、それは1センチにも満たない実にきわどいもので、ボビーだけがこの答えを知っていた。

彼が近づいて来たとき、何げなく尋ねた。『ボビー、タッチしたかい。』『はい』と答えれば、中学1年生のときから夢見て、毎日のように練習して目指してきた記録が自分のものになるのだ。そして、自分の言葉が信用されることも知っていた。

クラスの仲間がすでに新記録を喜んでいる中で、日焼けした細身の少年は首を横に振った。この単純な動作の中に、わたしは偉大なものを見た。……

……わたしはのどを詰まらせながら生徒たちに言った。『この少年はロープ登りの新記録は作れなかった。でも、もっとすばらしい記録を君たちや努力する人のために作った。ほんとうのことを話したんだ。』

それからボビーの方を向いて言った。『ボビー、君は立派だよ。多くの選手が達成できなかった記録を出したんだ。3回目には、踏み切りでもう少し高くジャンプするんだ。』

ほかの生徒たちが終わって、……ボビーの番になった。体育館は異常な静けさに包まれていた。50人の生徒とわたしは、息を殺して、ボビー・ボラショーがロープに挑むのを〔見守った。〕……1.9秒だった。これは校内や市内ではもちろん、恐らく全国の中学校でも、新記録に近いものであろう。

終業のベルが鳴って、わたしは外に

出た。……そしてこう思った。『ボビー、……君は14歳でわたしよりずっとすばらしい。今日、そこまで高く登ってくれて、ありがとう。』⁷

だれでも真理をあらゆる面で尊ぶなら、高く登ることができます。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は言いました。「盗み、人をだますことが悪であり、偽りはそれを口にする人の不名誉になることなどの真理を模範と言葉によって教えてください。」⁸

神の神権を持って行使するのは、すばらしい祝福です。わたしたちはこの神聖な業をかつてない速さで推し進める特権に浴しています。これまでに考えられなかった国々で、この教会は驚異的な発展を遂げています。兄弟の皆さん、自分自身とこの偉大な業に対して、正直で忠実であるなら、主は引き続きわたしたちを祝福してくださいます。この業の発展がその真実性を証しています。しかしわたしたち一人一人は御霊の賜物を通して自分の証を得ることができるのです。わたしにもそのような証があって、わたしの心の奥深くまで浸透しています。この神聖な業に携わるときに主の祝福がありますように、イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

注

1. リロイ・R・ヘーフエン、アン・W・ヘーフエン、*Handcart to Zion*『シオンに向かう手車隊』pp.189-190に引用
2. ジャネット・ヘイルズ・ベッカムとの談話による
3. 2ニーファイ9:41
4. 「オセロ」第3幕第3場、小田島雄志訳、白水社『シェイクスピア全集』4:274
5. 教義と聖約121:36参照
6. 教義と聖約121:37
7. *Especially for Mormons*『特にモルモンのために』スタンリー・ミラー他共同編、1:185-186
8. "Four Simple Things to Help Our Families and Nations" *Ensign*「家族と国の助けとなる4つの簡単な事柄」『聖徒の道』1996年

「模範となりなさい」

第一副管長

トーマス・S・モンソン

教会は現在、苦しむ者を救い、飢えた者を満たし、病気を防ぎ、治療し、また、困っている者に祝福をもたらすために、これまで以上の働きをしています。それでも、行うべきことはまだまだあります。



当 教会の総大会神権部会に集っているこれだけ多くの聴衆の皆さんを前にして、わたしは皆さんにお話しする責任を果たすに当たり、天父の助けを祈り求めずにはられません。

このところ、わたしは初期の使徒たちの教えを中心に、その召しや働き、生涯といったことを研究しています。それはすばらしい経験ですし、また、こうした研究により、人は少しでも主イエス・キリストに近づくことができます。

今晚、わたしが皆さんにお話ししたいことは、使徒パウロが愛する弟子のテモテに与えた奥深い勧告の言葉です。「言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。……内に持っている恵みの賜物を、軽視してはならない。……これらの事を実行し……なさい。」¹

兄弟の皆さん、わたしたちには学ぶ機会と、従う特権と、奉仕する義務とが与えられています。わたしたちの生きる今の時代には、支えを必要としている足、握ってあげなければならない手、励ましを必要としている精神、導きを必要としている心、救いを必要としている人々などが数多くいます。

例えば、^{じゅうぶん} 十分の一のことを考えてみましょう。十分の一を正直に納めることにより、人の心の中に、そのほかの戒めも守ろうという強さと決意が生まれます。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう言いました。「教会には大きな責任が与えられています。十分の一は、主が定められた数々のプログラムを推進するための財源となるものです。どのような場合でも、必要がごとく満たされるということはありません。神は、わたしたちがこの偉大な原則に従えるように助けを与えてくださいます。このすばらしい約束を伴う律法は神御自身が定められたものなのです。」²

マラキ書にはこう書かれています。「人は神の物を盗むことをするだろうか。しかしあなたがたは、わたしの物を盗んでいる。あなたがたはまた『どうしてわれわれは、あなたの物を盗んでいるのか』と言う。十分の一と、ささげ物をもってである。……わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万群の主は言われる。』³

わたしたちはだれであっても、十分の一を納めることが可能です。実際、わたしたちの中には、十分の一を納めるだけの余裕がないという人は一人としていないのです。主がわたしたちの決意を強めてくださいます。また、この戒めを守るための道を備えてくださるのです。

わたしが数か月前に受け取った1通の手紙は、その良い例です。少し紹介いたします。

「わたしたちは小さな町の郊外に住んでいます。隣人はわたしたちの所有する牧場を使って牛の飼育をしており、賃借料として、わたしたちが必要なものだけ牛肉をくれることになっています。ところが、新しい牛肉が手に入る度に、わたしたちの在庫の牛肉に多少余りが生じます。わたしたちは学生ワードに住んでいますから、上質の牛肉を喜んで食べてくれそうな学生のところへ持って行くことにしています。

妻が扶助協会の会長会で奉仕していたところ、その書記の姉妹のご主人はまだ学生で、二人の間には8人の子供がいました。ご主人のジャックはワード書記に召されたばかりでした。

妻は、どの学生が、余分の牛肉を必要としているかを知りたいと思い、いつも祈っていました。あるとき、彼女が、今回の牛肉はジャックの家族にあげたらいとと感じたと言ってきたとき、わたしは、そのことでジャックの家族が気分を害するのではないかとひどく心配しました。妻も同じ思いでした。ジャックの家族が非常に独立心の強い家族であるため、わたしたちは二人ともとても心配したわけでした。

数日後、妻から、『やはりジャックのところへ牛肉を持って行くべきだっと思うの』と言われ、わたしは気の進まないまま、妻に同行してジャックのところへ行くことにしました。二人でその牛肉を運んで行ったとき、妻の手は間違いなく震えていました。わたしの気持ちもひどく落ち着きませんでした。ドアを開けてくれた子供たちに、わたしたちの訪問の理由を告げると、子供たちはわたしたちの周りで踊り始めました。ジャック夫婦も控えめなが

らも、喜んでくれました。家まで車で帰る道すがら、妻とわたしは、ジャックの家族がわたしたちの贈り物を受け取ってくれたことで、気持ちも楽になり、幸せな気持ちになりました。

それから数か月後、わたしたちの友人のジャックは、証会で立ち上がり、次のような話をしました。彼の話では、自分の生涯にはいつも、^{あかしがい} 什分の一を納めることの困難さが付きまっていた、というのです。あれだけの大家族を養うために、稼いだお金はことごとく、家族の扶養のために使っていました。ところが、ジャックがワードの書記に召されて、ほかの人々が皆什分の一をきちんと納めている記録を見て、自分も納めなければという気持ちになったのです。そして、2か月間、きちんと納め、何事もうまくいっていました。しかし、その翌月は問題を抱えてしまったのです。彼の仕事は、仕事が完成しても、その給与の支払いは数か月後になるという仕組みになっていました。そのため、支払いまでには、家族のためのお金がひどく不足してしまうことが分かったのです。彼は妻と相談して、この問題を子供たちにも話すことにしました。もし什分の一を納めたら、その月の20日ごろには食料がなくなってしまう。しかし什分の一を納めなければ、次の給与の支払いまでは十分な食料が買えるのです。ジャックは、自分としては食料を買いたいと言ったところ、子供たちが什分の一を納めてほしいと言ったのです。その結果、ジャックは什分の一を納め、みんなで祈ることにしました。

什分の一を納めてから数日後、わたしたちがプレゼントの牛肉を持って現れたというわけです。その牛肉と、残りの食料があれば、次の支払いまで、家族は食料に不足することがなくなったのです。

この経験を通じて、わたしはたくさんのかことを学びました。例えば、妻の話には常に耳を傾けること、などです。しかし、わたしにとって最も重要だったことは、人々の祈りはたいいていの場合、ほかの人々の行いによってこたえられるということです。」



今晚の神権部会には、数千人の宣教師の皆さんが出席しています。わたしは、特にその宣教師の皆さんに一言お話をしたいと思います。わたしが伝道部長として奉仕をしていたとき、また十二使徒の一人として数千人の宣教師と面接をしていたとき、わたしは面接をした宣教師たちにいつもこう言っていました。「家に帰ったら、ぜひ3つの決意をしてください。」宣教師たちはどんな決意をすることになるのか何も知らないまま、熱意を込めて、わたしの申し出を受け入れます。その段階で、わたしは宣教師たちに、次のような勧告を与えました。

1. 自分の職業や専門のために、あるいは手に職をつけるために、十分な準備をしてください。自分の選んだ道で、できるかぎり最も優れた者となるよう努めてください。

2. ブルース・R・マッコンキー長老の言葉を引用してみましょう。「ふさわしい人と、[ふさわしいときに]、ふさわしい場所で、ふさわしい権能によって結婚してください。」⁴ここまでは、どの宣教師たちも「喜んでそうします」と答えます。そこで、わたしは次のような勧告を与えます。

3. 教会に活発に集い続けてください。こう言うと、宣教師の中にはげんな顔をして、答えるのに時間のかかる人もいます。そこで、わたしはこう

言います。「別の言い方をすれば、こうです。簡単に言うと、什分の一を納めなさい、ということです。」すると、皆例外なく「そうします」と決意してくれます。わたしは、正直に什分の一を納め続けていれば、間違いなく、引き続き教会に活発に集うことになる、心から信じています。

この什分の一についてはもう少し申し上げたいことがあります。今日は、マラキの預言の別の部分も採り上げてお話をしたいと思います。つまり、断食献金についてです。

断食献金という考え方は、すでにイザヤの時代に見られます。イザヤは、真の断食とは、という話の中で、断食をする人々に対して、「飢えた者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ」⁵るよう、強く勧めています。預言者ジョセフは、オハイオ州カートランドで、貧しい人々のために断食献金を集める制度を設立しました。その後、イリノイ州ノーブーでは、十二使徒定員会が、全教会に一般書簡を送り、「断食の原則」を次のように定義しました。「これをあらゆる聖徒たちに対する規範としてほしい。そうすれば、パンに不足する者は一人もいなくなるであろう。貧しい者たちが飢えているときには、持てる者たちから1日断食してもらい、自分たちが食べたと思われるだけのものを、貧しい人々のために監督に差し出してほしい。そうすれば、すべての人が長く恵まれるであろう。これが、主の認められた偉大で重要な断食の原則である。聖徒たちが、喜びの心と快活な表情とでこの原則に従って生活するならば、聖徒たちは、常に豊かに与えられることであろう。」⁶

現代の預言者たちも、この点については、同じように明確に述べています。ハロルド・B・リー長老は、次のような勧告を残しています。「それを考えると、わたしたちの側はわずかしき求められていないのに、福音の側で多くを約束してくれていることに気づく。例えば、バプテスマの儀式は、わたしたちに、罪の赦しと王国への入国許可、すなわち新しい誕生とをもたらしてく

れる。聖霊の賜物は、神会の御一方とともにいられる権利をもたらししてくれる。病人を癒す儀式は、信仰を持つ人に、特別な祝福を約束してくれる。什分の一を納めることにより、わたしたちの前に天の窓が開かれるし、断食をして断食献金を納めることによって、わたしたちが主を呼び求めるとき、主はわたしたちの叫びや求めを聞いてくださると教えられている。』⁷

リー大管長の後継者となったスペンサー・W・キンボール大管長は次のように言いました。「わたしたちは、すべての聖徒たちが、定期的に断食をし、与える立場にあるときには、断食献金をできるかぎり惜しみなくささげ、それによってもたらされる祝福に心を向けていただきたいと願っている。可能な場合には、抜いた食事の金額の数倍に相当する金額でも差し出していただきたい。」キンボール大管長は、さらにこう語っています。「断食献金を集めることは、重要〔な責任〕である。わたしは、執事であることは大変な荣誉であると考えていた。わたしの父は、いつも……心を配り、……わたしが断食献金を集めるのに馬車の使用を許してくれた。わたしの責任の範囲は、わたしの住んでいた町の一部ではあったが、それぞれの家まで歩くには、相当な距離があった。小麦の袋や果物の瓶、あるいは野菜やパンは、積み上げにつれて、どんどん重くなってくる。だから、馬車は非常に快適だったし、効率的でもあった。後に教会では現金を集めるようになったが、わたしたちの時代には、品物で集めていたのである。天父のために、このような奉仕の業をすることは、非常に大きな荣誉であった。時代が変わり、品物に代わって現金がささげられるようになったが、それでも、この奉仕に業に携わることは、大きな荣誉なのである。』⁸

今日集っている若い執事の皆さんの中には、馬車に乗って、断食献金を集めるのもなかなかいいものだと思う人もいることでしょう。

わたしは、自分がまだ年若い執事だったころのことを思い出しています。当時、断食安息日の朝には、わたしは、

ワードの一角を担当していました。小さな封筒を各家族に配り、献金が封筒に入れられるまでしばらく待ちます。そして、集めた献金を監督に渡すわけです。そんなある日曜日、年輩のライト兄弟という教会員が、玄関でわたしを待っていてくれました。年老いた手で、震えながら封筒を開けると、その中に25セント硬貨を1枚入れたのです。献金をするときのライト兄弟は、幾らか目を輝かせていたように思えました。ライト兄弟は、何年も前に、扶助協会会長のバームフォース姉妹が、ささげ物として集められた食料を携え、小さな赤い馬車に乗って彼の家までやって来て、食器棚にいっぱいの食物を運んで来てくれたこと、そして彼の心を感謝の思いで満たしてくれたことなどを、話してくれました。そして、バームフォース姉妹のことを、「まるで天から遣わされた天使のようだった」と言うのです。わたしはエディー・ライト兄弟のことを忘れたことがありません。

執事の皆さん、そして現在この神聖な奉仕の業に携わっている、そのほかのアロン神権者の皆さん。どうか、それが神聖な任務なのだということを知ってください。わたしが監督として管理していたあるワードで、ある朝、少年たちが集まりました。皆、まだ寝ぼけ眼で、服装もだらしく、しかも自分の責任を果たすためにそんなに朝早く起きなければならないことに、多少なりとも不満を持っている様子でした。別に非難の言葉が出たわけではありませんでしたが、わたしはその翌週、その少年たちをソルトレーク・シティにあるウェルフェアスクウェア（訳注——教会の福祉関係の施設などが集中して設置されている地域）のツアーに連れて行きました。彼らが最初に目にしたのは、足の不自由な姉妹が電話交換手として働いている姿でした。年輩の男性が品物を棚に積み上げています。女性たちが、分配される衣服を整理しています。目の不自由な人も、食べ物や缶詰にラベルをはっています。ここでは、一人一人が、自分の労働力を提供して、生活の糧を稼いでいるの

です。鋭い沈黙が少年たちを支配しました。毎月、神聖な断食献金を集めるために努力していることが、このような形で、困っている人々を助け、機会が与えられなければ怠惰に過ごしていたかもしれない人々のために雇用の機会を提供していることを、初めて目の当たりにしたからでした。

その神聖な経験をした日から、わたしたちは、断食献金を集めることに關して、少年たちに強く訴える必要はなくなりました。断食安息日の朝になると、午前7時には集まって来ました。日曜日用のいちばん良い服に身を包み、アロン神権者として喜んでその義務を果たしてくれるようになったのです。ただ単に、封筒を配り、集めているだけではなくになりました。飢えている人々に食料を配給し、住む家のない人々に住まいを提供するための、手助けをしていたのです。これらは皆、主の方法に従って行われました。少年たちの表情には、笑顔が頻繁に見られるようになり、足取りにも熱意が感じられ、心からの従順さを示すようになりました。恐らくは、今までとは違った太鼓の音に従って前進していけるようになったのです。恐らくは、昔からの金言をもっと深く理解できるようになったのです。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』⁹

わたしが住み、奉仕の業に携わっていた地域で、わたしたちは鶏舎経営の事業に携わっていました。教会の福祉事業の一環として、この活動は、おおむね効率的に行われており、何千ダースという新鮮な鶏卵と何百キロもの下ごしらえをした鶏肉とを監督の倉に供給していました。しかし、時折、ボランティアとして町で農業を営んでいると、手にまめを作るだけでなく、苦い思いをすることもありました。例えば、わたしが今でも忘れられない思い出があります。あるとき、わたしたちは10代のアロン神権の若者たちを、その鶏舎に集めて、春の大掃除をしようと企画しました。精力的で熱意にあふれた大勢の若者が鶏舎に集まりました。そして、実にてきばきと、大量の雑草を

抜き、ごみを集め、それを焼却しました。赤々と燃えるたき火の光のわきで、わたしたちはホットドッグを食べ、作業がうまくいったことでその成果を喜び合っていました。鶏舎が見事に片付いたからです。しかしながら、とても大きな問題が生じ、多大な損害を与えることになりました。騒音やたき火のために、数千羽のひ弱で神経質な鶏に悪影響を及ぼし、その結果、大部分の鶏が卵を生まなくなったり、羽が抜けたりしてしまったのです。それ以降、わたしたちは、多少の雑草が残っても、もっと卵を産んでもらう方がいいと考えようになりました。

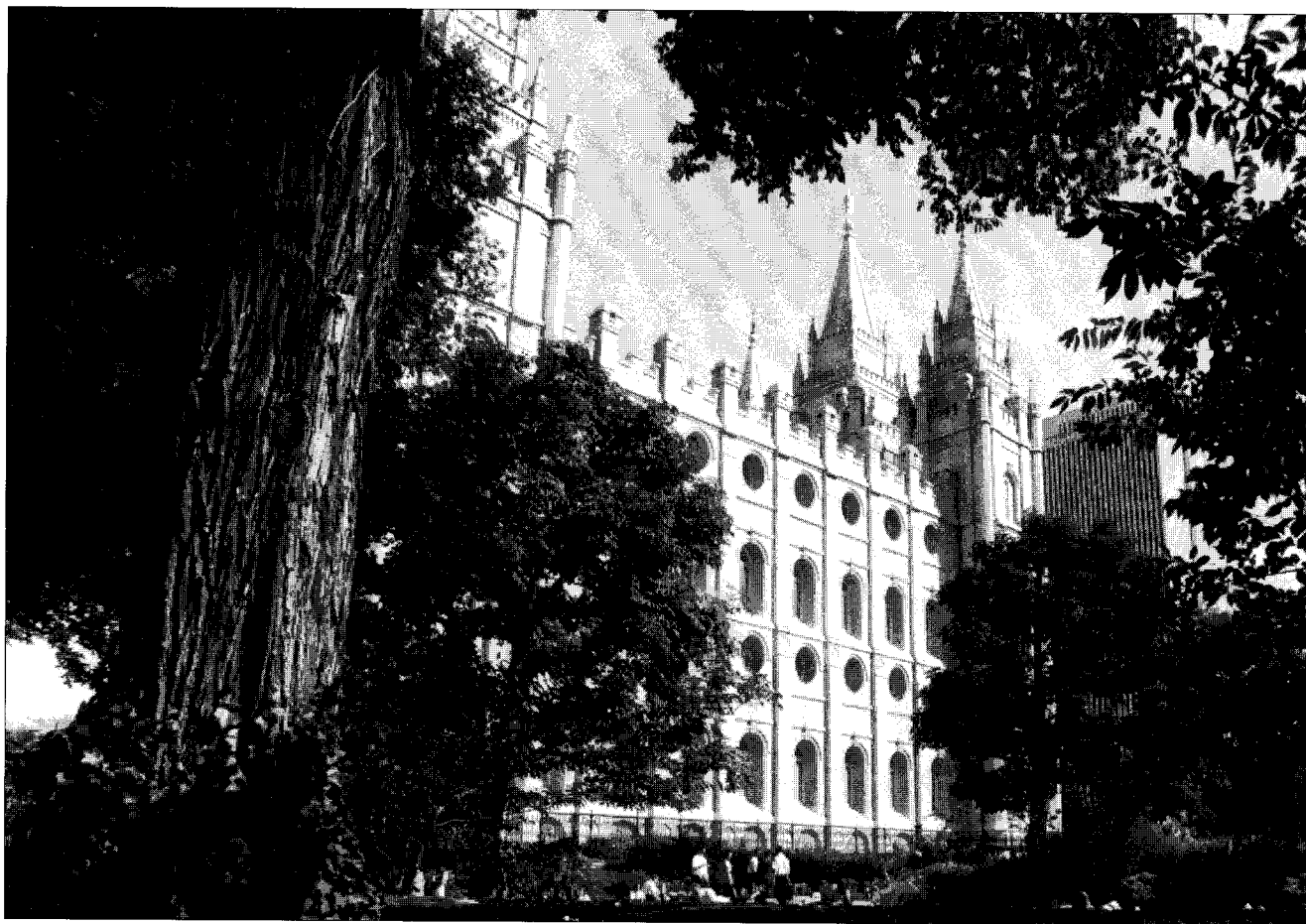
末日聖徒イエス・キリスト教会の会員で、福祉作業の一環として、豆の缶詰を作ったり、砂糖大根の先端を切り取ったり、干し草を運んだり、石炭を掘ったりした経験のある者なら、困っている人々を助けるために働いたそのような経験を忘れることも、後悔することはありません。献身的な大勢の

人々が、この靈感を受けた大規模な福祉計画の運営を助けています。しかしこのような福祉計画は、人々の努力だけに依存しては、決して成功しません。信仰により、主の定められた方法に従って運営されて初めて成功するのです。

兄弟の皆さん。皆さんや皆さんのご家族が、教会が世界中で行っている人道的な活動のためにも惜しみなく献金していることに対して、称賛の言葉を贈りたいと思います。わたしたちは、世界のどこであれ、自然災害、飢餓、病気といったものが発生した場合には、被災者の援助のために、必需品の提供を行っています。緊急用の食糧や衣服や仮設住宅や医薬品の提供により、苦しむ人には援助が、受ける人には平安が、そして与える人にも、主の約束された平安が、もたらされています。皆さんの惜しみない献金で支えられている様々な事業のおかげで、井戸が掘られ、今までそのような設備のな

かった人々のために汚染されていない水が供給されることで、健康と幸福とがもたらされています。小児まひのためにかつては歩けなくなっていたかもしれない子供たちが、歩いています。皆さんの献金のおかげでワクチンを供給することができ、そのような恐ろしい悲劇が防止されているからです。

皆さんがソルトレーク・シティーを訪れることがあったら、ぜひ、資材センターを訪ねてみてください。そこでは、何百万トンという衣料品が寄付として届けられ、分類され、荷造りされて、世界中の困っている人々のもとへ送られています。それだけでなく、我が国の近くにある貧困に苦しむ地域にも、同じように提供されています。ここで、預言者ジョセフ・スミス之言葉を思い起こしてみましょう。「神の愛で満たされている人は、自分の家族の祝福だけで満足することはなく、その思いを全世界に広げ、全人類に祝福をもたらしたいと思うようになる。」¹⁰



皆さんの大部分はホームティーチャーです。皆さんは、監督の目となり耳となって、貧しい人々や苦しんでいる人々を探し出す必要があります。これまでその務めをきちんと遂行してきた、注意深いホームティーチャーたちは、様々な光景を目にしてきました。就職したいと必死で努力する失業中の父親、小さな子供たちが苦しむのを見て困惑している母親、飢えのために泣

き叫ぶ子供たち、冬の寒さから身を守るための十分な衣服のない人々などがいました。あるときは、ベッドがないために家族全員が床で寝ていたということもありました。いずれの場合も、遅滞なく、必要な援助が行われました。

モーサヤ書に書かれているベニヤミン王の勧告を思い出してください。「そしてまた、あなたがたは自分自身でも、助けを必要としている人を助け、

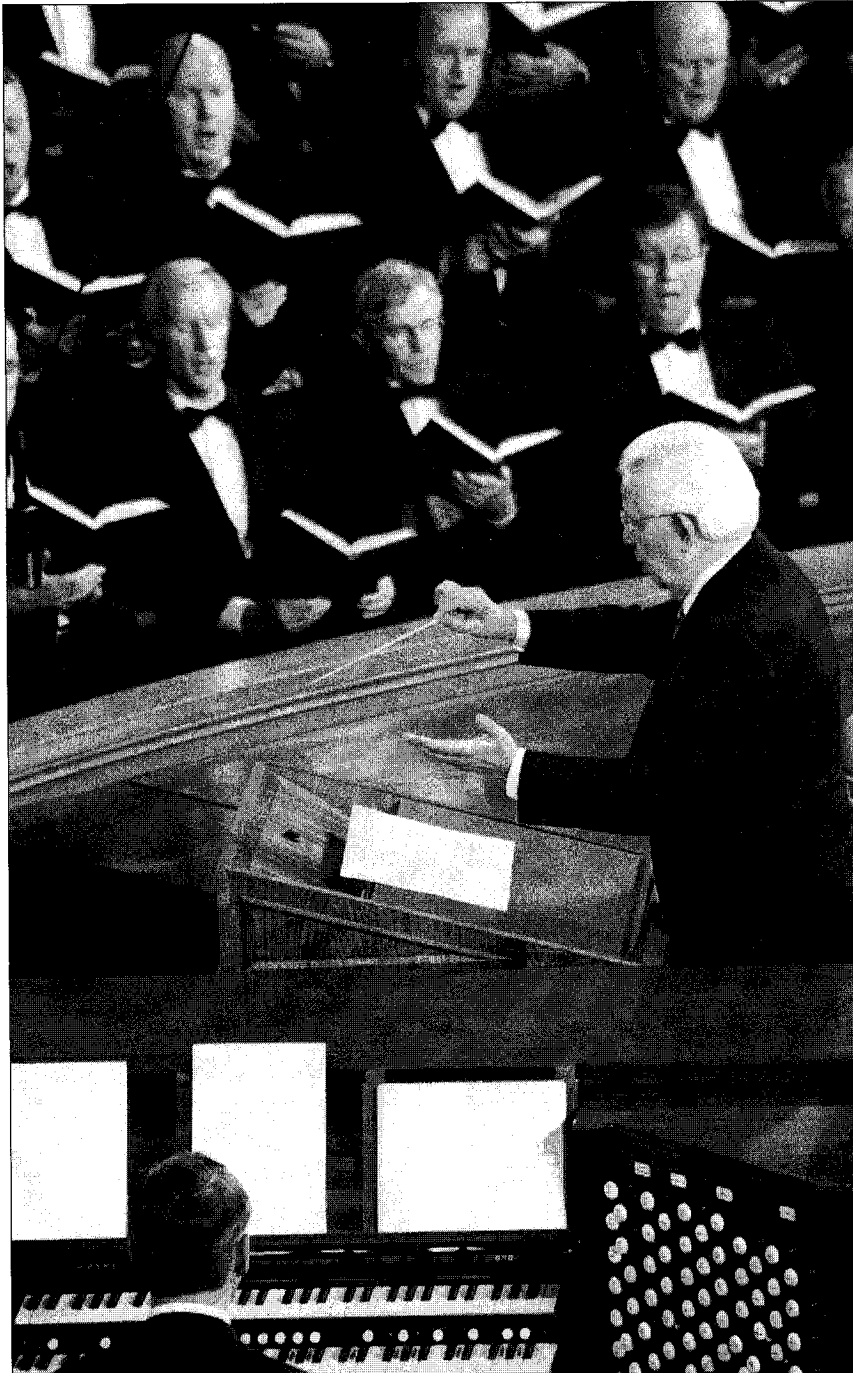
乏しい人に自分の持ち物を与えるであろう。また、物乞いがあなたがたにお願い願うのに応じないで、追い払って死なせるようなことをしないでであろう。」¹¹

幸いなことに、また喜ばしいことに、教会は現在、苦しむ者を救い、飢えた者を満たし、病気を防ぎ、治療し、また、困っている者に祝福をもたらすために、これまで以上の働きをしています。それでも、行うべきことはまだまだあります。

兄弟の皆さん、わたしの心からの祈りは、「言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい」¹²ということです。そうすれば、わたしたちは主の約束を受ける者となれることでしょう。「主なるわたしは、わたしを畏れる者に憐れみ深くかつ恵み深く、また最後まで義をもって真理にかなってわたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする。

彼らの受ける報いは大きく、彼らの栄光は永遠である。」¹³

イエス・キリストの御名により、アーメン。



日曜午後の部会で、モルモン・タバナクル合唱団を指揮するジェラルド・オトリー。

注

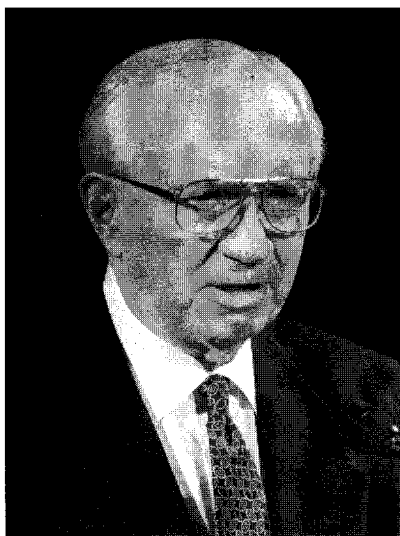
1. 1テモテ4:12, 14, 15
2. 『聖徒の道』1982年7月号, p.75
3. マラキ3:8, 10
4. *Mormon Doctrine* 『モルモンの教義』 p.118
5. イザヤ58:7
6. *History of the Church* 『教会歴史』 7:413
7. ハロルド・B・リー, *Stand Ye in Holy Places* 『聖なる場所に立ちなさい』 pp.366-367
8. *The Teachings of Spencer W. Kimball* 『スペンサー・W・キンボールの教え』 エドワード・L・キンボール編, pp.145-146
9. マタイ25:40
10. *Teachings of the Prophet Joseph Smith* 『預言者ジョセフ・スミスの教え』 ジョセフ・フィールディング・スミス編, p.174
11. モーサヤ4:16
12. 1テモテ4:12
13. 教義と聖約76:5-6

「それは、片すみで行われたのではない」

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

この教会、またその教義のこと、その会員のこと……について、はっきりと意見を言うのを躊躇する必要はまったくありません。この教会はまことの教会です。これは神の業です。



愛する兄弟の皆さん、こよい、わたしたちは、良い勧告を伺いました。

わたしは、去る4月に皆さんにお会いして以来、様々な地を訪問し、教会員の方々と会ってまいりました。わたしは自分に力のあるかぎり、出て行って、老若男女を問わず、愛する聖徒の方々にお会いしたいと思っております。わたしは、この数か月の間に17か国において、30万人以上の末日聖徒と集会を共にいたしました。海から海へ、合衆国内から、アジア、ヨーロッパへも旅しました。わたしは旅行は好みません。非常に疲れます。時差はわたしにとって深刻な問題です。しかし、いろいろな方にお会いし、忠実な末日聖

徒の皆さんと握手を交わすことに喜びを感じます。そして、それを可能にしてくださった人々に感謝しています。

わたしは、世界中を回り、報道関係者の方々からインタビューを受ける機会がありました。インタビューでは、どんなことを尋ねられるのか分かりませんから、気苦労が付き物です。これら報道関係者の方々は、才能豊かな人々で、鋭い質問をどのように浴びせたらよいかをよくわきまえています。それは楽しい経験ではありません。しかし、それは、世間の人々に教会のことについて話す機会を与えてくれます。パウロがフェストとアグリッパに言ったように、「それは、片すみで行われたのではない」のです（使徒26：26）。

わたしたちには、この世の人々に聞いていただかなければならないことがあります。そして、これらのインタビューは、それらについて語る機会を与えてくれます。

その最もたるものの一つが、CBS放送局の「60ミニッツ」という番組の、マイク・ウォレス氏によるインタビューでした。オーリン・ハッチ上院議員、ウィラード・マリOTT・ジュニア兄弟、スティーブ・ヤング兄弟もこのプログラムに出てくださいました。感謝の言葉を申し上げます。

去る、復活祭の日曜日に、何万という人がそのテレビ番組を見ました。この番組の編集者は、何時間にもわたっ

て撮影した内容を約15分にまとめました。

わたしは、ウォレス氏に対して深い尊敬の念を抱くようになりました。彼は有能な、専門家です。彼は丁寧で、丁寧、質問は単刀直入、タフで世慣れた経験豊富なりポーターと言われる一方、ほんとうの意味での紳士でした。

わたしは、およそ1年前に、ニューヨークのハーバードクラブにおいて、初めてウォレス氏にお目にかかりました。以来彼はソルトレーク・シティーを2度ほど訪ね、わたしのオフィスでかなりの時間にわたり、わたしにインタビューをしてくださいました。わたしは、今晚、このインタビューの模様の一部を読んでみたいと思います。それは、彼の質問と、わたしの即答を録音したもので、時間の関係で少し省略した部分と必要な箇所に括弧で言葉を補った以外は、ほとんど最初に収録したときのままの内容です。わたしがこれをするのは、幾つかの大切な事柄について、この教会の立場を再確認したためです。その大部分は、実際の放送には使われなかった資料を基にしています。

ウォレス氏の質問と、わたしの即座の受け答えです。

ウォレス氏「モルモン教会に対する誤った考えについて心配していますか。」

応答「わたしたちについて、いまだに、根強く繰り返されている様々な考えがあります。わたしたちは、よく知られてはおりません。わたしたちは、〔おもに〕西部で成長しました。この教会の発祥地は、ニューヨーク州のバルマイラです。モルモンが西に移動したことはお聞きになったことがあるでしょう。……わたしたちは、そこで、およそ300から400の共同社会を設立しました。……わたしたちが、どのような民で、何を達成しようとしているか、人々に理解していただけるようになればと、思っています。」

ウォレス氏「家族や家族の中における女性の立場について、あなたの意見と、教会の中で指導者的な位置を求めている女性たちの意向で、何か対立し

ていることはありませんか。」

応答「『女性も神権を持つべきだ』と考えている女性も多少はいます。教会にはすばらしい女性の組織があります。それは世界でも最大の女性の組織だと思います。その女性組織は扶助協会と呼ばれています。扶助協会には、組織全体を統轄する、役員たちがいます。彼女たちは、女性を対象としたすばらしい教育プログラムを進展させています。彼女たちは幸せであると思いますし、非常に立派な働きをしています。……」

ウォレス氏「第二次世界大戦以来、わたしたちは崩壊の一途をたどっているように見えます。人は利己的になり、自分のことしか考えず、地域社会のことを考えることも少なくなったようです。家族はあまり大きな意味を持たず、道徳は『めちゃくちゃ』〔ウォレス氏の言葉を借りました〕になってしまったようですが、その原因は何でしょうか。」

応答「根本的な失敗は、家庭にあります。親たちが自分の責任を果たしていないからです。それは明らかです。国家が、家庭の持つ力以上に、強くなることはありません。もし国家を改革したいと思うなら、家庭から始める必要があります。そこでは、親たちが建設的かつ肯定的な原則や価値観を子供たちに教え、やりがいのある働きへと子供たちを導くことから始める必要があります。米国で起こったのはその基本的な点での失敗です。わたしたちは、家庭のきずなをもっと強めるために、非常な努力をしています。親として、この世において、子供を正しく育てることほど、大きな責任はありません。それに、後になってその子供たちが誠実で正直な人になり、何かをやり遂げるのを見ることほど、大きな喜びをもたらしてくれることはほかにありません。……」

ウォレス氏「あなたの教会には、健康に関する非常に厳しい規定がありますが、なぜ、それが宗教の一部なのか。」

応答「体は御霊の宿る宮です。体は神聖なものです。それは神の形に創造

されました。肉体は大切にすべきものであり、正しい目的のために用いなければなりません。健康管理をよくする必要があります。それがわたしたちが『知恵の言葉』と呼んでいる健康に関する規定であり、健康管理に非常に役立つものです。」

ウォレス氏「特に、モルモンでない者にとって、あなたがたの教えは、一致と厳格な行動を要求します。そのような不平をよく耳にしますが。」

応答「そうですね。そのようなことを耳にされることがあるかもしれませんが。しかし、わたしはそうは思いません。それは、事実ではないと思います。教会員は非常に自由です。彼らには、自分の好きなように生きる自由があります。」

ウォレス氏「そうですね。」

応答「もちろん。確かにそうです。彼らは自分で選ばなければなりません。それは、黙示録にある、天での戦い以来、ずっと行われてきている、永遠の戦いです。すなわち、悪の力に対する善の力です。何を選ぶにしても、わたしたちは皆、選択の自由を行使しているのです。」

ウォレス氏「教会には道徳上の規定もありますね。」

応答「わたしたちは、婚前の純潔と、既婚後も完全な貞節を守るべきであると信じています。要約するとそういうことになります。それは幸せな生活への道です。また喜びへの道でもあります。それは心に安らぎを、そして家庭に平安をもたらします。」

ウォレス氏「わたしたちが話した学生たちの中には、健康に関する規定は、婚前の性交渉を禁止する規定に比べたら、比較的、易しいと言います。……禁煙、禁酒ははっきりした線があるが、性に関する制限は、何というか……〔つまり〕はっきりしていない人がいるようですが、どのような制限があるのでしょうか。」

応答「彼らは知っていると思います。この教会で育った若人ならば、どういう制限があるか、知っています。もし自分が過ちを犯したならば、自己鍛練から始めなければなりません。それが、

重大な問題である場合は、主に相談します。それについて神に相談します。主とその重荷を分かち合うのです。主は力を与えてくださいます。助けてくださいます。彼らにはそれが分かっています。わたしは、彼らがそのことを理解していると確信しています。」

ウォレス氏「教会を管理運営しているのが男性だけであるという理由をお聞かせください。」

応答「『男性』のみが教会を運営しているわけではありません。確かに教会には男性独自の責任があります。男性は神権という職を受けています。しかし、この教会では女性が非常に重要な役割を担っています。女性には女性独自の組織があります。それは1842年に預言者ジョセフ・スミスによって始められたもので、扶助協会と呼ばれています。その最初の目的が困っている人々を助けることにあったからです。それは、世界最大の女性のための組織に成長し、その会員は300万人を超えていると思います。同組織には独自の役職があり、会長会があり、管理会があります。世界のどこに行っても、教会の最小のユニットに至るまで、その組織の構造はまったく同じです。」

ウォレス氏「しかし、彼女たちには力がありませんね。」

応答「彼女たちには任された務めがあります。責任があります。彼女たちは自分たちで、自分たちの組織を管理監督しているのです。」

ウォレス氏「しかし、あなたがそれを運営するのでしょうか。運営するのは男性でしょう。つまり、わたしはが言いたいのは……。」

応答「男性は神権を持っています。それは確かです。しかし、わたしの妻はわたしの伴侶です。この教会では、男性は、奥さんの前に立って歩くのではなく、後ろを歩くのでもなく、並んで歩いています。夫と妻は、偉大な業であるこの人生においては、同等の存在です。」

ウォレス氏「モルモンの人はなぜ大勢の子供を持つのでしょうか。」

応答「わたしたちは、家族の人数を規定していません。それは、父親と母

親、夫と妻に任されています。教会員は、家族を育てることを、人生で最も重大な責任と考えるように期待されています。」

ウォレス氏「モルモン教の始まりは、カルトであると言う人がいます。それはあまり耳にしたくないことではないでしょうか。」

応答「それがどういう意味なのかよく分かりません。しかし、それに否定的な意味があるとするならば、この教会に当てはまるものではないと思います。それを当てはめようとした人があるかもしれません。教会の設立当初、そうしようとした人があるかもしれません。しかし、どうでしょう。今では立派な教会になっています。米国内においては、当教会より会員数の多い教会は、6つしかありません。カリフォルニア州においては、当教会は、会員数からして2番目です。わたしたちは世界中に広がっています。150か国にわたっています。この教会はすばらしい教会です。堅固で、非常に大きな影響力を持つ、活力に満ちた組織です。……教会員は、企業で、また教育や政治、行政などあらゆる分野で活躍しています。わたしたちは〔むしろ〕、立派な働きを目指しているごく普通の人間です。」

ウォレス氏「モルモンとしての生活を続けるのには随分お金がかかりますが。」

応答「そんなことはありません。わたしたちは主の^{しゅうぶん}の律法に従っているだけです。」

ウォレス氏「しかし、総収入の10パーセントを教会に出し、そのお金がどう使われるのか、関与の余地がないですね。ごく平均的なモルモンについて言っているのですが。」

応答「平均的なモルモンはかなり関与しています。当教会の会員なのですから。……」

ウォレス氏「しかし、お金がどのように使われるのかについては、まったく関与していませんね。」

応答「その人がもし、監督であるならば、自分のワードの出費について責任があります。什分の一の多くが地元

のユニットに戻ってきます。そのお金はどのように使用されると思いますか？ それは教会の目的達成のために使われているのです。」

ウォレス氏「教会の目的とは具体的にどんなことでしょうか。」

応答「礼拝堂の建設はその一つです。1年に約375の建物です。考えてみてください。増大していく会員数の必要を満たすために毎年新しい建物が必要なのです。お金は教育にも使われます。わたしたちは、ブリガム・ヤング大学という、2万7,000人の生徒を擁する、教会経営の世界最大の私立大学をはじめ、そのほかの学園も所有しています。また非常に規模の大きなインスティテュートプログラムも行っています。そのプログラムでは、アメリカ国内の多くの大学において、キャンパス外のクラスを設けています。インスティテュートは、カリフォルニア・ロサンゼルス大学、南カリフォルニア大学、ハーバード、エール、プリンストン、ニューヨーク大学、マサチューセッツ大学、マサチューセッツ工科大学など数多くの大学で実施されています。」

教会の財政については、すべての基金について慎重な監査が行われます。公認会計士から成る監査員のグループがあって、彼らは、教会のほかのあらゆる機関から独立しており、彼らは大管長会のみに報告します。わたしたちは細心の注意を払うよう努力しています。わたしは、机の後ろの戸棚に、『やもめの硬貨』を置いてあります。それは、何年前かに、エルサレムで人から頂いたもので、わたしたちが取り扱わなければならない基金が神聖なものであることを常に思い起こさせてくれます。什分の一は夫に先立たれた人からも来ます。什分の一は裕福な人だけでなく、そのような女性からのささげ物でもあるのです。ですから、それは、主の御業^{みわざ}のために、注意をもって慎重に使用されなければなりません。わたしたちは、それを慎重に扱い、管理しています。そして、主の御業の建設のため、また人々の成長のために、主の御心^{みこころ}と思われることのためにそれが使用されるように、最善の努力をし



ています。

ウォレス氏「若い男性および女性が、宣教師として2年間奉仕をするそうですね。」

応答「若い女性は18か月間働きます。その仕事は努力を要する難しい仕事です。ニューヨーク、ロンドン、あるいは東京などへ行くと、ドアをたたき、今まで会ったこともない人と顔を合わせるのには容易なことではありません。しかし、それはその本人にかなり良い結果をもたらします。2、3の例を挙げてみましょう。まず、主に頼る精神を築きます。〔若人の心に〕力と能力を築きます。その人が外国へ行った場合、その国の言語をよく使えるようになります。その国の人々の言葉を話せるようになります。宣教師はどこへ行こうとも、奉仕していく中で、その地の人々を理解するようになり、その人々の文化や習慣を学び、また彼らの置かれている環境に対する認識と敬意をもって帰って来ます。そのような例はほかには見られません。考えてください。現在、およそ5万人が働いています。そして、宣教師は絶えず、入れ替わっています。その結果として、何千、何万という人々の生活に影響を及ぼしています。……あなたと一緒に、ソルトレーク・シティの町を歩いたとして



土曜午後の部会で聖歌隊に参加した初等協会の子供たち。中央幹部に支持の表明をしている。

みましょう。日本語、中国語、スウェーデン語、ノルウェー語、フィンランド語、スペイン語、ポルトガル語を上手に話す人に出会います。その人たちは皆、自分がかつて宣教師として働いた国の人々に対して愛を抱いています。」

ウォレス氏「教会の会員たちが、1年分の食糧や衣類、燃料を蓄えるように求められる理由は何でしょうか。」

応答「わたしたちは、生活の一原則として、自立を教えています。すなわち、自分の生活に必要なものは自分で賄うのです。ですから、万が一の場合に備えて、できることならば、何がしかのものを用意し、予測を立て、ある程度の食糧を手もとに置き、貯金をするように、勧めています。失業、病気などの災いは、時として、まったく予期していないときにやって来ます。わたしたちは、人はそれぞれ自分でできる限りのことをしなければならない、と教えています。自分自身のすべてを使い切ったら、次は自分の近親に援助を求めるべきです。もしその援助が得られない場合は、それに代わって教会が援助します。それをする場合、教会が強く求めるのは、その人の当面の必要を満たすことと、その後も助けが必要なかぎり援助を施すことです。しか

し、その過程において、その人が、訓練を受け、職を見つけ、再び自立できる方法を見つけられるように助けていきます。それが、このすばらしい福祉プログラムの目的のすべてです。」

ウォレス氏「ソルトレーク・シティーはどうしてこんなにきれいなのでしょうか。」

応答「そうですね。それは、ここに住んでいる人々の意識の表れだと思います。」

ウォレス氏「ソルトレーク・シティーを歩いてみて驚きました。」(彼はニューヨーク・シティーから来たばかりでした。)

応答「いつまでもそうあってほしいと思います。それには、ある程度この教会の教えも反映されていると思っています。この街の中心であり、中核でもあるこのテンプルスクウェアの美しさを見てください。壮大な神殿やあのすばらしいタバナクルを見てください。文化、教養、芸術的才能を備えた人々によって、ビジョンをもって建てられたものです。口先だけの人たちによるものではありません。美を追求する、偉大なビジョンを持った人々の働きなのです。」

ウォレス氏「大管長、モルモン教徒は、あなたのことを『生けるモーセ』

と呼び、イエスと文字どおりの意味で意思の疎通をする、と言っていますが、それはどのようにして行うのですか。」

応答「まず、申し上げますが、当教会には、すばらしい歴史の積み重ねがあります。……教会としての方針を指し示す預言、啓示、……そして様々な決定の歴史の積み重ねがあるのです。それがあつために、何か特別な啓示を必要とする問題がいつも繰り返して持ち出されるということはありません。しかし、時として、主の御心を伺わなければならない場合が出てきます。そのような場合、そのプロセスを説明し得る最良の方法は、列王記上に載っているエリヤの経験にたとえてみるのだと思います。エリヤは主に語りました。すると大きな強い風が吹きました。しかし、主は風の中におられませんでした。風の後に地震がありましたが、地震の中にも主はおられませんでした。地震の後に火がありましたが、火の中にも主はおられませんでした。火の後に静かな細い声が聞こえました。その声こそ御霊のささやきです。はっきりと申し上げますが、神に関することは、神の御霊によって理解されるのです。そして人はその御霊を求め、自ら受け、またはぐくまなければなりません。そうすると、それが分かるようになるのです。それは真実のことであり、わたしは、それについて証を持っています。」

ウォレス氏「あなたの教会が随分積極的に布教を進める理由は何でしょうか。あまり歓迎されない所や、招かれない所にも、宣教師を訪問させるのはどうしてでしょうか。」

応答「『全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ』(マルコ16:15)という主の御言葉はまさにその言葉どおりの意味である、とわたしたちは信じております。そして、その戒めを信じています。それを成就する責任が自分たちにあると思っています。そのために、全エネルギーと手段をもってそれを行っているのです。」

ウォレス氏「モルモンでない人々のことをどのように見ておられますか。」

応答「彼らに愛と尊敬の念を抱いています。わたしにも、モルモンでない友人が大勢います。わたしは彼らを尊敬しています。ほんとうにすばらしい人だと思っています。」

ウォレス氏「彼らがまだ真理を見いだしていなくてもですか。」

応答「そうです。教会の会員でない方々に対して、わたしは、皆さんがご持ちの徳と善のすべてをよく認識していると申し上げたいと思います。それらを携えてわたしたちのところにしてください。わたしたちはそれらに加えて、さらに善いものをお伝えしたいと思います。」

ウォレス氏「ブリガム・ヤングについてお聞きしたいのですが。」

応答「ブリガム・ヤングは預言者にふさわしいビジョンを持っていました。今日この辺りの地域を御覧になって、そのことを疑える人がいるでしょうか。そういう人はいないと思います。この教会においてはいつもそうです。この教会は啓示によって導かれてきました。わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべてのこと、神が今啓示されるすべてのことを信じています。またわたしたちは、神が今後も、世界中の神の息子や娘に祝福をもたらすために、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じています。」

ウォレス氏「御存じのように、懷疑的な人の中には、教会の方針に関する重要な変更は、政治的な圧力から来たもので、必ずしも神の啓示から来たのではない、と言う人がいます。例えば、一夫多妻をやめさせたのは、啓示ではなく、ユタが州になるのを望んだからだ、と懷疑論者は言っています。」

応答「預言者としての使命の一つは、主の知恵と御心を求め、主の民にそれを教えることにあります。イスラエルの子供たちをエジプトから導いたときのモーセがその一つの例です。人々が圧力や苦難に陥ったときの、『旧約聖書』の預言者たちもそうでした。人々が直面している問題について答えを与えるのが預言者の使命です。それは今も行われていることです。わたしたち

はそれを現実^{きざ}に目の当たりにしています。それを方便とか、政治的便法と捕らえるでしょうか。違います。それとも靈感による導きと捕らえるでしょうか。そのとおりです。」

ウォレス氏「大管長、モルモン教会において、子供への虐待は大きな問題となっているでしょうか。」

応答「あまり大きな問題になっていないと思います。……それは深刻な現象で、世界中に見られる問題です。それは由々しいことであり、邪悪な行爲です。それは、非難されるべきことです。それについては、わたしもこれまで何度か話してきました。」

ウォレス氏「それを減らすために何をなさっていますか？」

応答「できる限りのことをしています。教会員にも教えています。それについて話し合いもしています。世界中の監督たちのために指導要領も定めています。去年も一年中、一つの教育プログラムを行ってきました。この問題に対処するために、電話による相談窓口も設けて、専門的なカウンセリングが受けられるようにしています。わたしたちは、子供の虐待、伴侶^{はんりやう}の虐待、老人の虐待、虐待全体について扱った刊行物を出しています。この問題には関心を持ち、被害者の方々について心配しています。その方々に同情いたします。苦しみをできる限り和らげ、そのような悪が再び起こることのないように、できる限りの努力をしています。この世の中で、これほど徹底的な対策を講じ、熱心に努め、この問題の解決に取り組み、行動している組織は、ほかにないと思います。この問題の重大性はよく分かっています。この問題で苦しむ人々に手を差し伸べて、助けたいと思っています。」

ウォレス氏「ある社会学者は、この問題の根は、あなたの教会においては、男性が女性よりも権能を持っているために、監督などが、虐待される側にではなく、虐待する方の男性に同感しがちな点にあると指摘していますが。」

応答「それはあくまでもその人個人の考えだと思います。あまり根拠がない意見だと思われます。この教会の男

性、この教会の監督、この教会の役員は、教会の女性の福祉について、教会の男性や教会の子供たちのことと同様に、関心を持っていると思います。そのことについては、何のためらいもなくそう申し上げることができます。それについて確信を持っています。わたしは長い間にわたり様々な経験を積み重ねてきました。わたしはこの教会のことを一から十まで知っています。何もかも知っています。わたしは85歳になり、これまでの人生を教会とともに生きてきており、教会がどのように機能を果たすか知っているつもりです。教会員の物の考え方についても分かっています。問題や過ちがあちらこちらに生じることは確かです。しかし、総体的に見て、この御業はすばらしいものであり、多くの正しいことがなされてきており、女性や子供たちの福祉についても、男性の福祉と同じように真剣な取り組みがなされています。」

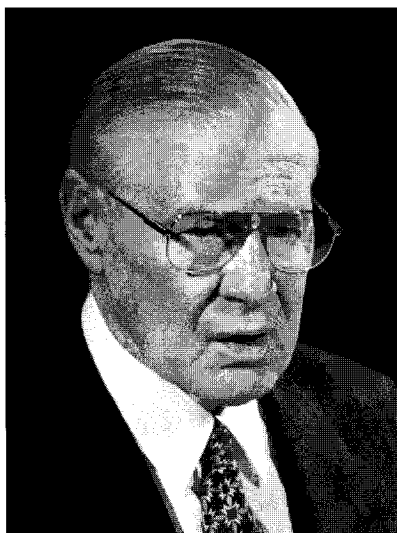
兄弟たち、時間の関係で、わたしのインタビューについてはこれくらいにします。言うまでもないことですが、わたしたちはほんとうに主から祝福されています。さて、最後に申し上げます。この教会、またその教義のこと、その会員のこと、その神聖な組織のこと、また神から与えられた責任などについて、はっきりと意見を言うのを躊躇^{ちようちよ}する必要はまったくありません。この教会はまことの教会です。これは神の御業です。この御業を辱める唯一のものは、会員たちがその教義や標準に添った生活をしないことです。ということは、わたしたち一人一人に、大きな責任が課せられているということです。世の人々は、わたしたちの行いを見て、この御業を判断します。神が、わたしたちに、信仰を持って歩む意志、またいついかなる場合でも、正しいことを行おうとする自己訓練、自分が接するすべての人々の前で、自らの生き方を通してこの御業について宣言しようとする決意を与えてくださいますように。イエス・キリストの御名によりへりくだり、お祈りいたします。アーメン。

「女よ、 なぜ泣いているのか」

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

救い主の復活や^{あな}贖いを信じる信仰の深さが、どれほどの勇氣と目的をもって人生の苦難に立ち向かえるかを左右すると思います。



兄弟姉妹、友人の皆さん、^{きょう}今日、皆さんにお話しする責任を果たすに当たり、皆さんの信仰と祈りを心からお願いいたします。今日わたしは、悲痛な苦難に直面している方々にお話ししたいと思います。苦しみや悲しみ、悩みを抱えておられる方々、肉体的、精神的、情緒的苦痛を味わっている方々、先天あるいは後天的な身体の障害を持つ方々、生まれながらに目が不自由で、夕日を見ることができない、あるいはできなくなってしまった方々、鳥のさえずりを聞くことができない、あるいはできなくなってしまった方々、精神的、身体的障害を持つ人々の世話をしている方々にお話ししたいと思います。また、大きな背きを犯していると感じている方々にお話ししたいと思います。

わたしの話の主題は、救い主が、「墓の外に立って泣いていた」マгдаラのマリヤに語った言葉です。マリヤが振り向くと、そこに「イエスが立っておられるのを見」ました。「しかし、それがイエスであることに気がつ」きませんでした。

イエスは女に、「女よ、なぜ泣いているのか」²と言われました。主は、悲しみに打ちひしがれたマリヤにだけ語られたものではありません。主はわたしたち、すなわち男女、子供を問わず、これまでこの世に生を受けた、またこれから生を受けるすべての人々に語っておられます。なぜなら、悲しみ、苦しみ、あるいは悔恨の涙は、人類共通のものだからです。

この世の人生の複雑な問題は、時として過酷であり、わたしたちはどうしたらよいか分からなくなることがあります。豊かに恵まれている人もいれば、わずかなものしか持たずに苦勞している人もいます。

世界中で教会の忠実な会員に会えることは喜びです。困難やチャレンジがあり、物質的な富に欠けているにもかかわらず、大きな幸せを見だし、人生の荒波を乗り越え、信仰を持って歩む人々がいます。そのような人々に会うとき、わたしたちの信仰は強められます。

「人生は公平ではない」と考える人の多くは、救い主が^{あな}贖いや復活を通してわたしたちのためになされた事柄に対する大きなビジョンを持って物事を見ていないのです。人にはそれぞれ、

苦悩、心痛、失望の時があり、そのようなときこそ、ヨブのように、わたしたちの心の最も深い所にある信仰を探り出さなければなりません。救い主の復活や贖いを信じる信仰の深さが、どれほどの勇氣と目的をもって人生の苦難に立ち向かえるかを左右すると思います。

よみがえられた主が弟子たちに語られた最初の言葉は、「安かれ」³でした。また主は、「この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を受ける」⁴と約束されました。贖いと復活が起きました。主なる救い主は、ゲツセマネであの恐るべき苦しみを受けられました。主は十字架につけられ、そして死の縄目を断ち切ることにより、究極の犠牲を払ってくださいました。

わたしたちは皆、贖いと復活というこの上ない祝福にあずかります。その力によって、わたしたちの生活の中で癒し^いが起きるのです。苦しみは、救い主が約束された喜びに変わります。イエスは、疑いの心を持ったトマスに、「信じない者にならないで、信じる者になりなさい」⁵と言われました。信仰と正義を通して、この世の人生のあらゆる悪、傷、苦痛が完全に補完され、正されます。この世で拒まれた祝福は永遠の世において、完全に報われるのです。完全な悔い改めを通して、わたしたちの罪は^{ゆる}赦され、永遠の命を享受することができるのです。このようにして、この世の苦しみは精鍊する者の火となり、より高い目的を達成するためにわたしたちを清めてくれます。苦痛が癒され、夢にも見なかった、また予期もしなかった、心からの喜びや幸せを知ることができるようになります。

贖いと復活を通して約束された問題解決の道は永遠に続きます。肉体的な不完全さは補われるのです。アルマの次の言葉は慰めに満ちています。「霊は体に回復され、体は霊に回復される。そして、手足と関節はことごとくその体に回復される。まことに、髪の毛一筋さえも失われることなく、すべてのものが本来の完全な造りに回復され

る。』⁶

この問題解決の道は、救い主の執り成しによってもたらされます。ヨハネによる福音書第17章には、偉大な執り成しの祈りがあります。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることです。』⁷そして、救い主は使徒やすべての聖徒のために祈られました。「わたしがお願いするのは、この世のためではなく、あなたがわたしに賜った者たちのためです。彼らはあなたのものなのです。

わたしのものは皆あなたのもの、あなたのものはわたしのものです。そして、わたしは彼らによって栄光を受けました。』⁸

わたしたちは皆、これまでに誤った判断を下したことがあります。憐れみ深く思いやりのある神は、わたしたちの犯した過ちに対しては、できるだけ軽い裁きを下され、わたしたちが行う善行に対しては、最大の祝福を与えてくださると、わたしは信じています。アルマの荘嚴な言葉はそのことを確認しているように思われます。アルマはこうに述べました。「今から多くの日が過ぎないうちに、神の御子が栄光のうちに来られる。神の御子の栄光は御父の独り子の栄光であり、その独り子は恵みと公平と真理に満ち、忍耐と憐れみと寛容に富み、御自分の民の嘆願を聞くのも、また彼らの祈りにこたえるのも早い御方である。』⁹

背きを犯したら、問題を解決し、悔い改めからもたらされる癒しの過程を経験することが非常に大切です。キンボール大管長はこうに述べています。「悔い改めの原則、すなわち、転んだときにはいつでも立ち直り、汚れを払い落とし、前向きに出直すことは、希望の土台である。主イエス・キリストが癒しの奇跡を行い、弱ったときには力を与え、病気のときには健康を、落胆したときには希望を、むなしさを感じたときには愛を、真理を求めるときには理解を与えてくださるのは、すべて悔い改めを通して可能となるのである。』¹⁰



『モルモン書』の中で、アルマが息子コリアントンに語りかけたときの話は、感動的です。コリアントンはゾラム人に伝道している間に罪を犯しました。アルマは息子に、自分の罪を捨て、主に立ち返るように勧告しました。そして復活したときに自分の身にどんなことが起きるか、息子が心配していることに気づきました。アルマは、この世における試しの状態、正義と慈悲、来世におけるわたしたちの幸福に関する神の計画について、詳しく説明しました。

「……憐れみは悔い改める者について権利を主張する。憐れみは贖罪によって与えられるのである。そして、贖罪は死者の復活をもたらし、死者の復活は人を神の御前に連れ戻す。このようにして、人は神の御前に連れ戻され、

律法と正義により、自分の行いに応じて裁かれる。』¹¹

救い主はわたしたちに力強い鍵^{かぎ}を与えられ、わたしたちはその鍵によって、この世の圧力に対処し、克服することさえできます。救い主は、「わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守ってくださることです。』¹²と言われました。この大いなる鍵とは、周囲にどんなに悪がはびころうと、人はこの世の悪に染まらないようにしなければならぬということです。救い主の祈りは、悪を避けるようにわたしたちを戒めるとともに、そのために天父の助けが得られるように求めています。こうした努力を通して、わたしたちは主と一つになることができます。ゲツセマネで救い主はこのように祈り

をささげられました。「それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちに合わせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。」¹³

わたしたちは、悲しみに満ちたこの世にあって心から忠実であるためには、心と勢力と、思いと、力を尽くして、神を愛さなければなりません。また、自分自身を愛するように隣人を愛さなくてはなりません。また、家族として、ワード、支部、ステーク、地方部の会員として、一つの民として一致しなければなりません。信仰を共にしない隣人に対しては、強盗に遭って倒れた人の世話をしたあのサマリヤ人のようにならなければなりません。¹⁴ わたしたちは互いに強め合う必要があります。また「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強めな」ければなりません。¹⁵

パウロはそれについてよく教えています。彼はキリストの肢体、すなわち教会について、コリント人にこう語りました。「……からだの中に分裂がなく、それぞれの肢体が互^{たがい}にいたわり合うためなのである。

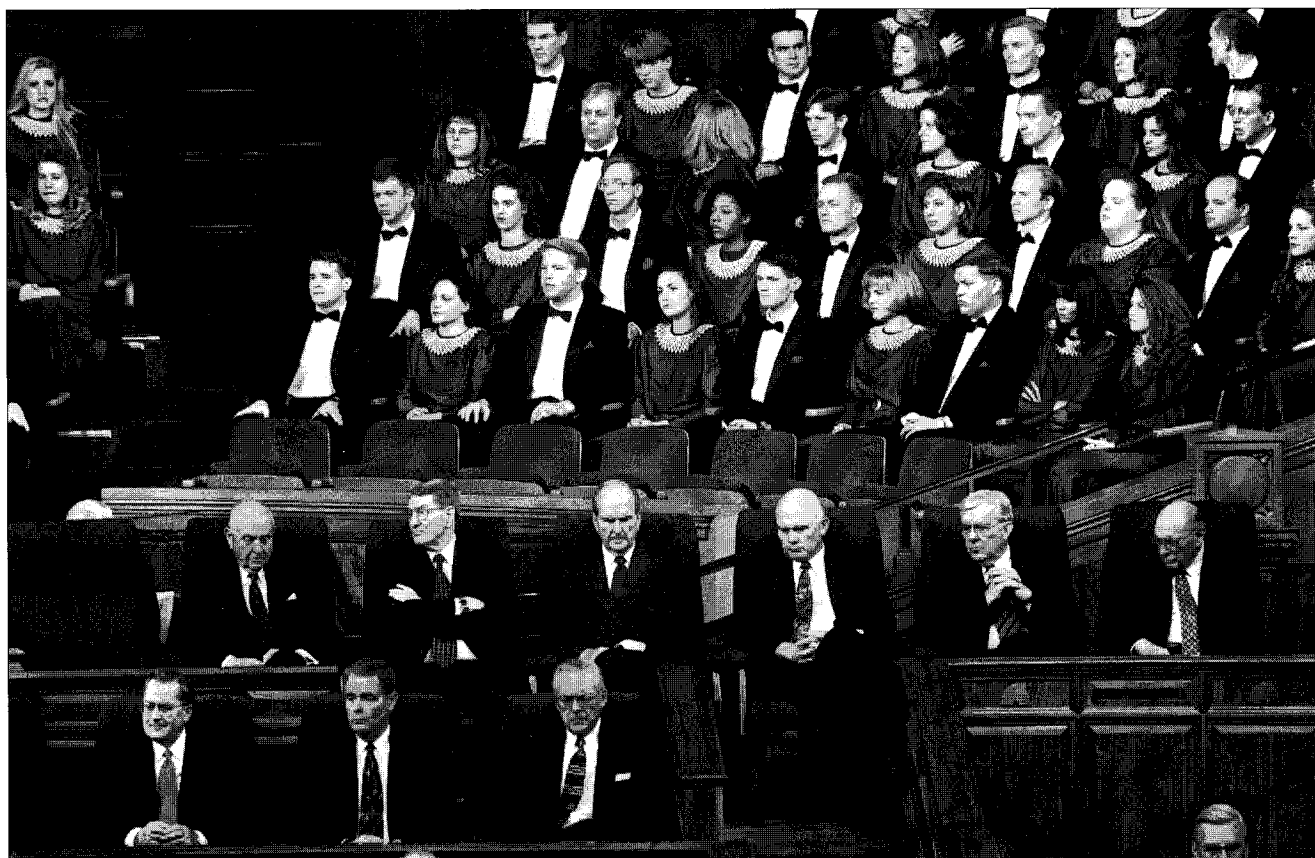
もし一つの肢体が悩めば、ほかの肢体もみな共に悩み、一つの肢体が尊ばれると、ほかの肢体もみな共に喜ぶ。

あなたがたはキリストのからだであり、ひとりびとりはその肢体である。」¹⁶ このようにしてわたしたちは、個人として、また民として、悪から身を守ることができます。人が辛苦や困難を経験するとき、惨めになり、失意に陥ることがあります。しかし、神や聖徒たちの愛によって、互いの重荷をともに負うとき、幸福になり、悪を克服することができるのです。

忠実な女性の中には、心の中でいばん望んでいるものをまだ授かっていない人がいます。永遠の計画において、忠実な人に与えられない祝福は一つもありません。救い主が女性の価値を大切にしておられることに疑問を抱いて

はなりません。はりつけの後、墓を訪れた最初の人、悲しみに打ひしがれたマグダラのマリヤでした。石が動かされ、墓が空になっているのを見たマリヤは、ペテロとヨハネのところへ走って行きました。二人の弟子は見に来て、悲しみながら帰って行きました。しかし、マリヤはそこにとどまりました。彼女は十字架のそばに立ち、¹⁷ 埋葬の場にもいました。¹⁸ そして、今は空の墓のそばに立って泣いていました。¹⁹ そこで、よみがえられた主に会う最初の人となる光栄にあずかったのです。主は「女よ、なぜ泣いているのか」と言われ、「わたしの兄弟たちの所へ行行って、『わたしは、わたしの父またあなたがたの父であって、わたしの神またあなたがたの神であられるかたのみもとへ上って行く』と、彼らに伝えなさい」と指示されました。²⁰

イエスはこの世で務めを果たされたときに、ユダヤを去って、ガリラヤへ行きました。主はどの渇きと旅の疲れを覚え、ヤコブの井戸に着かれました。そこへサマリヤの女が水をくみに



来ました。当時のユダヤ人のしきたりでは、サマリヤ人と交際することは禁じられていました。しかし、「イエスはこの女に、『水を飲ませて下さい』と言われ〔まし〕た。……

すると、サマリヤの女はイエスに言〔いまし〕た、『あなたはユダヤ人でありながら、どうしてサマリヤの女のわたしに、飲ませてくれとおっしゃるのですか。』……

イエスは答えて言われ〔まし〕た、『もしあなたが神の賜物のことを知り、また「水を飲ませてくれ」と言った者が、だれであるか知っていたならば、あなたの方から願い出て、その人から生ける水をもらったことであろう。』

イエスは続いて、「永遠の命に至る」水についてその女性に説かれました。サマリヤの女の反応はこうでした。「主よ、わたしはあなたを預言者と見ます。」そしてこう言いました。「わたしは、キリストと呼ばれるメシヤがこられることを知っています。そのかたがこられたならば、わたしたちに、いっさいのことを知らせて下さるでしょう。」そこでイエスは身を明かし、「あなたと話をしているこのわたしが、それである」と言われました。²¹

救い主の復活と贖いは、わたしたちの人生において常に人を強める力を持っています。マーティン手車隊の一員であったエリザベス・ジャクソンの話には、それがよく表れています。彼女は、夫アロンが1856年にワイオミングの平原で亡くなったときのことを、次のような感動的な言葉で記しています。

「わたしは9時ごろ、床に就いた。寝具が乏しくなっていたので、服を脱がなかった。12時ごろまで眠ったかと思う。非常に寒かった。ひどい天候だった。夫が息をしているのか耳を澄ませてみた。夫は身じろぎ一つしなかった。息をする音も聞こえなかった。わたしははっとした。手を夫の体の上に置いてみた。恐ろしいことに、最も恐れていたことが現実になったことが分かった。夫は死んでいた。わたしは同じテントの中にいた人たちの助けを求めた。彼らにできることは何もなかつ

た。朝になるまで、寂しく死体のそばにいたよりほかになすすべはなかった。時のたつのが何と遅く長く思われたことか。夜が明け、一行のうちの何人かの兄弟たちが、埋葬の準備してくれた。何とささやかな埋葬と葬儀であったことか。夫の衣服はそのままであった。夫が身に着けていたものはわずかだった。兄弟たちは夫の体を毛布にくるむと、ほかに亡くなった13人の遺体の山に夫の死体を重ね、雪をかぶせた。土は固く凍っていて、墓を掘れなかったのである。夫はそこに残された。神のラッパが鳴り響き、キリストにあって死んだ人々が起き上がり、第一の復活の朝に出て来るまで、そこで安らぎの眠りに就いたのだった。復活の時を迎えると、わたしたちの心は再び結ばれ、永遠の命がもたらされるのだ。』²²

「女よ、なぜ泣いているのか」という問いに対して、ヨハネは黙示録の中で、忠実な聖徒たちにあてて、次のような慰めの言葉を書いています。

「彼らは大きな患難をとおってきた人たちであって、その衣を小羊の血で洗い、それを白くしたのである。

それだから彼らは、神の御座の前において、昼も夜もその聖所で神に仕えているのである。御座にいますかたは、彼らの上に幕屋を張って共に住まわれるであろう。

彼らは、もはや飢えることがなく、かわくこともない。太陽も炎暑も、彼らを侵すことはない。

御座の正面にいます小羊は彼らの牧者となって、いのちの水の泉に導いて下さるであろう。』²³

「女よ、なぜ泣いているのか」という問いに対して、主イエス・キリストにより偉大な贖いの犠牲がささげられ、死の縄目が解かれること、そしてそれは人の涙をぬぐってくれることを証します。わたしにはこのことについて証があります。それは、神の聖霊によってもたらされたのです。

また、主イエス・キリストが今日、この教会の頭であられることを証します。主の万能の御手がこの神聖な御業を導いています。また、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長が預言者として

召しを受けた偉大な指導者であることを証します。主の僕として働く大管長の靈感による導きの下で、わたしたち皆が働けることは大きな特権です。モンソン副管長をはじめとする同僚たちは、以上の事柄についての証人です。

ベニヤミン王のように、わたしも祈ります。「確固として揺らぐことなく、いつも多くの善い行いをして、全能者である主なる神、キリストから御自分のものとして印を押されるように、また天に招き入れられて、永遠の救いと永遠の命にあずかるように……。この永遠の救いと永遠の命は、天地の万物を創造された、あらゆるものに勝る神の知恵と力、公正、憐れみによって与えられるもの」なのです。²⁴ イエス・キリストの御名により、アーメン。

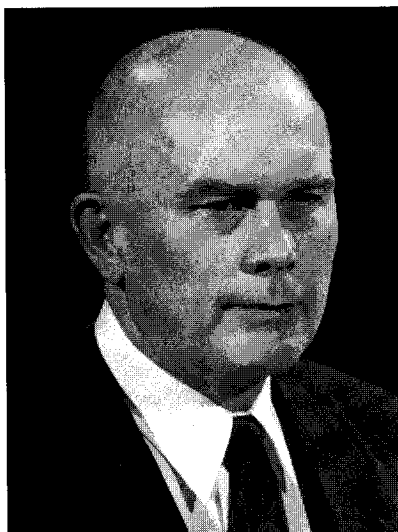
注

1. ヨハネ20:11
2. ヨハネ20:14-15
3. ヨハネ20:19
4. 教義と聖約59:23
5. ヨハネ20:27
6. アルマ40:23
7. ヨハネ17:3
8. ヨハネ17:9-10
9. アルマ9:26
10. *The Teachings of Spencer W. Kimball* 『スベンサー・W・キンボールの教え』エドワード・L・キンボール編, p.106
11. アルマ42:23
12. ヨハネ17:15
13. ヨハネ17:21
14. ルカ10:29-37参照
15. 教義と聖約81:5
16. 1コリント12:25-27
17. マタイ27:56; マルコ15:40; ヨハネ19:25参照
18. マタイ27:61; マルコ15:47参照
19. ヨハネ20:11参照
20. ヨハネ20:17
21. ヨハネ4:6-26参照
22. リロイ・R・ヘーフェン, アン・W・ヘーフェン, *Handcarts to Zion* 『シオンへ向かう手車隊』p.111
23. 黙示7:14-17
24. モーサヤ5:15

「いつも御子の御霊を受ける」

十二使徒定員会会員
ダリン・H・オークス

聖霊は、わたしたちの慰め主であり、方向を示し、御心を伝え、解釈を明らかにしてくださる御方であり、証人であり、清めてくださる御方であり、わたしたちが永遠の命に向かってこの世を歩むときに間違ひなく導き、聖めてくださる御方です。



聖餐を受けることと聖霊の賜物によってもたらされる祝福との関係についてお話ししたいと思います。

主は近代の啓示で次のように命じておられます。「あなたは、世の汚れに染まらずに自らをさらに十分に清く保つために、わたしの聖日に祈りの家に行って、聖式をささげなければならない。」(教義と聖約59：9) わたしたちは毎週聖餐を受けるときに、主イエス・キリストの贖いについて深く考え、バプテスマのときに交わした聖約を再確認し、それを更新します。祭司がパンを祝福するときにささげる、啓示によって示された祈りの言葉の中にこの礼拝と約束がどのようなものであ

るかが明らかにされています。この祈りに述べられているように、わたしたちは、救い主の「体の記念に」パンを頂き、それによって「進んで御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守ることを」永遠の父なる神に証明します(教義と聖約20：77)。

わたしたちはバプテスマを受けた後に、頭に手を置かれ、聖霊の賜物を授けられました。聖餐を受けるときにバプテスマの聖約を心から誠実に更新するならば、それは「いつも御子の御霊を受けられる」(教義と聖約20：77)という約束を受けるための資格を新たにすることなのです。

この約束は語り尽くせないほど重要なものです。ウィルフォード・ウッドラフ大管長は聖霊の賜物をこの世で受けることのできる最も偉大な賜物であると述べています(*Discourses of Wilford Woodruff*『ウィルフォード・ウッドラフの説教集』G・ホーマー・ダラム編、p.5参照)。残念ながら、この賜物の持つ偉大な価値と、それが成就するための大切な条件はよく理解されていません。ニーファイは末日に、「自分の学識で教え、語る言葉を与えてくださる聖霊を否定する」(2ニーファイ28：4) 様々な教会が設立されると預言しました。また、「人の訓戒に耳を傾け、神の力と聖霊の賜物を否定する者は、災いである」(26節)と断

言しました。

救い主は弟子たちに最後の指示を与えたとき、彼らに「助け主」(ヨハネ16：7)を遣わすと約束された、と『聖書』に記されています。救い主はそれ以前に、この助け主の使命について弟子たちに教えておられます。助け主は、聖霊、聖き御霊、主の御霊、あるいは単に御霊と呼ばれています。この助け主はわたしたちのうちにいて(ヨハネ14：17参照)、すべてのことを教え、すべてのことを思い起こさせ(ヨハネ14：26参照)、真理に導き、来るべきことを知らせ(ヨハネ16：13参照)、御子について証してください(ヨハネ15：26；1コリント12：3参照)。『聖書』はまた、救い主と僕たちは聖霊と火によってバプテスマをお授けになると教えています(マタイ3：11；マルコ1：8；ヨハネ1：33；使徒1：5参照)。この教えの意味については後にお話しすることにします。

『モルモン書』と近代の啓示は、聖霊に関する『聖書』の教えを再確認するとともにさらに詳しく説明しています。神は聖霊を介して子らに靈感を与え、御心を明らかにされます(教義と聖約8：2-3など)。聖霊は御父と御子のことを証されます(3ニーファイ28：11；教義と聖約20：27；42：17参照)。またわたしたちの心を照らし、わたしたちを喜びで満たしてください(教義と聖約11：13参照)。わたしたちは聖霊の力によってすべてのことの真理を知り(モロナイ10：5参照)、神の奥義が明らかにされ(1ニーファイ10：19参照)、必要なすべてのこと(教義と聖約18：18；39：6参照)を知らされます。聖霊はわたしたちに何をなすべきかを示してください(2ニーファイ32：5参照)。わたしたちが聖霊の導きによって福音を教えると、聖霊はわたしたちの言葉を相手の心に伝えてくださいます(2ニーファイ33：1参照)。

末日の聖典では、贖罪によって実現が可能になった罪の赦しは「バプテスマ……および火すなわち聖霊に」によってもたらされると教えています(教義と聖約19：31。2ニーファイ31：17も

参照)。このため、復活された主はニーファイ人に対して、「聖霊を受けて聖められ、終わりの日にわたしの前に染みのない状態で立」つために（3ニーファイ27：20）、悔い改めて、主のみもとへ行き、バプテスマを受けるようにと説かれました。

わたしたちの信仰にとって聖霊の賜物は非常に大切です。合衆国大統領との会見という異例の席で、一人の預言者がこのことを強調する話をしています。ジョセフ・スミスは聖徒たちがミズーリにおける迫害で傷つけられ、損失を被ったことへの補償を求めるためにワシントンへ赴きました。ジョセフは大統領との会見の席で、この教会は当時の様々な宗教とどこが違うのかという質問を受けました。すると預言者は「この教会には、バプテスマを施す正しい方法と、^{あんしめ}按手による聖霊の賜物とがあります」と答えました。（*History of the Church*『教会歴史』4：42）預言者は後に、「そのほかの重要な事柄はすべて聖霊の賜物の中に含

まれる」のでこのように答えたと言明しています（『教会歴史』4：42）。

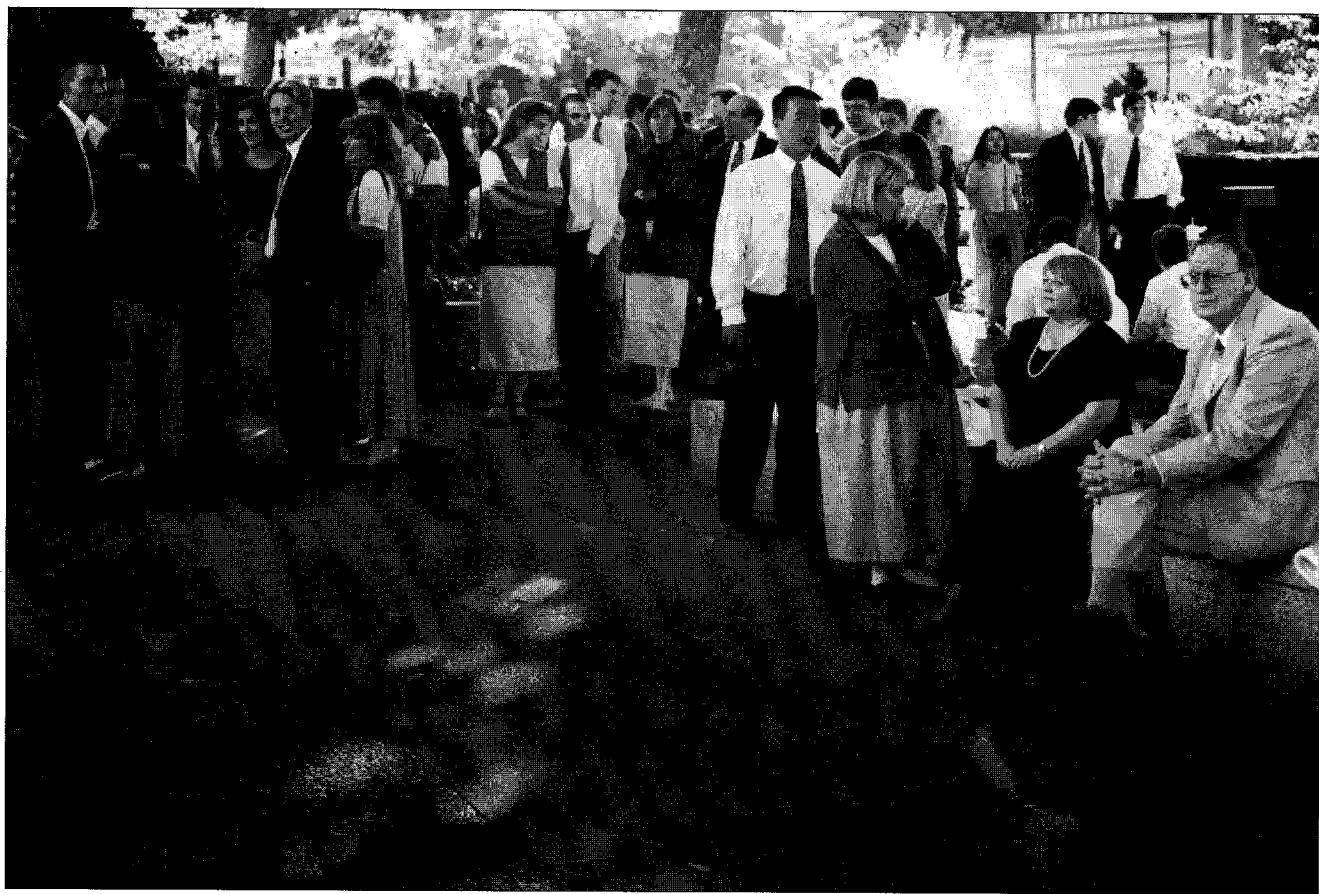
聖霊の賜物がわたしたちの宗教をほかと区別する特徴であることを主張するためには、（1）キリストの光（2）聖霊の現れ（示し）（3）聖霊の賜物、それぞれの重要な違いを理解しておかなければなりません。

キリストの御霊^{たま}あるいは神の御霊とも呼ばれることがあるキリストの光は、「世に来るすべての人に光を与えます（教義と聖約84：46）。「これは万物の中にあり、万物に命を与える光」です（教義と聖約88：13）。預言者モルモンは「善悪をわきまえることができるように、すべての人にキリストの御霊が与えられている」と教えています（モロナイ7：16。モロナイ7：19；2ニーファイ2：5；ヒラマン14：31も参照）。ロレンゾ・スノー長老はこの光について「すべての人は神の御霊を持っている」（*Journal of Discourses*『説教集』14：304）と述べています。キリストの光はすべての人の理解を明

らかにし、すべての人に理解を与えます（教義と聖約88：11参照）。

これに対して、聖霊の現れはより具体的な形を取ります。この現れは主と主の福音について真理を真剣に探し求める人々に与えられます。例えば、預言者モロナイは、わたしたちが『モルモン書』を読むとき、これが真実かどうかを知ることを誠心誠意問うならば、神は「聖霊の力によって」それが真実であることを「明らかにしてください」と約束しています（モロナイ10：4）。モロナイはほかの箇所でも、復活された主から与えられたこの約束を記録しています。「わたしが語ったこれらのことを信じる者に、わたしはわたしの御霊の示しを与えるので、その者は知って、証^{あかし}を述べるであろう。わたしの御霊のゆえに、その人はこれらのことが真実であることを知るであろう。」（エテル4：11）

あらゆる人はこの現れを受けることができます。『モルモン書』は救い主が「御自分を信じるすべての人、まこ





七十人の会員。前列左から、ヒュー・W・ピノック長老とレックス・D・ピネガー長老。後列左から、アレクサンダー・B・モリソン、ジョセフ・C・ミューレン（今大会で名誉をもって解任された）、V・ダラス・メレルの各長老。

とにあらゆる国民、部族、国語の民、民族に聖霊の力によって御自身を現され」と宣言しています（2ニーファイ26：13）。

繰り返しますと、キリストの光は善悪を知らせるためにすべての男女に与えられます。聖霊の現れは真心から求める人を真理に導き、その人を悔い改めとバプテスマに導くものです。

聖霊の賜物はさらに分かりやすいものです。預言者ジョセフ・スミスは次のように説明しました。「聖霊と聖霊の賜物は別のものです。コルネリオはバプテスマを受ける前に聖霊を受けました。これは彼に福音の真理を確信させる神の力でした。しかし、コルネリオはバプテスマを受けるまで、聖霊の賜物を受けることはできませんでした。もし彼がこのしるし、すなわち儀式を受けなかったとしたら、神の真理を確信させた聖霊は彼から離れていったことでしょう。」（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*『預言者ジョセ

フ・スミスの教え』ジョセフ・フィールディング・スミス編，p.199，下線付加）

聖霊の賜物には、わたしたちが「いつも御子の御霊を受け」られるように（教義と聖約20：77）、聖霊と常に親しく交わる権利が含まれています。

バプテスマを受けて間もない会員がこの賜物を受けたときのことを話してくれました。この女性は敬虔なキリスト教徒で、人々に奉仕する人生を送ってきました。彼女は主を知り、主を愛しました。そして、主の御霊の現れを感じました。彼女は回復された福音についてさらに光を受けた後に、バプテスマを受けました。そして長老たちが彼女の頭に手を置いて、聖霊の賜物を授けました。彼女は次のように語っています。「わたしは聖霊の影響力が以前に感じたときよりも大きな力で降りて来たのを感じました。聖霊は、かつてはわたしを導いてくださり、今はわたしとともにいてくださる古い友人の

ような御方です。」

イエス・キリストの教会の忠実な会員は、聖き御霊との親しい交わりが当たり前になりすぎてしまっていて、軽視することのないように注意しなければなりません。例えば、この大会において皆さんが話や音楽を聞いてよい気持ちを感じたとしたら、それは御霊による確認の証であって、忠実な会員に対して継続的に与えられるものです。あるとき、一人の会員がわたしのもとへ来て、彼は聖餐会の話と音楽に感銘を受けたのに、その日招待した友人はどのような気持ちを感じなかったのはなぜでしょうかと尋ねました。これも、聖霊の賜物を持ち、聖霊の励ましを聞く波長が合っている人と、賜物を持っていないあるいは波長が合っていない人との明確な違いを表す一つの例です。

信仰を実践し、聖い御霊の親しい交わりを求めているならば、わたしたちは心の中でも家庭の中でも御霊を近く感じられます。毎日家族の祈りをささげ、神の戒めを守ろうと努め、神の御名を尊び、愛を込めて語り合う家庭には、霊的な雰囲気漂っているものです。それはその家庭を訪れるすべての人がはっきりと感じ取れます。わたしがこう申し上げるのは、多くの末日聖徒の家庭を訪れてそうした雰囲気のあるなしを感じてきたからです。

聖霊の賜物を持つ人に与えられる光や啓示は突然にやってくるものでもなく、求めずに与えられるものでもないことを心に銘記してください。スペンサー・W・キンボール大管長は、聖霊の力は「あなたが受けるに値するときに少しずつもたらされます。そしてあなたの生活が聖霊と調和したものとなるに従って、次第に多くの聖霊の力を受けるようになります」と教えています。（*The Teachings of Spencer W. Kimball*『スペンサー・W・キンボールの教え』エドワード・L・キンボール編，p.114）

聖霊の賜物を通して与えられる祝福は、わたしたちが祝福を受けるにふさわしい状態にあるという条件が付きます。「主の御霊は清くない宮にはとどまらない」のです（ヒラマン4：24；

モーサヤ2：36-37；1コリント3：16-17も参照）。わたしたちは聖霊と常に交わる権利を持っていますが、主の御霊が宿るのはわたしたちが戒めを守っているときだけです。神を汚したり、清さを失ったり、不従順であったり、反抗したり、そのほか重大な罪を犯したりすると、御霊は退きます。

聖霊の賜物を持ちなおかつふさわしい状態にある男女は靈感と啓示によって高められ、導かれます。主は、「主の王国の奥義は、……神を愛し、神の前に自らを清くする者に神が授けてくださる聖なる御霊の力によってのみ、目にし、理解すること〔が〕できる」（教義と聖約76：114, 116）と宣言されました。

数年前にわたしは伝道部長の候補に挙げられた夫婦と面接し、彼らが伝道に出られるかどうかについて話し合う機会がありました。この夫婦は年老いた両親を抱えていたため、それが伝道に出る障害になるのではないかと尋ねました。面接した奥さんは当時およそ80歳になるすばらしい母親の一人娘で、毎週母親の家を訪れては世話をしていました。この母親は肉体的には多少不自由でしたが、霊的には強い人でした。彼女は伝道を4回経験し、15年間神殿で奉仕していました。彼女は御霊と常に波長を合わせている人であったため、すばらしい経験をしていました。この面接が行われる数か月前に母親は、娘の夫が伝道部長に召されるという御霊のささやきを聞いたことを娘に打ち明けました。そこで母親は娘の手を借りずに生活する準備を始めました。そして、わたしが面接をする割り当てを受けるはるか前に、母親は娘夫婦の伝道の「妨げにならない」ことを告げていたのです。

聖霊の親しい交わりと導きを受けるためには、わたしたち個人の宮を清く保たなければなりません。このことから、安息日に聖餐を受けるという戒めがどれほど大切かを理解することができます。

わたしたちは聖餐を受けることによって、バプテスマがもたらす効果を更新することができます。救い主の贖罪

による罪の赦しを得るには、悔い改めで、打ち砕かれた心と悔いる霊をもって主のみもとへ行かなければなりません（3ニーファイ9：20；12：19；モロナイ6：2；教義と聖約20：37参照）。わたしたちはバプテスマの水の中で、罪を悔い改め、進んで主の御名を受け、最後まで主に仕えることを、主に対して証明しました（教義と聖約20：37参照）。バプテスマがもたらす効果についてニーファイは次のように述べています。「あなたがたが入らなければならぬ門とは、悔い改めと、水によるバプテスマである。そうすれば、火と聖霊によって罪の赦しを与えられる。」（2ニーファイ31：17。モロナイ6：4も参照）この最後の約束は、聖霊の賜物を受けて初めて成就されるのです。

聖餐を受けることによって聖約を新たにする前にも悔い改めが必要です。このようにして、打ち砕かれた心と悔いる霊をもってこの聖なる儀式に臨みます（2ニーファイ2：7；3ニーファイ12：19；教義と聖約59：8参照）。わたしたちがバプテスマの聖約を新たにし、「いつも御子を覚え」ることを確認すると（教義と聖約20：77）、主は、一定の条件の下で、主が定められたときに、罪の赦しを与えるという約束を更新されます。このように聖約を更新し、罪の赦しを受けるおもな目的と効果は何かと言えば、それは「〔わたしたちが〕いつも御子の御霊を受けられるように」なることです（教義と聖約20：77）。

兄弟姉妹の皆さん、わたしはこれらの教義と原則が真実であることを厳粛に証します。これらの真理に基づいて、幼い子供から老人に至るまですべての教会員は毎週の安息日に聖餐会に出席し、「打ち砕かれた心と悔いる霊」（3ニーファイ9：20）と述べられた悔い改めの気持ちをもって聖餐を受けていただきたいと思います。「いつも御子を覚え」（教義と聖約20：77）という重大な聖約を交わすに似つかわしい、救い主に対する敬虔の念と礼拝する気持ちをもって皆さんが聖餐を受けることを祈っています。救い主は、わたしたちが「わたしの栄光にひたすら

目を向けて、あなたがたのために葬られたわたしの体と、あなたがたの罪の赦しのために流されたわたしの血を父に記念して」（教義と聖約27：2）聖餐を受けるべきであると言われました。

わたしたちが、謙遜な態度で聖餐を受け、御子の御名を受け、御子の業を行う、と厳粛に聖約したとおりに、教会の召しを受けて働きますように。また、主の戒めを守るという厳粛な聖約を果たせるように祈っています。

わたしは、聖餐の聖約を新たにしていない兄弟姉妹に対して、大管長会の言葉を借りて申し上げます。「立ち返りなさい。そして主が備えられたテーブルに着き、聖徒の交わりという甘く、心を満たしてくれる木の実を再び味わってください。」（大管長会からの手紙、1985年12月22日、p.3）聖餐を受けることによってわたしたちが「満たされる」（3ニーファイ20：8。3ニーファイ18：9も参照）と言われた救い主の約束、すなわち「御霊に満たされ〔る〕」（3ニーファイ20：9）ようになろうではありませんか。この御霊すなわち聖霊は、わたしたちの慰め主であり、方向を示し、御心を伝え、解釈を明らかにくださる御方であり、証人であり、清めてくださる御方であり、わたしたちが永遠の命に向かってこの世を歩むときに間違いなく導き、聖めてくださる御方です。

聖餐を受けることをさほど心に留めていなかった方々は、偉大な御業の基は小さなことの上に置かれており、「小さなことから大いなることが生じる」（教義と聖約64：33）と言われた主の御言葉を思い起こしてください。心から、敬虔な気持ちでバプテスマの聖約を新たにするという一見ささいな行いを通して、水と御霊によるバプテスマの祝福を新たにし、いつも御子の御霊を受けることができます。わたしたちはこのようにして導かれ、このようにして清められるのです。わたしたちがこれらの貴重な祝福を受けるにふさわしい者となることができますように、へりくだり、イエス・キリストの御名によりお祈りします。アーメン。

「心を込めていちばん大切なものを送ります」

管理監督会第一副監督

リチャード・C・エッジリー

宣教師たちは……皆さんの家庭を訪れて、神が生きておられ、イエスがキリストであられるというさらなる証拠を、もう一つの聖典とともに伝えするのです。



わたしは今日、この大会に参加している教会外の皆さんにお話したいと思います。この教会では、5万人以上の宣教師たちが世界中で主に仕えています。彼らのおよそ10万人の両親の一人として、わたしはお話します。有名なグリーティングカードの会社のスローガンにこうあります。「心を込めていちばん大切なものを送ります。」

わたしは今日、世界中にいる両親たちに代わってお話します。彼らはアイオワの平原やニューヨーク郊外の人です。バレーやボリビアの町にいます。またオザーク山地や、コロンビアやケニアのジャングルにいます。社会情勢や経済状態は様々ですが、皆に共通し

ているのは、「心を込めていちばん大切なものを送った」ことです。そうです、わたしたちは皆さんに、大人になったばかりのすばらしい男性、女性を、2年間送ります。わたしたちが愛し、教え、育てた子供を送るのです。

わたしたちは彼らの成功を喜び、落胆や失敗に悲しみ、絶えず彼らのために祈ります。要するに、皆さんが自分の子供に抱いているのと同じ感情や愛、夢を抱いています。

わたしたちは、こうした若い男性や女性、年輩の夫婦を、世界中の至る所に、政府や国が迎え入れている至る所に送り出しています。宣教師はあらゆる状況の下で生活しますが、ほとんどの場合、これまでと同じ快適さは望めません。しばしば不慣れな環境の中で生活し、イエス・キリストの救いの真理を教える者として、冷たく扱われることもあります。

信仰は異なっても、宣教師と親しくなった多くの人々に、わたしたちは心からの感謝を述べ、神のえり抜きの祝福がともにあるように祈っています。

宣教師の召しは、自分の都合のよいときに来るのはまれです。ほとんどは、高校卒業後わずか1年で来ます。多くの人の場合、まだ大学生活を始めたばかりです。有望な仕事を遅らせたり、差し控えたりする人さえいます。車を売り、ガールフレンドを残し、休学し、奨学金をあきらめ、仕事を先延ばしにします。各々の宣教師の背景には何年

にもわたる物語があります。個人の決意、準備、犠牲、救い主への愛の模範の物語です。また宣教師になることを心から願いながら、健康上の理由やほかの制約のために伝道を断念した、ふさわしい若人もいます。

宣教師の生活は簡単ではありません。そのために幼いころから10代にわたって、聖文を研究し、伝道資金を蓄え、性的に清く生活し、たばこ、アルコール、有害な薬物を避けて、ふさわしさを保って準備します。それから宣教師は、世界各地にある宣教師訓練センターに入ります。母国語で伝道する宣教師は3週間、外国語を学ぶ必要のある人は2か月間、ここで唯一正規の訓練を受けます。伝道地での日々は大変厳しいものです。毎朝6時半に起きて2時間の勉強があり、それから何時間もの過酷で、しばしば落胆を伴う仕事。夜10時ごろに寝るまで続きます。彼らの仕事は伝道とレッスンがほとんどですが、地域社会のボランティア活動にもたくさんの時間を使います。外国では英語を教えたり、病院や老人ホームで奉仕したり、ホームレスの収容施設で食事を作ったり、地域社会に役立つそのほかの奉仕をします。週に1日の大半は準備の日で、手紙を書き、休憩を取り、レクリエーションをします。宣教師には、デート、神聖でない音楽の鑑賞、水泳、そのほかの同年代の若人に普通に見られる多くの活動が許されていません。

教会外の人々は、伝道は理屈に合わない大変な犠牲だと感じるかもしれませんが、宣教師は犠牲とは考えていません。救い主への愛を表す機会と考えているのです。主はこう命じられました。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。」(マルコ16:15) 宣教師にとって伝道は、全人類への愛を表す機会です。また、生ける神の御子イエス・キリスト、世の贖い主について証する機会です。さらに、キリストへの信仰を築き、主の救いと慰めの教義を教える機会なのです。わたしから見た伝道は、まことのクリスチャンの優れた特質の一つです。これらの若い宣教師たちは、まこ

とのクリスチャンの僕^{しもべ}です。救い主イエス・キリストに仕え、証^{あかし}することにより、最も気高いクリスチャンの原則を身をもって表しているからです。

宣教師は増え続け、現在は5万人、近い将来に6万人、やがて7万人の若い男女と夫婦が世界中で伝道するので。同年代の非常に多くの若者が、人生の意義と目的を探し求め、あてどなくさまよい、苦悩する時代に、数万人の宣教師は、主に仕える偉大な御業^{みわざ}に全身全霊を傾けています。彼らは備え、犠牲を払ってやって来ました。神を信じ、すべての人類が兄弟だと信じればこそ、伝道に出たのです。

宣教師はなぜ、世界中の至る所にそれもクリスチャンの中にまで遣わされているのでしょうか。ヨハネによる福音書第3章16節の有名な聖句にはこうあります。「神はそのひとり子を賜^{たま}ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」宣教師がすべての国々とすべての人々を訪れるのは、神が世の人々を愛し、その愛のしるしとして再び人類に語られたことについて、固く揺るぎない証を持っているからです。神は、クリスチャン迫害の時代や暗黒時代、また混乱の時代に失われていた貴い真理を回復されました。それはわたしたちの平安と幸福に欠かせないものです。これらの真理はわたしたちの永遠の救いに不可欠なので、愛にあふれた天父によって完全に回復されました。キリストが地上での務めを終えて昇天された後、使徒ペテロは、キリストが再臨される前に万物が更新されると預言しました。

「あなたがたのためにあらかじめ定めてあったキリストなるイエスを、神がつかわして下さるためである。

このイエスは……万物更新の時まで、天にとどめておかねばならなかった。」(使徒3:20-21, 下線付加)

宣教師たちは、豊かな愛と信仰をもって全世界に出て行きます。万物更新に関するペテロの預言が成就することを知っているからです。彼らは回復について証します。それは、驚くべき御



業なので神の御手^{みて}だけが行えることです。また不思議な御業なので、神の力と人類への愛を理解する人だけが信じられることです。そして、非常に神聖な物語なので、それが真実であることを受け入れるには、聖霊の導きを個人的に受けなければなりません。これは、祈り求める人に真理を表すために、救い主が約束された方法です。宣教師たちは、多くの人々を義にかなった奉仕や救い主への献身に導いてきた貴重な真理や価値観や原則を皆さんから少しも取り上げるつもりはありません。むしろ、皆さんの家庭を訪れて、神が生きておられ、イエスがキリストであられ、ゲツセマネと十字架^{あがな}上でわたしたちの罪を贖われたというさらなる証拠を、もう一つの聖典とともにお伝えするのです。彼らのもたらすメッセージ

は、イエスの生涯とその御心と愛の現れを確認するものです。

宣教師は驚くべき示現について証します。疑いに満ちた現代社会では奇跡と考えますが、これが2,000年前に起こっていたら、容易に受け入れられたことでしょう。宣教師は、神とキリストがこの回復の御業を始めるために、どのようにしてわずか14歳の少年に現れたか説明します。さらに、天の使者がキリストの権能や教義や教えを簡潔で完全なままに回復したことを話します。これらの出来事や真理は、とても美しくすばらしく、また驚くべきものなので、その話を聞くと皆さんは胸を躍らせることでしょう。

宣教師は皆さんに、死すべきこの人生の真の目的について話します。わたしたちがどこから来て、なぜここに

るのか、そして、移り行くこの世で、喜びや幸福とともに、悩み、苦しみ、誘惑、そして死を経験することが、なぜ必要で望ましいのか、理解できるように助けます。また、キリストの教えを通して、問題や苦難の多い世の中で、平安と導きを受ける方法を説明します。恐らく彼らの話で最も大切なのは、家族が神聖で重要なものだという神の教えでしょう。互いに愛し合い、子供を愛する夫婦には、墓を越えて家族を永遠に結ぶというメッセージがあります。そして最後に、宣教師は、これらの真理について自分の証を得る方法について説明するでしょう。

このように、わたしたちは「心を込めていちばん大切なものを送ります。」教会員でない皆さん、白いワイシャツにネクタイ姿の二人の若い男性が、愛らしい若い女性が、あるいは立派な夫婦がドアをノックして、末日聖徒イエス・キリスト教会の代表者ですと自己紹介したら、どうか彼らを招き入れてください。そしてメッセージを聞いて、自分で評価してください。単にメッセージを受け入れるのではなく、それが真実かどうか、また自分や家族にとって価値があるかどうか天父に心から尋ねてください。天父はすべての真理の源で、熱心に求める者には証を与える」と約束されたからです。

御霊はこれらの事柄が真実であることをわたしに証してくださいました。また、御霊はこのメッセージを伝えるために最も貴重な賜物を犠牲にしささげている5万人の宣教師と、その10万人の両親、数千人の家族に証を与えてきました。わたしたちもともに証します。もしメッセージを受け入れて、それが真実であるという確認を天父に求めるなら、御霊による証が得られるでしょう。

御霊を受けた宣教師や両親、そのほか何百万の人々の証に、わたしの厳粛な証を付け加えたいと思います。神は生きておられ、イエスはキリストです。救い主、贖い主であり、わたしたち一人一人を愛し、完全な福音を回復されました。イエス・キリストの御名により証します。アーメン。

永遠の家族

十二使徒定員会会員

ロバート・D・ヘイルズ

御父の計画では、家族の愛と親しい交わりは永遠に続きます。



1年前、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒定員会は、家族に関する世界への宣言を発表しました。これは有史以来の、また実に地球の創造以前からの、福音の永遠の原則を要約したものです。

家族に関する教義の源は天の両親にあります。人の最高の願いは、御二方になることです。使徒パウロは、神は人の霊の父であると、ヘブル人への手紙第12章9節で教えました。この宣言には次のように記されています。「前世で、霊の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し、神の計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、また、完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を得るために、地上での経験を得られるようになったのです。」さらにこの宣言は世界に向けてこう繰り返しています。

「男女間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものである……。」（「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1996年6月号、pp.10-11）

神は時の初めから家族を組織し、永遠のものとされました。アダムとエバはこの世においても永遠にわたっても、結婚の結び固めを受けました。「このようにして、すべてのことが聖なる儀式によってアダムに確かにされ、福音が宣べ伝えられ、世の終わりまで福音が世にあるようにという定めが出されたのである。このとおりであった。」（モーセ5：59）

「アダムはその妻を知り、彼女は彼に息子、娘たちを産んだ。そして、彼らは増えて、地を満たし始めた」とあります。

救い主御自身が、この神聖な結婚の聖約と約束について語られました。地上で交わされた神聖な聖約を天で結び固める権能を、弟子たちに授けられた時のことです。「わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつながら、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう。」（マタイ16：19）

この末日に永遠の家族という約束が回復されたのは、1829年、メルキゼデク神権の力が地上に回復されたときでした。7年後、カートランド神殿で、結び固めの儀式を執行する鍵が回復されたのは『教義と聖約』にあるとおりです。「死を味わうことなく天に取り去られた預言者エリヤが、わたしたちの前に立って言った。

『見よ、マラキの口を通して語られた時がまさに来た。』

……この神権時代の鍵はあなたがたの手にゆだねられている。」(教義と聖約110:13, 14, 16)

これらの鍵と神権の権能の回復によって、ふさわしいすべての人に永遠の家族という祝福を得る機会が訪れました。「まことに、幾千幾万の人の心が、注がれる数々の祝福と、この家で僕たちに授けられるエンダウメントのゆえに、大いに喜ぶであろう。」(教義と聖約110:9)

神殿で執行される結び固めに伴う約束とは何でしょうか。主は次の神聖な聖句の中で、その約束と条件を説明しています。「さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。もしある男がわたしの律法であるわたしの言葉によって、また新しくかつ永遠の聖約によって妻をめとり、そしてそれが、わたしからこの力と神権の鍵とを与えられた油注がれた者によって、約束の聖なる御霊により彼らに結び固められ、また彼らに、『あなたがたは第一の復活に出て来るであろう。もしも第一の復活の後ならば、次の復活に出て来るであろう。そして、王位、王国、公国、および力、主権、すべての高い所と深い所を受け継ぐであろう』と言われるならば、……小羊の命の書に記されているので、……彼らがこの世の外に去るときにも完全に効力があるであろう。そして、彼らはそこに置かれる天使たちと神々のそばを通り過ぎ、彼らの頭に結び固められたように、すべての事柄について昇栄と栄光を受けるであろう。その栄光とは、とこしえにいつまでも子孫が満ちて続くことである。」(教義と聖約132:19)

この聖句から分かるように、永遠のきずなは、神殿で結び固めの聖約を交わした結果として、自然に生じるものではありません。この生涯での行いの結果が、わたしたちの永遠の行く末を決めるのです。天父が備えてくださった結び固めの祝福を受けるには、戒めを守り、家族が永遠に一緒に暮らしたいと願えるような方法で行動しなければなりません。この地上で得ている現在

の家族関係は確かに大切です。しかしそれは、この地上で何世代も続き、またとこしえにわたって継続する家族の影響を考えると、なおさら大切です。

神から与えられた戒めによれば、配偶者はほかの何ものにも勝って伴侶を愛さなければなりません。主は明確に宣言していらっしゃいます。「あなたは心を尽くして妻を愛し、妻と結び合わなければならない。」(教義と聖約42:22) 宣言の中にも次のような一文があります。「神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています〔教義と聖約83:2-4; 1テモテ5:8参照〕。また〔神の計画により、〕母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。」神の計画によれば、夫と妻は結婚と夫婦の関係において対等のパートナーです。神の直接の命により、「両親には、……互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、〔自分が住む国の〕法律を守り市民となるように〔子供たちを〕教えるという神聖な義務があります。」(『家族——世界への宣言』『聖徒の道』1996年6月号, pp.10-11, 下線付加。教義と聖約68:25-28; モーサヤ4:14-15参照)

永遠の幸福の計画において家族がきわめて大切な位置にあるため、サタンは家族の神聖さを打ち破ろうとして躍起になっています。また、男女の役割の重要性をおとしめ、不道徳な行為をするようそそのかして神聖な純潔の律法を破らせ、子供を産み育てる務めを最優先させないように親たちをけしかけています。

家族という単位は神の計画の中で非常に基本的であるため、神はこう警告されました。「貞節の律法を犯す人々、伴侶や子供を虐待する人々、家族の責任を果たさない人々は、〔彼らの造り主である〕神の御前に立って報告することになります。……家族の崩壊は、個人や地域社会、国家に、古今の預言者たちが預言した災いをもたらすことでしょう。」(『家族——世界への宣言』『聖徒の道』1996年6月号, pp.10-11)

個人の救いは一人一人の従順さにかかっていますが、同じように大切なのは、だれもがなくてはならない家族の一員であり、最高の祝福は永遠の家族の中でしか受けられない、という点を理解することです。家族が神の意図されたとおりに機能するなら、そこに見いだされる関係はこの世で最も大切なものとなるでしょう。御父の計画では、家族の愛と親しい交わりは永遠に続き



ます。しかし家族の一員であるということには、世話をし、愛情を注ぎ、家族同士で励まし合い、力づけるという大きな責任が伴います。家族全員が義になかった状態で現世を最後まで堪え忍び、永遠にわたってともに住めるようにするためです。自分自身を救うだけでは十分ではありません。親、兄弟、姉妹が家族の中で救われることも、同じように大切なのです。天父のみもとに独りで戻るなら、こう尋ねられるでしょう。「あなたの家族はどこにいますか。」家族が永遠であると教えているのはこのためです。個人の存在が永遠であるために家族の存在も永遠です。

肉体と霊の永遠性を、この世の人はよく疑問視します。この地上に住むすべての人は人類家族の一員であり、愛ある天父という神の永遠の子供たちです。現世での誕生と死を経験した後、すべての人は、父なる神の独り子、イ

エス・キリストの贖罪^{しよくばい}によって復活します。神の律法、儀式、戒めに従った個人の忠実さの度合いに応じて、人間は永遠の命を授かるという祝福を得ることができます。すなわち、天父と御子イエス・キリストの御前^{みまへ}に戻って、いつまでも永遠に増え続けることができます。神殿の儀式の中に示された神聖な聖約を交わし守ることで、人は神の御前に戻り、家族として永遠に一つに合わせられます。

家庭は人が養いを受け、現世で暮らしを立てる準備をする場所です。死と不死不滅に向けて備える場所でもあります。わたしたちの信条ないし理解に従えば、死後の生活は個人のためばかりでなく、家族のためにもあるからです。

危機に直面したとき、教会員が個人の生活と家庭生活の中でどのように福音の原則を応用しているかを見れば、家族の永遠性について福音の原則から

幾つかの大きな教訓を学ぶことができます。これまでわたしは、危機の中にあっても永遠の家族に関する福音の教えを尊び、守る人々にもたらされた喜びの祝福を見てきました。

数か月前、わたしは不治の病を宣告された男性と会う機会がありました。彼は献身的な神権指導者でしたが、死すべき世の現実^{じつじ}に直面していました。ところが彼は、主の祈りの中で示された救い主の模範に、力を見いだしていました。「だから、あなたがたはこう祈りなさい。……みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように。」(マタイ6:9-10) わたしの友人が勇気を得たのは、イエスがゲツセマネの園で大きな悲痛に耐えながら、贖罪の犠牲を払われたとき、こうつぶやかれたのを知っていたからです。「わが父よ、この杯^{さかずき}を飲むほかに道がないのでしたら、どうか、みこころが行われますように。」(マタイ26:42)



つらい試練と苦しみ中で、わたしの友人は「みこころが行われますように」という言葉を受け入れるようになりました。忠実な教会員である彼が次に直面したのは、幾つかの重大な懸念でした。特に胸にこたえたのは次のような問いでした。「最後まで忠実に堪え忍ぶために、わたしはしなければならぬことをすべて行っただろうか。死とはどのようなことだろうか。わたしがなくなった後も、家族は信仰を固く保ち、自立する備えができていたのだろうか。」

わたしたちは、3つの問いすべてについて話し合い、救い主が説かれた教義の中に明確な答えを見つけました。また、彼がいかに生涯を通じて忠実であるように努め、神に求められたことを果たし、友人をはじめ、すべての人々と正直に交際し、家族の世話をし、彼らを愛してきたか、わたしたちは考えました。これがほんとうの「最後まで堪え忍ぶ」ことの意味ではないでしょうか。死の直後に起きること、霊界についての神の教えについても意見を交換しました。霊界は義にかなった生活を送ってきた人々にとってパラダイスであり、幸福な場所であって、恐ろしい所ではありません。

話し合いの後、彼は奥さんと親族——子供や孫たち——を周囲に集めて、もう一度、すべての人がよみがえるという贖罪しうざいの教義を教えました。主が教えられたように、しばらくの別れの間は嘆きもあるかもしれないが、主にあって死ぬ者には悲しみはない（黙示14：13；教義と聖約42：46参照）ということが、皆分かるようになりました。主からの祝福によって得た慰めと確信により、すべてに支障はなく、痛みも味わわず、家族に自分のいまわの準備をさせる時間を与えられ、霊界への旅立ちの時刻さえ知らされました。わたしが家族から教えられたのは本人が亡くなる前の晩でしたが、自分は明日死ぬと言っていたそうです。彼は翌日の午後に、家族全員が見守る中で、安らかに息を引き取りました。これが、福音の計画を理解し、家族が永遠であることを知っているわたしたちに与え

られる、平安と慰めです。

わたしが20代の初めに経験した出来事と、これを比べてみましょう。空軍にいたころ、わたしたちの飛行部隊にいたパイロットの一人が訓練中に墜落して、死にました。わたしは割り当てを受けて、彼をニューヨーク郊外のブルックリン墓地に埋葬するため、墜落した同僚の最後の帰還に同行しました。わたしは、家族が故人と対面するのに立ち会い、葬儀に参列し、墓標のそばで悲嘆に暮れる彼の奥さんに政府を代表して旗章を手渡すという荣誉にあずかりました。葬儀は暗く、悲痛なものでした。だれも彼のすばらしさや業績を語らず、名前さえ触れる人もありません。式の最後に、残された奥さんがわたしを見て、言いました。「ほんとうのところ、夫はどうなるのかしら。」わたしはその復活のすばらしい教えとその真実性について語り、もしバプテスマを受けて、神殿でこの世から永遠にわたって結び固めを受けるなら、彼らは永遠に一緒であることを告げました。すると横にいた牧師がこう言ったのです。「そのようなすばらしい教義を聞いたのは、初めてです。」

イエス・キリストの完全な福音は、緊張の多いこの世で、大きな慰めを与えてくれます。暗闇くらやみの中に光を、混沌の中で静かな力を与えてくれます。この世で味わう絶望に永遠の希望をとめます。それは単なる美しい教義ではなく、生活の中の現実です。つまり、従順になって、神の授けてくださる永遠の報いを得られるなら、また、もし神に近づき永遠の教えを受け入れるなら、わたしたちは確かに祝福された者となるのです。

もう一つ、最近わたしのかかわった出来事について紹介しましょう。不治の病で亡くなったある青年の話です。彼は自分の病についてよく知っていました。まず初めに体の自由が利かなくなり、歩けなくなります。さらに病気が進むと物が言えなくなり、最後には呼吸器官が止まってしまうのでした。ところが彼も、家族は永遠であるという信仰を持っていました。この知識があったため、彼は自分が死んだときに

備えて、子供たち一人一人への言葉をビデオに収めました。自分の息子、娘たちが人生で迎える神聖で大切な時期、例えばバプテスマや神権の聖任、結婚などのときに渡す録画記録を残したのです。彼は父親の優しい愛情を込めて語りました。家族が永遠であるとはいえ、しばらくの間、彼は肉体にある状態で家族のそばにいてあげることができないが、霊は決して彼らのそばを離れない、ということを知っていたからです。

伴侶はんりよに先立たれた忠実な男女や親を亡くした子供たちの示す模範は、すべての人の心を鼓舞してくれます。彼らは家族と再会し、永遠にわたってともにいられるように信仰を守ろうと努めています。その姿を見るにつけ、わたしたちは偉大な教訓を学ぶことができます。

神が生きておられ、イエスがキリストであり、わたしたちは復活して父なる神と御子イエス・キリストのみもとで暮らすことができるという教義を知り、理解していれば、どのような悲惨な出来事にも耐えられます。この教義は、それを知らないために暗く陰うつな世界に、明るい希望をもたらします。また、人はどこから来て、なぜここにおり、どこへ行くのかという素朴な質問に答えてくれます。これらの真理は、家庭で教え、実践されなければなりません。

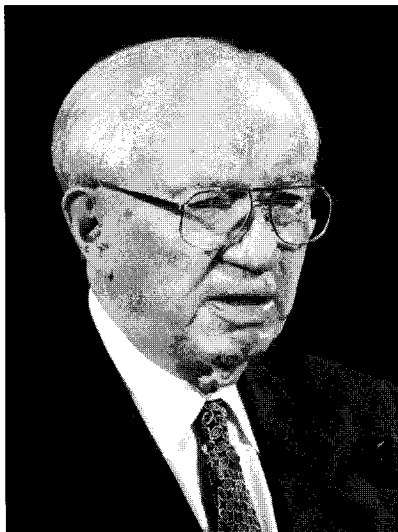
神は生きておられ、イエスはキリストです。その贖罪によって、全人類が復活できるようになりました。それは単に個人を対象とした祝福ではありません。それ以上のものです。一人一人に対する祝福であると同時に、家族に対する祝福です。わたしたちがとこしえに感謝の念に満たされ、永遠の父なる神と御子イエス・キリストのみもとで永遠にわたってともに暮らせますように。わたしたちが真の喜びを理解し、この教義を教えるだけでなく、自分の生活においても家族の中においてもそれに添って忠実に生きられみなますように、イエス・キリストの御名によりお祈りします。アーメン。

教会の女性

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

わたしは全世界に向かって、皆さんの真価、皆さんの優しさ^{あかし}と徳、すばらしい能力と貢献を証します。



この教会の成人会員のうち、半数、いや恐らく半数以上は、女性です。今朝、わたしは特にこの女性の方々に向けて話したいと思います。しかし、男性の方々にも聞いていただきたいと思います。

まず姉妹の皆さんに申し上げます。皆さんは御父がその子供たちの永遠の幸福のために定められた計画の中で、その重要性において劣る位置に置かれているわけではありません。皆さんは神の計画において、絶対不可欠な位置を占めているのです。

皆さんなくして、この計画は機能することができません。女性がいなければ、教会の全プログラムが崩壊してしまいます。前にもこの壇上から話しましたが、天地創造が始まったとき、創造主であるエホバは御父の指示の下に、闇と光を分け、陸と海を分けられました。それに続いて、植物の創造が

行われ、さらに動物の創造が行われました。そして、男性が造られ、神の創造の最後として、女性の創造という最も大いなる業がなされたのです。

皆さんは一人一人が神の娘であり、聖なる生得権を授けられています。その権利は何ものにも侵されることがありません。

わたしは行く先々でメディアの代表者たちのインタビューを受けます。彼らは必ず、教会で女性が置かれている位置について質問します。彼らは、わたしたちが女性を蔑視^{べっし}していると言わんばかりに、批判的な態度を見せます。その度にわたしが答えているのは、世の中にこの教会ほど女性に対して、成長の機会、良い交流の場、すばらしい善をなす機会、指導的な立場や責任ある立場に就く機会を多く与えている組織はほかにないということです。

わたしはそのようなレポーターの方々が、先週の土曜日にこのタバナクルで開かれた扶助協会の集会に出席できていたらと思っています。多くの神の娘がこのように集った姿を見るのは大きな感動でした。それは、信仰と才能を持ち、人生の目的をわきまえ、自分たちが創造された神聖な意義を理解している人々でした。レポーターの方々に、ブリガム・ヤング大学の若い女性たちのすばらしい合唱を聞いていただきかったと思っています。その美しい歌声はわたしたちを感動させてくれました。また、中央扶助協会の会長会の靈感あふれるメッセージを聞いていただきかったと思います。一人一人が、信仰、希望、慈愛というテーマについて話してくれました。

この女性たちは、何と豊かな才能に恵まれていることでしょうか。彼女たちは、力と確信と優れた説得力をもって、自分自身を表現していました。そしてファウスト副管長がすばらしいお話でその会を締めくくってくれました。

教会の女性の位置についてよく質問なさるレポーターの方々が、あの大会に出席していたら、それ以上の質問をしなくても、この教会の女性には強さと大きな能力があることを理解したことでしょう。この主の王国の一翼を担い、神権者と手を携えて前進する女性たちの中には、指導力、確かな独立心、そして大きな充実感があります。

その扶助協会の集会に出席された多くの人々が、今日この大会に集っています。今日は、それぞれに愛し尊敬し合うご主人とともに出席しています。この世において、また永遠にわたって伴侶となる善き男性と結婚のきずなで結ばれた皆さんは、ほんとうに幸せな人々です。皆さんは、様々な立場で人に仕え、家族を養い育ててくる中で、幾度も嵐に遭いながらも、自分自身を見失わず進んで来ました。多くの女性が母親としての生活をしています。そして孫やひ孫を持っている人も実に多くいます。親として、時に苦しく、時に喜びに満ちた経験をしてきました。皆さんは、神の霊の子が不死不滅と永遠の命への通過点である第二の位を経験できるよう、彼らをこの世に迎えるという大切な働きの中で、神と手を携えて歩んできました。子供を育てるのは、決して易しいことではありません。多くの方が犠牲を払い、生活を切り詰め、夜も昼も働いています。皆さんについて、また皆さんの置かれている状況について考えるとき、わたしはアン・キャンベルが自分の子供たちの姿を見ながら書いた詩を思い出します。

「あなたたちは、わたしの歩んだことのない道

わたしが買えなかった真珠

あなたたちは、わたしが行けなかったイタリアの青い湖

わたしが行けなかった遠い国の空。」

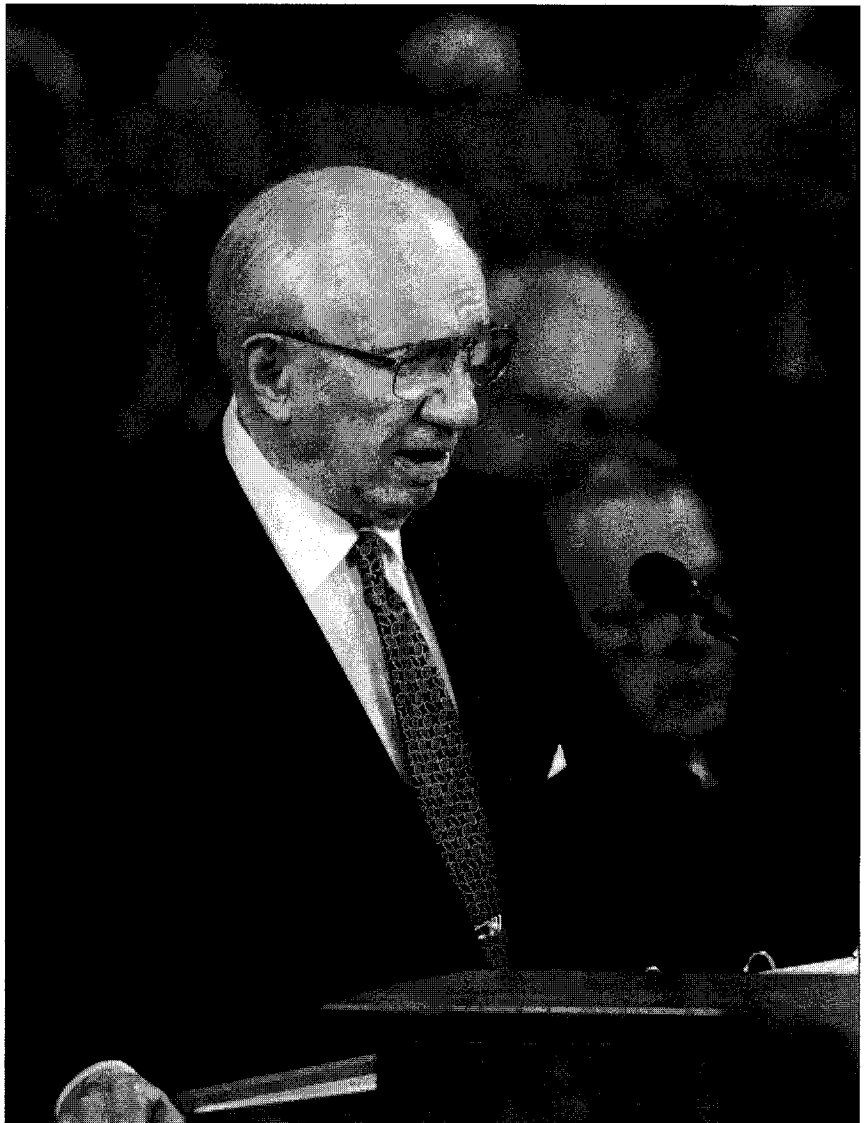
(“ To My Children” The Treasure Chest 「子供たちへ」『宝の小箱』チャールズ・L・ウォーリス編、p.54に引用)

どこに住んでいるかにかかわらず、姉妹の皆さんは真の意味で国の基を築いているのです。なぜなら、皆さんは強く安らかで、安全な家庭を築いているからです。そのような家庭こそ、どの国においても、真の力となるのです。しかし、不幸にも、暴力的な男性と結婚してしまった人も少なからずいると思います。そのような男性の中には、日中は人々の前でこやかな顔をしていながら、夜になって家に帰ると、自制心を忘れ、ささいなことに腹を立て、怒りを爆発させる人がいます。

このような悪と野蛮な振る舞いをしている男性は、神の神権にふさわしくありません。そのようなことをしている男性は、主の家に入る特権にふさわしくありません。わたしは、自分の妻や子供たちから愛される資格のない男性がいることを残念に思います。自分の父親を恐れる子供、また自分の夫を恐れる女性がいます。わたしの声を聞いている人の中に、このような男性がいるとすれば、わたしは主の僕として、その人を叱責し、悔い改めるよう求めます。自分自身を抑え、感情をコントロールしてください。あなたを怒らせている原因の多くは、ささいなことのほうです。それに比べて、あなたが自分の怒りと引き換えに払う代価は実に恐ろしいものなのです。主に赦しを請うてください。妻に赦しを請い、子供に謝る必要があります。

教会には多くの独身女性がいます。ほとんどの場合、彼女たちは自分の選びによって独身でいるわけではありません。永遠を共にしたいと思う相手に出会う機会に恵まれないでいる人々もいます。

最近このタバナクルで独身者を対象に開かれた集会で話したことを、もう一度、結婚を望んでいる独身の女性たちに申し上げます。「望みを捨てないでください。努力をやめてはいけません。しかし、伴侶となる人を見つける



ソルトレーク・タバナクルの説教壇の前に立つゴードン・B・ヒンクレイ大管長。

ことばかりに、気をとられてもいけません。そのことを忘れて、ほかのことを一生懸命するようになると、良い相手に巡り会える可能性が飛躍的に高くなります。

多くの人にとって、孤独を癒す最良の薬は、人のために働くことだと思います。皆さんの問題を過少評価するわけではありませんが、それよりも深刻な問題を抱えている人がたくさんいるということをあえて申し上げます。そのような人々に手を差し伸べ、助けと励ましを与えてください。わずかな気配りや励ましがなかったために、暗い学校生活を送っている少年少女が非常に多くいます。苦痛、孤独、不安の中で生活している高齢者の方々がいますが、

その多くは簡単な会話があるだけで、ある程度希望や喜びを感じられるのです。」

教会の女性の中には、離婚や死によって夫をなくした人や、扶養義務を果たさない夫を持つ人がいます。その方々に対してわたしたちは大きな責任があります。聖文には次のように宣言されています。

「父なる神のみまえに清く汚れのない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まらずに、身を清く保つことにほかならない。」(ヤコブの手紙1:27)

ここに、自分を幸福だと思っている一人の姉妹からの手紙があります。事実彼女は幸せな生活をしています。こ

う書かれています。

「わたしはひとり親として4人の男の子を育てていますが……決して孤独ではありません。助け支えてくれる『ワードの家族』がいるからです。…

扶助協会の会長は、わたしがどうしようもない苦しみを味わっているときにはいつもそばにいて、わたしが靈的に成長し、祈り、神殿に参入できるように助けてくれています。

監督は必要な食糧や衣類を惜しみなく持って来てくれ、二人の子供がキャンプに参加できるように助けてくれました。また、わたしたち家族全員と面接し、一人一人に祝福と必要な励ましを与えてくれます。またわたしが家計のやり繰りや、子育ての責任が果たせるように助けてくれています。

ホームティーチャーは定期的に訪問し、新しい学年の始まりには息子たちに祝福も授けてくれます。ステーク会長会の皆さんも、定期的に、時間を取って教会で会ったり、電話をかけたり、家に訪問したりして、心にかけてくれます。

この教会は真実です。わたしと子供たちは、神様がわたしたちを愛し、『ワードの家族』がほんとうに大きな影響を与えられるということの生きた証拠です。

神権指導者は、息子たちが教会やスカウトプログラムに活発に参加できるように助けてくれています。一人はイーグルスカウトの章を受け、今週にはさらに4つ目の達成章を受けることになっています。もう一人の子もイーグルスカウトで、ほかに3つの達成章を受けています。そして次の子は、今週イーグルの申請書を出したばかりです。いちばん下の子もカブスカウトが大好きで、来年からボーイスカウトに入団します。

わたしたちはいつも優しい思いやりと温かな握手に包まれて生活しています。自分たちにはとても克服できないと思える試練があっても、キリストの精神をよく示してくれるステークとワードの皆さんが助けてくれています。

生きていくのは大変なことです。…

…しかしわたしたちは、ひざまずいて家族の祈りをささげて……助けと導きを求め、自分たちに与えられている祝福に感謝の言葉を述べ、それによって神の武具で身を固めています。わたしは、息子たちに宣教師となるように、また、福音と各自が受けている神権に忠実であるように教えるときに、常に聖霊がともにいて導きを与えてくださるように、毎日祈っています。

わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることを誇りに思っています。この教会が真実であることを知っています。教会の指導者を支持しています。わたしたちはとても元気にやっています。そして、わたしたちを愛し、わたしたちのために祈り、わたしたちを温かく受け入れてくれる皆さんに感謝しています。」

何とすばらしい手紙でしょう。この教会が全世界でどのような働きをしているか、またどのような働きをなすべきかを、実によく物語っています。わたしは、この女性のような状況にあるすべての女性が、彼女と同じように、理解があり、助けの手を差し伸べてくれる監督、また、どのように援助したらよいかをよくわきまえている扶助協会会長、自分の義務を理解し、実行するホームティーチャー、でしゃばることなく、助けを与えてくれる多くのワード会員に恵まれるように望んでいます。

わたしはこの手紙を書いた女性に会ったことはありません。彼女の手紙には、元気に生活していることが書かれています。多くの葛藤や孤独感、そして時には、不安に駆られることもあるはずですが、自分も含めて10代の子供の生活上の必要のために、彼女が働いていることも分かります。しかし、監督が食料や衣類などの世話をしているという文面から判断すると、収入も決して十分ではないのでしょう。

何年か前にベンソン大管長が、教会の女性に向けてメッセージを出したことがあります。ベンソン大管長はその中で、教会の女性に、仕事を辞め、子供のために時間を使うようにとの勧告を与えました。わたしもベンソン大管

長のその勧告を支持するものです。

しかしながら、ベンソン大管長もそうでしたが、わたしも、家族の生活のために働かなければならない女性がいることは認めています。実際そのような女性が非常に増えています。そのような人々に申し上げます。どうか、皆さんの最善を尽くしてください。フルタイムで働いている皆さんは、基本的な必要を満たすためにそれをしているのであり、ただ単に、高価な家や自動車、ぜいたくのために働くようなことのないように望んでいます。母親の最も大切な仕事は、義と真理のうちに、子供を育て、教え、助け、励まし、養うことです。母親の代わりになり得るものは、何もありません。

フルタイムの仕事と、専業主婦を両立させるのは、ほとんど不可能なことです。このことでいろいろと思い悩んでいる女性がいると思います。もう一度申し上げます。皆さんの最善を尽くしてください。皆さんは自分の状況を御存じです。わたしは皆さんが、御自分の子供の幸せを、心から願っていることを承知しています。皆さんには、助言と助けを与えてくれる監督がいます。分別をわきまえた女性と話す必要があると感じたときには、ためらわずに、扶助協会の会長に連絡を取ってください。

教会の母親の皆さん、ここにおられるすべての母親の皆さんに申し上げたいことがあります。時とともに、皆さんは、正義、善、正直、信仰に向けて子供たちを育てるために自分がしたことにもますます感謝するようになるでしょう。子供に対して十分な時間を取ることができれば、恐らくそうなることでしょう。

独りで子供を育てている皆さんに申し上げます。皆さんを助けたいと思っている人がたくさんいます。主は皆さんを忘れてはおられません。もちろん、主の教会も皆さんを忘れてはいません。

独りで子供を育てておられる姉妹の皆さん、皆さんのうえに主の祝福がありますように。皆さんが、大変な責任を果たせるように、健康と強さと活力

を授けられますように。試練のときに支えてくれる優しい友と仲間恵まれますように。皆さんは、恐らくほかの人々は知らない祈りの力を御存じでしょう。皆さんの多くは、^{ほお}頬を涙でぬらしながら、長い時間ひざまずいて天父に語りかけています。どうか、わたしたちも皆さんのために祈っていることを忘れないでください。

皆さんは自らのすべきことに加えて、教会での奉仕も要請されています。監督の方々が、皆さんに能力以上のことをするように求めることはないでしょう。そして、奉仕をするときに、皆さんは自分の人生に、新たな広がりを得ることでしょう。また、友情、人々との交わりを得、知識と理解と知恵、さらには行動力においても成長していくことでしょう。主の業の中で行う奉仕を通して、さら良い母親となることでしょう。

さて、最後に年配の女性の皆さんに少し申し上げたいと思います。皆さんの中にはご主人に先立たれた人も数多くいます。皆さんは大きな宝です。皆さんはこれまでに幾度となく人生^{あらし}の嵐を経験してきました。皆さんは、年下の姉妹たちが現在直面している様々な問題を耐えてきました。皆さんは、知恵、理解力、人を思いやること、そして愛と奉仕においても円熟しています。

皆さんの表情の中には、輝くようなある種の美しさがあります。それは心の安らぎがもたらす美しさです。まだ、苦勞することはあるかもしれませんが、それを乗り越えていく円熟した知恵があります。健康上の問題があっても、それに対処するある種の沈着さがあります。過去の嫌な思い出はほとんど忘れています。その一方で、良い思い出がよみがえり、人生に喜びと安らぎをもたらしてくれます。

皆さんは聖文を愛することを学び、それに親しんできました。皆さんの祈りはその多くが感謝の祈りとなっています。皆さんは温かな言葉であいさつを交わしてくれます。皆さんの友愛の精神は、ほかの人が安心して頼れる、非常に強いものです。

末日聖徒イエス・キリスト教会の女

性は、すばらしい恵みの源です。皆さんはこの教会を愛し、その教えを受け入れ、教会の組織の中で自分が受けている責任を誇りにしておられます。皆さんは教会員の中に輝きと強さと美しさをもたらしてくれています。わたしたちは心から皆さんに感謝しております。皆さんを心から愛し、尊敬し、誇りとしています。

わたしは自分の妻をたたえたいと思います。互いへの愛を胸に、夫婦としてソルトレーク神殿の扉を出てからもうすぐ60年になろうとしています。これまでの歲月の中でわたしたちの愛はさらに強められてきました。その間、数多くの問題に直面しましたが、ともかくも、主の祝福により、それらの問題をすべて克服してきました。

肉体的には、若いころのようにはいかなくなってきています。しかし、それもさほどの問題ではありません。腰が少しは曲がってきましたが、お互いにまだ健在です。別れの時が来たら、その悲しみはとても大きいと思います。しかし、永遠にわたって、妻がわたしのものであり、自分は妻のもので

あるとの確信がもたらす慰めもあることでしょう。

愛する姉妹の皆さん、わたしたちが皆さんに心から感謝していることを知っていただきたいと思います。皆さんはわたしたちに力を与えています。皆さんが持っている力は偉大なものです。皆さんはその高潔さとすばらしい能力をもって、扶助協会、若い女性、初等協会などのプログラムを推し進めています。日曜学校で教えている方々もいます。わたしたちは皆さんの^{はんりょ}伴侶として、また兄弟として、敬意と愛と誇りと心からの称賛の意をもって、ともに並び連れ添っていきます。教会の男性が神権を受けるように定められたのは主御自身です。神の教会であり、王国でもあるこの偉大な驚くべき業を完成させるための力を皆さんに与えられたのも主御自身です。わたしは全世界に向かって、皆さんの真価、皆さんの^{あかし}の優しさと徳、すばらしい能力と貢献を証します。天の祝福が皆さんのうえに注がれますように。主イエス・キリストの御名によりお祈りします。アーメン。

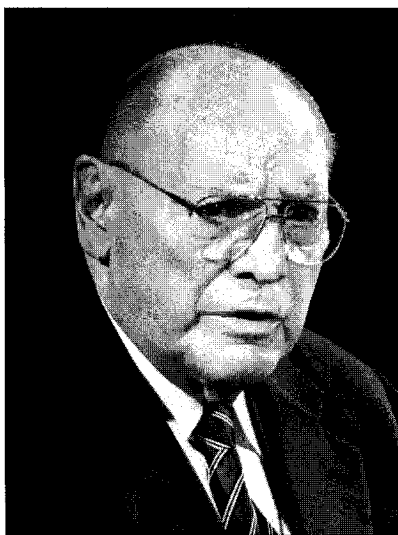


信仰にも行いにも クリスチャンである

十二使徒定員会会員

ジョセフ・B・ワースリン

神への心からの愛に動機づけられた従順は、人を完全にキリストのみもとに來させ、主の恵みにあずからせ、贖いを通じて、完成へと導いてくれます。



愛する兄弟姉妹の皆さん。今日、皆さんにお話しする特権が与えられ、この大会を通じてわたしたちが味わっている同じ御霊がとどまるよう祈っています。

末日聖徒イエス・キリスト教会やその会員たちはクリスチャンではないと、誤って信じている人たちがいます。真理とは程遠いそのような考えを受け入れ、広めている人たちを見て、なぜそのようなことができるのか、理解に苦しみます。ゴードン・B・シンクレイ大管長は、教会の会員について、「わたしたち末日聖徒はこの点において、神の御子、世の贖い主であられる主への愛によって結ばれ、皆一つです。わたしたちは、主の神聖な御名を引き受けている契

約の民です」と言っています。

わたしたちの信仰や行いは、ほかの人々とは違っているかもしれません。しかし、わたしたちは善良なクリスチャンとして、ほかの宗教やその信奉者を批判するようなことはしません。「わたしたちは、自分の良心の命じるとおり全能の神を礼拝する特権があると主張し、またすべての人に同じ特権を認める。彼らがどのように、どこで、何を礼拝しようと、わたしたちはそれを妨げない。」²

ある辞書の定義によれば、クリスチャンとは「イエスをキリストであると信ずることを公言している人々、あるいは〔イエスの生涯と教え〕に基づいた宗教的な教えに従う人々」であり、また「イエスの教えに従って生活する人々」³です。こうして見ると、クリスチャンには二つの特徴があることが分かります。一つは、救い主を信じることを公言していることですし、もう一つは、救い主の教えと調和した生活を実践していることです。聖徒、あるいは末日聖徒と呼ばれる忠実な教会員たちは、この二つの特徴をはっきりと兼ね備えています。わたしたちは、信仰においても行いにおいても、「キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である」⁴ということを実証しています。

わたしたちの信仰の宣言

末日聖徒イエス・キリスト教会は主

の御名を頂いています。主が教会の頭であられ、主の選ばれた預言者により、教会は導かれています。

わたしたちは、福音の1番目の原則とは「主イエス・キリストを信じる信仰」⁵であると信じています。「だれでも〔主〕によらないでは、父のみもとに行くことはできない」⁶のです。主の弟子たちと同じように、わたしたちは、ペテロがわたしたちの主について雄々しく証をした、同じ言葉を高らかに繰り返します。「あなたこそキリストです。」⁷心の奥深くに感じている聖なる御霊の燃えるような証により、わたしたちは以上のことをへりくだり、また感謝の念を込めて、宣言するものです。わたしたちがイエスについて説明するときには、愛を込めて簡潔に、イエスこそ「神の聖者である」⁸ことを証します。わたしたちは、「わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」⁹という確かな知識を持っていることを喜んでいいます。従順な心と信仰あふれる思いとで、わたしたちは、「天の門はすべての人に、言い換えれば、神の御子イエス・キリストの名を信じようとする人々に開かれている」¹⁰ことを知っています。

わたしたちは、イエスがわたしたちの天の御父の霊における初子であり、また同時に、肉体における神の独り子であられることを宣言します。イエスは、神であられ、神会を構成する御三方のうちの御一人です。また、人類の救い主であり、贖い主でもあられます。わたしたち全員が参加していた前世の会議のとき、イエスは、御父がその子供たちのために用意された偉大な幸福の計画を受け入れられ、その計画を実行に移すために、御父によって選ばれたのです。イエスは、サタンとその軍勢に対抗するために、良い霊の軍勢を指揮して、人の救いのために戦われました。その戦いは、この世界が形造られる以前に始まったものです。その戦いは今でも続いています。わたしたちは、その戦いのとき、皆イエスの側についていました。わたしたちは今なおイエスの側についています。

汚れない愛の行為であるイエス・キリストの贖いにより、堕落の影響に終止符が打たれ、全人類が神のみもとへ帰るための方法が備えられました。贖罪の働きの一部として、救い主は肉体の死に打ち勝たれ、神の子供たち一人一人に、復活によって不死不滅となることができる道を備えてくださいました。また、霊の死にも打ち勝たれ、永遠の命を受けることのできる道も備えてくださいました。この永遠の命とは、神が現在享受しておられる命のことであり、また、神のあらゆる賜物のうち最も大いなるものと呼ばれています。これは皆、全人類の罪のために主御自身がその苦しみを受けられたからこそ、可能となったのです。

御父の指示の下に、主はこの世界やそのほか数多くの世界を創造されました。主は、永遠の御父である神とこの地上にいたおとめマリヤの子供として、この地球に來られました。そして、罪のない生活をされ、地上に生を受けたいかなる人よりも、また地上にこれから生を受けるいかなる人よりも、この世界に住む人々に大きな影響をお与えになりました。主はまさに、「世界進歩の中の指導的人物として、一人懸け離れた所に位置を占めている」¹¹御方です。主は、十字架にかけられ、復活され、さらに天の御父のみもとへ昇って行かれました。また、復活の後には、西半球に住んでいた民を教え導かれました。

大背教の後、主は福音の回復の業に着手され、1820年の春に御父とともに若きジョセフ・スミスのもとを訪れられました。そして、主の導きにより、1830年4月6日に、回復された教会が組織されたのです。

主は栄光のうちに再臨され、1,000年の間、義にかなってこの地上を治められ、その後、王国を御父にお返しになります。¹² 主イエス・キリストの神性と使命について、わたしたちが信仰と確信のよりどころとするものは、聖文と末日の預言者たちに与えられる絶えざる啓示です。

「わたしたちは、……『聖書』は神の言葉であると信じ」¹³ています。わ

たしたちは、『旧約聖書』および『新約聖書』に主にかかわる知識が記録されていることを喜んでいます。わたしたちは、『旧約聖書』のエホバと『新約聖書』のイエス・キリストとが同一の御方であられることを知っています。神と古代イスラエルの民との交わりやこの地上における神の御業について書かれたこの神聖な記録が、保存され、わたしたちに伝えられ、その結果、わたしたちの心に光がもたらされ、霊に強さがもたらされていることに対して、わたしたちは心から感謝しています。『聖書』の記録が断片的であることやその中に誤りがあることは、度重なる筆写や翻訳、そして解釈が行われたことが原因ですが、それでも、『聖書』が「正確に翻訳されているかぎり」¹⁴ 神の御言葉と信じるわたしたちの信仰を揺るがすものではありません。わたしたちは『聖書』を読み、研究します。その中から教え、説きます。わたしたちは、その中に書かれている永遠の真理に従って生活するように努めています。わたしたちは、神聖な知恵の詰まっているこの書物を心から愛しています。

わたしたちは、「また、『モルモン書』も神の言葉であると信じる」¹⁵のもです。この『モルモン書』はイエス・キリストについてのもう一つの証であり、「戒めにより、また預言と啓示の霊により書き記されたもの」であって、「[すべての民に] イエスがキリストであり、永遠の神であり、すべての国民に御自身を現されることを確信させるもの」¹⁶です。神は、第2の証として、『モルモン書』をもたらししてくださいました。これは、『聖書』に書かれている救い主についての証を補強し、強化するものです。『モルモン書』は『聖書』に取って代わるものではありません。むしろ、救い主に関するわたしたちの知識を、広め、深め、明瞭にし、増大するものです。確かに、この第2の証は、あらゆるクリスチャンに、読んで大いなる喜びの基としていただける書物です。

わたしたちは、わたしたちと信仰を同じくしない友人の皆さんにも、『モ



ルモン書』をお読みいただき、その内容について祈りをもって深く考えてくださるよう、お勧めするものです。そのような皆さんに、聖文の約束を一つ紹介しましょう。「さて、わたしの愛する同胞よ、……地の果てに至るすべての人よ、これらの言葉を聴き、キリストを信じなさい。また、これらの言葉を信じなくても、キリストを信じなさい。キリストを信じれば、これらの言葉を信じるようになるであろう。これらの言葉はキリストの言葉であり、キリストがわたしに授けてくださったものだからである。そして、これらの言葉は、善を行わなければならないことをすべての人に教えている。」¹⁷

末日聖徒は、「神がこれまでに啓示されたすべてのこと、神が今啓示されるすべてのことを信じ……また……神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じ」¹⁸ています。わたしたちは、神がいつの時代でもそうされていたように、今も生ける預言者を通じて神の子供たちに語っておられることを知っているの、ほんとうに祝福されていると感じています。¹⁹

神は回復の預言者ジョセフ・スミスを召され、備えられ、支えられました。預言者には、神に仕える以外に、何の目的も、何の使命もありません。御自身の神聖な責任と聖なる召しについて、現代の生ける預言者であるゴード

ン・B・ヒンクレー大管長は、このように言っています。「主の御心をなすことのほかに、わたしの望みはありません。わたしは主の僕であり、主の民に仕えるために召されました。この教会は主の教会であり、わたしたちは主に属するものを管理しているにすぎません。」²⁰

『教義と聖約』にも数々の啓示が記録されています。その啓示について、「時満ちる神権時代に新たに語りかけられた主イエス・キリストの優しい、それでいて確固とした声が聞こえてくる。この声によって開始された業は、……世界が始まって以来のすべての聖なる預言者たちの言葉にかなひ、それを成就するものである」²¹と書かれています。

この数々の啓示の書は、「全人類にとって非常に貴重なもの、また全地の富よりも価値あるもの」です。なぜなら、それは「イエス・キリストについて、すなわち、イエス・キリストの神性、尊厳、完全、愛、贖いの力について述べられた証」²²だからです。

『高価な真珠』を読んでも、イエス・キリストこそ、アダム時代からジョセフ・スミスの時代に至るまで、さらにまたゴードン・B・ヒンクレー大管長の時代も含めて、あらゆる神権時代における中心人物であられたということが分かります。

わたしたちはどのように生活するのか

繰り返しますが、定義によれば、ク

リスマンというのは、ただ単に、救い主を信じるという信仰を公言するだけではありません。クリスマンというのは、イエス・キリストの教えと戒めに従って生活し、実践する人々なのです。主はこう教えられました。「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。」²³イエスはまた、このようも言われました。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」²⁴主はさらに、御自分の生活に倣ってわたしたちも生活するよう、お命じになりました。²⁵ 主の真の弟子とは「御言葉を行う人」であって「聞くだけの者」²⁶ではありません。

わたしたちに主を信じる信仰があると、福音の2番目の原則へと進んでいきます。つまり、悔い改めです。²⁷ わたしたちは、自らの汚れを捨て、清められたいという強い希望を抱くようになります。それは、神のみもとへ帰るにふさわしい者になりたいと思うからです。わたしたちは、御父がその子供たちのために用意してくださった偉大な幸福の計画について学び、神の律法に対する従順さと固く結びついている平安と喜びの祝福を受けたい、と心から願っています。²⁸ イエス・キリストの偉大な贖いの力により、言い換えれば、わたしたちの神の戒めに対する従順さの度合いによって働く力により、わたしたちは、自分の罪を洗い清められるのです。悔い改めるあらゆる人々

のために、主の無限の「憐れみは正義の要求を満たし」²⁹ます。近代の啓示を通してこの地上に回復された偉大な真理の一つは、イエス・キリストの贖いは万人を対象にしているという教えです。福音の救いの力はあらゆる時代を超え、すべての国民、部族、国語の民、民族に及びます。へりくだって悔い改めることにより、わたしたちは打ち砕かれた心と悔いる霊というささげ物を差し出します。これこそ、バプテスマの水に入る前のわたしたちに、主が求めておられることなのです。³⁰

わたしたちが主を信じる信仰を持つと、福音の3番目の原則に進みます。それは、神権の権能を持つ者によって執り行われる、「罪の赦しのために水に沈めるバプテスマ」³¹です。救い主は、わたしたちは皆再び生まれなければならないとお命じになりました。「だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」³²末日聖徒は、バプテスマは欠くことのできない救いの儀式であって、すべての人が受けなければならないものであると考えています。バプテスマによって、わたしたちは、主の御名を受け、その戒めを守ることによって御名を尊ぶという聖約を交わします。すると、主は、その報いとして、わたしたちに導きと光を与える主の御霊がとどまるという約束をしてくださいます。福音の4番目の原則は、「聖霊の賜物を授けるための按手」³³です。

主の御名を引き受けるようになると、わたしたちはほぼクリスマンになったとすることができます。それは、キリストの御名を頂くからです。毎週、わたしたちはパンと水のしるしを頂くとき、主を記念するために頂きます。わたしたちは聖約を新たにし、「進んで〔神の〕御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が〔わたしたちに〕与えてくださった戒めを守る」³⁴のです。

主を信じる信仰を持ち、悔い改め、バプテスマを受け、聖霊の賜物を受けるようになると、わたしたちは新しく生まれることになります。わたしたちは、「心の中に大きな変化を」³⁵経験し、



「内なる人において生かされた者」³⁶となります。もしわたしたちが忠実で従順であるならば、この大きな変化によって、やがて「悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つように」³⁷なることでしょう。

神の戒めに従うことにより、あらゆる汚れたことを遠ざけるようになります。神への心からの愛に動機づけられた従順は、人を完全にキリストのみも^{キリスト}に來させ、主の恵みにあずからせ、贖い^{あがな}を通じて、完成へと導いてくれます。³⁸ 末日聖徒は主の戒めを守るという聖約を交わします。自分はまだ十分ではないと思いつつも、わたしたちの心の中には、従順な者となれるよう、ひたすら努力を続けたいという決意があります。わたしたちは救い主の教えに従います。わたしたちは、常にもう1マイル行くよう努め、断食に努め、敵のために祈るよう努め、貧しい人を世話し、ひそかに愛の行いをするよう努めています。また、主が良いサマリヤ人のたとえで教えられた模範に従おうと努力しています。わたしたちは、不敬な言葉は使いません。人の欠点を探さず、安息日を聖日として守り、わたしたちの兄弟と和解をするように努めています。さらに、忍耐^{ゆる}と赦^{ゆる}しの気持ちから、もう一方の頬^{ほお}を出すように努めています。自分が人を裁くように、自分も裁かれるようになることを知っているからです。わたしたちは、物欲や借金^{借金}の危険性もよく承知しています。わたしたちは、生活において、神の国と神の義とを第一に求めたいと願っています。それは、わたしたちの心がやがて自分の宝のある所を求めるようになることを、知っているからです。わたしたちは、門が狭く、道が細いことを知っています。ですから、主の足跡に従って歩んでいけるように、自己訓練に努めたいと思っています。

わたしたちは隣り人を愛しています。わたしたちは、親切に敬意をもって、人々に接するよう努めています。公の場であっても、家庭内であっても、わたしたちが人々からしてほしいと望むことを、人々にもしたいと願っています。わたしたちは、たとえ交通渋滞

の中で運転していようとも、わたしたちのあらゆる行動を通じて、他人に対する関心と思いやりとを示したいと願っています。わたしたちは、「小さなことから大いなることが生じる」³⁹ことを知っています。わたしたちは、自分の知っていることや自分の生活に喜びを感じているので、それを人々に分かち合いたいと願っています。

末日聖徒がイエス・キリストに深い信仰を抱いていることに対して、あるいはわたしたちが救い主の生涯と教えに基づいた宗教を信奉していることに対して、なお疑いを抱く人がいるでしょうか。イエス・キリストは、紛れもなく、「信仰の導き手であり、またその完成者」⁴⁰です。ヒンクレイ大管長は、わたしたちの贖い主^{あがな}について、次のような力強い証を述べています。「栄光の王、汚れのないメシヤ、主インマヌエルであられるイエス・キリストは、いかなる人も及びもつかない御方です。……この御方はわたしたちの王、主、教師、生けるキリストであり、御父の右手に立たれる御方です。キリストは生きていらっしゃる。真実、生きていらっしゃる。栄光に満ちた、驚嘆すべき生ける神の生ける御方です。」⁴¹

これまで皆さんがお聞きになった証に、わたし自身の証も付け加えさせていただきます。イエスはキリストであり、神の御子であり、全人類の救い主、贖い主であり、また、わたしたちと御父との仲保者であり、完全な模範です。わたしは主を愛し、主に仕え、ひとえに主の御心^{みこころ}を行いたいと願っています。神は生きておられ、その子供たちを愛しておられます。イエス・キリストの福音は預言者ジョセフ・スミスを通じて回復されました。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は、主がお選びになった現代の預言者です。以上のことを、イエス・キリストの御名^{みな}により証します。アーメン。

注

1. 『聖徒の道』1996年7月号, p.75
2. 信仰箇条1:11, 下線付加
3. American Heritage Dictionary

『アメリカン・ヘリテッジ英英辞典』
“Christian”の項参照, 下線付加

4. エペソ2:20
5. 信仰箇条1:4
6. ヨハネ14:6
7. マルコ8:29
8. ヨハネ6:69
9. 使徒4:12
10. ヒラマン3:28
11. ジェームズ・E・タルメージ『基督^{キリスト}イエス』p.2
12. 黙示20:6; 教義と聖約76:107-109参照
13. 信仰箇条1:8
14. 信仰箇条1:8
15. 信仰箇条1:8
16. 『モルモン書』タイトルページ
17. 2ニーファイ33:10. モロナイ7:16も参照
18. 信仰箇条1:9
19. アモス3:7; エペソ4:11-14参照
20. 『聖徒の道』1996年7月号, p.74
21. 『教義と聖約』序文
22. 『教義と聖約』序文
23. マタイ7:21, 下線付加
24. ヨハネ14:15; 教義と聖約124:87
25. 3ニーファイ12:48; マタイ5:48; 3ニーファイ27:27参照
26. ヤコブの手紙1:22
27. 信仰箇条1:4参照
28. アルマ12:32-34; 教義と聖約130:20-21参照
29. アルマ34:16. モーサヤ15:9; アルマ42章も参照
30. 教義と聖約20:37
31. 信仰箇条1:4
32. ヨハネ3:5
33. 信仰箇条1:4
34. 教義と聖約20:77
35. モーサヤ5:2. アルマ5:12-14も参照
36. モーセ6:65
37. モーサヤ5:2
38. モロナイ10:32参照
39. 教義と聖約64:33
40. ヘブル12:2
41. 『聖徒の道』1996年7月号, p.77

偉大な幸福の計画を 実践する

十二使徒定員会会員

リチャード・G・スコット

あなたも夫または妻として、救い主の教えに従うことで聖霊の賜物^{みづもの}を行使するにふさわしい者となって、人生の指示を受けることができます。



聖文にはこう記されています。「神であるわたしは、……人を創造し、男と女に創造した。」「これはあなたが天父のみもとで生活していた前世で、霊的に行われたことです。地上に来る前にあなたの性別は決まっていた。あなたはこの地上での経験を、あなたに対する御父の計画の一部として選択しました。預言者はそれを、「^{あわ}隣れみの計画」²「偉大な永遠の計画」³「救いの計画」⁴、そしてもちろん「偉大な幸福の計画」⁵などと呼びました。あなたはこの地上に来る前にこの計画を知らされ、参画する特権を前世で喜びました。

この人生で完全な幸福を得、幕を越えて永遠に続く喜びを得るには、計画

に対する従順が要求されます。御父の幸福の計画に欠かせないものが、選択の自由、すなわち個人で選び取る権利です。さらに基本となるのは、合法的な結婚という結びつきの中で行使される生殖の力という神聖な特権です。男女の間の結婚は、永遠の計画の根本です。家族は神によって定められました。⁶ 夫または妻であるあなたは、子供をもうけ、彼らを養い、霊的、情緒的、肉体的に訓練する責任を負っています。⁷

サタンにも計画があります。⁸狡猾で、邪悪、巧妙な、破壊の計画です。偉大な幸福の計画⁹を無効にする、考えつくあらゆる手段を用いて天父の子供たちを囚われの状態に置くことが、その目的です。

天父は御自分の息子、娘たちに、主の計画の中で果たすべき個々の責任に見合った独特の特質を授けられました。御父の計画に従うには、あなたが息子、娘、夫、妻として御父に期待されている事柄を行う必要があります。各自の役割は違いますが、それぞれが完全に補い合っているのです。主の計画では、完全な者となるには二人、つまり男性と女性が必要です。確かに夫と妻はそっくりな状態に造られているわけではありませんが、互いに補い合う能力と特質を神によって授けられた、驚嘆すべき組み合わせです。

こうした異なった特質は、結婚を通じて一つになり、調和して、夫と妻、子供や孫たちにとって祝福となりま

す。人生最大の幸福を得、生産性を発揮するには、夫と妻の両方が必要なのです。二人の働きは結びつき、補い合っています。各人は、主が男女の幸福のために定められた役割に最も合う、それぞれの特質を与えられています。主が意図されたとおりにこれらの特質を行使するなら、夫婦は、一つとなって考え、行動し、喜びを得ることでしょう。また、問題と一緒に直面し、一つになって克服するでしょう。愛と理解力をもって成長し、神殿の儀式を通して結び合わされた二人は永遠に一つとなるでしょう。これがその計画です。

アダムとエバの生涯を研究するなら、影響力ある親となるための道が見いだせるでしょう。アダムは地球の創造を助けたミカエルであり、栄光に満ちた、驚嘆すべき人物です。エバもそれに似つかわしい人物で、成熟した、力強い、有為な伴侶^{はんりよ}です。二人が木の実を食べた後、主が彼らに声をかけられました。彼らの答えは、男性と女性の異なった特質を幾つか明らかにしています。アダムに対して主はこう言われました。「食べてはならない……と命じておいた木から、あなたは取って食べたのか。」¹⁰ アダムの反応は、できるかぎり自分が正しい状態にあるように見られたいと願う人間の特徴を示しています。彼の答えはこうでした。「あなたがわたしに与えてくださって、わたしとともにいるようにと命じられた女が、その木の実をくれたので、わたしは食べました。」¹¹ 次の主はエバに言われました。「あなたは何ということをしたのか。」¹² エバの反応は、女性の特徴を示していました。その答えは非常に簡単で、率直でした。「蛇がわたしをだましたのです。それでわたしは食べました。」¹³

後に「アダムは神をたたえ、……地のすべての氏族について預言し始めて言った。『神の御名がたたえられるように。わたしの背きのゆえに、わたしの目は開かれた。わたしはこの世で喜びを受け、再び肉体にあって神にまみえるであろう。』」¹⁴ アダムは自分の責任について考えていました。自らの行いを主の御心と調和させようと努めて

いたのです。エバはこう言いました。「わたしたちの背きなかったならば、わたしたちは決して子孫を持つことはなく、また善悪も、^{あつな}贖いの喜びも、神がすべての従順な者に与えてくださる永遠の命も、決して知ることはなかったでしょう。」¹⁴エバの反応は女性の特徴を示しています。エバの関心はすべての人に及び、すべての人が配慮を受けることを願っていました。どちらの反応が正しいというものではありません。二つの見方の違いは、男女それぞれに固有の特質から生じています。主は、幸福、個人の成長、発展を目的とした御父の計画を遂行するために、こうした違いを活用するよう意図されました。二人が意見を交わすことで、彼らはより広い視野に立った、さらに正確な真理の理解に到達しました。

二人はともに働きました。¹⁵ 子供を持つようにという戒めにも従いました。¹⁶ 時には困難を生じ、難しい状況に陥っても、二人は幸福の計画を知り、それに従いました。次のような戒めを受けていました。「悔い改めて、いつまでも御子の御名によって神に呼び求めなさい。」¹⁷

二人はそうになりました。しかも、子供たちにも幸福の計画を教えました。¹⁸ 二人は協力して問題の克服に努め¹⁹、「神に呼び求めることをやめ」ませんでした。²⁰

アダムとエバは従順だったので、聖霊の導きを受けました。あなたも夫または妻として、救い主の教えに従うことで聖霊の賜物^{たまもの}を行使するにふさわしい者となって、人生の指示を受けることができます。

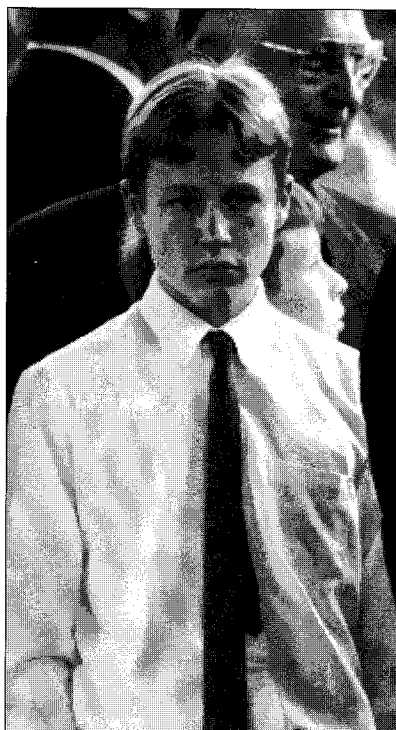
神の計画²¹や真実の幸福からあなたを引き離すためにサタンが用いる巧妙な方法に注意してください。サタンが用いる非常に効果の高い手段の一つが、家庭での妻と母親の役割を卑しめることです。これは、夫婦の愛情を深め、子供たちを理解と平安、感謝と支援の雰囲気の中で養育しようとする神の計画の根幹をねらった攻撃です。現代社会にはびこる暴力の多くは、家庭が弱まった結果です。政府の対策や社会施策では効果的な矯正は望めない

し、学校や教会からの最大限の働きかけも、家庭における愛情に満ちた母親や妻の優しい世話に、完全に取って代わることはできません。

今朝、ヒンクレー大管長は家庭における母親の大切さについて語りました。そのメッセージをよく研究してください。主の導きを受けた母親であるあなたは、配慮の行き届いた指導とふさわしい模範により、真理の糸を用いて、子供たちの人格を織り上げます。正直という特質、神への信仰、義務感、人を尊重する気持ち、親切、自信、貢献し、学び、与える望みを、あなたの信頼を寄せる子供たちの心と意思の中にはぐくむのです。どんな託児所もそれはできません。それは母親の神聖な権利であり、特権です。

もちろん女性であるあなたが職場で遺憾なく力を発揮することもできるでしょう。しかしそれが神の授けられた才能と女性の特質を生かす最上の道でしょうか。夫であるあなたは、避けられるものなら、家族を養うという神が授けられた責任に対する助けを受けるために、妻に働きに出るよう勧めないでください。預言者の勧告にあるように、主の助けを受けながら、可能なかぎり、母親が家庭にいられるように両方の親が協力しなければなりません。²² あなたが家庭にいれば、子供たちの自信は深まり、情緒的な問題が起きる可能性は減るでしょう。しかもあなたが言葉と模範によって真理を教えるなら、子供たちは自分が何者であり、天父の子供として何を得られるのか理解するようになります。

わたしは、自分が理想を言っているのは分かっています。あなたは生活がまだそうした理想の状況に至ってはいないと思って、不安を覚えるかもしれません。しかしわたしは約束します。あなたが従順にイエス・キリストを信じる信仰を保ち続け、幸福の計画全体を理解するなら、現時点の生活でたとえその重要な部分が成就できていなくても、主がふさわしいと認められる時機に、それらはあなたのものとなります。またさらに約束します。今の境遇の中であなたは意義ある成長を遂げ、



幸福になることができます。神の娘または息子として、計画のどの部分でもあなたに実行できる箇所を实践し、最善を尽くしてください。

妻または母親になりたいというあなたの願いはこの地上で完全には満たされない可能性もありますが、その祝福を受けるに値する信仰をもって従順に歩むなら、主の時機にかなってそれは成就するでしょう。²³ わたしたちの神の計画²⁴から迷い出て、この世の道へ行ってはなりません。そこでは母親の務めは過小評価され、女性らしさは軽視され、妻や母親の天与の役割は顧みられないでいます。世の人々は好きなようにさせておきましょう。あなたは主の計画に従って、真実と永遠の達成と完全な幸福を最大限に受けてください。ふさわしい状態にありながら受けていない約束された祝福は、この世か次の世で、漏れなく与えられます。²⁵

わたしは力ある神権指導者と頻繁に面接をします。彼らは奥さんの話に及ぶと、^{はんりよ}伴侶への深い愛情と明白な感謝の気持ちを示します。涙を浮かべることも、しばしばです。彼らはこう言います。「彼女はわたしよりももっとと靈性が高く、清く、献身的です。」「彼女のおかげでもっと善い人間になろうと

いう気持ちがわいてきます。」「彼女はわたしの人生の支えです。」「彼女なしでは務めを果たせませんでした。」真実の気持ちを表現するわたしたち男性の能力のつたなさで、女性である皆さんがどれくらい尊く、必要とされ、愛されているかを判断しないでください。あなたは自分をささげて報いを顧みない女性の天与の特質によって、自分の尊さを過小評価しているのです。

わたしはへりくだって天父に、その娘たちのことを感謝します。女性たちはこの不確実な環境の中で生活するために喜んで地上に来てくれました。たいていの男性は、女性が直面しなければならぬ不確かな状況を処理できないかもしれません。女性は社会的な慣習のせいで結婚の申し込みを受ける立場にあります。夫の転勤や召しのため、任地まで一緒について行かなければなりません。女性の環境や近隣とのお付き合いは、貧しさや裕福さも含め、夫の扶養能力によって決まってしまう。子供を出産する度に自分の命を主に御手にゆだねています。夫はそのような犠牲を払いません。子供を養育し夫の世話をするとする祝福の間に、度々、日常の雑事も多くこなさなければなりません。しかし女性の皆さんは、自分が女性であるという理由で、これらすべてを喜んで行ってくれます。一般的に女性は、自分がどれほど真実すばらしく、多くのことをこなし、いかに深い感謝と愛を受け、どんなに必要とされているかを知りません。というのほとんどの男性は、求められているほど完璧にまた頻繁にそれを伝えていないからです。

どうすれば、地上の経験を通して、最も大きな幸福と祝福を受けることができるでしょうか。

●聖文を研究し、その内容について深く考え、それらを理解できるように祈って、偉大な幸福の計画に含まれる教義上の基礎を学んでください。大管長会と十二使徒会が発表した家族に関する宣言²⁰を入念に研究して、活用してください。それは神の靈感によるものだからです。

●現在と過去との預言者の声に耳を

傾けてください。彼らの宣言は靈感を受けています。あなたの置かれている具体的な境遇の中でそれを応用し、祈ることにより、その勧告が真実であることを心と思い知るでしょう。自分の選択に対して主の確認を求め、それに伴う責任を引き受けてください。

●聖霊のささやきとして与えられる内面の感覚に従ってください。このような感覚は、義になかった思い、行い、主の御心^{みこころ}を求め、それに従って生きようとする決意から生まれます。

●必要なときには親や神権指導者から、助言と導きを求めます。

ある優れた母親は次のように記しています。「開拓者の女性たちは……当時の課題にどう対処したのでしょうか。彼女たちは預言者たちの声に耳を傾け、預言者に従いました。預言者が神の御心を語っているのを知っていたからです。彼女たちはその信仰と従順によって課題と取り組み、大きな祝福を刈り取りました。彼女たちが最初に望んだのは、安全でも、快適な家でも、安楽な生活でもありませんでした。……大切な夫と子供たちのためなら、どんな犠牲も彼女たちの前には物の数ではありませんでした。』²⁷

女性であることがどんなものであるか、明らかにわたしには分かりませんが、このことははっきりと知っています。すなわち、思いの丈を尽くして人を愛することです。わたしが絶えずあふれるばかりに主に感謝しているのは、主の大切な一人の娘から、途切れることなく子供たちに、そしてわたし自身にも豊かに注がれる祝福です。わたしたち二人で見いだした幸せが、あなたにも訪れるように願っています。あなた個人が地上で厳密に御父の計画に従えば、それだけあなたの幸福も達成感も進歩も大きなものになり、神が従順な人々に約束された報いを受ける資格も増すでしょう。救い主が生きておられ、皆さんを愛していらっしゃることを証いたします。イエス・キリストの御名^{みか}により、アーメン。

注

1. モーセ2:27。モーセ2:28:3:

5: Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints『末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会メッセージ』ジェームズ・R・クラーク編、4:303;ジェームズ・E・タルメージ、Millennial Star『ミレニアル・スター』1922年8月号、p.539も参照

2. アルマ42:15
3. 2ニーファイ11:5
4. モーセ6:62
5. アルマ42:8
6. 「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1996年6月号、pp.10-11
7. 同上
8. 2ニーファイ9:8-9;アルマ12:4-5;ヒラマン2:8;3ニーファイ1:16;教義と聖約10:12, 23参照
9. モーセ4:17
10. モーセ4:18
11. モーセ4:19
12. モーセ4:19
13. モーセ5:10, 下線付加
14. モーセ5:11, 下線付加
15. モーセ5:1参照
16. モーセ5:2参照
17. モーセ5:8
18. モーセ5:12参照
19. モーセ5:13参照
20. モーセ5:16
21. 2ニーファイ9:13
22. スペンサー・W・キンボール、サンアントニオでのファイヤサイド、1977年12月3日、p.32
23. ゴードン・B・ヒンクレー「神が合わせられたもの」『聖徒の道』1991年7月号、p.72参照
24. 2ニーファイ9:13
25. ジョセフ・フィールディング・スミス、『救いの教義』ブルース・R・マッコンキー編、2:76参照
26. 「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1996年6月号、pp.10-11
27. ジェニー・W・スコット、BYU Women's Conference「ブリガム・ヤング大学女性の大会」1989年4月6日、p.1

「栄光にあずかる者」

中央扶助協会会長

イレイン・L・ジャック

神権の祝福を受けるとき、わたしたちは神の力と恵みにあずかっているのです。



パラグアイの平原にミストラーという小さな村があります。ピルコマヨ川に近い広々とした荒野の中にあるこの小さな農村に、教会の支部があります。1987年6月、アンデス山脈の雪が解け、作物の水源である川が村を破壊しました。川の堤防が1度ならず2度も切れ、聖徒たちは2度、非難しなければならませんでした。彼らはすべてを失いました。教会堂や家、庭や垣根も。1か月間、ひざまである水をかき分けて歩き、ただ生きているのが精いっぱいでした。

この苦境を聞いた地域会長会は救援物資を送り、七十人定員会のテッド・E・ブルーアートン長老が救援隊を率いて、2日間の過酷な旅に出ました。

村に到着した一行は、女性や子供たちから温かく迎えられました。ほとんどの男性は狩りや漁に出かけていたからです。いてつくような冬の寒さをし

のぐための食糧も衣服もほとんどありませんでした。生き残った家畜は、3頭の羊と数羽の鶏、1頭のやぎ、やせた犬だけでした。葦と木の枝で作った家は、夜の寒さから人々を守ることはできませんでした。

状況はきわめて厳しいものでしたが、村人たちの顔にはほほえみがありました。彼らの心に満ちている平安は、悲惨な状況とは対照的なものでした。

このような苦境の中で、どのようにして明るい気持ちを保っていたのでしょうか。その答えは、ブルーアートン長老が若い支部長に「会員の中に病気の人はいませんか」と尋ねたときに分かりました。

若い神権指導者は、ちょっと考えてから言いました。「いないと思います。ほかの兄弟たちに聞いてみましょう。」数分後、支部長は答えました。「ここにはメルキゼデク神権者が39人います。わたしたちがみんなを見守り、祝福しています。」

その晩、支部の集会で一人の姉妹がささげた祈りを、ブルーアートン長老は決して忘れないでしょう。「天のお父様、わたしたちは美しい教会堂を失いました。服も家也没有。……建物を建てる資材也没有。濁った川の水を飲み、10キロも歩かなくてはなりません。バケツさえないので。でもわたしたちは健康と幸福に、また教会員であることに感謝しています。天のお父様、わたしたちはどのような状況にあっても、バプテスマを受けたときに交わした聖約を誠実に、堅固に、忠実に守ることを知っています。ただきたいのです。」(ハイジ・S・ス

ウイントン、*Pioneer Spirit*『開拓者精神』pp.8-11参照)

すべてが流されても、ミストラーの聖徒たちは、神権の力とその霊的な祝福から片時も離れませんでした(教義と聖約107:参照)。扶助協会の姉妹が自分に残されたものについて主に感謝の祈りをささげる姿が目に見えてきます。残されたものはほとんどありませんでした。バケツさえもないのです。しかし、聖約を交わしていること、教会員であること、そしてキリストのために献身することは失われていませんでした。彼らは「栄光にあずかる者」となるよう祝福されたのです。『教義と聖約』には、このように書かれています。「あなたはわたしの永遠の聖約、すなわち、人の子らのもとに送り出されたわたしの完全な福音を受け入れているので、幸いである。それは……人の子らが……終わりの時に明らかにされる栄光にあずかる者とされるためである。」(教義と聖約66:2)

すべての教会員の生活の中に神権の力が働いていることについて、わたしは強い証を持っています。『教義と聖約』には、メルキゼデク神権は「教会のすべての霊的な祝福の鍵を持つ」(教義と聖約107:18)とも書かれています。それは、わたしたちの生活を祝福してこの世での経験を永遠へと結びつける、地上における神の力であり権能です。神権の祝福を受けるとき、わたしたちは神の力と恵みにあずかっているのです。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は次のように述べています。「神権は二つの目的をもってわたしたちに与えられている。第1は、わたしたちが昇栄を得るためであり、第2は、ほかの人々も同様の祝福を得られるように助ける器となることである。」(『完成への道』p.171)

神の業には秩序があります。154年前、扶助協会の最初の集会で、預言者ジョセフ・スミスは姉妹たちに、人々を救う助け手になるという責任を与えました(Relief Society minutes「扶助協会議事録」1842年6月9日、教会歴史部記録保管課参照)。わたしたちの目

的は今も変わっていません。姉妹たちが神権の権能の下で組織されたことは、わたしにとって重要な意味があります。わたしたちは神権を支持し、神権の力によって支えられています。教会の姉妹たちは、ミストラーの姉妹のように、神権の霊的な祝福に十分あずかる者となる機会を大切にしています。

わたしたち一人一人はこれらの祝福を受けることにより、永遠に進歩するための導きと祝福を受けます。儀式と聖約、結び固め、聖霊の賜物^{たまもの}は、昇栄するために不可欠です。そのほかにも、個人的に受ける神権の祝福がたくさんあります。神権の祝福はわたしたちに導きをもたらし、正しい物の見方を示し、勇気と靈感を与え、献身を促してくれます。わたしたちは皆、これらの

霊的な祝福にあずかることができるのです。

バプテスマは、わたしたち一人一人に永遠の命へ通じる門を開いてくれる重要な神権の儀式です。わたしたちはその土台の上に多くの祝福を積み上げていきます。なぜなら、バプテスマを受けるとき、イエス・キリストに従い、主の福音を実践するというわたしたちの責任が始まるからです。そして、毎週聖餐^{せいさん}にあずかるとき、「いつも御子を覚えてい」(教義と聖約20:79)ことを思い起こすのです。この視覚に訴えて大切なことを思い出させてくれる聖餐は、何とすばらしい祝福でしょうか。

わたしたちは確認を受けるとき、天が開かれ、聖霊の賜物を受けます。この御霊^{みたま}により、また御霊を通して、神

権の祝福がわたしたちの生活に注がれます。聖霊はわたしたちを導き、ともにいて平安を与え、真理について、またイエス・キリストについて証^{あかし}され、これらの霊的な祝福がわたしたちの生活を導いてくれます。そして、わたしたちの周りの人々の生活も御霊にかかわる事柄において豊かになります。祝福は分かち合うにつれて広がるからです。

わたしは自分の頭の上に手が置かれ、個人的な神権の祝福を受けるとき、救い主の愛に包まれるのを感じます。その祝福を施している兄弟は、主の御名^{みな}によって儀式を行っているのです。ミストラーでも、39人のメルキゼデク神権者が人々を祝福するために神権を行使しました。

子供のとき、わたしは癒^{いや}しの祝福を



受けました。それは神権の力と両親の信仰によるものだと思います。それから数年後にわたしの頭に置かれた祖父の手の重みは、今でもはっきりと覚えています。祝福師だった祖父は、わたしの人生の指針となり、忠実であるならば受けられる約束となる祝福を与えてくれました。

わたしは^{あんしゅ}按手任命を受けた後、自分が召しに対して明らかに異なった態度をとることに気がつきました。ある召しを受けたときには、ただただ驚くばかりで、なぜ自分が召されたのか、どうしたらよいのか、だれに助けを借りたらよいのか分かりませんでした。わたしは、大管長会から中央扶助協会会長会の役員として、副会長の姉妹とともに按手任命されたときに感じた平安を、今でも思い出します。その儀式は型どおりに行われましたが、温かいものでした。わたしは名前を呼ばれ、静かに心を集中しました。そして、個人的な導きと知恵にあふれる勧告を頂きました。

主人のジョーが監督に召されたときも、また長男のデイブが湾岸戦争へ出て行く前に主人から祝福を受けたときも、同じ温かい気持ちを感じました。そして今度は息子が妻と生まれたばかりの娘を祝福したときにも、同じ気持ちを感じたのです。そのおかげで、恐ろしい戦争の間も平安な気持ちでいることができました。

今朝わたしは、この話の準備を完了するために、主人に特別な祝福してもらいました。「わたしの平安をあなたがたに与える」(ヨハネ14:27)という主の御言葉^{みことば}に対してわたしが感じた気持ちは、とても言い表すことはできません。

霊的な賜物^{たまもの}は、力強い神権の祝福です。わたしたちが天の力を受けてそれらを伸ばすとき、わたしたちの能力は増し加えられます。わたしにとって価値ある賜物の一つは、識別の賜物です。主は井戸の所で女に話しかけたとき、「永遠の命に至る水」を与えようと言われました。主は、彼女の必要を識別されたのです。女は「あなたの夫を呼びに行き、ここに連れてきなさい」

という主の言葉に驚き、答えました。「わたしには夫はありません。」イエスは「もっともだ」と言われました。そこで女は言いました。「主よ、わたしはあなたを預言者と見ます。」(ヨハネ4:14-19参照)

多くの女性は識別の賜物を持っています。自分が経験した以上のことを知って理解する力にしばしば恵まれ、毎月家庭訪問をするときや、監督の指示の下に人々の必要を判断するときに、この力を行使します。また子供を育て、福音を教えるときにも使います。主の御霊^{みたま}を通して与えられた神の力によって、「無くてならぬもの」(ルカ10:42)を見分けるのです。家庭で行う義になつた業ほど大切なものはほかにありません。

識別の力は、現代になくはならないものです。ボイド・K・パッカー長老はこのように述べています。「世の中の風潮を見て、それがどんなに流行しようとして、軽薄なものを見分けることのできる、識別の賜物を持った女性が必要です。」(Ensign『エンサイン』1978年11月号, p.8) これこそまさに、わたしたちが必要としているものです。

神権の祝福を受けるのに、神殿ほどふさわしい場所はほかにありません。わたしたちはこの聖なる宮で、個人のエンダウメントを受け、家族として永遠に結び固められます。神権の権能により、神殿で交わす聖約は永遠に続くものとなります。夫婦は聖約を守り、神殿の祝福を分かち合うとき、昇栄の賜物によって互いのきずなを深めるのです。さらに神殿に参入するとき、わたしたちは「現在のことをありのままに示し、未来のこともまた、ありのままに述べられる」(『モルモン書』ヤコブ4:13)という祝福にあずかるのです。

ガーナのある扶助協会会長は、神殿のすばらしさをよく理解していました。ワードの訪問者に話しながら、ハンドバッグ^{けいけん}から小さく畳んだ紙を取り出して、敬虔な態度でこう言いました。「わたしは神殿推薦状を持っているんですよ。」ロンドンかヨハネスブルク

の神殿に参入できる日は、まだ何年も先のこともかもしれません。でも、それは彼女のふさわしさと意思を示すものなのです。主はそれ以上のことをお求めになるのでしょうか。(ドン・L・シール「信仰あふれるガーナの人々」『聖徒の道』1996年10月号, p.38参照)

この総大会でわたしたちは、神の神権を持つ預言者、聖見者、啓示者、そして中央幹部の方々から教えを受けました。そのメッセージはすべての教会員に向けられたものです。聞く耳を持つ人は(マタイ11:15参照)、「わたし自身の声によろうと、わたしの僕^{しもべ}たちの声によろうと、それは同じである」(教義と聖約1:38)という主の御言葉を理解することができるでしょう。

この教会が神の預言者ゴードン・B・ヒンクレイ大管長によって導かれていることを証^{あかし}します。教会全体や各地の教会の管理には、神権の祝福がはっきりと見られます。なぜなら、この教会は末日聖徒イエス・キリスト教会であり、主が教会を導いておられるからです。主はこのように言われました。「シオンについて心に慰めを得なさい。すべての肉なるものはわたしの手の内にあるからである。安らかにしていて、わたしが神であることを知りなさい。」(教義と聖約101:16)

ミストラの聖徒たちは神を知り、福音の証を持っていました。そして、教義と聖約第84章に書かれている、神権の力によってもたらされる多くの霊的祝福にあずかっていました。

「主は言う。この神権を受けるすべての者は、わたしを受け入れるのである。

わたしの僕たちを受け入れる者は、わたしを受け入れるからである。

また、わたしを受け入れる者は、わたしの父を受け入れる。

そして、わたしの父を受け入れる者は、わたしの父の王国を受けるのである。」(教義と聖約84:35-38)

わたしたちが皆、御父の王国の「栄光にあずかる者」となれますように。わたしの救い主、イエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。

主の御声に耳を傾ける

七十人

フランシスコ・J・ピーナス

人々が預言者の言葉に耳を傾け、謙遜な心と素直な信仰により受け入れるとき、主から祝福を受けます。



最近わたしは、人生において、すべての人が主の御声に耳を傾けることの重要性について思い巡らしていました。特にその声が、聖霊の導きを受けた主の僕を通して与えられるときです。

こうして午後の部会に出席できるとそのものが祝福です。わたしはその祝福を両親に感謝しなければなりません。両親は、何年も前に宣教師の訪問を受け、初めて主の僕を通して語られる主の御声を聞き、その御声に従いました。その経験は、両親の人生の進路を変え、さらに子供たちや孫たちの人生にも大きな影響を与えたのです。

わたしはウルグアイの教会で育ち、南アメリカの国々でこの奇しき御業の発展を目の当たりにしてきました。熱心で謙遜に主の御声に聞き従うことにより人々の生活にもたらされる祝福を注意深く観察してきました。わたしが

スペインに戻って生活してからも同じ祝福を見てきました。人々が熱心に主の僕の声に耳を傾け、強い信仰をもって戒めに従うときに生じる生活の変化を見てきたのです。パウロはローマ人への手紙の中でこう述べています。「したがって、信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。」(ローマ10:17)

古代のイスラエルの民に与えられた次の約束は、今日のわたしたちにも当てはまります。

「もしあなたが、あなたの神、主の声によく聞き従い、わたしが、きょう、命じるすべての戒めを守り行うならば、あなたの神、主はあなたを地のもろもろの国民の上に立たせられるであらう。」

もし、あなたがあなたの神、主の声に聞き従うならば、このもろもろの祝福はあなたに臨み、あなたに及ぶであらう。」(申命28:1-2)

主の御言葉によく注意して耳を傾けるようにという勧告は、どの福音の神権時代においても繰り返されてきました。救い主が地上で福音を宣べ伝えられたとき、「耳のある者は聞くがよい」と何度も言われました(マタイ11:15。マタイ13:9, 43; マルコ4:23; ルカ8:8; 14:35も参照)。また、「わたしの言葉を聞いて、わたしをつかわされたかたを信じる者は、永遠の命を受け」とも教えられました。(ヨハネ5:24)

主が『教義と聖約』に与えられたはしがきは第1章として知られていますが、このような書き出しで始まっています。「聴きなさい、おお、わたしの教会の人々よ。高い所に住み、その目

がすべての人のうえにある者の声は言う。まことにわたしは言う。遠くの民よ、聴きなさい。海の島々にいる者よ、ともに耳を傾けなさい。」(教義と聖約1:1)

ベニヤミン王は、次の言葉で力強い説教を始めました。「今日わたしが語る言葉を聞くことのできる同胞よ、わたしがあなたがたにここに来るように命じたのは、これからわたしが語る言葉を軽んじさせるためではない。わたしの言葉を聴かせるためである。だから、耳を開いて聞き、胸を開いて理解し、また心を開いて、神の奥義があなたがたの心に明らかにされるようにしなさい。」(モーサヤ2:9)

この「耳を開いて聞き〔なさい〕」という勧告をすべての人が受け入れるわけではありません。喜んで注意深く耳を傾け主の御言葉に従順に従う人がいる一方で、中には耳をふさいで聞くことも従おうともしない人もいます。また最初は耳を傾けませんが、後になってやっと聞き入れて従順になる人もいます。これらの人は皆、主の御声を聞くときの態度によって、人生にある結果を招きます。そして多くの場合、それが彼らの永遠の行く末を左右するのです。

耳をふさいでしまう人々の例が、サムエル記上第15章に記されています。イスラエルの王として油注がれたサウロは、主の預言者の警告と勧告をないがしろにし、自分の過ちを正当化しようとしてしました。預言者サムエルはサウロをたしなめ、「従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる」と教えました。さらに彼は、「あなたが主のことばを捨てたので、主もまたあなたを捨てて、王の位から退けられた」と、サウロの行いから生じた結果を示したのです(サムエル上15:22-23)。このサウロの例から、高慢が主の御声に耳を傾ける際に大きな障害になることが分かります。

列王記下第5章には、スリヤ軍の長ナアマンの物語があります。彼は、自分のらい病を癒してくれるよう預言者エリシャに助けを求めました。預言者はナアマンに使者を遣わしてこう伝え

ました。「あなたはヨルダンへ行って七たび身を洗いなさい。そうすれば、あなたの肉はもとにかえて清くなるでしょう。」(列王下5:10) この答えはナアマンの期待と異なっていたため、ナアマンは怒って出て行きました。しかし預言者の指示に従うよう僕たちに説得されたおかげで、やっと「下って行って、神の人の言葉のように七たびヨルダンに身を浸すと、その肉がもとにかえて幼な子の肉のようになり、清くなった」のです(同5:14)。このナアマンの経験から、預言者の言葉は、往々にしてわたしたちの期待や考え方と異なることが分かります。またわたしたちは、時として預言者のほかに、主の御声に耳を傾けるように説得してくれる人を必要としているようです。

列王記上第17章には、干ばつにより大飢饉となったときにザレパテに住んでいた謙遜なやもめの話が載っています。この謙遜なやもめには、自分と自分の息子のための一握りの粉と少しの油しかありませんでした。それで最後の食事を作って食べ、その後死ぬつもりでいたのです。預言者エリヤは、まず最初に何か食べ物をくれるように彼女に言い、もしそうするなら、雨が再び降るまで粉と油は絶えることがないと約束しました。

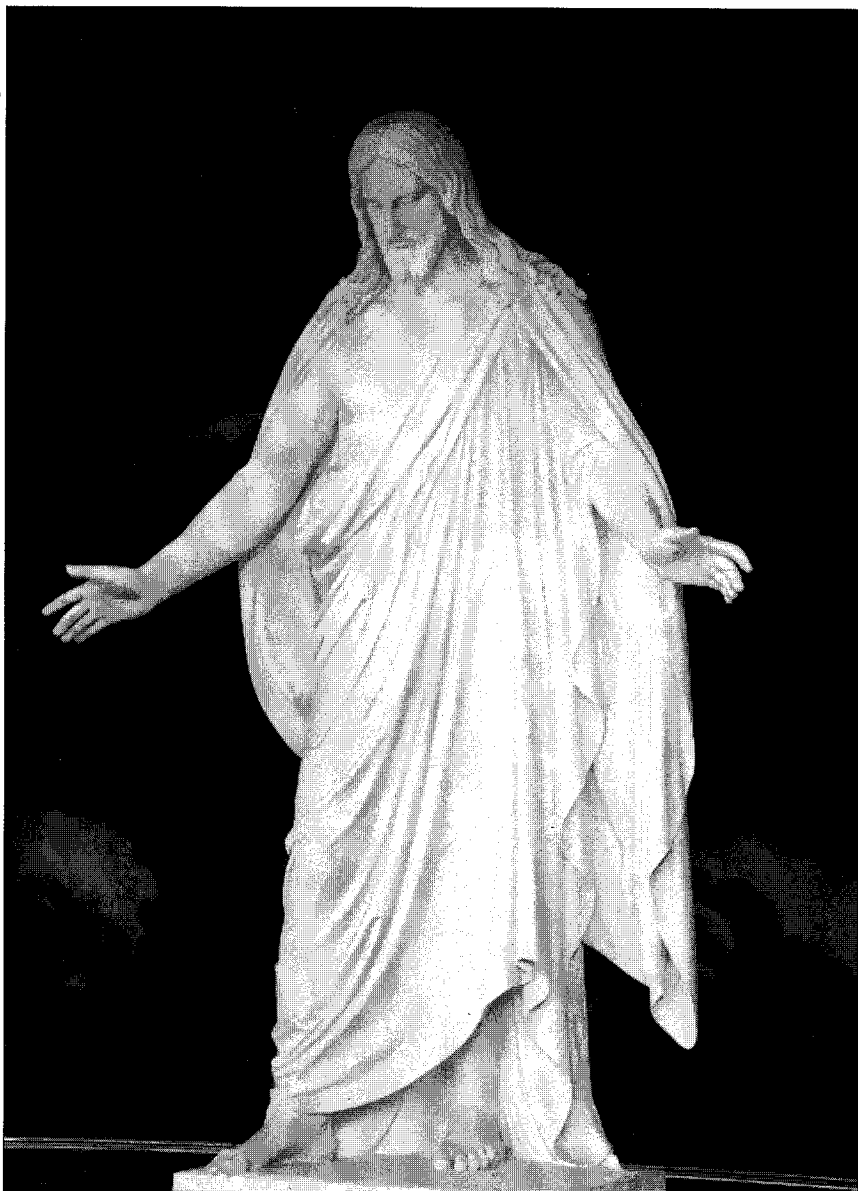
「彼女は行って、エリヤが言ったとおりにした。彼女と彼および彼女の家族は久しく食べた。主がエリヤによって言われた言葉のように、かめの粉は尽きず、びんの油は絶えなかった。」(列王上17:15-16)

このように、人々が預言者の言葉に耳を傾け、謙遜な心と素直な信仰でそれを受け入れるとき、主からどのように祝福を受けるかが分かります。

要するに、主の僕の声に耳を傾け、聖文を研究し、聖霊の導きに従うことにより主の御声を聞くことができます。また主の御声を聞くだけでなく、それに従う人を主は、「わたしの選民」と呼ばれ、「わたしの選民はわたしの声を聴き、その心をかたくなにしないからである」と言っておられます(教義と聖約29:7)。

主の御声に耳を傾ける能力は高められ、進んでそれに従う態度は向上できます。主の御声をはっきりと聞き分けることができるようになります。わたしはそう信じています。教義と聖約第136章32節には、そのための指針が書かれています。「知識のない者は、その目が開かれて見えるように、また耳が開かれて聞けるようになるために、へりくだって主なる神に呼び求めることによって知恵を得なさい。」謙遜な心と祈りにより、命の言葉に注意して耳を傾ける能力を改善し、高めることができ、わたしたちとその家族が祝福を受けるようになります。

この大会は、主の御声に耳を傾け、与えられた勧告に従い、受けた教えを心に留めるすばらしい機会です。わたしは、永遠の父なる神が生きておられ、イエス・キリストも実に生きておられて、わたしたちの救い主、贖い主であることを知っています。またゴードン・B・ヒンクレー大管長が主の預言者であり、この教会が真実の教会であることを知っています。『モルモン書』が真実であり、預言者ジョセフ・スミスが神から聖任された人であることを証します。これらをイエス・キリストの御名により証します。アーメン。



ソルトレーク・シティーのデンプルスクウェア北訪問者センターにあるクリスタス像。

「幼い子供たちを見なさい」

七十人

ウィリアム・ロルフ・カー

すべて神に従う、力ある男性と女性……は度々孤独を味わい、独りのまま放っておかれました。わたしたちも時として、敵意ある世の中で独りで立ち向かわなければなりません。



この奉仕の召しを受けるに当たり、これまでわたしに影響を与えた多くの教師に、指導者、友人の皆さんに感謝を申し上げたいと思います。この召しを受け、わたしは善い両親に対し、すばらしい妻と家族に対し、またテキサス州グラス伝道部と一緒に働いた驚嘆すべき忠実な宣教師たちに対して、これまで以上に愛と感謝の念を覚えています。同じことは、救い主の生涯と教えに対しても言えます。わたしたちはそこから自分の生活を治める原則を学びました。

イエス・キリストは十字架にかけられて復活した後、古代アメリカの義になかった住民を訪れて、彼らを教え、祝福されました。『モルモン書』はこ

の栄えある出来事を記録し、イエス・キリストの神性と復活の事実に対するもう一つの証^{あかし}になっています。救い主はこれらの忠実な民を教え、祝福されたとき、幼い子供たちを御自分のもとに連れて来て、周りに集めるように言われました。主はひざまずき、書き記すことのできない大いなる驚くべき言葉で祈られました。それは人々の心を想像できないほどの喜びで満たしました。聖なる記録はイエスが群衆にこう告げたと記しています。

「『あなたがたは信仰があるので、幸いである。見よ、わたしの喜びは満ちている』と言われた。

そして、イエスはこれらの御言葉^{みことば}を語ると、涙を流された。群衆はそのことを証した。また、イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて祝福し、彼らのために御父に祈られた。

そして、イエスはこれを終えると、また涙を流された。

また、イエスは群衆に向かって、『あなたがたの幼い子供たちを見なさい』と言われた。」(3ニーファイ17：20-23)

救い主が群衆に向けて幼い子供たちを見なさいと言われたとき、主は幼い子供たち全体を指して言われたのでしょうか。それとも主は、英文にある“little one”すなわちわたしたち個々人の本質と大切さに、民と、わたしたちの注意を向けられたのでしょうか。わたしはこう考えます。救い主は模範

によって、個々の子供たちに示さなければならない一人一人に合わせた優しさについて教えられたのです。子供たちとは、天父の子供たちを指します。すなわち愛すべき幼児から道を外れた^{かみ}10代の若者であり、悲嘆に暮れた寡婦、またはすべてにおいて心を満たされた女性でもあり得ます。皆さん自身の息子や娘、夫や妻でもあります。皆一個の人間です。皆天来の可能性を備えています。そして皆、愛と優しさと一人一人に合わせた配慮の下に、霊的な養いを受け、物質的な世話を必要としています。

預言者リーハイは強情な息子たち、レーマンとレムエルに聖文にあるように「優しい親の情を込めて」諭しました(1ニーファイ8：37)。これが救い主の方法です。家庭でも教会でもこの方法を取り入れる必要があります。モロナイも、バプテスマを受けて教会に入った人々について触れたとき、これを言おうとしていました。「人々は…キリストの教会の民の中に数えられ、その名が記録された。それは、彼らが覚えられ、神の善い言葉で養われ……るためである」とあります(モロナイ6：4)。覚えられ養われたのは、一人一人であり、どの名前もおろそかにされませんでした。

救い主はこの原則を、失われた羊のたとえの中で教えられました。羊飼いが99匹の羊を残して、迷い出た羊が見つかるまで捜したように、わたしたちも道を見失った人を求めて、見つかるまで捜し続ける必要があります。たとえ見つかったとしても、彼らを無事に喜びながら家に連れ帰るまで、わたしたちの務めは終わっていません。それがイエス・キリストの福音の目的であり、教会のすべてのプログラムと活動の目的でもなければなりません。すなわち、天の御父の子供たちを神の王国に連れて行き、そこにとどまれるようにすることです。

救い主は個人の大切さを教えられると同時に、個人の持つ力についても教えていただきました。御自身だけが持つ、救い主^{あがた}、贖い主、裁き主としての力をわたしたちに示されました。主は

ゲツセマネで一人になられ、あの大きい贖いの御業の中で御自身を聖なるささげ物としてささげられました。それは主が自らの意思によってゴルゴタの丘で結び固められた犠牲です。主は孤独を感じて、次のような痛ましい声を上げられました。「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」(マタイ27:46) これは、御父はその愛子から決して遠く離れてはおられなかったものの、無限の贖罪は独力で達成される必要があったことを教えています。たった独りの御方、すなわち神の独り子によって成し遂げられました。

一人の人の力の実例は聖典の至る所に見られ、次のような人々の影響力を見れば明らかです。アブラハム、ヨセフ、モーセ、ペテロとパウロ、ニーフアイ、アビナダイ、アルマ、アンモン、モルモンとモロナイなどがいます。また、サラ、リベカ、エステル、ハンナ、サライア、マリヤなど、ほかにもたくさんいます。ジョセフとエマもそうです。これらの人々はすべて神に従う、力ある男性と女性です。彼らは度々孤独を味わい、独りのまま放っておかれました。わたしたちも時として、敵意ある世の中で独りで立ち向かわなければなりません。しかし勇敢な主の僕たちがまったく独りで放っておかれなかったように、わたしたちにも、主とともにあり、聖霊がともにいてくださるふさわしさがあれば、同じことが言えます。主は忠実な僕たちに次のような約束を与えられました。「わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」(教義と聖約84:88) わたしたちは独りかもしれませんが、完全に独りになる必要はありません。

一人の人が持てる力と影響力は計り知れません。サラ・アン・ミークスという一人の姉妹が彼女にとっては支え切れないと思われる犠牲を払ったのは、ほぼ150年前、遠く離れたイギリ



スの地で、自宅の戸口に独りで立ったときでした。父親は、彼女の所持品を入れた包みをそこで渡し、こう言いました。「あの教会に入るのなら、もう二度とこの家に足を踏み入れてはならない。」残念ながら、彼女が家族と顔を合わせたのはこれが最後でした。彼女は独りになってしまったのでしょうか。そのとおり、まったくの独りです。彼女はその悲しい信じられないような拒絶の前に、考えを変えることもできたはずでした。しかし彼女は、主を愛していました。御霊に触れ、イエス・キリストの福音が完全な形で地上に回復されたことを知ったのです。彼女はメッセージが真実であるという証人になる必要があることを知りました。彼女は道が開けると知っていました。

この信仰篤い一人の女性から、数え切れないほどの忠実な末日聖徒が子孫に誕生しました。文字どおり何百人という彼女の子孫が証人として世界中で福音の回復が真実であることを証して

います。それは彼女が孤独に陥ったときに信じていた教えでした。彼女の子孫の一人が今ここに立ち、救い主イエス・キリストの特別な証人の一人として全世界に神聖な証を伝えています。永遠の父なる神は生きておられ、イエスは世の救い主なるキリストであられ、今日、末日聖徒イエス・キリスト教会を導いているのは、生ける愛ある神の預言者であり、預言者はその聖なる称号が示すままの働きをしています。

この証こそわたしが皆さんにお伝えするものであり、願わくは、主が望まれるとおりにわたしたちが天父の子供たち一人一人に愛を持ち、優しく、相手を尊んで、接することができますように、また成功を収め、わたしたちの住む世界に影響を及ぼす、だれもが持つ力をいつも忘れずにいることができますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。

「王国にかかわる 平和をもたらす事柄」

十二使徒定員会会員

ジェフリー・R・ホランド

平和と喜びのおとずれ……この二つは、荒れ狂う世の中にイエス・キリストの福音がもたらす究極の祝福です。



末 H聖徒イエス・キリスト教会の素晴らしい総大会も終わりに近づいてきました。この大会を通じて、わたしたちは熱烈な祈りや美しい音楽、ほんとうに靈感に満ちた教えを聞くという祝福にあずかりました。間もなくこの教会に与えられた現代の預言者、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の最後の勧告を聞くことができます。末日聖徒イエス・キリスト教会の総大会は、文字どおり特別な催しです。なぜなら、天が開かれ、神の導きが古代イスラエルの時代とまったく同じように今日でも授けられるということ、また天の父なる神がわたしたちを愛し、その御心を生ける預言者を通して語られるということ、を、正式に宣言するものだからです。

あの偉大な預言者イザヤは、このよ

うな時代の到来を先見し、今日の教会の置かれる状態を預言して言いました。

「終りの日に次のことが起こる。主の家の山は、もろもろの山のかしらとして堅く立ち、もろもろの峰よりも高くそびえ、すべての国はこれに流れてき、多くの民は来て言う、『さあ、われわれは主の山に登り、ヤコブの神の家へ行こう。彼はその道をわれわれに教えられる、われわれはその道に歩もう』と。律法はシオンから出、主の言葉はエルサレムから出るからである。』¹

そのような慰めを得るためのよりどころに関し、神の定めたもうた根源となる御方のことも含め、イザヤはこう続けています。「よきおとずれを伝え、平和を告げ〔る〕者の足は山の上にあつて、なんと美しいことだろう。』²

平和と喜びのおとずれ、喜びのおとずれとそれによってもたらされる平和。この二つは、荒れ狂う世の中、またそのような世の中で問題を抱えている人々にイエス・キリストの福音がもたらす究極の祝福であり、個人的な問題や人間の罪に対する解決策であり、疲れ切った期間、絶望の淵に押しやられた時期に、力の源となります。このような助け、このような希望は、この総大会全体と総大会を開いた末日聖徒イエス・キリスト教会が宣言するとおり、神御自身の独り子、イエス・キリスト以外にはありません。このような確信は「山のごとく強く」³、力があります。『モルモン書』の預言者アビナダイはイザヤの叫びを、少し言い換え、

次のように語っています。「よきおとずれを伝えられる御方、平和の創始者、すなわち御自分の民を贖われた主、御自分の民に救いを授けられた御方、まことに、この御方の足は、山の上にあつて何と美しいことであろう。』⁴

結局のところ、キリストこそ山の上にあつて美しい御方なのです。わたしたちはキリストの憐れみの約束により「この世において平和」を受け、キリストの喜びのおとずれにより「来るべき世において永遠の命」を受けます。⁵ だからこそ、わたしたちはキリストの足もとにひれ伏し、祝福されたキリストの御名を呼び、キリストの生ける真の教会に感謝をささげるのです。

平和の探求は、人の魂が行き着く最終的な遍歴の一つです。わたしたちの人生には良い時も悪い時もあります。そのような時も、ほとんどの場合、現れては消えていきます。心優しい隣人に助けられたり、美しい太陽の光に勇気づけられたり、夜の熟睡で奇跡が起こることも多々あります。ただ、だれにでも人生で深い悲しみや苦悩、恐れあるいは孤独を味わう時があり、神だけが与えてくださる平和を呼び求める時があります。刺し貫かれるほどの霊的な渇きを感じ、最愛の友ですら十分に助けられない時があります。

恐らくここに集っている多くの人々の中にも、また皆さんのワードやステーク、家族の中にも、重荷を背負い、人知れず苦痛をなめ、世の試練に満ちた暗黒の谷を歩いている人々がいることでしょう。夫のこと、妻のこと、子供のこと、また彼らの健康や戒めを守る信仰の度合いについて、心の底から心配している人々もいるでしょう。肉体的な苦痛や感情的な痛み、また年齢が進むにつれて経験する体の不自由と日々直面している人々もいるでしょう。どうやって経済的なやり繰りをしたらよいのか悩んでいる人々もいるでしょうし、だれもいない家、むなしい部屋、あるいは単に持てるものが何もないために、独り苦痛を感じている人々もいるでしょう。

このようないとしい人々は、今すぐにも主と主の御言葉が必要としてお

り、聖文を開き、賛美歌を歌い、祈りをささげるときに初めて、自らの偽らざる内心が明らかになります。そんなときに初めて、自分の力が限界に近づいていることに気づく場合があります。頭も体も心も疲れ切っていて、あと1週間、あと1日、時と場合によってはあと1時間も耐えられないと思われるようなときです。彼らは致命的に主の助けを必要としており、窮地に立たされた自分たちを救い出せるものが主の助け以外にないことを知っています。

総大会、およびあらゆる時代をくぐり今に伝わる預言者の教えの目的は、一つには、このような助けの必要な人々に次の点を宣言することです。すなわち主も同じように、そのような人々に燃える思いをもって手を差し伸べようとしておられ、困難の中であって主の願い、主の骨折り、主の尽力はわたしたちのそれをりょうがし、決して尽きないということです。

主は次のように約束されました。「[わたしたちを]守る者はまどろむこともなく、眠ることもない。」⁶

キリストとキリストに従う天使、預言者は、わたしたちの霊を支え、神経を強固にし、心を落ち着かせ、力をよ

みがえらせ、確固たる希望を抱かせるために永遠にわたって働いてくださいます。彼らの望みは、すべての人々に次の点を知らせることです。「神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか。」⁷この世には試練がありますが、勇気を出さなくてはなりません。キリストはすでに世に勝っておられます。⁸キリストはその苦しみと従順によって、「平和の君」という称号を獲得し、正当な権利としてその王冠をかぶられました。

その同じ精神をもって、わたしたちは全世界に宣言します。現実が存在し、かつ永遠に尽きることのない平安を得るために、人は模範とすべき御子にもっと近づくよう努力しなければなりません。多くの人々が現にそのような努力を払っています。わたしたちは、皆さんの従順と忍耐、主に頼り必ず与えられると信じて主の力を願い求める信仰に敬意を表します。しかし、福音に従って生きることができるよう、もっと努力する必要のある人たちもいます。わたしたちは確かに変われます。悔い改めという言葉の持つほんとうの美しさは、過去の問題、過去の習慣、過去の悲しみ、過去の罪と決別できるという約束にあります。福音の言葉の

中で最も大きな希望と勇気、そして平安を与えてくれる言葉の一つです。真の平安を得るために、ある人たちは、改善すべきことを改善し、告白すべきことを告白し、赦すべきことを赦し、忘れるべきことを忘れる必要があります。もし破っている戒めがあるなら、その結果として自分をおとしめ、自分を愛してくれる人を傷つけているなら、主イエス・キリストの力を求めてください。主の力により助けを受け、自由を獲得し、悔い改めを通して「人知ではどうい測り知ることのできない」⁹平安に導かれるためです。

神が永遠に切望しておられることですが、神の赦しを受けたとき、わたしたちが問題との関係を絶ち、問題を捨て、過去を過去によって葬り去れる分別が得られるよう願っています。皆さんの中に、もし過ちを犯した人がいるなら、たとえそれが重大な過ちであっても、もし主の教えと教会の規律にのっとって自分にできるすべてのことを行い、過ちを告白し、悲しみ、でき得る限りの償いをするなら、次には神を信頼し、その光の中を歩み、まわりつくちりを払いのけることです。ある人がかつてこう語りました。「悔い改めは、人が神のみもとに近づこうとす



るときに最初に経験する試練である。」
真の平安を得るため、今すぐ主のみもとに行き、霊を悲しませ愛してくれる人の心に痛みを与える悪をすべて捨て去るようお勧めします。このような聖文があります。「悪を離れて善をおこない」¹⁰なさい。

わたしたちに課せられた「悔い改め」という義務と密接に関連しているのが、相手にも同じ機会を与える寛容さ、すなわち自分が赦されたようにほかの人も赦すという態度です。この点において人はまさにイエス・キリストの贖罪の本質に関与しています。大地が激しく震動し、神殿の幕が離れたあの運命の金曜日の最も荘厳な瞬間は、キリストが言語に絶する深い憐れみを、次のように語られたときでした。「父よ、彼らをおゆるしくください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」¹¹天父に対するわたしたちの代弁者として、主は今でもわたしたちのためにあのときと同じ嘆願をしてくださっています。

ほかのすべてのことと同じように、イエスはわたしたちが従うべき模範を示されました。人生は短く、敵意を募らせたり、自分を傷つけた行為を記憶し続けたりしているような余裕はありません。人生は無安打、無得点で間違いだらけだからです。自分の罪を神に記憶してほしくないわたしたちが、ほかの人の罪をいつまでも容赦なく忘れ



まいとするのは、根本的にどこか間違っています。

わたしたちが傷つけられたとき、神は疑いなく、わたしたちに対してどのような誤った行為があったか、わたしたちを怒らせた原因は何かを、考慮に入れます。しかし明らかに、怒る理由があればあるほど、傷つけられた理由が多く見いだせば見いだせるほど、人を赦さなければならない理由、有毒な怒りの地獄から逃れなければならない理由は明白になるのではないのでしょうか。¹² 神のようになるためには、皮肉なことですが、傷つけた者と同様、傷つけられた者も、赦しの原則に従わなければならないません。

平和は心を暖めてくれる貴重な必需品です。平和を得るためにできることは、たくさんあります。ところが理由は様々ですが、人生にはいつまでも続く平和が一時期わたしたちのもとから離れるように思われる場合があります。どうして人生にそのようなことがあるのか、いぶかしく思うかもしれません。とりわけ、神の祝福を受けるにふさわしい生活をし、神の助けを受けようといまだかつてないほどに努力をしているときは、なおさらです。いろいろな問題や失敗、悲しみを経験し、その原因を自分に見いだせないとき、そこから何を学べばいいのでしょうか。

時間の経過とともに、また福音の視点に立つことによって、人生で経験する問題には何らかの目的のあることが分かります。そのためには絶望の淵にあって、自分の力を超える神聖な力がほんとうに必要なこと、天の差し出す援助の手が真実必要なことを確信しさえすればよいのです。憐れみの必要性を感じない人は憐れみを求めることもないし、憐れみをほかの人に施すことも普通ありません。心痛や弱点、孤独感や見捨てられたという気持ちを一度も感じた経験のない人は、そのような個人的な苦痛からの解放を求め、天に向かって叫ぶ必要は感じられないでしょう。確かに信仰や赦し、贖いや救いの必要性を何ら感じず、道徳的・物質的に自己満足の状態で人生を送る危険を冒すより、たとえ絶望という犠牲を

払ってでも神とキリストの恵みを見いだす方がよいでしょう。

リーハイは「すべての事物には反対のものがなければならない」¹³と語りましたが、問題のない人生、限界を感じない人生、チャレンジのない人生は逆説的ではありますが、実際には困難や絶望、悲しみに直面する人生、それもしばしば直面する人生に比べて、受ける報いや培われる気高さの点で劣ります。エバは、世の中で直面する数々の試練がなかったら、自分自身とアダムを含む全人類は「贖いの喜びも、神がすべての従順な者に与えてくださる永遠の命も」¹⁴決して知ることがなかったと語っています。

ですから人生には反対のもの、相反するものがあり、イエス・キリストの福音には人生に関する確かな答えがあります。しれつを極める南北戦争中に、アメリカ国民を一つにしようと努力した最も有能な政治家の一人が、結婚、家庭、友情について語っている言葉があります。何とかして統一を危機にさらさないように平和を祈り、平和を嘆願し、平和を追及したこの政治家エブラハム・リンカーンは、最初の大統領就任演説を行ったきわめて暗い時代に次のような言葉を残しました。「どんなに感情の糸が張りつめたとしても、わたしたちの愛のきずなを断ち切ってはならない。……わたしたちの心の底にある善なるものを求める天使の手に触れたとき、記憶という神秘的な弦が再び良き音楽を奏でる。」¹⁵

心の底にある善なるものを求める天使。これこそまさに教会と総大会とイエス・キリストの福音が伝えるメッセージです。それは今日と明日、そして永遠の未来にわたって、もっと善良に、もっと清く、もっと親切に、またもっと聖くならうという訴え、平和を追及し、いつも信じて疑わないようにしようという訴えなのです。

わたしは自分の個人的な経験から、主が「とこしえの神、地の果の創造者であって、弱ることなく、また疲れること」がない、という約束が成就するのを知っています。確かに主が「弱った者には力を与え、勢いのない者には

強さを増し加えられる」¹⁶ことを証します。

わたしは知っています。恐れに捕らえられ、疲労に覆われたとき、「主を待ち望む者は新たな力を得、わしのように翼をはって、のぼることができる。走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない」¹⁷のです。

わたしたちはそのような莊嚴な力の賜物と、主イエス・キリストの贖いの恵みによる聖めの賜物を授かっています。キリストは世に打ち勝たれました。わたしたちが主の御名を受け、「主の道に歩み」、主と交わした聖約を守るなら、やがて必ず平安を得るでしょう。そのような報いは可能だけでなく、確実です。

「『山々が去り、丘が動いても、わたしの慈しみはあなたから去ることなく、わたしの平和の聖約は動くことがない』と、あなたを憐れむ主は言われる。』¹⁸

主と主の喜びのおとずれ、この総大会と主の真の教会で宣言される神の平安、この後わたしたちのために話を生ける主の預言者が真実であることを、主イエス・キリストの憐れみ深い御名により、感謝と喜びの気持ちをもち証いたします。アーメン。

注

1. イザヤ2:2-3
2. イザヤ52:7
3. 「山のごとく強く」『賛美歌』167番
4. モーサヤ15:18、下線付加
5. 教義と聖約59:23
6. 詩篇121:3-4
7. ローマ8:31
8. ヨハネ16:33参照
9. ビリピ4:7
10. 詩篇34:14
11. ルカ23:34
12. ジョージ・マクドナルドより抜粋
13. 2ニーファイ2:11
14. モーセ5:11
15. エーブラハム・リンカーン、1861年3月4日、最初の大統領就任演説
16. イザヤ40:28-29
17. イザヤ40:31
18. 3ニーファイ22:10

援助の手を差し伸べる

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

困っている人、苦しみを抱えて困難な境遇にある人を見つけ、愛の心をもって教会に導く決心をしてください。



でもわたしたちは皆さんの愛を感じることができますし、皆さんへ心からの感謝の念をお伝えしたいと思います。

わたしたちは、主があふれるほどに御霊を注いでくださったことに、何にも増して、喜びを感じます。わたしたちは、幹部の皆さんや姉妹たちからいろいろお話を聞き、それらのメッセージによって祝福を受けてきました。

これまで耳にしてきたことを、いつまでも心に留めてほしいと思います。改めて『聖徒の道』に掲載される説教を、ぜひ、時間を取って読んでいただきたいと思います。今大会で語られたメッセージの何かが、わたしたち一人一人の心に触れ、それによって、ふさわしくない態度や行いを改めるきっかけにしていいただければ、と願っています。

バラード長老が語ったように、今年は記念すべき年です。そして、来年も、モルモンの開拓者たちが1847年にこの盆地に到着したことを記念する年です。思い起こしてみる事柄が、たくさんあることでしょう。すべて益になることです。わたしたちは皆、過去のことを思い起こしてみる必要があります。わたしたちは歴史を学ぶことによって、過ちを繰り返さないための知識を得られます。また、それを基として、将来に備えられるようになるのです。

今こそ、過去のことを思い起こし、祝うべき時です。今こそ、昔の出来事を記念すべき時です。

140年前のこの日曜日に、このタバナクルで起こったことについて、考えてみたいと思います。それについて、わたしは何年前に、この壇上から話

総 大会を締めくくるに当たり、少し、お話しさせていただきたいと思います。すばらしい大会でした。ここソルトレーク・シティは、すばらしい日和に恵まれました。この季節は、花が咲き乱れ、とても美しい時です。収穫が始まり、全般的に作柄も良いようです。主の恵みがわたしたちのうえに注がれていることに、感謝しています。

わたしたちは、テンプルスクウェアのこの神聖な地において、平穏で快適に、また安心して集うことができました。テンプルスクウェアは、わたしたちが安らぎの場とするように、先祖が築いてくれたものです。

今大会の様子は、大陸や大海を越えて、これまでになく全世界の多くの国々に伝えられてきました。

わたしたちからかなり離れた所に住んでおられる教会員もいますが、それ



総大会部会の開会前に話合う大管長会。左からトマス・S・モンソン第一副管長、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長。

したことがあります。しかし、この大会を締めくくるに当たり、ここで再びそのことについて述べてみたいと思います。

1856年10月の総大会のことを振り返ってみましょう。その大会があった土曜日にフランクリン・D・リチャーズと何人かの同僚が、この盆地に到着しました。彼らは、ウィンタークォーターズから旅して来たのでした。元気な雄牛と軽い荷車の編成だったために、旅は速やかに進みました。リチャーズ兄弟は、直ちにヤング大管長を訪ね、子供を含む何百人かの男女が、スコットブラフからこの盆地に通じる長い道のりの間のあちこちに散らばった状態にいるということを報告しました。その多くは手車を引いていました。この一行には、彼らを援助するために割り当てられた、2台の荷車が付き添っていました。彼らは、ノースプラット川の最後の渡河地点の辺りに来ていました。彼らの行く手には、ロッキー山脈に至る、ずっと上り坂の続く、長く険しい道が控えていました。彼らは非常に危険な状態にありました。冬の到来が早かったのです。雪混じりの強風が、現在のネブラスカ州西部やワイオミング州の高地に吹きすさびました。開拓者たちは飢え、手車や荷車は壊れ、牛

は死んでいきました。人々も行き倒れになっていきました。助けがないかぎり、皆死んでしまっていたことでしょう。

ヤング大管長は、恐らくその晩、眠れなかっただろうと思います。苦しみの果てに、凍えて死んでいく人々の姿が、心に次々と浮かんできたことと思われる。

翌朝、彼はこの一画に建っていた旧タバナクルに来て、聴衆を前にこう言いました。

「わたしは、これから話をする長老たちに代わって、教会員に申し上げたいことがあります。……この日に大勢の兄弟姉妹が、高原を手車でこちらに向かっていています。ほとんどの人は、ここから1,100キロぐらい離れた所にいます。彼らをここへ連れて来なければなりません。彼らに援助を送る必要があります。わたしが申し上げたいのは、彼らをここに連れて来てほしいということです。

これは、わたしの信じていることであり、わたしが受けた聖霊の指示です。この人々を救わなければなりません。

わたしは今日、監督の皆さんに要請します。60頭の元気な馬の隊と12台から15台の荷車が必要です。明日まで待つこともできないし、その翌日まで

待つこともできません。牛を送ろうとは思いません。必要なのは元気な馬とらばです。そしてわたしたちの周りには馬もらばもいます。ぜひそれを集めなければなりません。また12トンの小麦粉と、実際に馬やらばを駆る人のほかに、良い御者を40人そろえる必要があります。

皆さんに申し上げます。わたしが今話しているような原則を実行に移さないかぎり、皆さんの中で、その信仰、宗教、信仰告白によって神の日の栄えの王国に救われる人はだれもいないでしょう。さあ、行って、今平原にいる人々を連れて来てください。」(リロイ・R・ヘーフエン、アン・W・ヘーフエン、*Handcarts to Zion*『シオンに向かう手車隊』pp.120-121)

その日の午後には、女性たちによって多くの寝具や衣類が集められました。

翌朝、馬のていてつが打ち変えられ、荷車の修理や荷積みが行われました。

翌日の火曜日の朝、16台の荷車が、東に向けて出立しました。10月の末までには、同じ道を250台の荷車が救助に向かいました。

兄弟姉妹の皆さん、これまでこの壇上から多くのすばらしい話が語られてきました。しかしあの状況の中でヤング大管長が語った話以上に、雄弁な説教はありません。

来年は、聖徒たちの^{かんなん}艱難辛苦や死の話が度々繰り返されることでしょう。彼らの救助についての話も、何度も繰り返される必要があります。その話は、イエス・キリストの福音の真髄だからです。

わたしは、この教会にこのような開拓者の歴史があることを感謝しています。山中のこのシオンに向かう途中で、雪に見舞われ、凍えたり死んでいったりする兄弟姉妹が、今はいなくなったことに、感謝しています。しかし、絶望的な環境の下にあって、助けを求めている人は大勢います。

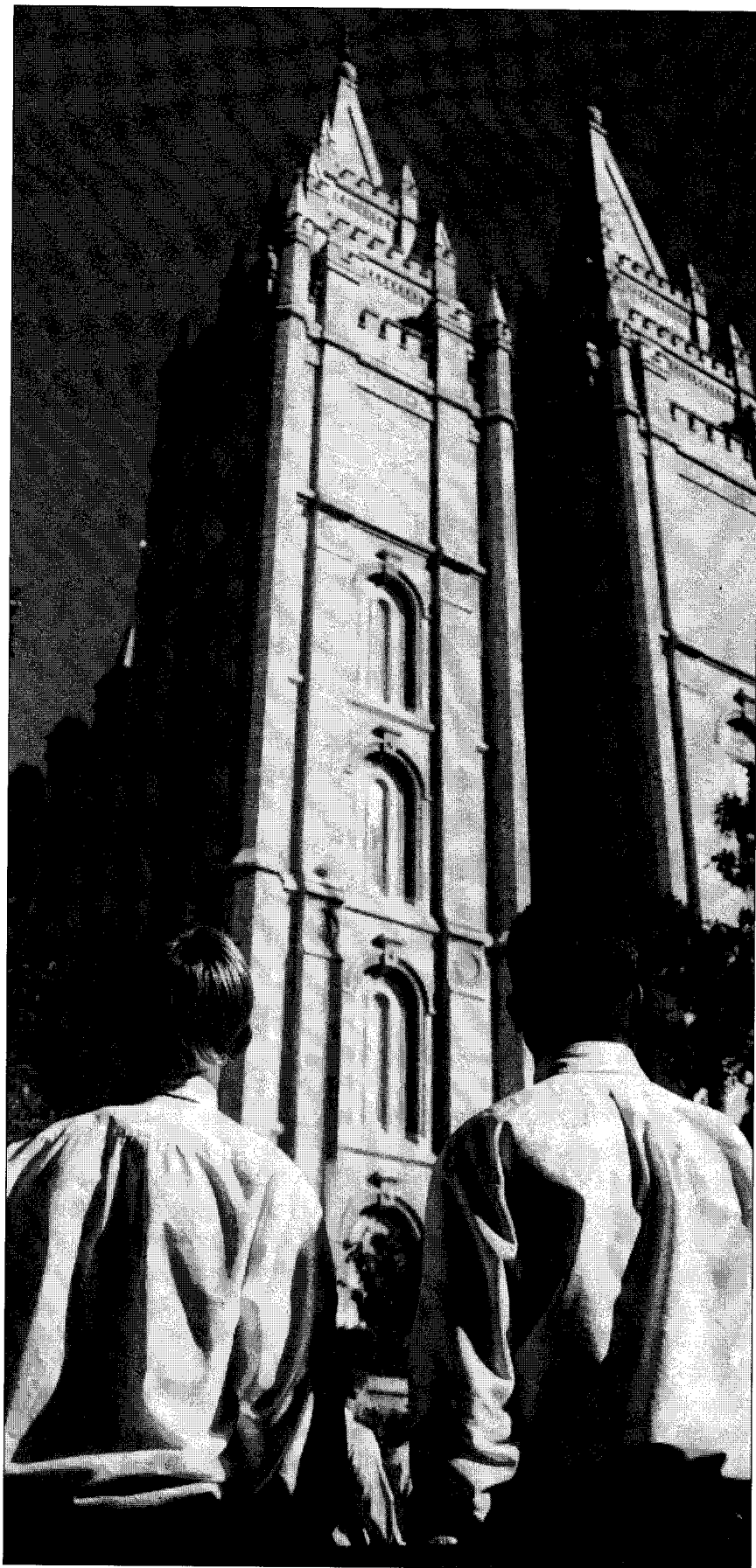
飢えや貧困に苦しむ人、助けを必要としている人は、世界中に大勢います。わたしたちは、この教会の会員ではなくてもほんとうに援助を必要としてい

る人々、わたしたちの力で援助できる人々に、助けの手を差し伸べていますが、それができずに、感謝しています。しかし、あまり、その間口を広げすぎではいけないと思います。苦しみや、悩み、孤独、恐れのために、助けを求めている人が、身近な所にいるからです。そのような人々に援助の手を差し伸べて、彼らを引き上げること、飢えている者を食べさせ、真理と正義を切望している人の霊をはぐくむことは、わたしたちに与えられている神聖かつ重大な責任です。

目的なくさまよい、麻薬や非行、不道德な行為、そしてそれらにまつわるあらゆる罪惡に巻き込まれ、悲しみの道を歩いている若人が非常に多くいます。夫に先立たれ、親切な声や、愛に満ちた心からの気遣いを待ち望んでいる人々もいます。かつては信仰を持って熱心だったにもかかわらず、だんだんそれが冷めてきている人がいます。教会に戻ることを望んでいるのですが、どうしたらよいのかまったく分からずにいる人も大勢います。彼らは優しく差し伸べられる手を必要としています。わずかの努力があれば、その多くの人が、また戻って来て、主の食卓で再び恵みにあずかれるようになります。

兄弟姉妹の皆さん、わたしには今、望み、祈っていることがあります。それは、このすばらしい大会に参加した皆さん一人一人に、困っている人、苦しみを抱えて困難な境遇にある人を見つけ、愛の心をもって教会に導く決心をしていただきたいのです。そしてその人たちが、教会員の力強い手と優しい心によって温かく迎えられ、慰められ、支えられ、幸せの道を歩めるようにしてほしいのです。

わたしの心から愛する友であり、このすばらしい御業^{みわざ}とともに仕える皆さんに、全能者のこの御業、人類^{あかひな}の贖い主のこの御業が真実なものであることを証^{あかし}いたします。わたしは皆さんにわたしの愛と祝福を与えます。イエス・キリストの御名によりお話しします。アーメン。



信仰に堅くつく

中央扶助協会第二副会長
アイリーン・H・クライド

わたしたちは、ほかの多くの人々にはない知識を持っています。ですから、わたしたちの業が取るに足りないもの、あるいは単なる娯楽のためにささげられているのではないことを思い出すのです。……苦勞して得た確信に基づいて行動する堅固な態度と勇氣を持ちたいと願っています。



賛 美歌に歌われているように、わたしたちはもう見知らぬ同士ではないことを喜びましょう。わたしたちは神への信仰の証として、またキリストと彼に従う人々は（今晚は神の娘たちが会していますが）まさに一つとなるという知識の証として歌います。

「また、わたしは天から義を下そう。また、地から真理を出して、わたしの独り子……について証しよう。そして、わたしは義と真理が洪水のごとくに地を満たすようにし、わたしが備える場所……に地の四方からわたしの選民を集めよう。……そこはシオン……と呼ばれるであろう。」（モーセ7：62）

わたしたちが神とともに歩むシオンを目にすることはまだできませんが、イエス・キリストへの信仰を通してシ

オンへと至る道はわたしたちの前に示されています。義と真理が地上に存在し、キリストはわたしたち自身の力ではできないことを代わりに成し遂げるために地上に來られた、という聖文に約束された事柄の証拠が、わたしたちの周りにあります。

今晚ここに集った、また地の四方の多くの場所で組織された扶助協会の女性たちは、義と真理が洪水のごとくに世を満たすという証拠の一部です。彼女たちのイエス・キリストへの信仰によってそれが実現されるからです。救い主はわたしたちの前を歩かれ、わたしたちが主と聖約を結び、それによって自分の歩むべき道を見いだせるように招いていらっしゃいます。ヨハネによる福音書第15章10節にはこうあります。「もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにおるのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにおるのと同じである。」

わたしたちと神との相互の関係は、基本となる真理です。キリストが御自身の役割を果たされないことはありませんし、わたしたちは自分の役割を果たす方法をさらに学ぶためにこの地上にいます。救い主は天父の愛を御存じで、またそれにこたえられたので、命じられたことすべてを成し遂げる力を得られました。同様に、わたしたちがキリストのうちにあり、キリストの御言葉^{みことば}を常に心に留めるならば、その約束はわたしたちのものとなるのです。

「わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。

わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」（ヨハネ15：11—12、）

天父と御子はわたしたちが、御二方の示された模範に従って愛と信頼の関係を持ち、頼り合うように期待していらっしゃいます。わたしたちに必要な靈的力を見いだせるようにあらゆることが備えられています。『教義と聖約』にはこう記されています。

「ある人には、イエス・キリストが神の子であり、世の罪のために十字架につけられたことを知ることが、聖靈によって許される。

ほかの人には、続けて忠実であれば自分もまた永遠の命が得られるように、彼らの言葉を信じるのが許される。」（教義と聖約46：13—14）

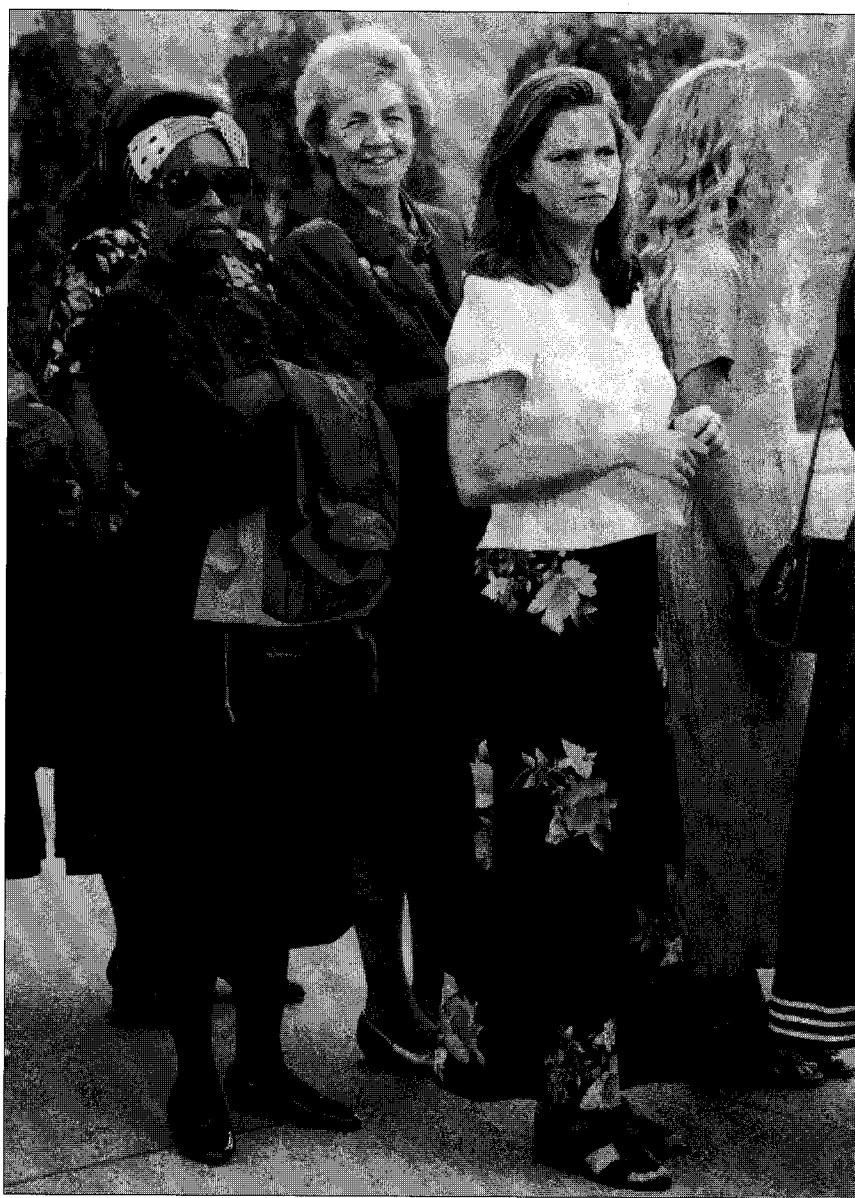
このように、知っている人、信仰によって堪え忍び前進できる力を得た人の言葉を信じるなら、わたしたちは靈的に成長すると約束されています。信仰はわたしたちのうちに宿る力であり、実行する能力を与えてくれます。わたしたちの多くが生活の中でそのような信仰の模範を目にしていますが、そのような記憶はすぐに薄れてしまいがちです。1839年、ハイラム・スミスの妻であったメアリー・フィールディング・スミスが弟のジョセフ・フィールディングへあてて書いた手紙が記録として残っています。その手紙には、聖文で教えられているような、わたしたちと神との、そして人々との相互の関係が鮮明に描き出されています。

「親愛なる弟へ、

……恐らく、わたしの愛する夫がその弟ジョセフや、リグドン長老、そのほかの方たちが、もう6か月近くもわたしたちから引き離されたうえに、投獄されたということをお聞きになったでしょう。彼らの監禁に、わたしほど心を痛めている人はいないでしょう。わたしは持てる限りの勇氣と力を振り絞らなければならないような状況に置

かれました。わたしが親愛なる人の優しい思いやりと世話を必要とするそのときに、武装した人々がわたしから主人を奪い去って行き、その代わりに突然、思いがけなく、大家族を切り盛りしていくという重責がわたしの肩にのしかかってきたのです。そしてその数日後には息子ジョセフ・Fが生まれました。彼を産んで間もなく、わたしはひどいかぜにかかり、悪寒と高熱に見舞われました。この病と心に抱える憂いのために、わたしは死の淵に立たされました。少なくとも4か月の間、自分の身の回りのことも、赤ん坊の世話もまったくすることができませんでした。でも主は隣れみをもって、愛する姉がわたしとともにいられるように備えてくださいました。わたしの赤ん坊が生まれたとき、彼女の子供は5か月だったため、彼女には両方を育てるだけの体力があったのでした。

わたしたちが〔ミズーリ州〕から、そして自分たちの家から追われたこともこれから耳にすることでしょう。それはちょうどわたしが病気のときで、わたしはほとんど床に伏したままで200マイル(約320キロ)の道のりを逃避行しなければならませんでした。ほんとうにつらい旅でしたが、イリノイ州に到着して3、4週間後、わたしの病状は快方に向かい始め、今ではこれまでにないほど健康に恵まれています。……わたしたちは今、ミシシッピ河岸のコマースに住んでいます。暮らしはとても快適で、この様子を目にしたらあなたもきっと喜んでくれるはずです。あとどのくらいこの生活を楽しめるかは分かりませんが、主はわたしたちにとって何が最善かを御存じです。自分がどこにいるかについては少しも心配していません。もしもわたしが思いをいつもしっかりと神に向けることさえできれば、そこにこそ完全な平安があるからです。主はわたしたちの益となるようにすべての事柄を支配してくださっていると信じています。敵はわたしたちを見て、驚愕し、落胆することでしょう。」(キャロル・コーンウォール・マドセン, *In Their Own Words: Women and the Story of*



Nauvoo 『彼ら自身の言葉で、ノーブーの女性たちとその物語』pp.98—99)

メアリー・フィールディング・スミスは日々の生活で次々と起こった災難に立ち向かうために、自分の持てるあらゆるものから力を得ようとしてしました。彼女の記したような感動的で心情を的確につづった手紙はそう見られないかもしれませんが、彼女が神から賜わったような経験は珍しいものではありません。今日でも、教会の中でどこを訪れても、同じような高潔さを示す多くの男女の模範を目にします。彼らの受ける試練はそれぞれ状況によって異なっていますが、それに立ち向かうために求められる勇気や恵みは同じ

です。

神はわたしたちを心にかけていらっしゃるのです、啓示によって、わたしたちの救いに必要な方法を与えてくださるだけでなく、救いに求められる試練に立ち向かううえで助け合う方法も与えてくださいます。女性のための主の組織がここに 있습니다。わたしたちを必要とする人々に安らぎを与えられるようにするためです。このような重要な御業を推し進めるためには、神にとってはすべてが霊にかかわるもののだということを理解しなければなりません(教義と聖約29:34参照)。教会の女性としてわたしたちは、ほかの多くの人々にはない知識を持っています。で

すから、わたしたちの業が取るに足りないもの、あるいは単なる娯楽のためにささげられているのではないことを思い出すのです。わたしたちは真理に恵まれており、「神の子です」(『賛美歌』189番)を歌うときにそれを実感できます。しかし、この地上での経験を通して「神の、成熟した子供」になるように求められていることも心に留めなければなりません。実際、聖文にわたしたちに求められている成熟について記されています。「わたしたちが幼な子であった時には、幼な子らしく語り、幼な子らしく感じ、また、幼な子らしく考えていた。しかし、おとなとなった今は、幼な子らしいことを捨ててしまった。」(1コリント13:11)子供らしい柔軟さを失おうとするのではなく、苦勞して得た確信に基づいて行動する堅固な心と勇氣を持ちたいと願っています。

わたしたちの中の多くの人が、孤独や中毒に苦しんだり、虐げられたり、見捨てられたりしています。心から真理を求めている人もいれば、信仰にあふれている人もいます。わたしたちにはそのような状況の中で人々に奉仕する機会があります。扶助協会が教え、築き上げていく方法は長年にわたって確立されてきました。しかし、それを動かしていく力は、女性一人一人の才能や日々の献身がなければ生まれてこ

ないのです。わたしたちにとっての迫害者はメアリー・フィールド・スミス時代のそれとはだいぶ異なるでしょう。しかし、確かに実在します。大勢の人が、多くの場合孤独に耐えながら、迫り来る責務に押しつぶされそうになりながら、進んでいると感じています。親しい人がいない、あるいは将来への展望が持てないと嘆く人々もいます。こういった思い、すなわちあらゆる試練は、人としてだれもが持っています。しかし、自分自身の信仰を強め、互いの信仰を高め合い、そしてその信仰を行動に表していくならば、試練によって受ける傷を癒す薬を見いだせるのです。

今年の初め、わたしはナイジェリアのラゴスで集会に出席し、薄いコンクリートの壁と重い平らなブリキ屋根でできた建物の中で大変感動的な経験をしました。そこでは扶助協会の指導者たちが神権アドバイザーとともに2時間以上にわたって話し合いをしました。彼らが重要な召しを果たし、信仰を築き、また不規則に広がるこの町において彼らを取り巻く困難に打ち勝つ方法をさらによく理解できるように、全員で協議しました。

閉会の賛美歌を歌い終え、心打つ祈りにアーメンと言ったと同時に、部屋中に雷鳴がとどろき、雨が降り始めました。ブリキの屋根に当たる雨音の

ために、別れ際の歓談もまったくできない状態でした。すでに水は道に流れを作り、ドアに激しく当たってしぶきを上げていました。集会は午後に行われ、ほとんどの人が暗くなる前に帰宅できるはずでした。わたしたちは激しい雷と雨の音のために無言のままで座って待っていましたが、刻々と日が暮れて、真っ暗になってしまっただけでなく、家に着くまでにびしょぬれになってしまうのは明らかでした。わたしは、^{かんなん}艱難に耐えながら旅をしたアルマのことを思いました(アルマ8:14—15参照)。そして、アルマに注がれた祝福を思い出したのです。アモナイハでアルマが置かれた状況とナイジェリアのラゴスで聖徒たちが置かれた状況がどことなく似ていることに気づき、わたしは一瞬はっとしました。天使はアルマにこう語りました。「頭を上げて喜ぶなさい。……あなたは初めて神から^{おつ}御告げを受けて以来、忠実に神の戒めを守ってきたからである。」(アルマ8:15)

激しい雨音の響き渡るその部屋には、アルマと同じように、出て行ってその信仰の力を通して人々に教え、その救いのために助けの手を差し伸べようとする人々がいました。まだ雨の降りしき中、一人、また一人と腰を上げ、あるいは一度に2、3人が立ち上がりました。抱き合い、あるいは固い握手を交わして、彼らは出て行きました。彼らは、神のたぐいまれな力と^{あわ}憐れみと忍耐とによって、自分たちは不幸と無窮の苦悩の淵に引きずり落とされることはないという、新しい知識を固く信じていました(ヒラマン5:12参照)。家への道と永遠に至る道のりに、希望をもって立ち向かう新たな勇氣を得たのでした。

わたしたちは、創造主である神に属する者であることを証します。神の御子は大いなる愛をもって大きな代価を払い、その贖罪によってわたしたちに永遠の命を与えてくださいます。わたしはこれらのことが真実であると知っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。



希望を得て奮い立つ

中央扶助協会第一副会長

チエコ・N・岡崎

希望の源は、命の源そのものです。だからこそ、経験、理性、知識のすべてが希望など持てるはずがないと告げるときでも、希望は存続します。



愛する姉妹の皆さん、アローハ。今日わたしは、信仰、希望、愛という偉大な3つの徳の中の二つ目である希望についてお話するように言われました。

扶助協会の姉妹愛はこの3つの徳を包含するものであり、わたしたちが愛と証、信仰と互いへの奉仕によって相互に高め、強めるのを助けてくれます。わたしは希望とは、謙遜でありながらも日々の生活を送るうえで非常に粘り強い徳であり、平凡であっても穏やかで、美しく、活力に満ちた徳であると思います。また、控えめでありながらも善を推し進めるための力強い原動力であり、善を行い、良い人間になる能力を大いに増してくれるものです。

この工夫に富む、優れた「うちわ帽子」は今年になってトンガのステーキを訪問した際に扶助協会の方々から贈

り物として頂いたものですが、希望とこの帽子とを比べてみたいと思います。蒸し暑いときには、この帽子を使って冷たい風を送ることができます。つばがカーブしているので、平たいうちわよりももっと強い風を起こせるのです。でも、もし雨が降り始めたときには、うちわは即座に帽子に早変わりして、嵐から守ってくれます。

これと同じように、希望はいつでも、どんな逆境に遭うときにも、嵐であろうと快適すぎる天気であろうと、あらゆる天候、どんな問題にも対処できる徳です。

希望の反対は何でしょうか。言うまでもなく絶望です。しかし、絶望はわたしたちが物事に対して無力感を抱いたり、人生を無意味だと感じたりするときに生まれます。絶望はある種の感覚喪失であり、それがあまりに深く、命の源そのものと懸け離れてしまった状態なのです。

わたしはあまり庭仕事が得意ではありません。(我が家の庭の世話は、庭いじりが好きな主人のエドの仕事でした。)最近、パンジーが無造作に置かれたブロックの下敷きになってつぶされているのに気づきました。それでも、何本かの茎はブロックのわきから頭をもたげていて、数週間後、そのパンジーはブロックのへりの周りから力いっぱい横に伸びて、空と太陽に向かって茎を伸ばし、かわいらしい紫色と黄金色の花を咲かせました。わたしがブロックをどかしてみると、パンジーの茎は折れ曲がっていましたが、その花は隣の花に負けないうくらい輝いて咲いて

いました。

このパンジーは命を選びました。逆境に遭いながらも、命を選びました。体を痛めつけられながらも命を選びました。ブロックにつぶされてあきらめでも無理はなかったのに、それでも命を選んだのです。

姉妹の皆さん、希望の源は命の源そのものです。だからこそ、経験や理性、知識のすべてが、希望など持てるはずがないと告げるときにも、希望は存続するのです。希望は勝算を探ったりはしません。希望は二面性を持った徳です。この「うちわ帽子」のように、晴れた日にも嵐の日にも使えるようになっているのです。希望を選ぶということは、命を選ぶということであり、希望を選ぶということは、愛を選ぶということです。

主は古代のイスラエルの人々に申命記の律法と戒めを与えられた後で、こう告げられました。「わたしは、きょう、天と地を呼んであなたがたに対する証人とする。わたしは命と死および祝福とのろいをあなたの前に置いた。あなたは命を選ばなければならない。そうすればあなたとあなたの子孫は生きながらえることができるであろう。

すなわちあなたの神、主を愛して、その声を聞き、主につき従わなければならない。そうすればあなたは命を得、かつ長く命を保つことが……できるであろう。」(申命30:19-20, 下線付加)

これはどうしてなのでしょう。なぜ希望は命の根元そのものとそれほど深く結びついているのでしょうか。『モルモン書』は、わたしたちは「すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に応じて束縛と死を選ぶことも自由である。悪魔は、すべての人が自分のように惨めになることを求めているからである」と告げています(2ニーファイ2:27)。

希望は、クリスチャンの偉大な3つの徳の中の一つです。それはキリスト御自身が命の主であり、それゆえに希望の主であられるからです。わたしたちは創世のときから自由を与えられているので、何を選ぶかは自由です。そ



してキリストはわたしたちの選択の自由、選択の権利と能力を尊重してください。主がわたしたちに差し出してくださっている選^{えん}びは命であり、命は希望という選^{えん}びを差し出してくれます。それ以外のあらゆる選^{えん}択はわたしたちに霊の死をもたらし、わたしたちは悪魔の力に引きずり込まれてしまいます。

これまでの話を通して、キリストにある希望には未来への希望が含まれており、その未来には復活、救い、昇栄の含まれていることが、より明確に分かっていただけたら幸いです。

パウロはローマ人に対して、キリストは死に身をゆだねられたけれども、「死人の中からよみがえらされて、もはや死ぬことがなく、死はもはや彼を支配しない」と説明しました（ローマ6：9）。わたしたちの救い主イエス・キリストは、いつのときも命の主であられました。しかしキリストは、その贖^{あか}いの犠牲を通して死をも従わせる主となられたのです。肉体の死はキリストを支配せず、その結果、キリストのおかげでわたしたちも肉体の死による支配を免れました。

これが何を意味するかを考えてみてください。わたしたちの救い主の勝利によって、わたしたちもまた勝利者になれます。このよきおとずれ、永遠の勝利を得た戦場から聞こえるこの勝ちどきを耳にして、わたしたちの日々の

犠牲や常々持っている希望が非常に粘り強く、何にでも効く非常にいい特效薬であり、そう簡単には無意味や絶望に変わるものではない理由が分かります。

事実、わたしたちが選^{えん}ばないかぎり、絶望することはできません。しかし、死すべき肉体を持つわたしたちにとって、命は死と切っても切れないものです。人生において、暗闇^{くらやみ}や死を育てることも選^{えん}べますし、反対に、明るい希望を育てることも選^{えん}べます。心配することも選^{えん}べますし、光を拒むことも選^{えん}べます。すでに命の勝利の主となられたイエス・キリストと同盟を結ぶのを拒むことも選^{えん}べます。自分の命が少しずつ束縛されるに任せ、ついにはそこから抜け出せなくなるようにも選^{えん}べます。己の霊を殺し、希望を窒息死させるのに手を貸し、無意味と絶望に打ち負かされてしまうようにも選^{えん}べます。キリストの復活によってわたしたちの復活も保証されているので、肉体の死については何の心配もありません。しかし霊の死については、わたしたちがキリストや主の希望、そして絶えることのない、何にも制約されない主の命と自分を結びつけないかぎり、主はわたしたちをお救いになることができません。

しかし、姉妹の皆さん、常に命の力は死の力よりも強いことを証^{あかし}します。もしもわたしたちが選^{えん}ぶなら、もしも

選^{えん}ぼうという望みを持つだけでも、さらには選^{えん}ぼうという望みを持ちたいと願うだけでも、イエス・キリスト御自身が導いておられる、命への強力な力が動き始めます。主は、折り曲げられた繊細な細枝に対して、力とエネルギーをもってこたえてくださり、花を咲かせてくださいます。これらの愛に満ちた約束とわたしたちに対する切なる呼びかけに耳を傾けてください。主とともにあればわたしたちは世に打ち勝てるという、一緒にもたらされる希望を心に感じてください。

「わたしは門である。わたしをとおってはいる者は救われ〔る〕であろう」と主は言われました。盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためだけに来ると主が言われた盗人とは対照的に、イエスが来られたのは「〔わたしたち〕に命を得させ、豊かに得させるため^{ひつじかい}であ」り、主は「わたしはよい羊飼^{ひつじかい}である。よい羊飼^{ひつじかい}は、羊のために命を捨てる」という確かな言葉を告げていらっ

しゃいます（ヨハネ10：9—11）。詩篇の作者は感嘆と驚きをもって、次のように詩に表しています。「わたしはどこへ行^いって、あなたのみたまを離れましょうか。わたしはどこへ行^いって、あなたのみ前をのがれましょうか。

わたしが天にのぼっても、あなたはそこにおられます。わたしが陰府^{よみ}に床を設けても、あなたはそこにおられます。

わたしがあけぼのの翼をかって海のはてに住んでも、

あなたのみ手はその所でわたしを導き、あなたの右のみ手はわたしをささえられます。」（詩篇139：7—10）

そして今日^{こんにち}にあっては、イエス・キリストはジョセフ・スミスを通してわたしたちすべてにこう語っておられます。「わたしの使徒たちに言ったように、わたしはあなたがたに言う。……あなたがたは、父がわたしに与えてくださった者である。あなたがたはわたしの友である。」（教義と聖約84：63）「わたしが来てわたしの宝石を集める日に、彼らはわたしのものとなるであろう。」（教義と聖約101：3）

姉妹の皆さん、心から愛する姉妹の

皆さん、死の力がいかに強く思えようとも、どうか命を選んでください。絶望が身近に感じられたとしても、希望を選んでください。様々な状況に打ち負かされそうになっても、成長することを選んでください。自分自身やほかの人々の無知にもがくときにも、学ぶことを選んでください。暴力と報復がはびこる現代にあっても、愛することを選んでください。赦すことや祈ること、小さな親切をもって人々の生活を祝福することを選んでください。愛と証と信仰と奉仕の業をもって高め合い、強め合いながら、扶助協会の姉妹愛を築き上げていくことを選んでください。そのようにするなら、必ず皆さんが救い主の豊かな愛を感じることができるとお約束します。

主は、最も小さい者に対する憐れみに満ちた行いを、御自身に対するものとして受け入れてくださいます。そしてその代償として、希望を失い、疲労こんぱいし、絶望と無意味に打ちひしがれるわたしたちを救ってくださるのです。

使徒パウロはこう尋ねています。「だれが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か。」そして、それに対するすばらしい答えを与えています。

「しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。

わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、

高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである。」(ローマ8:35, 37—39)

わたしのキリストはわたしの希望であることを証します。主は、雨降りの月曜日にも、暗い夜にも、死と絶望を前にするときにも、わたしの希望です。この生きた証を、わたしの主であり救い主であるイエス・キリストの聖なる御名によって申し上げます。アーメン。

慈愛によって強められる

中央扶助協会会長

イレイン・L・ジャック

この賜物は用いられれば用いるほど増し加えられます。与える人も受ける人も祝福されるのです。なぜならば慈愛は触れる人を皆清め、神聖にするからです。



今日、教会のすばらしい女性である姉妹の皆さんとお会いできたことを心から感謝しています。ここには世界各地から言語、習慣そして文化を異にする姉妹たちが集っています。置かれている環境が異なっているにもかかわらず、皆さんは絶えず正義を行うことに心を砕いています。教会にいつ加わったか、どこに住んでいるかにかかわらず、皆さんが心に抱いている善き思いに正義があふれています。皆さんが教会に対して果たしている貢献と日常生活で示している模範は神に対する愛から生まれたものです。

わたしはあるときラジオのインタビューで次のような質問を受けました。「女性に対して望むことがあるとしたら、それはどのようなことですか。」わたしはこう答えました。「女性の方々に自分がどれほどすばらしい存在

かを知っていただくことです。自分の持っているすばらしさがどれほど価値のあるものかを認識していただくことです。」

こうして皆さんの前に立っていますと、26年前に亡くなった母のことを思い出さずにはられません。皆さんの中の多くと同様、わたしも母からほんとうにたくさんのことを学びました。言葉遣い、礼儀作法、清潔、教育の大切さを教えてくれました。母は優しい人でした。母は神の王国の福音と教義の原則を教えてくれました。偉大な信仰、あふれる希望、純粋な慈愛の模範を示してくれました。

カードストンの小さな集落で生まれ育った娘が、家庭で得た教訓を世界中の女性に向けて衛星放送を通じて話すなど、母には想像もつかなかったことでしょう。母と離れてから長い年月が過ぎましたが、わたしは時々母がすぐそばにいることを感じます。この経験から姉妹の皆さんにお尋ねしたいのですが、わたしたちが差し伸べる手、触れ合い、そして影響力はどれほど大きな力を持つのかを測ることができるのでしょうか。

わたしはこの召しを受けて以来、教会の女性たちの心を理解できるように主の助けを求めて祈ってきました。心はわたしたちの影響力の鍵となります。わたしたちがお互いに向上し、称賛し、教え、励ますときに、どのような心で思いやりを示し、努力したかによって価値あるものと見なされ、その大きさが測られるからです。そして、扶助協会の心はあふれるばかりの愛で

あることが分かりました。わたしは訪問する先々の支部、ワード、ステークでその模範を目にしてきました。また「愛はいつまでも絶えることがない」と証する数々の手紙を頂いてこの教会の女性たちの優しさを耳にしてきました。

慈愛は心の中で作り出されるものです。

救い主は「律法の中で、……いちばん大切な」戒めは「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ」であると言われました（マタイ22：36-37）。わたしたちは心と精神と思いを尽くして主を愛することによって、周囲の人々をも愛するようになります。そしてあふれるような慈愛がわいてきます。

皆さんは毎日の生活の中で、家族や、隣人、姉妹たち、そして見知らぬ人に対しても、善を行っているのです、これは別に目新しいことではないかもしれませんが。人々を助ける努力が生活の一部になっているため、皆さんは素早く、本能的に、直接的な援助を行っていることでしょう。

ほとんどの方はわたしが皆さんとは関係のないだれかほかの特別な人のことを話していると思っているのではないのでしょうか。「わたしは何の優れたところもない、普通の女性です」と考えているのではないのでしょうか。

それはわたしも同じです。「わたしもほかの女性と同じように喜び、不満を感じています。」感じる不満は大きく、見いだす喜びといえ、洗濯して乾燥機から取り出したソックスの数がきちんとそろっていたときのうれしさ、ただそれだけのときもあります。わたしたちは皆、喜びを感じ、平安を見いだすために努力しています。それを実現するための最も偉大な道具が慈愛なのです。

聖典には、慈愛のあふれる日常生活を送っている大勢の女性の姿が描写されています。心がキリストの純粋な愛で満たされているため、彼女たちは必要とされている事柄に素早くまた効果的に対処します。

イサクの妻になり、ヤコブとエサウ

の母となったリベカはまさにそのような女性でした。アブラハムの僕がイサクの妻を探すために村を訪れたとき、リベカは普段と変わらずその僕に親切にしました。

主はリベカの心を御存じでした。リベカが助けを必要としている人に出会ったためらわずに助けることを知っておられたのです。主は僕の祈りにこたえられ、僕に水を飲ませてくれる若い女性がイサクの妻になることをお示しになりました。

創世記には次のように記されています。「リベカが、水がめを肩に載せて出てきた。」（創世24：15）そして泉に下りて行きました。皆さんはこの物語を御存じのことでしょう。僕は水を飲ませてほしいと言いました。そこでリベカが答えたことがイスラエル全家の家系を決めることになったのです。

リベカは答えました。「わが主よ、お飲みください。」そしてさらにこう言いました。「『あなたのらくだもみな飲み終わるまで、わたしは水をくみましょう。』」

彼女は急いでかめの水を水ぶねにあげ、再び水をくみに井戸へ行って、すべてのらくだのために水をくんだ。（創世24：18-20）

兄のラバンは僕に泊まっていくように勧めました。そしてリベカは僕が自己紹介をする前に、彼がリベカのおじの僕であることを知りました。リベカの見知らぬ人への慈愛あふれる対応は自然に出てきたものでした。立ち止まって、これから奉仕をするのだ、と身構えたわけではありませんし、助けを必要としていた人の社会的地位を考えたわけでもありませんでした。彼女は急いでらくだのために水をくみました。

リベカは心を込めて奉仕しました。この単純な奉仕からすべての神権時代に大きな影響を及ぼす家族が生まれることになりました。リベカは神の娘としてふさわしくありたいと考え、また進んでそのように行動しました。最初の質問に戻しましょう。わたしたちの善意がどれほど大きな広がりを見せるかを計り知ることができるでしょうか。

わたしたちはリベカの経験から、行動に表れた場合にどれほどの慈愛を持った人か考えることが多いのですが、慈愛は実際には互いに愛し合おうとする心の状態そのものであると言えます。リベカは水を差し出しました。この行為に慈愛が表れています。

わたしは最近、シベリアで伝道する姉妹から手紙を頂きました。この手紙にはロシアの姉妹たちがどのように愛を行いに表しているかが記されています。手紙を書いたオケルベリー姉妹は次のように述べています。

「わたしはシベリアの女性たちが扶助協会のビジョンを捕らえていることを誇りをもって報告したいと思います。教会員になってわずか6か月のカッペンコバ姉妹はロシアの北端の地で扶助協会会長の責任を引き受けるというチャレンジにこたえました。カッペンコバ姉妹は副会長とともに家庭訪問の大切さを理解しました。姉妹たちが助け合うように指導し、教会から足が遠のくことがないように励まし合っています。姉妹たちは福音の原則を互いに教え、また教会における母親、妻、女性としての指導力を養うため互いに学んでいます。彼女たちを取り巻く環境は決して容易ではありません。けれども姉妹たちは不滅の言葉である『愛はいつまでも絶えることがない』の意味を理解し、すでに自分のものになっています。わたしは姉妹たちの進歩の様子を目にすることができてとても光栄です。

わたしに残された貴重な伝道期間は1週間しかありません。ここシベリアの姉妹たちはこれからもきつとお互いに助け合っていくことでしょう。」（ミケーレ・オケルベリーの手紙、1996年1月31日）

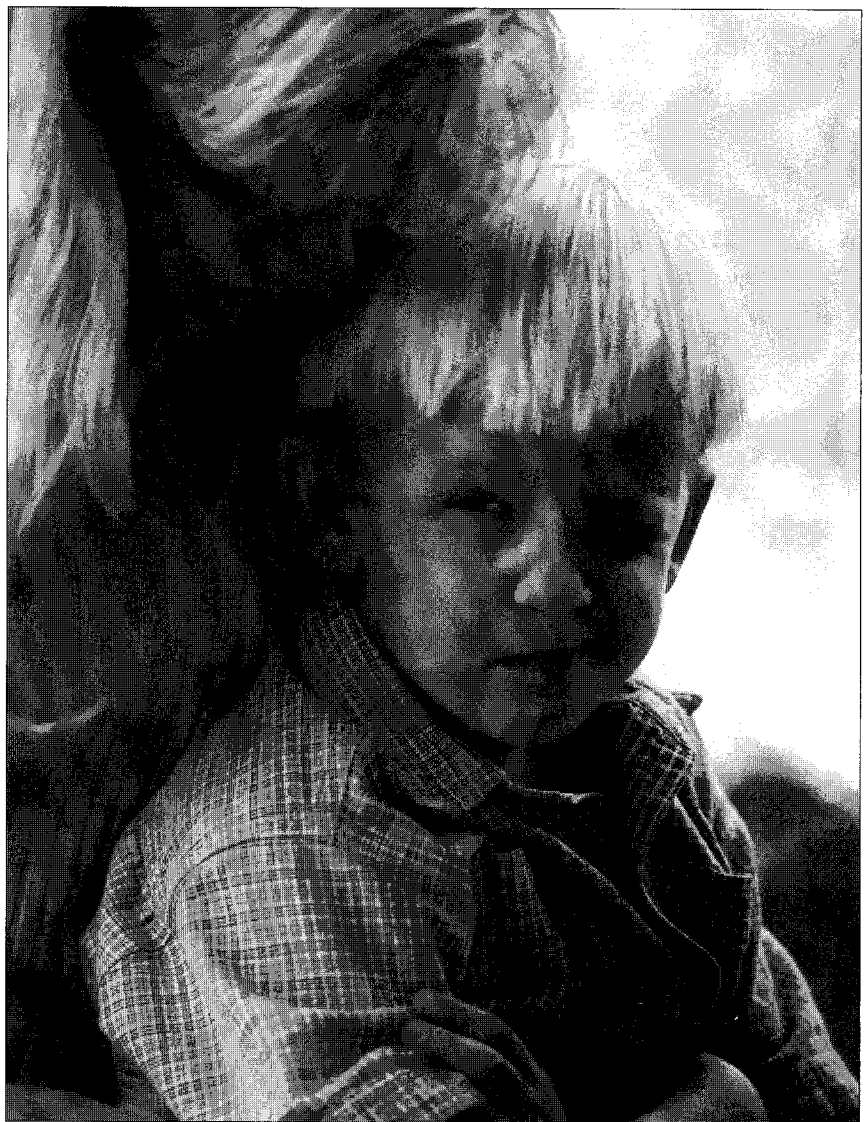
アルマは「常に心の中に神の愛を持つ[つ]」ことの大切さを強調しました（アルマ13：29）。慈愛とはこの愛を言います。慈愛は御霊の賜物です。なぜならば「善いものはすべて神から出るからです（モロナイ7：12）。この賜物は用いれば用いるほど増し加わります。与える人も受ける人も祝福されるのです。なぜならば慈愛は触れる人を

皆清め、神聖にするからです。そして、「終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸い」(モロナイ7:47)です。

慈愛を表す最も偉大な行為は、自分自身を与えることです。そして、ほかの人から差し出された慈愛をへりくだって受けることです。スベンサー・W・キンボール大管長はこの真理を靈感あふれる言葉で説明しています。「〔救い主の〕賜物は驚異的な形で表されました。目の見えない人の目を開き、耳の聞こえない人の耳を開き、足の不自由な人の足を強くし、汚れた人を清め、不具な人に活力を与られえ、息の絶えた人に息を与えられました。救い主の賜物は……悔い改めた者に赦しを与え、絶望した人に希望を与えました。主の友人たちは宿と食物と愛を差し出しました。これに対して主は彼らに御自身と愛と奉仕と命をお与えになりました。……わたしたちは主がお与えになったように与えなければなりません。自分自身を与えることは聖なる賜物です。」(The Wondrous Gift『驚くべき賜物』p.2)

わたしは「自分自身を与えることは聖なる賜物です」と「わたしたちは主がお与えになったように与えなければなりません」という言葉について深く考えてみました。何と賢明な勧告でしょうか。わたしたちは自分の時間、活力、約束、証を人々に与えるとき、それは自分自身を与えていることになります。手に触れることができないものを分かち合うとき、それは玄関先に置いて来るようなものではありませんが、相手の人の心に刻み込むことは容易です。

親切も同様です。親切な気持ちを表すことほど、皆さんの開く集会に、家庭に、あるいは人々との交際において主の御霊を即座に招くものはありません。「愛は情深い」と記されています(1コリント13:4)。皆さんの行動のリストに親切を第1に挙げてください。毎日、なすべき事柄のリストの最初に「親切な行いをする」と記入してください。親切を行動に表すには様々な方法があります。隣人に思いやりを示し



てください。人混みの中でも忍耐してください。子供たちや夫に心配りをしてください。姉妹たちに対して正直であってください。姉妹たちを信頼してください。そうすれば姉妹たちもあなたを信頼することでしょう。姉妹たちのもとへ足を運び、扶助協会と呼ばれる姉妹たちの大きな輪の中に彼女たちを導き入れてください。親切な思いが増すにしたがって、わたしたちの心の倉庫には慈愛が増し加えられ、そしてわたしたち自身が強められるのです。

学業を続けるためにテキサスへ引っ越した扶助協会のある姉妹がその後さらに引っ越した後、今年の夏に手紙を下しました。彼女はワードの姉妹たちの機敏な行動、快く手を差し伸べる姿勢、温かい心、そして親切から学ん

だ経験を書きつづってくれました。彼女が手紙を書く気持ちになったのはワードの姉妹が何をしてくれたからではなく、なぜしてくれたかを心を感じたからでした。姉妹たちは彼女を愛し、彼女も姉妹たちから愛されていると感じることができました。姉妹たちは彼女に分かち合い、得ている賜物を増し加え、彼女も慈愛によって強められたのです。彼女の話聞いてください。それは皆さんすべてを、皆さんがひそかに示している善意を代弁する話です。

「この手紙を書くためにコンピューターの画面を前にしていますが、ただまばたきするばかりです。感謝の涙が止まらないのです。初めてオースチン第4ワードに出席した日から、扶助協

会の集会で愛と関心がわたしに向けられていることを感じて心を動かされました。様々な環境に置かれた姉妹たちがいました。改宗者や、生まれたときからの教会員、生粋のテキサスっ子もいれば、西部山間地方からの移住者もいました、既婚者、離婚した人、独身者、裕福な人、経済的に恵まれない人と様々でした。もちろんだからといって差別があるわけではありません。

口ではなく行いで示してくれた彼女たちの親切は数え切れないほどたくさんあります。それらは地を揺り動かすような出来事ではありません。ただ、小さな祝福が積み重ねられていったのです。わたしのアパートに立ち寄って、犬を散歩に連れて行ってくれたり、壊れた物の修理をしてくれたり、引っ越し荷物の入った箱を開けてくれたり、姉妹たちの個人の祈りにわたしの名前を入れてくれたりと様々な思いやりを示してくれました。先日の安息日は一日中、わたしの心の中を『シオンの娘』（『賛美歌』195番）の歌詞が駆け巡っていました。姉妹たちはほんとうに『米国の力強むため 疲れしものを救わん』を実行しています。」（1996年8月11日付け、キャサリン・ボスウェルからの手紙）

教会の女性たちが及ぼしている義にかなった影響力について疑問視する人がいるのでしょうか。このタバナクルで

も、テキサスでも、小さな支部でも、大きなワードでも、そして世界中のステークでもわたしたちの働きは「愛はいつまでも絶えることがない」とこだましているのです。何とすばらしい約束でしょうか。それは地上でわたしたちの耳に響き渡り、天において記録されるのです。姉妹の皆さん、これはわたしたちのテーマであり、世界に告げるメッセージであることを忘れないようにしようではありませんか。何をするかではなく、どのような心で行うかが大切です。

ジョセフ・F・スミス大管長は大管長会で働く責任について質問を受けたとき、「わたしは善いことを行うために召されています」と述べました。（*Collected Discourses*『説教集』ブライアン・H・スタイン編、5：92）実に簡潔で心がこもった言葉です。イエス・キリストに従う者としてわたしたちも「善いことを行うために召されています。」姉妹の皆さん、あなたがたはすばらしく善い業を行っています。それはとてもすばらしいことです。

以前に中央扶助協会会長の召しを果たしたベル・スパッフォード姉妹は「扶助協会は神から与えられた使命の門口までしか到達していない」と言いました。（*History of Relief Society*『扶助協会史』p.140）

わたしもこの意見に賛成です。わた

したちは門口に足を大きく踏み入れ、新しい霊性と光の時代に入る準備ができています。わたしたちは日常生活において人々をイエス・キリストに近づけることができるでしょうか。わたしたちの信仰、希望、慈愛は大きな影響を及ぼす力となることができますでしょうか。できます。確かにできます。

クライド姉妹はわたしたちの確信に堅く立ち、勇気を持つようにと雄弁に語りました。岡崎姉妹は教えることに特別な才能を持った方ですが、彼女はキリストにあってどのように希望を見いだすことができるかについて話してくれました。お二人のメッセージに、慈愛によって強められるというわたしの確信を付け加えたいと思います。この教会のすべての姉妹にお願いします。神を愛する気持ちを表すために、喜んで奉仕し、奉仕されることを実行してください。人々に関心を示すこと、犠牲を払うこと、奉仕することを家庭で教えてください。それが知性であれ、音楽であれ、運動能力であれ、指導力であれ、思いやりであれ、ユーモアのセンスであれ、穏やかな顔つきであれ、快活さであれ、わたしたちが神から頂いている賜物^{たまもの}を分かち合うことができるように祈っています。慈愛にあふれる心によってわたしたちはこの末日に驚くべき業をなすことができます。やがて、わたしたちはイエス・キリストから、「心の清い者、これこそシオンである」と告げられることでしょう（教義と聖約97：21）。

今晚ここで話されたことが真実であること、皆さん一人一人が大切な存在であることを証^{あかし}します。イエス・キリストはこの教会の頭^{かしら}であられ、わたしたちは神の預言者によって導かれています。わたしはこの祝福に感謝しています。またわたしたちのために勤勉に効果的に働いてくださる神権指導者に感謝しています。彼らも慈愛に満ちた心で人々を祝福しています。このすばらしい福音によってわたしが心に受けている喜びと、皆さんすべてにわたしの愛をお伝えしたいと思います。イエス・キリストの御名^{みな}により、アーメン。

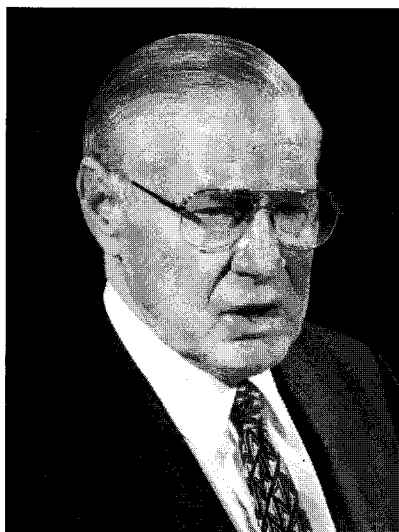


扶助協会の 大いなる鍵の言葉

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

教会はその設立当初から、忠実な姉妹たちの奉仕、信仰、献身を通して多くの力を得てきました。



親 愛なる姉妹の皆さん、こよい、こうして皆さんと同席できるのは、心を謙遜にさせる素晴らしい機会です。非常に光栄なことに、ピンクレー大管長とモンソン副管長も出席しています。シルバー姉妹の祈りと、この素晴らしいコーラスに感謝します。心を高めてくれる素晴らしい音楽でした。皆さん一人一人の信仰と徳が表れています。信仰、希望、慈愛に関する、アイリーン・クライド姉妹、チエコ・岡崎姉妹、イレイン・ジャック姉妹のメッセージはわたしたちを鼓舞してくれました。

老若を問わず素晴らしい姉妹たち一人一人に、心からの称賛と感謝の思いを伝えたいと思います。皆さんの信仰と献身に感謝しています。また、皆さんの義の模範に感謝しています。皆さん

が今直面する数々の問題に立派に対処している様子を目にするのは、ほんとうに素晴らしいことです。皆さんは、霊的なもの、素晴らしいもの、美しいものに対する天与の正しい認識を持っていますが、それは、皆さんに内在する神性の一部です。皆さんはわたしたちすべての生活を、ずっと明るく、素晴らしいものにしてきています。

1年前のこの集会でピンクレー大管長は、大管長会と十二使徒定員会を代表して、家族に関する宣言を発表しました。どの家族においても母親が中心であることを考えれば、それが、まず最初に中央扶助協会大会で読み上げられたのは適切なことでした。

わたしは、扶助協会の影響力と業績に敬服しています。扶助協会は、世界で最も偉大な女性組織です。皆さんはこの素晴らしい組織に属するという特権を得ています。わたしはこれまでの人生の中で、扶助協会を通して豊かな祝福を受けてきました。わたしの曾祖母は33年間ワードの扶助協会会長を務めました。わたしはステーキ扶助協会会長と、ワード扶助協会会長と結婚しました。ただし、これは同じ女性です。長女は今、ワードの扶助協会会長として働いています。義理の娘の一人は、ステーキの扶助協会会長をしています。わたしの妻ルースは長い間にわたって、忠実に扶助協会に出席しましたが、それによって、我が家はさらなる霊性と安らぎという祝福を受けました。彼女が受ける霊的な豊かさのおかげで、すべてのことがいっそう順調に

運んだと思います。扶助協会のおかげで、わたし自身も随分学ぶところがあります。神権者を支持し、扶助協会の事柄にはあまり立ち入らないようにすべきだ、と学んだのは随分前のことです。

預言者ジョセフ・スミスは、救い主の御言葉を引いて、この協会について次のように話しました。『あなたがたは、自分で見たわたしの行いをしなさい。』これがこの協会の行動の基となる重要な鍵の言葉です。』

神の娘たちにとって、救い主がなされたことを行うということの中に、神権の鍵、権能、力の行使が含まれていないのは言うまでもありません。しかし、その中には、証と模範によって信仰を築くことが含まれています。また、救いの教義を教えることも含まれます。すべての人に対して示された救い主の模範に従うことも含まれます。扶助協会設立の際に預言者ジョセフが語った次の言葉のように、ほかの人を教え導くことも含まれます。「これは慈愛の組織です。その天性を考えれば、女性の皆さんが慈愛と慈善の感情を持つのは自然なことです。」「人々が皆さんの純粋さ、優しさ、愛の力に触れられるようにしてください……善良なすべての人々の目に皆さんが素晴らしい人物として映るのは、柔和さ、愛、純粋さのゆえであり、争い、口論、不和、議論などによるものではありません。』³

教会の女性に対するこの責任には一つの約束が伴っています。預言者ジョセフはこう述べています。「もし皆さんがこれらの原則に従って行動するなら、日の栄えの王国で受ける報いは、実に偉大で輝かしいものとなるでしょう。自分の特権に恥じない生活をするなら、天使が皆さんの朋友となることも禁じ得ません。』⁴

皆さんが神から与えられている、養育者としての役割は、これまでになく強く必要とされています。この賜物は女性に特有のものです。男性はその種の賜物をそれほど豊かには授けられていません。この賜物の最高の表れが母性です。しかし、それはほかにも様々

な表れ方をします。その一つが女性特有のすばらしい直観的洞察です。あるワードの忠実な扶助協会会長が、自分の受けた御霊^{みたま}のささやきについて次のような話をしてくれたことがあります。

「その集会に出ているときに、同じワードのあまり活発でない一人の姉妹を訪ねるようにという、強い気持ちを感しました。わたしは最初に思いました。『今わたしは責任を果たしている最中だから、この場を離れるわけにはいかない』と。でも、次に思ったのは『キリストならどうなさるだろうか』ということでした。もちろんキリストならその集会を途中でも抜け出て、失われた羊のところへ行かれたことでしょう。わたしもそうしました。その姉妹の家に着いて、わたしは彼女に言いました。『自分がなぜここへ来たのか分からないんです。ところで、姉妹はお元気にいらっしゃいましたか』。彼女は『ええ』と答えました。しかしわたしは、そこで話を終わりにしてしまっただけだと思いました。主からそこへ遣わされたのであれば、そのまま立ち去るわけにはいきません。

彼女はわたしを招き入れてくれました。そして復活祭の日曜日だったその日、わたしが彼女から知らされたのは、その週の早くに彼女の夫が家を出て行ってしまったということでした。子供たちは父親がどこへ行ってしまったのか、けげんに思っていました。そしてとても久しぶりに、彼女は助けを祈り求めていたところだったのです。わたしは彼女からいろいろと事情を聞くことができました。それから、監督と副監督が来て、その危機的な状況が修復できるように助け、家族は元どおり一緒になることができました。

この経験を通してわたしが学んだのは、御霊の声に耳を傾け、そのささやきを受けたらすぐに従うということです。99匹を後に残して1匹を捜しに行く経験から、わたしはたくさんこのことを学んできました。』

この教会の忠実な姉妹で、救い主がなされたと同じ働きをするという責任を持っていながら、自分はつまらない

人間だなどと思う人がはたしているでしょうか。この働きの本質は、自分自身のことは忘れて、人のために奉仕することです。

独り暮らしをしているある独身の友達が肩の骨を折って、助けが必要になりました。そのことは彼女が集っているワードの会員たちにすぐ伝えられました。するとワードの会員たちが次から次に食事を持って来てくれました。冷蔵庫がいっぱいになり、彼女は「これ以上は頂けません」と断らざるを得なくなるほどでした。食事を運んで来てくれた会員の中には、ほとんど目の見えない姉妹もいました。彼女はできたての料理を手に、人通りの多い道をやって来ました。もう一人の姉妹は、彼女のアパートの部屋の掃除の仕事をかって出ました。しきりに遠慮する彼女に対して、その姉妹はこう言いました。「あなたを愛していることを知ってほしいのだけれど、わたしには、こんなことしかしてあげられないの。」買い物を手伝った別の姉妹は、彼女の事故がもたらした明るい側面を見て、こう言いました。「今度のことで、わたしたちはまた、互いにとても親しくなれたわ。」この姉妹たちは皆、救い主が自分たちに何をするように望んでおられるかというビジョンを持っていたと言えるでしょう。

教会はその設立当初から、忠実な姉妹たちの奉仕、信仰、献身を通して多くの力を得てきました。神の貴い娘として、姉妹たちは長年にわたり、信仰をもって、固くまた誠実に責任を果たしてきました。わたしの妻の母、エリザベス・ハミルトン・ライトは、夫が伝道に召されたときには、7人の子供を抱え、8番目の子を身ごもっていました。一人の使用人の助けがありましたが、家族に対する責任は彼女にかかってきました。毎日欠かせない16頭の牛の乳搾り、畑の耕作や収穫、いちご摘み、子供の世話などを確実に果たさなければなりません。彼女は主を深く信じ、愛していました。その信仰は生涯に一度も揺らいだことがありませんでした。その信仰は彼女に、神に望まれている働きをなし、夫の留守

中にも成長していく子供たちの必要を満たすための力を与えました。

姉妹たち、教会は皆さんの助言、アドバイス、意見を必要としています。わたしは長年にわたり、特に恵まれて、イレイン・ジャック姉妹とともに福祉管理委員会の一員を務めてきました。そして、中央福祉集会では、ジャック姉妹を含めて、チエコ・岡崎姉妹、アイリーン・クライド姉妹とも親しく接し、働きを共にしてきました。彼女たちの知恵にはすばらしいものがあり、その働きはきわめて重要です。そのアイデアや考え方は、なくてはならない貴重なものであり、高く評価されています。

ワード評議会やステーク評議会の一員を務めている姉妹たちは、自分の特別な知恵や経験をその評議会で自由に話してください。そして、監督あるいはステーク会長が決定を下したときには、全員が喜んでそれを支持するようにしていただきたいと思います。

皆さんは、自分が思っている以上に、高く評価され、称賛されています。わたしたちは、皆さんが直面している数多くのチャレンジを心に留めています。この不安定な世の中にあって、それらのチャレンジは多くの場合、抗し難いものであり、皆さんを極度に消耗させることでしょう。そのチャレンジは様々な形で皆さんのところへやって来ます。収入の範囲内での生活が難しいことも普通です。健康上の問題で苦しんでいる姉妹たちもいます。霊的に、いつも満足のいく状態でない人々もいます。年齢とともに、またほかの病気によって衰える人もいます。母親の皆さんは、家族各人の異なる個性から生じる様々な求めにこたえる中で、おびただしい難問に取り組んでいます。特に、女親として、自分独りで子供を育てている人たちがそうです。言うことを聞かない子供や孫のことで苦しんでいる方もいます。心身の不自由な家族の世話に大変な人もいます。愛する人の死など、大切なものをなくして悲しんでいる人々もいます。自分が孤独な状況にあることに気づいている人もいます。このような中であって、絶えず

続く、捕らえにくい様々な声が、人生の神聖な目的から、皆さんの気持ちをそらそうとすることでしょう。

しかしこのような状況があるにもかかわらず、以前にも増して、さらにすばらしい祝福が女性たちに授けられようとしています。わたしがこれまで生きてきた時代を振り返ると、骨の折れる家の中の仕事が随分軽減されてきています。わたしは祖母が使っていた古い洗濯板を覚えています。手でごしごしこすって衣類の汚れを洗い落とすのに使うものです。祖母は冬も夏もまきストーブで料理を作りました。自分たちの小さな町に電気がやって来たときのこと、また、それによってとても便利になった事柄もすべて覚えています。今の時代の女性たちは、教育や旅行などにおいて、これまでにない大きな機会に恵まれるようになってきています。しかし、永遠の計画の中での、皆さんの役割は非常に重要性が高く、これらの物質的な祝福よりも大切な、霊的な祝福の約束を伴っているのです。

わたしたちにとって、問題になる一

つのことは、毎日永遠の原則を忠実に守った生活することです。わたしが親しく接する機会を得ているある姉妹は次のように話しています。

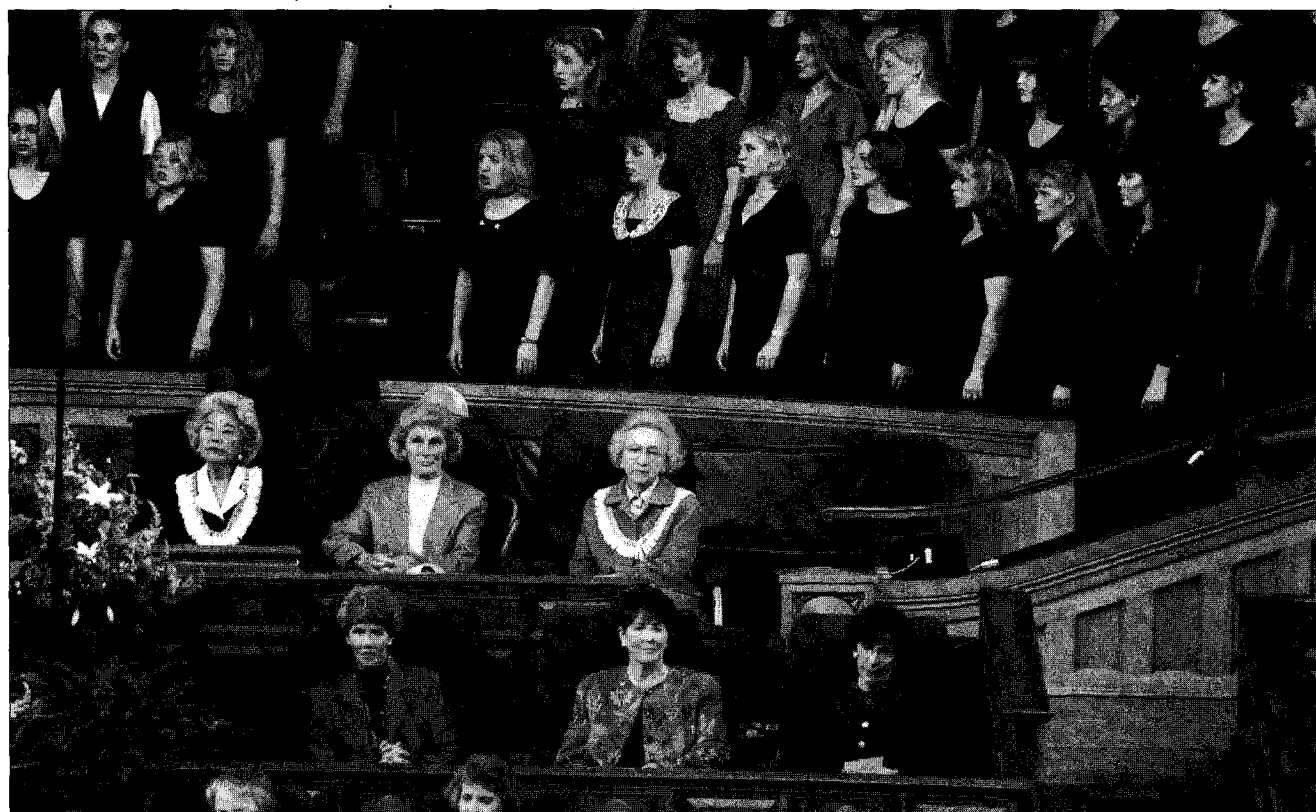
「子供たちが小さいときは、教会へ行く支度をさせたり、3時間の集会が終わるまでじっと座らせたり、日曜日はほんとうに大変でした。飽きてしまったり、食べ物を欲しがったり、そのうえ集会の中味が大人向けであるため、うんざりしてしまったりということがよくありました。こんなに苦労して、それだけの価値があるのかしらと思うこともありました。子供たちを敬虔^{けいけん}にさせようと、それだけ一生懸命努力しながら、霊的に満たされたと感じたことはめったにありませんでした。

しかし今振り返って見ると、我が家の子供たちが幼いころに教会で経験したことは、堅固な基の出発点だったことが分かります。子供たちは、さらにその基の上に築き上げていくことができたのです。子供たちは毎週そこへ行くことによって、少しずつ聖餐^{せいさん}の重要性を学び、人の話に耳を傾けること、

敬虔^{けいけん}にすべきことができるようになり、御霊^{みたま}のもたらす安らかな思いが理解できるようになったのです。そして、証も大きく育ち始めました。子供たちが幼くて、親の導きを必要としている時期は、わたしたちにとってかけがえのない貴重な歳月であるということを理解しています。いま自分の子供たちが大きくなって、わたしは自分がうまずたゆまず続けた努力は、価値あるものだったということをはっきり理解できます。』⁶

毎日毎日果てしなく続く日々のチャレンジに立ち向かうために、姉妹たちは皆、祈りを通して日々を得る天父との交わりによって、さらに強められていくことでしょう。聖文の学習は、霊的な確信を得るのに有益です。聖餐会への出席、聖餐を受けること、聖約を新たにすることは、週毎の力の源となります。

この複雑な時代の無数のチャレンジに取り組むもうと努力している姉妹たちは、以前にも増して、教会の姉妹同士の交わりの中から恩恵を受けることができます。扶助協会が設立されて間





もないころの集会で、ルーシー・マック・スミス姉妹が語った言葉は、その当時だけでなく、今の時代にもよく当てはまります。彼女はこう言いました。「わたしたちは、天において、皆ともに席に着くことができるよう、お互いを大切にし、見守り合い、慰め合い、教えを受けなければなりません。」⁷

ポルトガルのタビラの近くにある島に住んでいる3人の教会の姉妹がいます。彼女たちは教会の集会に出席することに非常に熱心で、毎週日曜日には、まず1キロ弱の道のりを歩いて、舟のある所まで行きます。そこからは、舟をこいで進み、その後さらに8キロ歩いて教会に通っています。ペレイラ姉妹は62歳、ネベス姉妹は73歳、イエズス姉妹は84歳です。この3人の姉妹たちは毎日集まって聖文を読み、霊的に強め合っています。⁸

^{あかし}証は、それを聞く人だけでなく、証をする本人の利益にもなります。神殿への定期的な参入は、あらゆるチャレンジに取り組んでいくための助けとなります。扶助協会会長から与えられる訪問教師の割り当て同様、神権指導者から与えられる召しを受け入れることも、自分自身を非常に強める体験となります。個人的に、あるいはグループとして、慈善奉仕を行う中で、皆さんは自分自身の問題を忘れ、救い主と同じ業を行うのです。

最近わたしはある家族と会いました。その家族は、痛ましい自動車事故で大切な男の子を亡くしていました。彼らはいつになったら聖霊の慰めが自分たちを包み、支えてくれるのかと思っていました。わたしは、主に対して「みこころになりますように」と言え

るようになったそのときに、救い主の約束された甘美な安らぎを得られるでしょう、と勧告しました。御父へのこの積極的な従順こそ、救い主がゲツセマネの園で示されたものでした。

姉妹の皆さん、わたしたちは教会の歴史上、最もすばらしい時代に生きています。皆さんに与えられている、ほかの人のために奉仕し、その人々に祝福を及ぼす機会には限りがありません。神の業に対する女性の貢献は、かつてなくすばらしいものとなってきています。家庭を強めるために、また、小さな子供や青少年を教えたり、ほかの人々を助けるために、女性独特のすばらしい貢献が大いに必要とされています。神の王国を前進させるためには、皆さんの義の模範がぜひとも必要です。

神の祝福が姉妹たち一人一人のうえに、またその行いのうえに注がれますように。神の平安が皆さんのうえにありますように。わたしたちは皆この神聖な神の御業に携わっています。また、わたしたちは神の御業が世界に転がり行くのを目の当たりにし、それが真実であることを否定することはできません。わたしは主を愛しています。皆さんとともに、謙虚な思いをもってこの神聖な業に携わっています。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*『預言者ジョセフ・スミスの教え』ジョセフ・フィールディング・スミス編, p.239
2. 同上, p.226
3. 同上, p.227
4. 同上, p.226-227
5. 私信ファイルより
6. 私信ファイルより
7. Relief Society Minutes of Nauvoo「ノーブー扶助協会議事録」1842年3月24日。History of Relief Society 1842-1966『扶助協会史1842-1966』p.20から引用。
8. 元ポルトガルの宣教師エルマ・アダムス・クンスラーの談話より

中央幹部の異動



カーロス・E・エイシー長老



W・マック・ローレンス長老



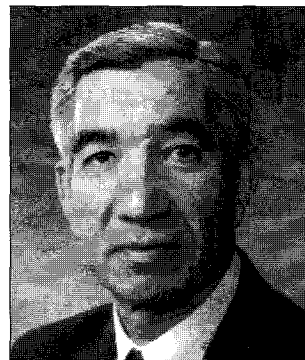
ルロン・G・クレープン長老



ジョセフ・C・ミューレン長老



グラハム・W・ドクシー長老



ホルヘ・A・ロハス長老



フリオ・E・ダビラ長老



ハンインサン
韓仁相長老

第 166回半期総大会の土曜日午後
の部会で、七十人定員会の会
員10人が解任され、再組織された若い
男性中央会長が支持を受けた。

アール・C・ティンギー長老が、カ
ーロス・E・エイシー長老に代わり七
十人会長会会員に支持された。またエ
イシー長老はこの大会で名誉幹部の称
号を受けた。

現在ソルトレーク神殿の神殿長を務
めているエイシー長老は、1976年4月3
日に支持を受けて以来20年間、七十人
第一定員会会員として働いてきた。彼
は2度にわたり七十人第一定員会会長
会会員としての任を果たし、その期間

は1980年から1986年まで、および1989
年から1996年までの通算13年に及ん
だ。

また、W・マック・ローレンス長老、
ルロン・G・クレープン長老、ジョセ
フ・C・ミューレン長老、グラハム・
W・ドクシー長老、ホルヘ・A・ロハ
ス長老、フリオ・E・ダビラ長老、
韓仁相長老、スティーブン・D・ナド
ール長老、サム・K・島袋長老が5年
もしくはそれ以上の期間の任務を終
え、七十人第二定員会から解任された。

ユタ州出身のローレンス長老は、最
近まで日曜学校中央会長会の第一副会
長を務めていた。同じくユタ州出身の

クレープン長老は、アジア地域会長会
第二副会長の任にあった。カリフォル
ニア州出身のミューレン長老は、最近
まで中央アメリカ地域会長会会長の責
任を果たしていた。ユタ州出身のドク
シー長老は最近までヨーロッパ北地域
会長会会長の任にあった。メキシコ出
身のロハス長老は、中央アメリカ地域
会長会第二副会長として責任を果たし
ていた。コロンビア出身のダビラ長老
は、南アメリカ北地域会長会第一副会
長として働いた。韓国出身の韓長老は
コーリレーション部エグゼクティブ・
ディレクター補佐として働いていた。
そして現在、韓国のソウル神殿神殿長



スティーブン・D・ナドル長老



サム・K・島袋長老

島袋長老、七十人第二定員会 から名誉の解任となる

10月5、6の両日、ソルトレークシティで行われた第166回半期総大会では、七十人第二定員会から9人の会員が名誉の解任となった。サム・K・島袋長老もそのうちの一人である。この度解任となった幹部は皆、1991年に七十人定員会会員として支持を受けている。

ハワイ出身で教会への改宗者である島袋長老は、1925年、沖縄からの移民労働者の家庭に生まれた。長老は専任宣教師であったとき、沖縄で伝道し、夫人のエイミー・道子・広瀬（旧姓）

姉妹と出会った。一人娘のフィリスを1974年に狼瘡（皮膚結核）で亡くしている。

伝道から帰還後、ハワイ大学で行政学を専攻していた長老は、卒業してから公務員として働き、退職後は州業務関連の業者として活躍した。

日本仙台伝道部長（1981-84年）、東京神殿長（1985-88年）の職を歴任している。

七十人定員会会員の任期中、東京に本部を置くアジア北地域会長会で第一副会長の責任も果たした。□

に召されている。アイダホ州出身のナドル長老は、北アメリカ南東地域会長会会長として、またハワイ州出身の島袋長老は、アジア北地域会長会第一副会長として働いていた。

ナドル長老は、同時に若い男性中央会長会でジャック・H・ゴーズリンド長老の下で第一副会長も務めていたが、この度解任された。第二副会長の任にあったボーン・J・フェザーストン長老が第一副会長に支持され、七十人第二定員会会員のF・デビッド・スタンレー長老が第二副会長に支持された。□

「末日聖徒慈善事業団」

大 管長会は「末日聖徒慈善事業団」の設立を発表した。これは、世界中の貧しい人々と助けの必要な人々を対象に教会の人道的救援活動を支援する目的で組織された、非営利の団体である。

1830年代の創立期以来、教会は教会福祉プログラムを通じて、助けの必要な会員たちに物質面での援助を行ってきた。教会の福祉活動は、地元レベルで、扶助協会会長の協力の下、監督によって管理運営されている。そのため断

食献金が、農場や缶詰工場、監督の倉といった制度やそのほかの施設と一緒にあって、監督が助けの必要な教会員を世話するときに必要な援助物資を提供している。

また教会には、助けの必要な他宗派の人々、とりわけ自然災害の被災者への、人道的救援活動においても長い歴史がある。この種の援助物資は、これまで基本的に、人道的救援活動に熟達した他の団体を通じて届けられてきた。適切な時期が来れば、「末日聖徒

慈善事業団」は、助けの必要な人々に教会が直接人道的救援活動を行う際の輸送手段の役割を果たすようになる。とはいえ、教会は今後も人道的救援活動を実施するに当たって、他の団体と協力を続けていくことになる。

「末日聖徒慈善事業団」に対する献金は、後ほど準備される献金票を用いて行う。

人道的救援活動について関心がある方は、右の連絡先に問い合わせることができる。

■住所

Latter-day Saint Charities,
50 E. North Temple Street,
Salt Lake City, Utah 84150 U.S.A

■電話

1-801-240-1201

福音の教義クラスで使う 補助教材の日本語版完成



大 管長会は『わたしたちの受け継ぎ——末日聖徒イエス・キリスト教会歴史概観』の出版を発表した。

大管長会は、手紙の中で、教会の指導者たちにあてて次のように述べている。「この書物は世界中の聖徒たちが教会の歴史と遺産について学ぶのに役立つことでしょう。また、これは家庭の蔵書に加えるべき優れた図書です。……『教義と聖約』および教会歴史を勉強する1997年度の『福音の教義クラス』の補助教材として使用されます。会員各世帯に1冊配付されます。」

教会本部で作成された本書には、教会の形成過程がまとめられていて、現代の教会ならびに世界に広がる教会の

概観を扱った章も加えられている。本文はすべての教会員の霊的な受け継ぎを強調している。

教会カリキュラム部の実務ディレクターであるロナルド・L・ナイトンは、こう説明する。「回復の経緯や、聖徒たちが西部に移住し、ユタ史上の初期に定住した様子を見ると、現在のわたしたちを形成した原則と受け継ぎが明らかになります。奉獻や忠誠、忍耐、希望といった徳は、わたしたちすべてが現在でも共有する受け継ぎの一部です。」

『わたしたちの受け継ぎ』の出版を知らせる手紙には、『福音の教義クラス——教師用手引き・補遺』が同封されており、1997年度の学習課程で利用

できる補助教材、ならびにそれらをレッスンの中に取り込むためのスケジュールの提案が挙げられている。補助教材には『わたしたちの受け継ぎ』『回復された真理』『教義と聖約』・教会歴史ビデオ・プレゼンテーション、教会の機関誌、教会付属図書館の視覚資料、『福音の視覚資料セット』などがある。また年間を通して、『聖徒の道』では過去と現在の開拓者の特集を掲載し、1847年に開拓者がソルトレーク盆地に到着したことを記念する。

教会のコアカリキュラム管理責任者であるジョサイア・W・ダグラスは、『わたしたちの受け継ぎ』はゴードン・B・シンクレイ大管長の著した『回復された真理』に取って代わるものではなく、併用するものであると説明している。例えば、『福音の教義クラス教師用手引き』の第2課は、『回復された真理』の第1章と『わたしたちの受け継ぎ』1-4ページを一緒に学ぶよう、『補遺』には提案されている。

ダグラス兄弟はさらに、学習課程の教材は福音の教義クラスだけではなく、どれでも一緒に使って家族での福音の研究に役立てられると提案し、こう語っている。「日曜学校と初等協会では、成人も青少年も子供も同じ聖典を基にして学んでいきます。」したがって教会歴史に焦点を当てる1997年は、家族で『わたしたちの受け継ぎ』やその他の教材を学べば「頻繁に互いに教えたり、分かち合ったりできる」と、ダグラス兄弟は言う。

新刊書『わたしたちの受け継ぎ』を含め、こうした教材は教会配送センターを通じて注文できる。□

完成した教会配送センター

——ご注文の窓口は、1月より教会配送センターに——

これまで神奈川県川崎市高津区にありました教会配送センターは、10月28日付けで東京東ステーク小岩ワードの教会堂に隣接して建設された建物に移転しました。

また、教会出版物のご注文は、従来、教会管理本部経理課が窓口になっていましたが、新配送センターの完成に伴い、1997年1月より窓口が、教会配送センターに変更になります。ご注文は、代金とともに直接教会配送センターへお送りください。なお、現在使用中の『教会書籍ダイレクト注文書』は、管理本部経理課にいったん配達されてから配送センターへ転送されます。□

*

■ご注文、お問い合わせ先

教会配送センター新住所：

〒133東京都江戸川区西小岩5-8-6

末日聖徒イエス・キリスト教会

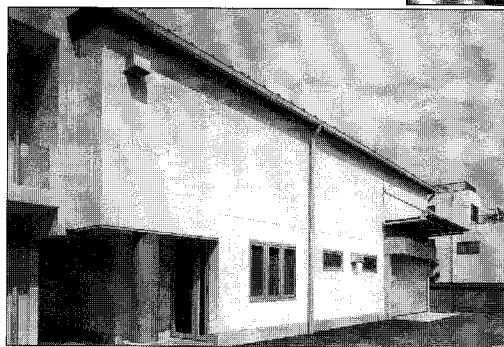
資材管理部配送センター

TEL：03 (5668) 3391

FAX：03 (5668) 3392



配送センター内部



東京東ステーク小岩ワードに隣接して建設された教会配送センター

亡くなった方々を身近に感じて

——主の見守りの中での祝福——

ユタ州サンディ・クレセントステーク、
クレセントビューワード

元東京神殿宣教師

シドニー・ロバート・アディア3世

わたしは、今神殿が建っている場所にあった以前の東京伝道本部で、1953年にバプテスマを受けました。わたしたち夫婦はよく来日し、その途中東京神殿を見学したり、神殿の儀式を受けたりしました。日の栄えの部屋に入ったときには、亡くなった方々をとても身近に感じ、それとともに彼らのために働けるといううれしさが胸がいっぱいになりました。

ある神殿訪問のとき、菊地良彦神殿

長がわたしたちに「神殿宣教師になることについて考えておられますか」と尋ねられました。わたしたちは、その日まであまり考えたことがありませんでした。神殿長は、わたしたちに神殿宣教師として東京神殿で働くように依頼しようとしていたところだと言われました。その偉大な洞察力と天父との霊的なつながりにより、神殿長は、わたしたちの考えと気持ちを御存じでした。わたしたちは承諾しました。しかし申請のため健康診断をしたとき、健康に問題があるため宣教師になるのは難しいことが分かりました。その後、わたしたちはホームティーチャーから癒しの祝福を受けて問題を解決し、宣

教師になることができたものの、日常生活においてまだ問題がありました。

神殿長から神殿宣教師の任命を受けたとき、主がわたしたちや、わたしたちの家、またわたしたちの愛する人々を見守ってくださるので、わたしたちは何も心配すべきではないと言われました。

わたしたちが主の業をしている間、主はすべての面で見守ってくださいます。神殿の中で、わたしは多くのすばらしい経験をさせていただきました。人は福音の完全な祝福を得るために、エンダウメントを受けなければならないことを知っています。人は死者のための業をしなければなりません。

わたしは先祖のために何年もの間、儀式をしようとしていましたが、東京神殿に神殿宣教師として来るまで、十分な情報が見つかりませんでした。それが、わたしが東京神殿に来てから、わたしの両親、祖父母、親戚の人々の

ために儀式を完了することができたのです。彼らのために儀式を受けられたことは、とてもすばらしい経験となりました。生者だけでなく、死者にとっても神殿での御業は非常に重要であり、幕の向こう側の人々のための業を

生者がすることなしには、永遠に天父とともに住むことも、日の栄えの王国に到達することもできないと証します。

ここにいることにより、またとても霊的な人に管理され、助言と導きを聞

くことにより、計り知れない祝福を得ています。この短い証がどなたのためになり、わたしたちの地上における天国、主の宮の祝福を受けられますようにお祈りいたします。□

「強い光がさし込み、 優しい声が聞こえました」

ユタ州サンディ・クレセントステーク、
クレセントビューワード
元東京神殿宣教師
京子・アディア

わたしは、1952年6月2日に以前の東京伝道本部でバプテスマを受けました。その後、関東学院からブリガム・ヤング大学に転校し、テキサス生まれの主人と出会い、ロサンゼルス神殿で結婚しました。

この42年の間に、2人の子供と4人の孫に恵まれました。息子は名古屋伝道部で働き、今は結婚してテキサスに住んでいます。娘も結婚し、ユタ州にあるわたしたちの家の近くに住んでいます。これまでの長い間、天のお父様はわたしたちを、物質的にも霊的にも祝福してくださいました。

最近特に、どのようにしてこれらの豊かな恵みを神様にお返しできるかと考え、退職してから、主人と2人で祈り続けていました。そして、東京神殿で奉仕したいという気持ちになりました。神様を肉眼で見たことはありませんが、祈りの答えや導きを頂きましたので、神様がほんとうに生きておられることを知っています。

東京神殿での奉仕ですばらしいことは、中央幹部の菊地良彦神殿長や神殿宣教師と肩を並べ、信仰深い日本の聖徒たちや合衆国から派遣されている宣教師たちに会い、毎日朝から晩まで主に仕えられることです。暗い気持ちになることもなく、外からのサタンの力が届かないのが主の家にいる一つの特権でしょうか。まさに平和な日々の連

続です。

神殿に奉仕に来て以来、主はわたしに何らかの方法で主がこの神殿におられることを知らせてくださると予期していました。なぜなら、そのことが『聖書』の中に幾度か出てくるからです。それを毎日待ちながら、もう1年が過ぎました。主はわたしの目の前に姿を現されませんでした。また奇跡も起こりませんでしたし、壁に字を書いてくださることもありませんでした。

8月のある日、わたしがとばりで奉仕をしていると、まるでだれかがわたしの頭をメスで切り開けたかのように稲妻のような強い光がさし込みました。そして、優しい声が聞こえました。「わたしは、いつもあなたの近くにいます。」わたしは急に温かいものに包まれたように感じ、目が涙でいっぱいになりました。そのすばらしい光は、すぐに消えましたが、わたしに言われた言葉はいつまでも、心に残っています。それは「神様の方に焦点を合わせるなら、あなたは必ずわたしのいるこ

とを知るであろう」というメッセージのようでした。またそれはマジックの絵のように、焦点を合わせると、その中にあるもう一つ別の絵が見えるように神様の存在を知ることができるのだという知識を得ることができました。わたしはこのような体験ができたことを神様に心から感謝しています。忙しい毎日の神殿の奉仕に大きな希望と喜び、力が再びわいてきました。

以前にゴードン・B・ヒンクレイ大管長が言った「あなたはいつも機会があれば、だれにでも証をするべきです」という言葉を思い出しています。この奉仕を通して平安と希望を与えてくださる天のお父様、神殿長をはじめ神殿宣教師の方々、毎日遠くから奉仕に来られる方々、信仰深い参入者の方々の温かい愛とすばらしい模範に感謝しています。

神様が生きておられ、イエス・キリストはわたしたちのために尊い命をささげてくださったことをよく知っています。そして、いつか神様の前に立って顔を合わせることも不可能ではないことも知っています。この知識だけでも生きる力と勇気が泉のようにわいてくるのです。わたしはほんとうに日本に来てよかったと思います。□

アディアご夫妻



自分と家族を守るために ——災害への備え

石川地方部広報委員会主催の
展示会と講演会

昨 年9月14日（土）、石川地方部金沢支部にて、地方部広報委員会主催で「自分と家族を守るために——災害への備え」という展示会と講演会を開催しました。

これまで大きな災害のなかった石川県下の人々にとって、防災意識はあまり高いとは言えません。一昨年の阪神大震災が起きた後でも、加賀百万石から譲り受けたのんびりした雰囲気は、そう簡単には変わりませんでした。教会員もまた同じです。

地方部長会は、一昨年末に神戸の震災体験者を招くなどして防災の意識を高めるためのプログラムを計画しました。地方部の広報委員会は、その企画を具体化し、充実させるために開催直前まで何度も検討を重ねました。特に教会員が友達や家族を気軽に誘うことができ、一般の人々が喜んで参加できるものにしたいと考えました。

催しについては宅配情報誌『ビジョン』と北陸中日新聞が予告記事を掲載し、ラジオ金沢は「朝一伝言板」で紹介、FM石川は連日ラジオ放送してくれました。当日、マスコミ報道で知った一般の方々の参加もあり、強い関心を示していました。

「講演会」には、金沢市防災対策委員会の協力を得て、市民レベルにおける避難訓練などを各地域で精力的に指導し、マスコミにもよく登場している菊川校下防災対策委員会会長の南得夫氏にも公演を依頼したところ、二つ返事で快諾してくださいました。

「展示会」では「阪神大震災の新聞記事」の掲示、「電源不要ラジオ」、FM石川の協力で「見えるラジオ」、メーカー提供の乾パンとアルファ米の「試食会」、野々市支部からは「食料貯蔵品」の紹介、関口治兄弟の著書『都市

型大震災対策マニュアル』30冊を希望者に抽選でプレゼント、また菊川校下防災対策委員会の「緊急避難用具」の展示を行いました。

「講演会」は、石川地方部の徳沢清部長のあいさつで始まりました。続いて南得夫氏が、日ごろの活動をスライドを用いユーモアを交えながら話され、会場からは笑いと、拍手が起こりました。

神戸市東灘区から招いた清水一子姉妹は、最大激震地の模様を話しました。歯磨きと顔を洗うのに、水が1日コップ1杯分しかなかったこと、連絡の取れなかった友人の息子さんを探すために、友人と瓦礫の中を歩いて行き、結局倒壊したアパートの中に息子さんの遺体を見つけ、一緒に大泣きしたことなど生々しい体験を語りました。わたしは司会を務めていましたが、彼女が

一言話しだした途端に会場の人々の顔が紅潮し、目が真っ赤になるのが壇上から見てとれました。ある男性は「涙が止まらなくて困った」と語っていました。

最後の講師は、神戸市西区から招いた田中尚子姉妹です。彼女は救援活動を通しての体験を話し、援助する側と受ける側のギャップや1,000人もの食事の準備の大変さを語りました。また、あるイラン人から「日本人はボランティア、ボランティアと騒ぎすぎる。人が助け合うのは当たり前。わたしの国では、戦争や災害でお互いに助け合わなければ生きていけないんだ」と言われたことから、もっと肩の力を抜かなければいけないと、日本人の奉仕活動の未熟な姿勢に指針を示しました。

3人の講師の話は、実際の体験と実践した人でないと語れない内容で、聴衆にとっても強いインパクトを与えました。講演会が終了すると大きな拍手がわき、講師の方々へ握手を求める人々の列ができました。教会員にとって一般の人を招いた会が、こんなにもエキサイティングな会になるとは思いもしませんでした。（レポーター：武内利夫、名古屋伝道部石川地方部広報ディレクター）



乾パンやアルファ米の試食会も企画された緊急避難用具、食糧貯蔵品の展示会



金沢市部で開催された「災害への備え」の講演会で司会をする広報ディレクターの武内利夫兄弟

10人家族の関谷家、TV番組 「森公美子・涙の挑戦！ 大家族のお母さん入門」に出演

あひこ
我孫子ステーキつくばワード
関谷順正

この度、わたしたち家族が出演したテレビ番組「森公美子・涙の挑戦！ 大家族のお母さん入門」(8月11日、フジテレビ夜9時より放映)をたくさんの方に見ていただいて、ほんとうにうれしく思っています。当日は特別番組と重なって視聴率がどうなるか心配しましたが、前宣伝と主演の森公美子さんの人気の高さも手伝って、全国平均19パーセントと結果は良かったようです。

今回のテレビ出演のきっかけは、うちの8人の子供がお世話になった産院からの紹介でした。「大家族の母親に挑戦！」という企画で、3～5日間、森さんと母親が入れ替わって生じる子供たちの反応と、森さんが育児や家事に奮闘する様子を撮りたいということでした。幼児が多くいる大家族が少なく、ほかが見つからなかったため、我が家に白羽の矢が立ったというわけです。

本番3週間前の金曜日に、1日かけて普段の様子をビデオに撮りました。朝5時半ごろから夜9時半ごろまで、スタッフの方々も大変でした。本番は7月8日～12日の5日間で、妻は家にいられないので、9日の朝から12日の夕方までの4日間、東京神殿の宿舎にいて毎日、神殿参入をしていました。

森さん、子供たちに 『モルモン書ものがたり』 から語り聞かせ

7月8日、朝5時にタレントの森公美子さんが来宅してスタートとなりました。森さんに決まったとき、あまり民放番組を見ないわたしは、森さんを知りませんでした。いちばん心配だったのは学校に行っていない下の3人の子、

めぐみ(5歳)、てるのぶ(3歳)、こうじろう(1歳)がお母さんを恋しがって泣きだすことでした。しかし、本番では光信が1度すねた程度で、ほとんど問題はありませんでした。森さんが上手に幼稚園ごっこをしてくれたおかげでしょう。下の子供たちもよくなついていました。特に『新約聖書物語』や『モルモン書ものがたり』を大きな声で雰囲気たっぷりに表現して子供たちに語り聞かせている姿には、さすがだなあと感心してしまいました。

初日の月曜日の家庭の夕べで、みんなの将来の夢について発表しました。森さんも「夢は必ず実現させたい」と、歌手として夢見たことを幾つも実現させてきた体験や、夢についての考え方などを熱心に子供たちに語って、夢を持つように子供たちを励ましてくれました。

森さんに祈りをねだる光信

光信は、時々皆の祈りが終わった後でも母親にもう一度祈るようにねだります。例のごとく食事の祈りが終わった後で、「ほくまだお祈りしていないよ、お祈りして！」と言いました。何度も繰り返しねだります。「もうお祈りしたんだから食べなさい」と言い聞かせても、お祈りをねだり続けます。仕方なく森さんが光信に向かって「じゃあ、お祈りしましょうね」と、見よう見まねで食事のお祈りをしてくれました。こんな明るく元気な森さんだからこそ、独身の身でありながら今回の企画に挑戦できたのでしょう。

最終日のビデオ撮りが終わったのが夜9時ごろ、森さんは待っていた人々にサインをしたり、あいさつをしたりして、帰路に就いたのは10時をだいぶ回ったころでした。翌日には早朝6時

から仕事が入っており、翌々日にはイタリアでのオペラコンサートに出発と大変な過密スケジュールにもかかわらず、にこにこサインをしながらファンの人たちとの触れ合いを大切にする森さんの姿を見て、ほんとうにすばらしい方にお母さん役を引き受けてもらったと思いました。

スタッフを含め18人が 一つ屋根の下で5日間

わたしたち家族10人、スタッフを含めて常時7、8人のテレビ関係者、計18人が一つ屋根の下で5日間過ごし、最終日には22～23人にもなりました。すべてが終わって、元のわたしたち10人だけになったとき、すっかり寂しくなっていました。もう少し、できればずっといつまでも森さんたちと一緒に過ごせたらいいのと思い、2、3日は調子が狂ったように感じられたほどです。

残念ながら、放送ではわたしたちの望んだ宗教的な場面は一切カットされてしまいましたし、家内が作詞作曲した歌も出ることはありませんでした。しかし、今回の体験がわたしたち家族にとってすばらしいものとなったことを感謝せずにはいられません。妻はずっと以前からテレビに出る機会が与えられるように主に祈っていました。今回は、まさにその祈りがこたえられたわけです。これからもファミリーコンサートを含め、いろいろな機会を通して福音を紹介できるよう願っています。(せきや・よりまさ)



関谷さん一家総勢10人

森公美子さんが関谷恵美子姉妹(写真右)に代わってお母さん役を引き継ぐ



イエス・キリストの光を輝かすために

——テレビで伝道する夢の第一歩——

あひこ
我孫子ステーキつくばワード
関谷恵美子

わたしにとって最も幸福なとき

高校2年の夏にバプテスマを受け
てから長い年月がたちました。
これまでの人生の中で、わたしにとっ
て最も幸福なときは、やはり福音を
人々に伝える時間と精神的な余裕があ
るときです。伝道ができないでいると
き、いつも心の中で祈るのです。
「神様、今のわたしは、どうもがいて
もこれ以上のことはできません。しか
しわが子だけでなく、この地上に住む
神様の子供たち皆を心から愛していま
す。ですから、わたしの愛するまだ福
音を知らない方々に何かできることが
あるなら、どうか教えてください。わ
たしには時間も才能もないけれど、何
かの方法でイエス様の愛を伝えられま
すように。」

夫が教会から離れていた11年間は、
特によく祈っていました。夫が神様の
ことをもう一度信じるようになったと
ときには、二人で多くの人を導けるよ
うにと……。

若い女性のレッスンで、口酢っぱく
言われていたことがあります。「模範
を示すということは、イエス・キリス
トの光を輝かすこと。イエス様の光を
輝かす良い模範は、一日中生活の中で
伝道することと同じなんですよ。」こ
の言葉を教えられていたおかげで、光

となる喜びを知ることができました。
学校や社会では模範を示しやすいので
すが、家庭の中ではとても難しく、な
すすべが分からなかったわたしは、い
つも神様に助けを求めていました。

歌を作^{あかし}って証を伝える

しかし、一つだけ自信をもって示せ
る模範がありました。それは「福音を
知って、わたしは幸せなのよ。お母さ
んは、イエス様の福音が真実であるこ
とを証できるからいつも楽しいのよ」
と言葉や行い、歌を通して子供たちに
伝えることです。そのように、いつも
歌を歌っているわたしでしたが、ある
1年半の間まったく歌えず、あまり笑
うこともできない時期がありました。
失意の底で、わたしにとっては賛美歌
を聞くことだけが慰めでした。

再び自分が元気になったとき、わた
しはどうしてもこの証の歌を多くの人
人に聞かせてあげたいと強く願いまし
た。そして、今こんな状態のわたしで
も伝道できる方法がやっと見つかった
のです。自分自身で、また時には子供
と一緒に歌を作って、多くの人々に我
が家の神様に対する証を伝えることが
できます。歌を作るのは、家事をしな
がらでもできますし、歌の練習もでき
ます。車に乗っているときに歌ができ
たこともありました。また、散歩や赤
ちゃんの世話をしているときにもそう
できます。

このわたしの「伝道したい」という
強い願いを、神様はかなえてくださ
いました。コンサートなどを通して、ま
たそれだけでなく、テレビの放送を通
して伝道する機会が与えられたのです。
高校生のころ、たった1度でしたがテ
レビを通して伝道することができるよ
うにと声に出して祈ったことがありま
す。その願いはずっとわたしの心の奥
深くにあり、いつかは……と願ってい
ましたが、まさかこんなに早くかなえ
られるとは思ってもみませんでした。
番組は、8月11日「森公美子・涙の挑
戦！ 大家族のお母さん入門」というタ
イトルで放映されました。当日、初め
て完成した番組を見たわたしは、がっ
かりせざるを得ませんでした。テレビ
局からの要望で行った「家庭の夕べ」
や自作の歌、お祈り、インタビューな
どの楽しみにしていた場面は、ほとん
どがカットされており、わたしの期待
していたものとは随分違っていたので
す。

「大家族に対する イメージが変わった」

ところが放送が終わった後、多くの
方々が励ましと感謝のお手紙を下さ
り、テレビ局が2か所で行ったアンケ
ートでも「大家族に対するイメージが
変わって、とても良い印象を持てるよ
うになった。やっと思昔のほのぼのと
した大家族を思い出せた」など、良い反
響ばかりだったのです。気落ちしてい
た心も晴れて元気になりました。特に、
この教会のことを悪く思われていたほ
かの宗教の方に、ある方がこの番組を
紹介してくださったところ、これを御
覧になって心を和らげてくださったと
お聞きし、感謝さえ覚えました。

もし、またテレビ出演することがあ
れば、いつかきっとわたしたちがモル
モンであることを人々に知ってもらえ
る時が来ると信じています。「モル
モンの家族はこんなにすてきなんだ」と
皆が感じられ、教会についてもっと知
りたいと思ってもらえるように家族を
愛しながら歌作りに励みたいと思いま
す。(せきや・えみこ 扶助教会教師)



森公美子さんを中心に関谷家の子
供たちと「お母さんの歌」を作曲
する

関谷ご家族



神殿エンジニアとして、 奉仕者として

——福音のすべての祝福にあずかるために——

高崎ステーキ高崎ワード
前東京神殿第二副神殿長
徳田和義

「お父さん、神様の仕事に何の不安も心配ありません。神様の仕事をするべきだとばかりは思いません。」今から17年前、すなわち1979年の春、神殿エンジニアとしてのお話を頂き、家族で話し合った折、当時大学生だった長男のこの勧めで神殿で働く決意をしました。

当時まだ45歳、一応大会社の責任ある者として勤務していたわたしには生活上何の心配もなく、公私ともに順調に毎日を送っておりました。また信仰生活に入って間もなく、教義や知識も浅いこのわたしに、このような大切な任務が務まるのかと不安もいっぱいありました。次男は「お父さんの信仰では神殿の玄関に入ったと同時に倒されるのでは」と笑っていました。

そんな不安の中、高崎ワードの皆さんやホームティーチャーの支えを得て神殿でお世話になることを決め、27年間勤務させていただいた会社を円満退社し、1980年1月から神殿での勤めが始まりました。

神殿は当時建築中で、広尾の町に高く塔がそびえ、偉容を現しつつありました。わたしは建築業者との図面チェック、設備機械の据え付け、監督官庁のチェックの立ち会いを行ったり、ハワイ、ソルトレーク、オグデンなどの神殿を訪問し、神殿の保守、安全維持についての見学、トレーニングを受けたりしました。

そして1980年10月、スペンサー・W・キンボール大管長をはじめとする中央幹部によって東京神殿が主に奉獻されました。そのときの感激は今でも脳裏に深く焼きついて忘れることはできません。

特にキンボール大管長の「奉獻の祈

り」は、わたしにとってそれからの指針になりました。大管長は祈りの中で「ご在天の父よ。われらは汝に祈りまつる。この建物の基礎より尖塔の最先端に至るまですべてを受け入れたもうように祈り奉る。……おお主よ、この神殿の建つ敷地を聖別したまわんことを。この敷地に育つ樹木や草花、かん木を聖別したもうよう汝に祈り奉る。」つまり、まさにここは「主の宮」であり、草木一本に至るまで主のものである、とはっきり宣言されたのです。わたしは常に主のものにふさわしくあるように維持しなければならないと深く感じ、以来15年弱、その気持ちを抱きつつ仕事を続け、1994年2月に60歳で定年退職をさせていただいたのです。

そして明るく3月から、わたしたち夫婦は神殿宣教師として奉仕させていただくように召されました。この2年6か月、神殿宣教師として、また菊地良彦神殿長の下で第二副神殿長として奉仕させていただき、通算16年と8か月、わたしたち夫婦と家族は神様から数え切れないほどの祝福を頂いてまいりました。

特にわたしは神殿に参入し、奉仕することにより、主に最も近くいられる「主の宮」で過ごす祝福を感じました。この世は、サタンが力を振るっていますが、それらから守られるという祝福です。主の宮には、いつも主が訪れられ御霊を感じるすることができます。わた

しは神殿にいられるだけで主からの守りを強く感じます。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は「わたしたち教会員は、自分自身のために神殿の儀式を受け、それから、それらの儀式を亡くなった人々のために行わないかぎり、福音のすべての祝福にあずかることはできません。

わたしはすべての会員の方々に、神殿推薦状を持つにふさわしい生活をし、それを貴重な財産と考えて大切にし、これまで以上の努力を払って主の宮に参入し、そこで受ける御霊と祝福にあずかるように」と言われています（『聖徒の道』1996年1月号、pp.59,60）。わたしたちは神殿推薦状を頂くことのできる幸せや祝福をもっと感じなければならぬと思います。

わたしは心から強く証いたします。わたしたちの生活は神殿を除いて考えることはできません。神殿を生活の中心に据えなければなりません。なぜなら、そこに主がいらっしゃるからです。主と交わした聖約を確認し、個人的な啓示を受け、神殿において主の力を感じることができま

す。たくさんの同僚であった方々が大変お世話になり、彼らの模範によって元気づけられました。とりわけ菊地神殿長夫妻にはいろいろなことを教えていただき、勇気づけられました。彼らを通して主がこたえられたものと感謝します。神殿からは離れますが、これからも儀式執行者として奉仕していきたいと心から願っています。

神殿は、主イエス・キリストの深い慈愛と清さがいっぱいある所です。主の御霊のあふれる所です。（とくだ・かずよし）

2年6か月の奉仕を終えて

——多くの方々の愛と模範に支えられ——

高崎ステーキ高崎ワード
元東京神殿宣教師
徳田満子

神殿宣教師としての奉仕が終わり、今毎日を祝福と感謝に涙あ

ふれる思いで過ごしています。この2年6か月、全国各地からのたくさんの奉仕の方々や儀式執行者の方々、同僚の宣教師の方々の愛と模範に支えられ、夢見る思いで過ごしてまいりました。そして何よりも主イエス・キリス

ト様の愛と支えがありましたことを心から証するとともに、皆さんに心から感謝しています。

教義と聖約第110章7-9節で「見よ、わたしはこの家を受け入れた。そして、わたしの名はここに^{あかし}あるであろう。わたしは憐れみをもってこの家でわたしの民にわたし自身を現すであろう。

まことに、わたしの民がわたしの戒めを守り、この聖なる家を汚さなければ、わたしは僕たちに^{しんべ}現れて、わたし自身の声をもって彼らに語るであろう。

まことに、幾千幾万の人の心が、注がれる数々の祝福と、この家で僕たちに授けられるエンダウメントのゆえに、大いに喜ぶであろう」と主は話されています。わたしはこれが真実であると証できます。

神殿には常に主がましまし、清さをもって奉仕なさる聖徒がたくさんいらっしゃいます。ある方は「病気のため神殿に参入することができません。でも、わたしにできることならどんなことでもさせてください」と、聖壇のレースを何枚も編んでくださいます。またある姉妹は、昼間ご主人と二人で仕事をしているため、必ず朝早くエンダウメントの儀式を受けに来られます。

ある方々は札幌、鹿児島、金沢、沖縄など遠方にもかかわらず、月2回必ず奉仕に来てくださいます。このような信仰篤い姉妹たちを見ていると「憐れみをもってこの家でわたしの民にわたし自身を現すであろう」と主が言われたように、いつも主とともにいたいという望みがあるからだと思います。そしていつも清くあつて御霊に導かれたいという気持ちが^{みたま}あるからだと思います。

菊池良彦神殿長は、よくハガイ書第1章4-5節を引用してお話をしてくださいました。「主の家はこのような荒れはてているのに、あなたがたは、みずから板で張った家に住んでいる時であろうか。……自分のなすべきことをよく考えるがよい。」これは神殿の聖なる精神を表したものであり、「ありがとう」と口で言うことのできない何百年も待っている死者の身になって奉仕することの大切さを語っています。

わたしは「わたし自身の声をもって彼らに語るであろう」と言われた主の言葉が神殿長の口を通して語られたものだと思います。

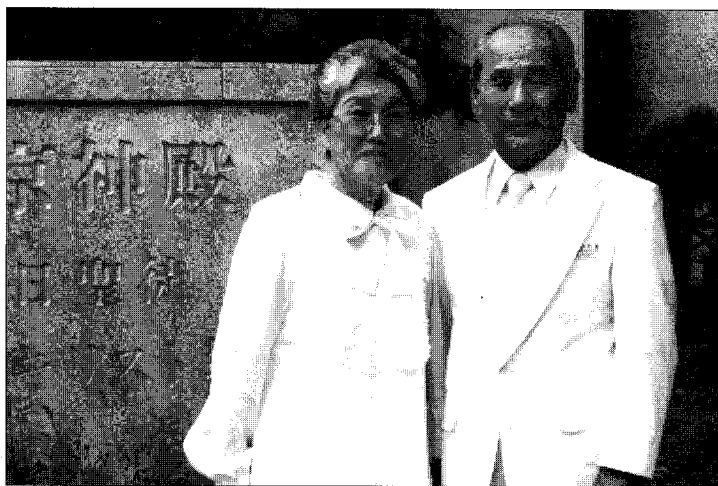
同僚の宣教師の皆さんにも、いろいろ助けていただきました。これらの人々は、定年前に主の召しに喜んで応じられた方、仕事を他人に任せて奉仕された方、年老いた方を残して来られた方などいろいろな事情がありますが、主の業に奉仕させていただきたいという純真なお気持ちの方ばかりです。わたしはこの方々の模範を通して

主の愛を深く感じさせていただきました。常に主の愛と見守りのあることを感じました。

わたしは奉仕が終わる間際になって入院し、手術を受けることになりましたが、神殿長の祝福と同僚の宣教師の祈りと励ましによって常に心に平安があり、家族の一致とともに主の見守りと支えがありました。そして健康を取り戻し、元気になることができましたので心から感謝しています。

「多くの民は来て言う、『さあ、われわれは主の山に登り、ヤコブの神の家へ行こう。彼はその道をわれわれに教えられる、われわれはその道を歩もう』と。」(イザヤ2:3)

イザヤの言葉のように、わたしはこれからできるだけ神殿に行き、奉仕したいと思います。主が生きてましますこと、わたしたちが主に心を向けているかぎり、わたしたちを見守りたもうことを心から証いたします。多くの兄弟姉妹に心から感謝申し上げます。(とくだ・みつこ)



徳田ご夫妻

ユタ系図協会のお手伝いをきっかけに改宗

——先祖の系図を探求する教会の大事業に感激——

東京東ステーク八千代ワード
三浦善一

今から20年以上も前に家族の者が改宗しましたが、わたしはどの

宗教、どの教えも同じようなものと考えていました。

当時、家族を豊橋の教会まで暇さえあれば送り迎えをし、あえて反対するでもなし、といつて関心を持つわけで

もなかったわたしは、いつの間にやら会員と顔なじみになり、あいさつをするようになりました。とにかく、彼らが教会員でもないわたしに気持ちよく接してくれたことは、後日わたしが改宗するうえでの一つの要因になったと思います。

家族、特に妻は、いつか夫婦の結び固めをと思っていたようですが、そのころはまだ、宗教について本気で考え

るまでには至りませんでした。家族の者が戸籍謄本が何かを調べたりしていたので、何をしているのかと思って聞きますと、我が家の系図を作成しているとのこと。何のためにかと思っていましたが、先祖の救いのためと聞き、それ以来系図に興味を持って調べるようになりました。自分の家の先祖について調べてみますと、今まで知らなかったことがいろいろ分かり、我が家の家系が意外に複雑なのに驚き、あちこちの寺や市役所を訪ねたり、また老人の話を聞いたりして調べました。

そのうち、妻からユタ系図協会の仕事を手伝わないかという話があり、各地の資料館や図書館の資料をマイクロフィルムに収めるといふ撮影の手伝いを2、3年させていただきました。さらに資料の古文書が読めればおもしろいし、もっと興味が持てるだろうと思っていたところ、岡崎市本宿に古文書解読の勉強会があることを聞き、出席するようになりました。

同じころ、ユタ系図協会の方より、撮影だけでなく名前の解読の作業もするように勧められました。今から英語を習うより容易であろうし、古文書の解読の勉強会の関係、老後の仕事として健康（ぼけ防止）のためにもよいと思い、早速ボランティアとして働かせていただきました。

先祖の系図を調べるために、世界各地の図書館、資料館の記録を撮影し、人類の遺産を守るため、かくも偉大な大事業を行う教会のお手伝いをさせていただけることのすばらしさに感激するばかりです。

ユタ系図協会としては、系図作成に必要な事項がとりあえず判読できればいいのですから、それほど恐れることもないと思いました。何にしても日本語ですし、毎日少しずつ学んで、だんだん分かってくれば、皆知っているような漢字仮名ですから、じきに覚えられると思いました。特に人名の場合は、そう多く字数があるわけではありません。変わった名前も時にはありますが、女子の場合は2字名が多く、結局「習うより慣れよ」ということでしょう。

その一方で、宣教師から度重なるレ

ッスンを受け、『聖書』の意味もよく理解できるようになったのですが、先祖からの宗教を捨ててまでもと、今一步踏み込めませんでした。確かに外から見た教会の事業はすばらしく、家族の者の熱心な信仰を見て感心させられるようになったのですが、バプテスマを受ける気には、なかなか出来ませんでした。

しかし、このユタ系図協会の仕事、信者以外にも行われている困窮者の救済、何か事ある場合の信者同士の助け

合いなどを目にして、宗教というとか何か金もうけの手段であって、金で幸せを買うような感じの宗教が多い中で、末日聖徒は別だと考えるようになり、思い切ってバプテスマを受け、神様のお手伝いをさせていただこうと踏み切ったのでした。思えば長い月日した。

確かに神様は生きておられます。わたしに合った方法で導いてくださったと証申し上げます。（みうら・ぜんいち）

70歳を超えての夫の改宗

——「人は初めに神の形に造られました」——

東京東ステーク八千代ワード
三浦操子

わたしには息子と二人の娘があります。娘の模範と伝道により、わたしは、1973年に46歳でバプテスマを受けました。わたしが主人の改宗について希望を持つようになったのは、今年19歳になる内孫が生まれて、たばこをビタッとやめたときからでした。

わたしは、心からの望みは必ずかなえられるという信仰を持っています。わたしが系図を調べていたことから、主人も系図に大変興味を抱くようになりました。そして主人が系図がらみの仕事をしたいと言葉に出してから1年後に、監督から「マイクロフィルム撮影の仕事をしませんか」との話がわたしにありました。わたしは主人を推薦しました。

主人が系図協会で3年くらい撮影の仕事をして、解読の仕事に携わるようになったところ、八千代ワードの村上長老が豊橋へ来られたのを機会にレッスンを受けました。しかし、なかなか改宗する気配がありません。夫の母が生きている間は無理かとも思いました。

平成7年9月26日、母は93歳の誕生日の前日に亡くなり、四十九日が済んだところから姉妹宣教師と巡り会うことができ、主人は再びレッスンを受けるようになり、週2回は教会へ出かけるよ

うになりました。それでも本人は、バプテスマを受ける必要性が感じられず、別の宗教の影響もあって、神様が人間と同じ形をしておられるということがどうも軽く感じられるようでした。姉妹宣教師は、御霊を強く感じるようで、忍耐強く、熱心に教え続けてくれました。しかし、主人はなかなかはっきりした態度を示さず、先祖からの宗教に縛られて改宗に踏み切れないようでした。

宣教師に気の毒だからやめようかと考えるほどのレッスンの末、『モルモン書』の聖句から「人は初めに神の形に造られました」（アルマ18：34）とある句を読んだときに御霊が働きかけたようで、神様が人間と同じなのではなく、神様が自分に似せて人間を作ってくれたのだと分かり、それが転機となったようです。

主人は読書好きで、新聞は2種類、月刊誌も2種類購読しています。そのほかにも、時々興味のある本を買ってきます。バプテスマを受けたからには、この世の物事にとらわれることなく、ひたすら永遠の命に至る道を目指してほしいと心から願っています。

ヨハネの福音書第17章3節に「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがたがわされたイエス・キリストとを知ることです」と書かれています。父なる神

とイエス・キリストを知るには、聖典からの学びと祈りしかありません。

主人は70歳を超えていますが、まだまだ体も頭も元気で、その気になれば何でもできると信じています。ともに神殿で働くのが人生の仕上げと思っています。(みうら・みさこ 扶助協会教師)

三浦ご夫妻



*系図協会東京支部図書館では、毎週金曜日午後1時から3時まで古文書解説勉強会を行っています。興味のある方は下記にお問い合わせください。

■東京管理本部家族歴史部
TEL03-3440-2764

1997年度「クモラの丘霊園」 分譲のお知らせ

「クモラの丘霊園」分譲の今年度募集の締め切りは、1997年12月31日です。永代使用料は毎年値上がりします。分譲希望者は、早目にお申し込みください。

1. 墓地永代使用料 1区画 318,000円
支払い方法 一括または分割払い。分割払いの場合は、初回金5,300円、以降毎月5,300円59回払いの無利子分割払いとなります。
2. 墓地管理料 年間 3,000円(初回金とともに1年分を前納し、以降毎年9月末日までに支払うものとします。)
3. 申し込み方法 以下の書類をクモラの丘霊園事務局に提出してください。
(1) クモラの丘霊園使用申し込み書
(2) 住民票
(3) クモラの丘霊園永代使用契約書 2通
(4) 銀行自動振替手続き書類
4. 今年度申し込み期限 1997年12月31日
5. 墓所の指定 申し込み書類受領確認の後、順番に行います。
6. 初回金および管理料の振込先 三和銀行青山支店 当座預金 613071
末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106 東京都港区南麻布5-10-30
末日聖徒イエス・キリスト教会内
クモラの丘霊園事務局
電話 03(3440)2351(代)
7. お問い合わせ
8. その他 分譲開始年月日: 1982年9月19日
分譲数: 1,600墓所中、598墓所が分譲済み(1996年11月25日現在)。
(他霊園との比較ー永代使用料は他霊園の5分の1から8分の1。)



所在地: 埼玉県入間郡毛呂山町長瀬1313 武蔵野霊園内
(池袋駅から東武東上線・越生線で約1時間、武州長瀬駅下車、徒歩7分)

新刊ビデオ



●教会ビデオ基礎編
カタログ番号53779 300
VHS46分 850円
既存のビデオ『幸福の探求』『最初の示現』『神権の回復』の3本を収録。



●『教義と聖約』・教会歴史ビデオ・プレゼンテーション
カタログ番号 53912 300
VHS約70分 900円
福音の教義クラスの補助教材として制作された本ビデオは、各ユニットに1本無料で支給されていますが、個人でも購入できます。

価格改定と絶版のお知らせ

●12月1日付けで、以下の商品の価格が改訂になりました(日本聖書協会発行口語訳)。

聖書中型

(カタログ番号86202 300) 3,100円 → 3,200円

聖書大型

(カタログ番号86229 300) 4,000円 → 4,600円

聖書中型(皮装)

(カタログ番号86203 300) 9,000円 → 9,700円

●『聖書の地』(英語版, 33160)は絶版となりました。

11月に召された専任宣教師 第206期生 13人



前列左から1-8, 後列左から9-13

〈名前〉

1. 太田友美
2. 大塚真理
3. 床尾佳衣子
4. 秀島一江
5. 浅香由美子
6. 三宅恵美
7. 石井 香
8. 塩 幸枝
9. 渡辺一平
10. 松本大地
11. 喜久弘之
12. 加藤幹男
13. 野出明広

〈出身地〉

神戸M／御坊D／田辺B
福岡M／鹿児島D／都城B
東京北M／長野D／松本B
福岡S／福岡W
東京東／市原B
岡山M／松山D／今治B
名古屋西S／一宮W
仙台S／上杉W
東京北S／浦和W
名古屋M／金沢D／金沢B
福岡M／鹿児島D／名瀬B
我孫子S／つくばW
東京北S／浦和W

〈伝道地〉

東京南伝道部
札幌伝道部
札幌伝道部
名古屋伝道部
岡山伝道部
札幌伝道部
札幌伝道部
岡山伝道部
神戸伝道部
岡山伝道部
仙台伝道部
岡山伝道部
神戸伝道部

S：ステーキ, M：伝道部, D：地方部, W：ワード, B：支部

役員の異動

1996年10月14日から1996年11月11日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の異動（敬称略）

- 名古屋ステーキ
ステーキ会長：塚原俊英
- 我孫子ステーキ松戸ワード
監督：柴田 渡
- 東京西ステーキ八王子第一W
監督：早瀬弘一
- 名古屋西ステーキ一宮ワード
監督：高橋和義
- 名古屋西ステーキ大垣支部
支部長：本田 章
- 名古屋伝道部三重地方部四日市支部
支部長：藤田芳夫
- 福岡伝道部鹿児島地方部川内支部
支部長：小野洋一郎

ユニットの合併

- 大阪東ステーキ高槻ワード（高槻第一ワードと高槻第二ワードが合併）
監督：下川 要

皆さんの原稿を募集しています

◎ご投稿の際には連絡先（住所、電話番号）、教会での責任（役職名）、所属ユニット名を記入し、写真を同封のうえお送りください。原稿は一部手直しさせていただきますことがあります。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師たちを紹介いたします。伝道の召しを受け取り次第、編集室に写真を添えてお知らせください。（氏名〔フリガナ〕、伝道部名、召された月を明記）

◎あて先：〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会『聖徒の道』編集室

☎03(3440)2666 FAX 03(3440)3275

*

海外に召された日本人宣教師



川平恵理賀
ソルトレーク・
テンプルスクウェア
訪問者センター伝道部
1996年10月
沖縄那覇S／石垣B出身



立道敬二
カルフォルニア州
オークランド伝道部
1996年7月
ウィーバーハイS/スカイライ
ンW出身

末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

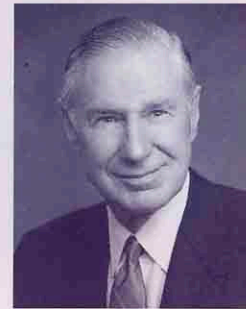
大管長会



第一副管長
トーマス・S・モンソン



大管長
ゴードン・B・ヒンクレー



第二副管長
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会



ボイド・K・パッカー



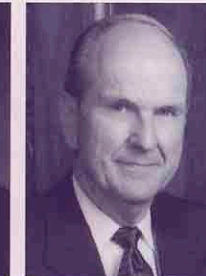
L・トム・ペリー



デビッド・B・ヘイト



ニール・A・マックスウェル



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



ジョセフ・B・ワースリン



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



ヘンリー・B・アイリング

七十人会長会



L・アルヴィン・ポーター



ジョー・J・クリステンセン



モンティ・J・ブラフ



W・ユージン・ハンセン



ジャック・H・ゴーズリンド



ハロルド・G・ヒラム



アール・C・ティンギー

七十人第一定員会



七十人第二定員会



管理監督会



第一副監督
リチャード・C・
エッジリー

管理監督
H・デビッド・
バートン

第二副監督
ギース・B・
マクマリン

(1996年10月5日現在)



「モーセと青銅の蛇」 ジュディー・メヘル画

救い主は言われた。「ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように、
人の子もまた上げられなければならない。それは彼を信じる者が、
すべて永遠の命を得るためである。」(ヨハネ3：14-15。民数21：9参照)



「**良**い羊飼いは今、あなたがたを呼んでおられる。あなたがたがその声を聴くならば、良い羊飼いはあなたがたを御自分の羊の群れに導き入れ、あなたがたは良い羊飼いの羊になる。」（アルマ5：60）